

エスメレルダ・スウィートウォーターの磔刑

すべての年齢のためのたとえ

ドン・エルキンズとカーラ・L・リュッケルト



&Development Laboratories、Inc.の子会社であるL/LResearchによる。

第2版

全著作権所有。この本のいかなる部分も、著作権所有者からの書面による許可なしに、いかなる形式または手段(写真コピーまたは情報の保存および検索システムを含む、グラフィック、電子、または機械的)によって複製または使用することはできません。

ISBN: 978-0-945007-06-7

L/Lリサーチ

私書箱195

ケンタッキー州レイビル40255-0195

メアリー・アン・ポウマンの支援を受けてドン・エルキンズのカバーアート

私の最愛の仲間、フィニアス・T・ピンクハム中尉の感謝の気持ちを込めて
ソリデオグロリア



ドナルドタリーエルキンズ



カーラ・リスベス・リュッケル

ダグ・ルイスによる写真

目次

<u>P roe m</u>	<u>6</u>
<u>はじめにと R e m iniscence</u>	<u>7</u>
<u>プロローグ</u>	<u>20</u>
第1章 <u>C h a p t e r おね</u>	<u>23</u>
第2章 <u>C h a p t e r Tw o</u>	<u>36</u>
第3章 <u>C h a p t e r 三</u>	<u>46</u>
第4章 <u>C h a p t e r F 私たちの</u>	<u>50</u>
第5章 <u>C h a p t e r F i v e</u>	<u>65</u>
第6章 <u>C h a p t e r S i x</u>	<u>72</u>
第7章 <u>C h a p t e r S e v e n</u>	<u>79</u>
第8章 <u>C h a p t e r イイト</u>	<u>89</u>
第9章 <u>C h a p t e r N i n e</u>	<u>106</u>
第10章 <u>C h a p t e r テン</u>	<u>115</u>
第11章 <u>C h a p t e r E l e v e n</u>	<u>130</u>
第12章 <u>C h a p t e r Tw e l v e</u>	<u>152</u>
第13章 <u>C h a p t e r T h i r t e e n</u>	<u>163</u>
第14章 <u>C h a p t e r F o u r t e e n</u>	<u>178</u>
第15章 <u>C h a p t e r F i f t e e n</u>	<u>185</u>
第16章 <u>C h a p t e r 16</u>	<u>198</u>
第17章 <u>C h a p t e r S e v e n t e e n</u>	<u>212</u>
第18章 <u>C h a p t e r 18</u>	<u>215</u>
<u>P o s t l o g u e</u>	<u>222</u>
<u>付録</u>	
<u>彼は 予言的 Q u a l i t i e s の The はりつけのエスメレルダ スイートウォーター</u>	<u>225</u>

Proem

この小説は、1968年に書かれ、1969年に洗練された、L/L Researchの最初の成果であり、多くの主要な出版界からの拒否により、個人的な寄付によってこの巻を提供できるようになるまで、ファイルの引き出しに座る運命にありました。それが何らかの価値を持っているかもしれない人々に。私が共著者であったとしても、それが何らかの価値を持っていることは私にはほとんど疑いがありません。それを書くことは、私が以前もそれ以降も経験したことのないようなものでした。コンセプトやキャラクターは、私が不可能だと思っていたはずの細に、はっきりと正確に流れていました。まるで物語を作るのではなく、展開している状況を見て報告しているようでした。

その後の数年間、1984年まで、エスメレルダの磯研でフィクションとして書かれた多くのことが、ドンと私の関係、私たちのパートナーシップ、そして私たちのグループとの仕事の中で、時には非常に密接に反映されているようです。詳細のいくつかは、コメントを正当化するのに十分同期的です。したがって、この紹介。しかし、類似点に触れる前に、この本の多くの出来事と非常に密接に並行するようになったドンと私の私生活で展開された物語をスケッチしたいと思います。

はじめにと回想

ドナルド・タリー・エルキンスは、彼の6フィート5インチの高さと細さのために、彼の友人の多くが「フィニアス」や他の人を「イチャボッド」と呼んだが、注目に値する男だった。

1930年に生まれた彼は、大恐慌の最中に、彼がもっと家へ帰ることができたであろう仕事を見つけるのが困難であったためにしばしば欠席した父親、彼の母親と彼女の家族、敬虔なクリスチャンサイエンティストによって育てられました。彼らは彼を育てるために心と魂を注ぎ込み、彼は彼の家族全員に大いに愛されました。彼は子供の頃から常に静かで独立した人であり、幼い頃、母親が教会の読者であったとしても、教会の礼拝に出席しないことを選択することを決心しました。静かな粘り強さで、彼は子供時と思春期を自分の道を進み、創造的で分析的な知性の範囲を母親だけが知っている秘密に保ち、彼が言うように、「太った子供の後ろに座る」ことによってこの匿名性を達成しました。彼が学校で呼ばれることがないように、それは教会がしたように彼を退屈させました。しかし、ドンには警戒心と極度の常識を持っていたので、高校の先輩として高校教育で得られるような仕事をしたくないと気づき、真っ直ぐ後ろを向いた。太った子供は、まともな成績を取り、最終的にレイビル大学のスピードサイエンティフィックスクールから工学の3つの学位を取得しました。

利用可能な工学の仕事の選択に再び直面し、やや幻滅したフィニアスは大学院の学位と教育に転向しました。彼は、土木工学だけでなく、工学物理学と機械工学の見事な磁気的な教師になり、1960年から61年にかけて、フェアバンクスのアラスカ大学で過ごした学年中に、その大学で機械工学プログラムとカリキュラムを作成しました。

しかし、レイビルは彼のお気に入りの都市であり、1年後レイビルに戻り、レイビル大学の准教授としての地位を取り戻しました。彼は生徒たちに堅さと自由さを組み合わせて教えました。良い先生のドンが何であったかを説明するのは難しいです。彼の性格は羽ばたきできませんでした。彼の鋭い知性は彼の学生と知識を共有することで表現のモードを見つけました、そして彼のドラマの感覚は自由な統治を与えられました。物理の先生として、彼は物理をとても上手に教えただけでなく、彼がやってきた必然的な悪ふざけを楽しんだという理由で、学生たちに人気がありました。例: 彼の生徒の1人は、かつて亡くなった猫をドンの机に置いていました。ドンは黒板に「次回はお金を持ってきなさい」と書いた。彼はすぐにその日の教壇を始めた。生徒たちは会議を開き、次のクラスで、ドンが教室のドアを通り抜けたとき、彼はペニーを投げつけられました。

その日の仕事に移る前に、注意深く集めてポケットに入れました。生徒たちは気が遠くなりましたが、集結し、次のクラスの始めにドン・マティーニに仕えるために生徒のガールフレンドの1人を募集しました。彼女が来た、パニースーツとすべて。ドンは飲み物を覆っているナプキンを持ち上げて、「ベルモットが多すぎる」と言いました。啞然とした瞬間の後、少女は逃げ出し、ドンは大喝采を受けました。

陸軍では、朝鮮戦争中に、彼はマスター軍曹になるために史上最年少の男になりました。彼は21歳の誕生日の2か月前に就職しましたが、年齢が上がるまで正式には発表されませんでした。この高い下士官の職に就いたのは流星的であり、銃器に対する彼の生涯にわたる愛情と、彼の軍隊に対して冷静に、公正に、そしてユーモアのセンスを持って対処する能力の産物でした。このスキルの完璧な例は、適切な軍隊の敬礼の必要性について2時間の講義を行うという苦しんでいる将軍の命令に対する彼の応答でした。マスター軍曹エルキンスは、彼の仲間の下士官を制作に参加させて、傲慢で空想的な条件下で敬礼することについての2時間の寄席ショーを準備しました。キャンプの残り土気が吹雪の中の水銀のように落ちた間、エルキンスは彼の部下を笑い声で叫ばせました。彼の警備隊が1950-

51年に活性化されたとき、彼は最初に陸軍に気づかれました。彼は、将校である個人的な友人から、いくつかの標的練習のために将校の射撃場に来るように招待されました。ドンは完璧なスコアを撃ちました：ターゲットはブルズアイですべてのショットを示しました。射撃場のリーダーは、ドンのために「カードを引く張る」ように頼みました。彼はそのようなハイスコアが疑わしいと思ったからです。ドンは彼の完璧なスコアを繰り返しました、そして今確言しているリーダーはドンに範囲で彼を上回ったすべての人に即席のレッスンを与えさせました。昇進はすぐに始まり、男性はドンに率いられるのが好きだったので、彼の軍曹の個室への憧れはすぐに満たされました。

ドンの子供の頃の多くはケンタッキーの小さな町で過ごしましたが、彼はレイビルで生まれ、そこで高校に通っていました。彼が高校生だった週末の多くは、彼の仲間であるチャールズP.サットとウィリアムルーと一緒にレイビルの南と西の野生の地域を踏みこむことに費やされました。

1955年、ドンは超常現象の世界を真剣に調査し始めました。彼は国中を飛び回り、通常はジム・クランクルトンまたは

DK

Meador、長年のパイロットの友人。シカゴ、オハイオ、ペンシルベニア、カリフォルニアでは、彼がコンタクティグループを訪問しているのを見て、JBラインからジョージヴァンタッセルまでのすべての人と話をしました。ドンが出会ったすべてのグループや個人がドンの静謐にすぐに役立つように提供できたわけではありませんが、ドンは「パズルのピース」をできるだけ注意深く収集しました。

そして、これらのパズルのピースがどのように組み合わせられるかを調べることに多くの時間を費やしました。

1962年に、彼はデトロイトのUFOコンタクティグループから受け取った情報に基づいて行動し、UFOコンタクティの長期かつ広範な調査となるものを始めました。私はその調査の元の瞑想者グループのメンバーでしたが、ドンが私と一緒に働き始めたのは1968年になってからでした。

司書としての訓練を受けた私は、優れた女子私立学校の司書としての仕事とても満足していました。それは図書館員にとって夢の仕事でした。私は13年生の小学生だけを担当していたので、本を選んだり、目録を作成したり、教師と一緒に仕事をしたり、子供たちが1人の子供たちと一緒に仕事をしたりすることができました。図書館。しかし、ドンが私に彼の仕事に参画するように頼んだとき、私はためらうことはありませんでした。そして、一緒に私たちの物語を始めました。

ドンと私の物語は一緒に、愛の物語と仕事の物語でした。どちらも非常に珍しく、型にはまらないものでしたが、最も深遠でした。

1962年に初めてドンに会ったとき、彼がテーブルを横切つて座っているときに私をじっと見つめていた真つ青な目を見て、彼がいつものように身をかがめ、そして私はたくさん孤独を見ました。この印象は、ほとんどの人のドンの第一印象とは異なり、彼は畏敬の念を抱く人物でした。ドンを初めて見た人からのいつものコメントは「彼は私を通して直接見るができる」でした。これはしばしば人々にある種の恐れを引き起こしましたが、それはドンとしばらく過ごすまで克服するのが困難でした。

夫のジム・デウィット（若くして結婚した素晴らしい男）が1968年に私と離婚した後、ドンは私のアパートでますます多くの時間を過ごし、最終的に自分で宿泊し、彼の住居に部屋を提典してくれました。毎月の給付金が非常に少なかったため、これは私にとって最大の助けになりました。私たちの関係はプラトニックでしたが、この取り決めは1984年11月にドンが死ぬまで続きました。彼は私に私の存在だけを要求しました。私はこれほど利己的でない人も、より純粋な愛情を持っている人も知りませんでした。ドンは言葉が安いと感じていたため、この愛情はまったく口に出されていませんでした。特に「愛しています」という言葉は、ほとんど意味がないほど誤用されていました。褒め言葉は、あまり親密でない友人に与えられるものでした。彼はそれらが私の成熟過程の妨げになると思った。ドンは賞賛するのが嫌いでしたが、喜んで訂正したので、私はそれを「ノーの学校」と呼びました！それにもかかわらず、彼の私に対する扱いは、父親の子供に対する扱と同じくらい優しいものでした。確かに、彼はしばしば私自身の反対の点まで過保護でした。

エスメレルダスイートウォーターのはりつけ

私たちの間で築かれた関係は、私が今まで経験した中で最も強、確かに最も前向きなもの1つでした。それは16年間続、毎年良くなりました。私たちは、大いに関わり、何でものジョークを共有し、夜に何度も真剣に話し、ドンのはりつけに夢を共有し、それらを実現しようとしました。私たちは2つの異なる生き物でした。ドンは、感傷的なトラックを持たない典型的な男性です。一方、私は生まれながらのロマンチックで神秘的なクリスチャンであり、音楽に深く関わっています。ドンは耳を痛めたと言いました。私のお気に入りの作曲家、ヨハン・セバスチャン・バッハは、私が小さな男の子ソプラノの声で彼の壮大なカンタータを練習しているのを聞いていれば、彼に同意したかもしれません！

1965年、ドンはレイビル大学での在職期間を離れ、主要航空会社より高い給与と有利な勤務スケジュールを求めていました。ドンは10代の頃からパイロットであり、悪天候のために他の誰も取ることができないチャーターで人々をあちこちで飛ばす膨大な時間を蓄積していました。彼は恐れを知らず、地元の民間飛行場でそのような評判を築き、1つだけで働くのではなく、空き時間にすべての飛行サービスから仕事をえました。私の助けを借りて、ドンは彼の研究努力を最大化することができました。しかし、70年代半ばになると、仕事ができなくなり、社会保障書を申請しなければならなくなるまで、ますます障害者になりました。ドンは私の健康状態が悪いため、別の形の癒しの分野を調査することに興味を持ちました。この間、フィリピンとメキシコでの精神的な手術、カリスマ的な癒し、接手、極端な癒し、水晶の癒し、色の癒し、催眠による癒しを調査しました。

1974年、ドンは新しいチャンネルのバッチを開発するまで集中的な瞑想を行っていました。60年代に開発されたチャンネルは徐々に離れ、解離しました。彼自身、ほとんどの部分でこれらの瞑想から離れていて、私がチャンネルになった後、私がそれらを行うことを許可してくれました。

1978年にジムマッカーティは私たちのグループ瞑想に参加し始め、1980年にジムの才能が私たちの実質的な奉仕能力を高めることができることに気づき、ドンはジムに私たちに加わるように頼みました。

1980年のクリスマスタイドで、ジムは私たちの仕事に加わりました。

3週間後、RaContactが始まりました。

私の多くの身体的な病気が接触の邪魔になり始めたとき、私たちはRaセッションのバーストを遅らせ始めました、そしてそれはまた私をいくらか混乱していました。奇妙で不幸な事件が私に起こり始めました。論理的な意味で説明できないことがあります。

私をヒステリックで疑わしい提案だと診断してください。

「精神的な挨拶」の影響は、明らかにこれらの出来事の重要な部分でした。たとえば、ある時、近所を散歩していると、息ができなくなってしまいました。これは約30秒間続き、肉体的な死を引き起こすほど長くはありませんでしたが、確かにトラウマでした。このようなことがますます起こり始めました。それはドンを大いに悩ませました、そして彼は私がセッションの間に回復することを可能にするためにセッションを選しました。通常、私はセッション後1〜3ポンドを失います。

1983年までに、アトランタに拠点を置くパイロットとして、ドンが自宅でより多くの時間を過ごすことができるように、ドンの仕事に近づく必要があることは明らかでした。航空会社の状況が悪化したため、アトランタのドンはほぼノンストップで飛行しました。これにより、ドンの仕事と必要な通勤が彼を大いに疲れさせたため、RaContactはこれまで以上にまれな機会になりました。

アトランタへの移転は、ドンの変化を示しました。アトランタでは、ドンは身体的に衰弱し始め、病気を休暇を取り始めました。私たちは皆、アトランタの実験は惨事であり、わずか5か月後コレイビルに戻ったと判断しました。しかし、この動きで、ドンの病気は彼の心に定着したようでした。精神疾患に対するスティグマがあるように思われるため、精神疾患は理解されていません。身体的病気に関する情報は、精神的苦痛に関する情報を事実上排除するように教えられています。ドンの窮状を理解せずに、事実上彼を助けることができなかったので、私はこの真実を深く後悔しました。近い将来に起こると彼が見た彼自身の死以外の評決を受け入れないであろう落ち込んだ状態の1年がそこらの漸進的な悪化の後、彼は彼の頭への銃倉で死にました。彼は自分自身を撃ったが、それは自殺としてではなく、はるかに啓発された見解がそうであるように殺人として警察によってリストされた。これは自傷ではありませんでした。これは私にとって不思議な心の枠組みの終わりであり、私たち全員が感じ、私たちが把握することも直面することもできない悪を感じました。ドンの人生が彼の周りの人々に与える影響を過大評価することはできません。彼の見事な知性と深い直感、性格の甘さ、観察の明晰さ、超常現象の分野での長く差別格な経験、そして良い言葉をすることへの愛情はすべて、彼を何千もの情報の真の泉にするために共謀しました人々、彼が彼の職業上のキャリアの間に教えた人々だけでなく、彼が彼の人生の間いつでも接触した人々のいずれか。彼は決して自己啓示のための人ではなかったので、彼は幾分神祕的な男を生きて死にましたが、ジムと私だけでなく、彼の叔父と叔母、マリオンとマーサ・ジョンソンだけでなく、彼を知っているすべての人からも大いに愛されていました。

ドンと私の関係は決して言葉こされなかったので、読者であるあなたのために言葉にすることは不可能ですが、おそらくあなたのそれぞれは、言葉が穏やかでお互いに愛情深いカップルを知っていて、その目標は人生はとても良い一致だったので、男性 女性のそれを越えた親密さがあり、その家は常に平和で調和のとれた振動を持っていると信頼することができました。それは私がドンの仲間としていたうらやましい立場でした。ドンは内向きの愛情の外向きの表現を信じていたのと同じくらい絆を信じていなかったもので、私たちは16年間幸せに未婚のままでした。彼の人生の最後の年は私たち二人にとって非常に困難でしたが、彼が亡くなった夜、彼は最後に私に「私たちはまだ私たちですか？」と尋ねました。

「はい」と私は答えました。16年間の愛の授受に満ちた心は、決して忘れることのできない愛です。

ESMERELDAは、友人や精神的な仲間としてお互いを発見した最初のフラッシュで書かれました。ドンは書くことができませんでしたが、素晴らしいプロットメーカーでした。ストーリーを作るのが苦手だったので、これは非常にうまくいきましたが、各キャラクターを詳細に「見る」ことができ、友達について書いているかのようにそれらについて書くことができました。ライオンは飛行時間の約半分を失ったので、ルイビルにいた間はアイデアをテープに貼り、仕事に出かけるとタイプライターで働くようになりました。最初のドラフトは約か月かかり、その後の書き直しは、非の打ちどころのないプロットを作成したいというドンの願望によるものでした。キャラクターを書き直して、ニューヨーク州からワシントンDCのすぐ外に家を移すなどして、プロットでスケジュールされた適切な時間内にキャラクターの1人がマイアミに旅行できるようにします。これらの骨の折れる修正はさらに約か月続き、本を発送して出版社から非常に親切であるが否定的な反応を受け取ってからさらに1年ほど経った後、本は棚に置かれました。

この小説を開始および終了するチャネリングは、1968年にルイビルグループでチャネリングされ、他の小説と同じようにタイプライターで書かれなかった本の唯一の部分です。私たちはそれをすべての年齢のたとえとして意図し、時には半意識的に、キリストの受難の途方もない物語を振り返りました。

1974年まで、私たちはこの本が私たちの私生活において予言的な品質を持っているとは思いませんでした。しかし、1974年にアンドリヤ・プハリッチの本、URIが出版され、この本を読んだとき、著者のプハリッチ博士が私たちの本の登場人物の1人であるパブロ・パデエフスキーと驚くほど似ていることに気づきました。プハリッチ博士は、ニューヨーク州ウエストチェスター郡の彼の邸宅に彼を訪ねるように私たちを招待しました。彼は友人から呼ばれ、本ではパデエフスキーと呼ばれているため、「良い医者」に会う前に、私たちはいくつか苦しみました

彼の私道に引き込む驚き。彼の家は事実上、私たちの小説にあるパデエフスキーの家のカーボンコピーでした。この小説は、ワシントンDCに移す前に、元々ニューヨーク州にありました。主な違いは牡丹です。家を目の当たりにしたとき、牡丹が咲く円形の私道を見たのですが、牡丹は見当たりませんでした。私たちが彼に牡丹について質問したとき、彼は笑って、数年前にそれらを取り除いたと言いました。それで、1968年に本が書かれたとき、牡丹は正確でした！

6年後の1980年、ドンがジムにグループへの参加を依頼したとき、小説のさらなる共鳴がありました。ドンと私はセオドアの性格にかなりの自分を入れていました。しかし、私たちはセオドアの顔の特徴を非常に注意深く説明しており、本のその説明はジムの実際の外観と非常に似ていました。ジムは6フィートより4インチ短く、金髪ではなく茶色の髪をしています。ドンとジムの間、およびジムと私の間には、ほぼ同じ感覚がありました。そして、Ra

Contactが始まった後、より多くの類似点が明らかになり始めました。

著者の場合によくあることですが、ドンと私は、私たちが書いたキャラクターに、私たちの感情、アイデア、認識の多くを投影していました。セオドアは、彼が所属していないという感覚で、人類から疎外された人として本に記載されていました。彼は天才と評され、ほとんどの人とは180度反対の態度をとっていました。これらの特徴はドンのものでした。ドンのより深い性格にはるかに深く関わったジョシュアは、本の中で孤独な人であり、神秘的な人であると表現しました。ジョシュアとエスメレルダが小説でお互いを扱った方法は、ドンと私がお互いを扱った方法を反映していました。

実生活でのドンと小説でのジョシュアの両方が責任を負いました。ヨシュア記は本の中で次のように述べています。

「実際、私は自分の意志が主導的なものであったということに来るすべてのことに責任がありませんか？」

実生活では、ドンは私たちのグループに対する継続的な経済的責任を感じていました。彼の精神病の期間中、恐らく彼の悲惨な主な機会、彼がその点で「ボールをいじった」と感じたことでした。ジムも私も、ドンが彼にとってあまりにも精神的になった仕事で働き続けることを望んだ。精神疾患の性質上、明確に伝えることはほとんど不可能であり、ドンにすべてが本当に順調であると納得させることはできませんでした。彼の病気の前に

Raセツ ションの可能性を終わらせ、Raはドンに関する確率として形而上学的な開始と精神的感傷的な機能不全に言及しました。

ジョ シュは、ドンの世界からの分離と、それに侵入することなくそれをうまく操作する彼の能力の具現化でした。私たちはジョ シュ・ドンのマスターコミュニケーターとしての能力を与えました、そして最後に、しかし確かに重要なこととして、ジョ シュが宇宙少女のための彼の心の小説の終わりに向かって行く申し出があります：

「あなたには、肉体の外に閉じ込められた少女がいます。あなたには彼女を元に戻す力があります。お願いします。私は彼女の代わりに、私の心を彼女に代わってあなたに返済するつもりです。」

ドンの死からわずか4日後の1984年11月1日にハトンとラトウィの人々から受け取ったチャネリングによると、ドンは同様の性質の何かを成し遂げた可能性があります。

(ハトン)「この例では、極端で並外れたもので、ドンとして知られているものは、表現するのが最も難しい勇気を示しました。この実体は彼の周りの人々を保護したいという願望を持っていたので、彼はそうしました。それほど劇的ではありませんが、あなたがすることの多くも諷刺されるでしょう。」

(Latwii)「ドンとして知られている人は、今晚、暗いカーニバルとして説明されているものを見て、経路を測定するときに、この経路が最近合ったこの経路が続く場合に待ち受けていた困難を見ました。ドンとして知られている人の心を満たした破壊のそれらのイメージがありました、そしてこの実体は彼より深い自己の中で彼の仲間のそれらが追加の困難を免れることができるように彼自身のためにその困難のできるだけ多くを予約することを望みました。意識的な心は、それ自身の歪んだ方法でこの決定を利用し、他の人がそれを避けることができるように、最初に絶壁から飛び降りました。」

私たちはエスメレルダに私の性格の多くを与えました。私は生涯を通じて保護され保護された雰囲気の中いました。一部は自分自身のテストされていないが実質的な神秘的な信仰によって、そして一部は私のナイーブを無傷に保ちたいという私の周りのすべての人々の願望によって保護されていました。エスメレルダがパデエフスキーで否定性を発見したとき、それはひどいショックでした。

「大丈夫です、それはそこにあります、このすべての否定性。そして、世界で最も安全な男である私の叔父もそれを持っています。でも、どんなに長く直面しても慣れません。あなたは私を闇に直面させることができますが、闇が存在するという理由だけで私を光から遠ざけることはできません。」

私にとって、弾丸がドンの脳に爆発したとき、否定性の完全な発見が私に爆発しました。エスメレルダは本の中で勇敢に彼女が直面するだろうと言った

否定性 それを理解します。ドンが亡くなってから1年以上が経ち、友人、ヒーラー、そして私のスピリチュアルディレクターの助けを借りて、悲劇的で不必要に思えるものを受け入れ、理解し、賞賛するのに苦労しました。その理解はまだ来ていません。しかし、エスメレルダのように、私は自分の心と信仰が起こった出来事を包含するのに十分な大きさになるまで、恵みを求め続けます。

1981年1月15日、Ra

Contactが始まり、小説と私たちの生活のシンクロシティが複雑になり始めました。

Ra

Contactは、私たちのグループにとって完全な驚きであることに熱狂しました。私たちが知る限り、私はトランス状態ができなかったため、私たちはこれまでトランスで働いたことがありませんでした。いつものようにキリストの名のもとに接触に挑戦し、自分の調律に満足して接触をはっきりと受けられるようになった後、他の接触は何か変わらないことを知らずに、この新しい接触を受け入れました。しかし、連絡が始まって間もなく、私は眠りについたようで、目が覚めたようで、ドンを今まで見たことがないほど高揚しているのを発見しました。この連絡先が異なっていると判断するのに、彼はまったく時間がかかりませんでした。

Raは、手作りの布の上でろうそくを燃やした聖書を立てた祭壇を私の頭に置くことによって、私のキリスト教の歪曲を提供するように私たちに求めました。これは、ジョシュアの八角形の魔去の家、または寺院のテーブルと非常に似ていました。

魔術師の付録にあるレッサーペンタグラムの追放の儀式: WEバトラーによる彼の訓練と仕事は、エスメレルダの磔刑に使用されました。

Ra

Contactに関与した私たち3人が、私たちの作業室を清潔に保ち、聖別する必要があることを発見したとき、偶然にも再び使用され始めました。ただし、1つ追加しました。追放の儀式の私たちのバージョンでは、神の古代の名前であるヤハウエの「ヨッド・ヘ・パウ・ヘ」に、「シン」を追加し、「ヨッド・ヘ・シン・パウ・ヘ」を振動させました。キリスト、イエス、そして私はクリスチャンであり、クリスチャンであったので、私にとってより良い波動であると感じました。セッション#67の個人的な部分で、ドンはこの儀式についてRaに質問しました。

「質問者: 楽器と私が約2年前に書いた、エスメレルダの磔刑と呼ばれる本、特に私たちが実体を地球に持ち込むために使用した追放の儀式をご存知ですか？」

RA: 私はRaです。正解です。

質問者: これが実行された方法に関して、私たちの文章に誤りはありましたか？

RA: 私はRaです。不正確さは、著者がその特定の執筆で必要な分野でセオドアとパプロとして知られているものを可能にするために必要なトレーニングの長さを説明するのが難しいためにのみ発生しました。質問者: その本は、私たちがそれを書いた後に出会った多くの人々と私たちが経験した多くの活動へのリンクであるように私には思えました。これは正しいです？

RA: 私はRaです。これはかなりそうです。」

私たちの小説で陰鬱が厚くなるにつれて、思考形態、特に暴力的な形態を活性化することができる真の悪役が発見されました:

「そのようなバリエーションを立てるには、かなりの魔法のスキルが必要でした。ほんの数人しかそれを行うことができなかつたでしょう。そして、過去24時間の暴力の痕跡: 必要なしに男を撃ち殺した副保安官の妻。そしておそらく信頼できるSgt。半断がひどく悪かったアームストロング。彼を止めるための他の十数の完全に非致命的な方法があったとき、人を殺すために撃った人。これらの否定的および暴力的な行為が、彼自身が白魔法であったように、黒の儀式で実践されているような人の魔法によって奨励または促されていない限り、それは何の意味もありませんでした。」

Ra

Contactが開発するにつれ、私たちは、否定的な極性の友人からの攻撃、または私たちが好むように挨拶するようになりました。自分の存在の中でバランスが取れていなかった:

(Raセッション #67から) 「このような第4密度の攻撃の通常のキャンピットは、エンティティまたはエンティティのグループを、他者へのサービスへの完全な二極化から遠ざけ、自己または自己が特定する社会組織の拡大に向けて誘惑することです。。

「この特定のグループの場合、それぞれがお互いに、そしてOneInfiniteCreatorへの奉仕をやめるためのあらゆる誘惑を与えられました。各エンティティはこれらの選択を拒否し、代わりに、純粋にセルフサービスの方向性に対する要望から大きく逸脱することなく続行しました。この時点で、そのような離隔プロセスを監督する5番目の密度のエンティティの1つは、儀式魔法を理解しているので、魔法の手段とと呼ばれる方法でグループを終了する必要があると判断しました。以前に1つを削除する可能性について説明しました

そのような攻撃によるグループの中で、はるかに最も脆弱なのは、その先天的な物理的な複雑な歪みのために楽器であることに気づきました。」

腎臓病、関節リウマチ、狼瘡の場合、私の体には機能しないものがたくさんあったので、ドンはかつてそれをレモンでもあるロールスロイスと表現しました。

おそらく、預言の本としての小説で最も歪んだ認識は、小説では、ジムと私に相当するセオドアとエスメレルダの両方が、光の奉仕で彼らの命を捧げることであったということでした。ドンも私も、私たち二人のうち、背が高く、紐で縛られ、健康で、信頼でき、自詠があり、代わりに死ぬことはありませんでした。

ドンもジョー シュも、世界の世話を欠けているようには見えませんでした。確かに、両方とも、それぞれが平凡な世界の限界であると認識したもからすべての人類を救うか救うことを望みました。しかし、ドンの昨年、彼自身、彼の化身の最大の教訓は、非人格的な思いやりではなく、個人的な思いやりの学習である可能性があることと述べました。

1981年と1982年にRaContactが展開されたとき、私たちの5番目の密度で否定的な方向性の友人が、私の本当の自分、私の精神を私の肉体から切り離すことによって接触を止めたいと望んでいることを発見しました。これは、ESMERELDASWEETWATERの確刊の出来事によって予見されました。THE LAW OF ONEの第3巻のセッション#68から#70では、両方の場合に関する概念について説明しています。それらの間の類似性はドンによってすぐに気づかれ、セッション#68の個人的な部分でドンはそれについてRaに質問しました：

「質問者：私たちは、宇宙少女の心体精神の複合体のキャラクターTrostrickの置き忘れに関係して書いた、ESMERELDASWEETWATERの本の一部についてほぼ正確に話してきました。私たちが私たちの生活に関して行ったその仕事の重要性は何ですか？それがどのようにかみ合うかについては、しばらくの間私を混濁させてきました。それを教えてもらえますか？

RA：私はRaです。それぞれをスキャンして、話すことができることを見つけます。質問者：今すぐそうしていただけませんか？

RA：私はRaです。私たちは、すでに、仮定または仮定されている次のことを確認します。

「惑星圏の改善のために働く」というこのグループの2つの間でコミットメントがなされたとき、このコミットメントはある程度の強さの可能性確率の渦を活性化しました。の経緯

このボリュームの生成は、まるで動画を見ているかのように視覚化されるという点で珍しいものでした。

「時間は現在の瞬間の形で利用できるようになりました。ボリュームのシナリオは、ボリュームの終わりまでスムーズに進みました。あなたはボリュームを終わらせることができず、エンディングは資料の全体として視覚化されませんでした。書かれたか、または作成されました。これは、すべての創造物における自由意志の行動によるものです。しかし、このボリュームには、象徴的かつ具体的に重要なイベントのビューが含まれています。これは、コミットメントが行われたときに解放された磁気引力の影響下で見たものであり、これの献身の完全な記憶、あなたが呼ぶかもしれない、ミッションが復元されました。」

私たちの友人の何人かは、私たちの本の原稿を読んでいるとき、物語自体の厳しい結末に抗議しました。確かに、ドンも私も、エンディングに主観的に満足していませんでした。しかし、ESMERELDA

SWEETWATERの隣が間違ったタイトルになるようにエンディングを書き直すとする試みはすべて、完全な失敗でした。書き直しを10回試みた後、すべてが現在のエンディングとほぼ同じ素材を生み出しました。この視点を示すために私たちを移動するソースは、その視点内に演技を含めることを試みていると判断しました。

「2つの完全に「良い」存在がこの複雑で二元的な惑星に降ろされたらどうなるだろうか」という質問への答え。

ドンと私の本と私たちの人生との間のすべての最も悲しい対峙では、ドンの死は、彼が実際に死ぬ前に、何ヶ月の間ドン自身にとって避けられないように見えました。ジムと私、そして彼の最愛の親戚や友人たちは皆、ドンの人生の最後の章を書き直そうとしました。私たちは皆、私たちが持っているすべての努力をしました。それでも、ドンの地上の物語の結末の変化に影響を与えることはできませんでした。

ドンの死以来、私たちは毎日、私たちが真実であると知っていることに信仰を向けてきました。ドンを含む私たち全員が、私たちが正しいと思われることをしているのです。私たちは形而上学的な研究によって間違いがないことを確信しており、私はキリスト教の信仰を拡大し、私の神が私の人生でより大きく、より強力になることを可能にする祈りに多くの時間を費やしました。鋸。

「悲劇」という言葉は、ドンがこの世界からより大きな人生へと移行することを取り巻く外部の出来事を説明するのに良い言葉ですが、時間が経つにつれて、起こったすべてに正しさと対称性があったことがますます明らかになります。この時々非常に熱心な平和と新しい喜びの探求は、私たちにとって最良の方法であり続けます

私たちの生活を送り、真実を探求するために何年にもわたって日々の生活を送ってきた男の記意を尊重することを知っています。

この本は、ドン・エルキンスと私が共有した素晴らしい夢の長いシリーズの始まりです。私たちは、マジシャンの厳格な訓練に関する研究と本の知識を使用して、私たちが知覚する世界の性質を斬新な形で提示しようとしてきました。つまり、善と悪の世界です。形而上学的に言えば、物語がそこで終わることをこの本で示唆したり、「悲惨」と叫ぶ人々の大群に加わったと考えられたりすることは決してありません。この本と私たち自身の経験の多くの出来事は困難と不調和を反映しているように見えますが、これは私たちのありふれた幻想の性質にすぎないと私たちの意見です。私たちは、One Creatorの愛を含まない、全体的で完璧でバランスの取れた困難はないと感じています。その時が来て、そこに見られる情勢と喚起された感謝が真実を求める人々に少し役立つことを願って、私たちは今あなたにこの本を提呈します。

1985年が終わりに近づくにつれ、雪が地面に降り注いでいます。クリスマスプレゼントが交換され、クリスマスツリーは光と装飾の楽しい重荷で輝き、きらめきます。年が終わり、また始まります。人生とスピリットのすべてのサイクルとの成長する共鳴に力、約束、そして喜びを見いだしてくださいように。

ケンタッキーからのあなた方一人一人への平和。カーラ・L・リュッケルト
1985年12月21日

プロローグ

小麦の海に動かずに立って、夜が彼にやってくる。彼の下の惑星は寒さの中で固まり、彼は非常に静かになり、寒さ、風、星の光を歓迎します。

天の星座は非常にゆっくりと通り過ぎますが、彼は時間に気づいていません。なぜなら、彼は概念の心を浄化し、創造主の光に身を浸し、純粹で独創的な心しか知らないからです。この心の中に彼の先生の声が入ります：

「今、私と一緒に写真を撮ってください。もしそうなら、惑星と呼ばれる球体です。この惑星の色は何ですか？

「魚の目はこの惑星を見つめ、生命を見て、生命を喜ばせます。地球の外で生き物を育ててください。何が人生を構成するのですか？それらは完璧であり、エネルギーを放射します。

「そして魚の目が見ています。

「惑星から生き物が出てきて、彼らはその表面を動き回り、その水の中を泳ぎ、その大気の中を飛んで、さまざまなことをします。そして、それぞれが食べ物を求めています。

「そして魚の目が見ています。

「そして、すべての生命は生命と相互作用し、偉大な意識と知性知識へと進じます。それから、宇宙で人間として知られている表面から、彼の存在を意識して立ち上がる。

「そして魚の目が見ています。

「人は自分の惑星に出て行き、行動し、考え、そして自分の行動について考え、仲間の生き物と一緒に行動します。そして、彼らはお互いに相互作用しながらお互いから学びます。

「そして魚の目が見ています。

「そして、人は上質な服を着て、聖なるものに頭を下げ、大きな感謝と存在感を示します。

「そして魚の目が見ています。

「そして人は偉大な知恵に宿り、彼の力は偉大です。彼は賢いので、彼は知恵の考え自体を考えていることを知っています。彼は愛を与えることを知っています。彼は愛であり、尊厳と優越性をもって行動します。彼は神であり、恵みに満ちているからです。

「そして魚の目が見ています。

「天中、大勢の人がお辞儀します。そして彼らは魚に身をかがめます。彼がすることはすべて見ることです。そして、彼がすることすべてが見ることであるならば、彼は賢明です。彼らはそれが愛であることを知っているのです、大勢の人は知恵に身をかがめます。」

「そして魚の目が見ています。」

「彼の知恵は天に浸透し、天である。天は愛だからである。」

求める者は小麦の分野で一人で立っています。瞑想が終わると、彼は自分の体の疲労に気づき始めます。彼の心を支えてきた光が彼を去り、彼は寒さに気づきます。彼は寒さ、そして彼の体を喜んでいます。彼は自分の体の便利さ、変化する足の姿勢、変化する風とのバランスに気づきます。すぐに使える腕のうち、手はすぐに使える状態です。首の、頭を支え、脳をクッションします。肌の、その環境とても敏感で、彼に対して小麦の柔らかく、こすり取るブラシの心に、彼に影響を与えている輝かしい寒さを伝えます。彼の世界に宿るすべてを彼の意志で見ることができる彼の目のうち、月明かりに照らされた小麦の色、冬の空のピロードの黒。

そして、一人で立って、創造の一部として自分自身を受け入れ、彼と彼の体と彼の意志がすべての一部であり、すべてであると見る人。

固く動き始めて、彼は、ある惑星から別の惑星へ、創造主の奉仕から同じ創造主の奉仕へと、召喚された旅に乗り出します。

彼は心を整え、体を内面の熱に緩め、フィールドから姿を消し、出発地に召喚されます。彼の前には白い大理石の大広間が立っています。鳥のさえずりは、高いドーム型の天井の丸天井を通り抜け、窓の風の音が鳴り響きます。大広間は、床に立っている支柱を除いて、完全に空です。

柱を通り抜け、窓から差し込む黄色い光で黄ばんだ白い床の上を歩いて、金色の髪の子を歩きます。彼女は彼に向かって歩きます。彼は最も薄い石の皮をした金色の髪の少年です。彼らは、色彩、高さ、特徴の繊細さ、思考の純粋さ、意志の強さにおいて双子です。

言葉は必要ありません。触れるという単純な口だけが話します。彼らは手を握り締めて待ちます。彼らは一緒に奉仕することを知っており、奉仕するのに適していることを知っています。

この寺院の心は雷鳴で話し、彼らはお互いの目で微妙に変化する思考の色を見る：

「父の創造には、悲しみの惑星が住んでいます。この惑星は収穫に近づいていますが、その心には喜びがありません。収穫が少ないからです。そして、それが収穫に近づくにつれて、それは落ちて流されるすべての人々のためにその心の中で叫びます。この惑星には、悲しみの流れを食い止め、収穫の刈り取りが来る前に倒れたであろう人々のために高い場所を築くことができる人はほとんどいません。あなたがあなたの中で奉仕するように彼らの愛の中で奉仕するために、これらはあなたの援助を必要とします。」
若者と少女は、彼らの意志が完全に一体になるまで、手と目が触れながらしばらく立っています。それから彼らは話します：「私たちは行き、私たちは奉仕します。」
彼らは彼らの父親の神棚から、そして彼らの喜びに満ちた、ほっそりした無実の時から静かに歩きます。分離されていたものが現在結合されています。思いもよらなかったことが今始まっています。そして、彼らは子供の頃の庭で愛されていましたが、今では花のように開き、思考の香りと熟した魂の結晶の色を放ちます。彼らの子供時代のこの惑星は、悲しみの遺産を持つ地球ではなく、彼らの魂が自然にそして喜びで成長するために解放された、別のより明るい遺産を持つ別のより明るい星の惑星です。そして、彼らが奉仕する準備ができていることは、葉が金色の静かな太陽に変わるのと同じくらい避けられません。

第一章

大きなオフィスの一角にボロボロの机があり、机の後ろに椅子があり、机の横にもう一つの椅子がありました。部屋には約3000冊の本もありました。壁に並んでいる本、床に不安定に積み上げられた本、他の本を開いたままにしている本です。窓は、本と、机に座っていた、かっこいい縮れ毛の小さな男に、その淡い朝の光を見せました。彼の明るい黒い目は、ドアを見ながら、混雑の向こう側に陽気にきらめきました。

パブロ・パデエフスキー博士は短すぎ、腹が丸すぎ、猿のいないオルガングラインダーを彷彿とさせ、彼の評判を得ることができませんでした。しかし、彼は人々に彼の丸みを忘れさせ、彼が研究者、教育者、そしてコンサルタントであったことを彼らに認めさせることができました。彼の才能を人々に実感させるための彼のテクニックはシンプルで簡単でした。彼は口を開いて講義したり、質問に答えたりしました。

それで、彼は印象的な人物ではありませんでしたが、傷ついた古い机の後ろに座って、丸い目をフレーミングする丸い鋼の縁の眼鏡が彼の前にあり、彼に畏敬の念を抱いていないセオドア・ベールを含む誰もいませんでした。

パブロ・パデエフスキー教授とセオドア・ベールとの関係は、最も希薄な形で始まりました。そもそも、彼はたった1つのコースのおかげで教授の称号に値した。彼は各学期に科学の歴史と哲学の大学院コースを教え、毎週朝大学で過ごしました。このコースは、主に大学の大学院の学部長への好意として行われました。彼は、パデエフスキーの名前を教員リストに含め続けることにある程度依存していることをパデエフスキーに確信させていました。

したがって、パブロ・パデエフスキーは、彼のコンサルティング料やその他の収入と比較して、彼にとってわずかな変更である1つのコースを教え続けていました。彼は、予想通り、政権の観点から、偶像破壊の線に沿ってコースを走りました。彼は読書や宿題を必要としませんでした。生徒の興味に応じて1、2枚の論文を割り当て、脚注やページではなくアイデアで採点しました。Pablo

Padeyevskyがこのコースを教えていた11年間で、400人以上がBを取得しました。7人がAを取得しました。

セオドア・ベールがパデエフスキー博士と接触したのは、まったくの偶然でした。セオドアはほとんど大学に来たことがありませんでした。

彼の子供時代は、遅くてもごちないという静かな悪夢でした。彼は奇跡によってのみ高学年で10年生を達成することができました

学校では、教師が少年に対して何もしなかったために奇跡が許されました。彼は教室のトラブルの扇動者ではありませんでした。彼らは通常、彼が誰であるかさえ思い出せませんでした。そして彼らは彼をかわうじて追い越し、高校年生になりました。これは、男の子が働くために必要なすべてでした。今年、彼は最初の純粋な科学コースを与えられ、発射台からのロケットのようにゼロの状態から離陸しました。彼の3年生の前に、彼はIQテストや他のテストを受けていました。彼は天才と称賛されました。彼は加速されました。彼は彼が注意を払わなかった外国語と陸上競技のクレジットを許されました。彼は16歳の若さでほぼ完璧な成績で高校を卒業し、パブロ・パデエフスキーが彼の単一のコースを教えた地元の大学で純粋な科学コポストハイストに入学しました。セオドア・バール自身の環境に対する態度は、彼をドードーではなく天才と見なし始めたからといって変わっていませんでした。彼の目はいつも冷たい目、部外者の目でした。彼はそれを意図していませんでしたが、彼の心が機能する方法は1つしかありませんでした。そして、それは明らかに、他のみんなの心が働いていた方法から180度でした。他の人が彼がドードーだと思ったとき、彼は彼らに同意しました。それは自明でした。彼は、クラスメートのジョークを面白くした理由、彼らの生活を継続するのに十分面白くした理由を理解できませんでした。彼は話す価値があると考えた人に会ったことがありませんでした。したがって、彼はおそらくドードーであり、本当の脱走者でした。そして彼の周りの人々が彼が天才であると決定したとき、セオドアは彼らが何を意味するのかを再び見ることができました。彼らは自明のように見えたので、彼はほとんどの科学的な質問への答えを知っていました。明らかに、この自己証拠は珍しいものでした。他の人はそれを見ませんでした。だから、大丈夫、彼らは彼を天才と呼ぶことができました。自分自身にとって、彼が何を知っているかを知り、彼が何を考えたかを考え、彼が推測したように推測することは、単に普通であると感じました。しかし、天才とドドはどちらも孤独なタイプであり、セオドアは非常に孤独でした。彼は大学で彼が価値のある誰か、彼の考えを共有する誰か、彼の発展中の哲学に会うであろうという短い希望を持っていました。希望は長続きしませんでした。彼は再び加勢した。彼は話す魂に会うことなく19歳と2学期の大学の先輩の地位に近づきました。気まぐれで、彼はパブロ・パデエフスキー博士によって教えられた科学哲学の大学院コースに座ることに決めました。彼は大学院に在籍していなかったため、コースに登録する資格はありませんでしたが、明るい学部生が講義の後ろの席を自発的に埋めて、単に聞くだけであることが非常に一般的でした。なぜなら、パデエフスキーがオンになっているとき、彼が心を動かしているとき、彼が気密性について話しているとき

哲学、神智学、錬金術、または反物質の世界を示唆する相対論的含意により、彼はクーポン志向のプロの学生ギアグレードのゲッターのグループを完全な奴隷にすることができました。彼は魔法の奇跡を起こすことができました。それは学びに来た学生たちに働きかけました。それは学位を取得するために来た人たちに働きました。それはセオドア・バーアに非常に強く働きました。実際、彼は正式にはクラスのメンバーではありませんでしたが、パデエフスキー博士に論文を書いて提出するように促されました。彼が初めて会った人と彼の考えを共有する機会、彼らに感謝するかもしれませんが、たまたま魅力的でした。

Pablo

Padeyevskyは、早朝の光の中で、今、4回目のその論文を読んでいました。彼は思考の変化のたびに心をリフレッシュしていました。彼はこの論文が注目に値し、刺激的で、驚くべきものであることに気づきました。彼はそれを読んだときにセオドア・バールを召喚しました。彼はこの仕事をした少年を見なかったので、そしてこの論文を書くのに必要な背景を持つ学部生、さらには大学院生さえ想像できなかったからです。技術的な能力は卓越していましたが、物理科学と形而上学を結びつける洞察、そのような探求を生み出すことができる心の成熟は、彼にとってパズルであり喜びでした。

若い男は、電気、量子力学、相対性理論、原子物理学の分野でかなりの数の基本的な方程式をリストすることから始めました。それぞれの方程式で、光速のシンボルである値「 c 」が見つかりました。論文の15ページは、単純な質問に答えました。つまり、その速度？」この論文は形而上学的概念に対する多くの数学的類似性に満ちており、詳細は洗練されていて信じられないほど正確でしたが、基本的な仮定はさらに信じられないほど単純でした。若い男は、宇宙には光と意識という2つの基本的な物質があると言っていました。これらの2つの物質から、1つは物理的、もう1つは非物理的であり、さまざまな無限の構成のそれぞれで、私たちが知っているさまざまな物理的物質すべてが形成されました。彼は、意識がこれらの種類の物質を形成するために光に作用すると仮定し、さらに、すべての変化、私たちが進化と呼ぶものすべてが、意識の変化と進化の関数として生じたと仮定しました。彼は続けて、意識は二元性、つまり極からその力を得たエネルギーの分野であると述べました。物質的または物理的宇宙に正と負の極があったように、意識に影響を与える正と負の極もありました。これらの極は善と悪として知られていました、と彼は仮定しました。彼は、結論として、それ自体を物理的宇宙として体現する物理的現象は、

意識の領域内の対応する現象、意識における善と悪の二重性が、物質界を構成する物理的相互作用と変化の原因でした。物理的な創造におけるすべてのエネルギーは、完全な完全性からの逸脱でした。これらの異常は、意識をその完全な完全性から遠ざける善悪の電位差の対応するエネルギーバイアスに起因していました。

それでセオドア・ベアと話し、そしてパブロ・パデエフスキー博士は彼に会うことに非常に非常に熱心でした。確かに、彼の勤務時間は朝の7時から8時と少し奇妙でしたが、それが彼に最も適した時間でした。彼は日の出と日の入りが好きで、できるだけ早く寝ました。彼は大きな椅子に腰を下ろし、陽気で頑丈で、ほとんどエルフのようで、とても期待していました。

セオドアも期待していたが、その気持ちはもっと緊張した。彼はその論文で自分が考えたことについて真実を語り、それを他の人間に見せることによって感傷的に手足を出していました。セオドアは他の誰よりも嘲笑の好きではありませんでした。そして彼は、外の世界に身をさらした後、嘲笑されるだろうと期待していました。その世界との彼の関係は非常に一様に不幸だったので、彼は感傷的な打撃が落ちるのを恐れて待っていました。誰もが彼に同情するだろうと考え、彼はなんてばかだったでしょう。彼は短い廊下と袋小路の泥を運び、ついに気まぐれな番号付けシステムがパブロ・パデエフスキーの事務所を預けた場所を発見しました。彼はすりガラスのドアを暫定的にノックした。

"お入りください。"

彼は本の海への扉を開き、彼の目はほんの一分間反抗した。それから彼は彼らの真只中に動く実体を見つけました。パデエフスキーは彼に向かって跳ね返り、彼を照らしていました。片方のふくらとした手が温かい握手のために突き出ていました。セオドアの腕をつかんで、彼は本の山の中の2フィートの道を通って彼を操縦し、机の横の椅子に座った。

「朝食を食べましたか？」

セオドアは見つめていました。彼は見つめ続けた。これは彼が恐れていた嘲笑でしたか？これは彼の論文についてのギブの痛烈で風刺的な弾幕でしたか？

「ああ、いや、パデエフスキー教授、私、ああ、いや、私はしていません。」

"とても良い。甘いロールパン、レモネード...チーズは好きですか？これが、今日手に入れたばかりのミルクと、水が熱い場合はインスタントコーヒーです。"パデエフスキーは、冷蔵庫であることが判明した本の壁に隙間を開け、そして

物を削除しました。彼は、電気加熱プレートであることが判明したより多くの本の山のアルミニウムの切れ目をチェックしました。

「そして私をパブロと呼んでください。パデエフスキー教授と一緒に舌を捻じります。」彼はコーヒーの粉を2つの疑わしいほどきれいなカップにスプーンで入れました。Behrは物事をぐったりした手に取り、最初の一口を食べ、見つめていました。それから彼は、パブロの明るく黒いボタンの目が彼に与えていた温かくフレンドリーな評語を返すことはそれほど悪い考えではないことに気づきました。彼はこの特定の顕微鏡の下で標本であることを気にしませんでした。

パブロ・パデエフスキーは、高揚感を増して見つめていました。良すぎて真実ではありませんでした。この少年は彼が何年もの間探していたものであり、彼と彼の2人の仲間の実験者でした。彼はセオドアの特徴を調べました。ほっぺたの高いほっそりした顔、間隔の広い、かなり深い目、高い額、注意深いモデル化された、ほとんど傲慢な鼻と口の規律はすべて、彼の姪であるエスメレルダスイートウォーターに不思議な類似性を持っていました。女の子の驚べき美しさを生み出したのと同じ機軸が、男の子のまったく目立たない、静かな美貌に追加されました。彼はセオドアの身長を約6フィートと判断しました。そうです、エスメレルダはちょうど6フィートの高さでした。そしてセオドアは彼の姪が楽しんだのと同じ金髪の色でした。本当に疑いはなかったようです。

Padeyevskyは、読み直したばかりの紙を持ち上げました。

「私はこれらの考えの源が何であるか疑問に思いました。」セオドアは考えました。

「実際、情願はありません。私は15歳の頃から、かなり長い間自然科学の研究をしてきました。そして哲学は常に私に興味を持ってきました。私はそれをたくさん読みました。しかし、これらの特定のアイデアは私自身のものだと思います。私はどこでもそれらを読んだことがありません。私には、物事が機能する方法のように思えます。」

パデエフスキー博士の顔は彼の笑顔で白熱した。

「完璧、完璧。セオドア、何をお話しますか。特別なプロジェクトで一緒に働いてほしいです。」

セオドアは聞いたことを信じるのに非常に苦労していました。その男はその論文について話し始めさえしていなかった。今、彼は学部生の助けを求めています。

「ええと」と彼は言った。

これは非常に珍しい実験プロジェクトです。興味ある？」

「ええと」とセオドアは繰り返した。

パブロ・パデエフスキーが待っていた。

セオドアは自分の一部を支配下に置いた。「なんでわたし？」

「あなたはエイリアンだと私は信じているからです。実際、私はあなたが私たちが何年も探していた唯一のエイリアンだと信じています。」

「ああ、いや、サー。私はこの郡で生まれ、一生ここに住んでいました。私は米国から出たことさえありません。」

「そのようなエイリアンではありません。あなたの精神はこの惑星以外の場所に宿っていたと思います。」

セオドアは唖然とした沈黙の中で座っていた。

「私が『精神』とはどういう意味か知っていますか？」パデエフスキーは穏やかに話し、彼の活気を抑えました。

「哲学の読書で『精神体』または『アストラル体』または『魂』という言葉に出くわしたことがありますか？本当の体、肉体が死んだときに死なないものを意味しますか？」

セオドアは確かにこれらの言葉のそれぞれに出くわしました。

「それが私の言いたいことです。私はあなたの精神的な体、あなたの魂はこの惑星に固有のものではないと信じています。それは地球にとって異星人です。」セオドアの心は機嫌し始めていました。パデエフスキー博士がこの会議の前に彼の見積もりでそれほど高い位置を占めていなかったならば、セオドアはおそらく去っていただろう。とにかく、彼はチーズとデンマーク語こぼんやりと座ってむしゃむしゃとしゃべり、独特の会話を追いかけようとした。

「私が生まれる前は、私がここ以外の場所に住んでいたと思いますか？」

"丁度。"パデエフスキー博士のチームはさらに各取に向かって伸びていました。

「意識のすべての粒子、セオドアはどこから来なければなりません。あなたは意識がどのように作用し、それがあなたの論文でどのように変化するかを説明しました、そしてあなたはそれについて完全な信用を与えられるべきです。さて、意識の各粒子は、これらの変化を通して継続し、それが岩、木、動物、または人の意識であるかどうかにかかわらず、新しい経験とともに成長することはあなたにとって理こかなっているはずですが。この個別の意識は進化とともに続き、それとともに成長します。同意しませんか？」もちろんセオドアは同意した。それは、多かれ少なかれ、彼の論文にありました。

"非常によく、その後、あなたのようないくつかの人間の実体の場合、セオドア、あなたがここで使用するためにあなたがここで使用するための物理的な体を形成する化学物質を同化した意識は、この惑星の表面で、この地球にとって異質な意識でした。完全に異星人であり、本質的に、知識において、理解において。ここでエイリアンのように感じたことはありませんか？」

質問は簡単でした、セオドアは何度も自分自身にそれに答えました。

「はい、私はいつも他の人とは異なっていました。実際、私は常に1つの単純なルールに気づきました。社会が何か正しく、正しく、適切であると信じるなら、それは間違っているに違ひありません。社会はいつも私とは正反対のことを見ているように見えるからです。」

パブロは木の本の山に手を伸ばし、セオドアを肩に激しく叩きました。

"それは素晴らしいです。ただ素晴らしい。今、縋り返します。私はあなたがエイリアンだと信じる理由があります。そして、あなたの考えと、あなたと私の姪の容貌が非常に似ているという事実から、あなたは私たちが数年間待ち望んでいたエイリアンであると私は信じています。この実験に参加してくれませんか？"

セオドアは決して不親切または無愛想な人ではありませんでした。彼はただ一人でした。今、彼は人生で初めて、たとえ今は奇妙に聞こえたとしても、尊敬し、賞賛できる誰かから何かの一部を提供されていました。

「はい、サー、ああ、パブロ。私がやりたいことは何ともありません。」

"優秀な。あなたが正しい人だとほぼ確信していますが、もちろん、私の姪であるエスメレルダ・スウィートウォーターに会ったときに酸テストが行われます。"

セオドアは理解できないほどうなずいた。

「地図を差し上げます。あなたは車を持っていますか？」セオドアは再び肯定的こうなずいた。"それはいいです。今週末に私たちを訪ねてくれませんか？"

とても幸せでとても混雑しているセオドアからの3番目のうなずき。彼はパデエフスキー農場への道の正確な鉛筆の地図を受け入れ、その週の残りの間、他のことはほとんど考えませんでした。

10月の日は、彼の予想と同じくらい鮮明に見えました。彼は実験について、エスメレルダとして知られている人物(奇妙な名前、興味深い名前)について、そして何よりも、エイリアンであることについて疑問に思いました。

ついに金曜日の授業は終わり、パデエフスキーの指示に従って、彼はすぐに町から高速道路を下りていきました。彼が描いた地図には、幹線道路から農場まで続 20マイルほどの曲がりくねった道がはっきりと描かれていましたが、これらの道の素晴らしい美しさ、ブラックトップを覆う木の10月の輝きについては何も述べていませんでした。午後遅くの太陽の下で黄褐色のアーチ。カエデの秋の輝きは、セオドアが通り過ぎた野原と森にあずき色の甘さを与え、彼は完璧でつかの間の芸術作品の孤独な鑑賞者のように感じました。彼はパブロ・パデエフスキーのオフィスで彼とても興味を持った会話を熟考しました。彼はパデエフスキー教授の代わりにパブロと言う練習をしなければなりません。彼はそれが何を意味したのでしょうか？まあ、彼は、地図が正しければ、すぐにわかるだろうと思いました。地図には、この一車線の橋のすぐ向こうに彼の名前が記された砂浜道があったと書かれていました。地図は嘘をつかず、セオドアの中年のフォードはさらに豪華な内装の下を通り過ぎました。曲がりくねった丘陵の私道をたどり始めたキャンピニー。私道は2マイル近く伸びました。ドライブの先頭には、何年にもわたる天候によってほぼ平準化された放棄された農家がありました。

脇道「MathpartFendler」と記された郵便受けが右側にありました。これらは、パデエフスキー家の近くにある唯一の住居でした。良い医者や確かにプライバシーを持っていた。

その後、「農場」自体がセオドアの前に開かれました。ファームは、砂利道からたっぷりと広がる広い円形の私道で車をアイドリングに減速させたとき、彼は考えました。これは農場ではありませんでした：それは地所、ドメイン、プランテーションでした。ドライブの輪は牡丹に囲まれていました。家の両側に厚い森がありました。家自体は3階建てで、高台に停泊していた大きな船のようでした。それはレンガで、柱状の正面を横切ってベランダが左側を回って、覆われたオープンサイドのポーチを形成していました。家の右側は半分の部屋のためにインデントされ、それからそれは囲まれたスクリーンポーチに非対称に流れ込みました。家の正面にある長い窓から、セオドアはドレープのベルベットのカーテンの優雅さを見ることができました。彼は、カジュアルな服装、由緒正しき、決して威厳のない自動車、気取らない顔、控えめな性格など、すべてについてあいまいに謝罪し始めました。彼は活気のあるフットマンを待っていました。

何も現れませんでした。彼が巨大な、枝分かれの少ないウルミの木の木陰に駐車したとき、コリーが彼に近づき、尻尾が楽しく揺れ、彼についての番犬の性格の兆候はありませんでした。セオドアは友好的な動物をすぐに好きになり、車から降りて彼をなでました。獣は挨拶を楽しむために頭を下げ、セオドアの愛撫に寄りかかって立っていた。少年は見上げて少女が彼に向かって歩いているのを見た。

セオドアが突然手を離してまっすぐになり、見つめていると、犬は倒れそうになりました。今、彼は邸宅を理解しました：彼女の美しさのフレームとして他の背景は適切ではなかったでしょう。彼女はドライブを横切って歩いて来て、彼女の顔に秋の木々が穏やかに咲き、セオドアはこれがエスメレルダスイートウォーターであることを心から望んでいました。もしそうなら、彼は最も幸運な男性だったからです。彼は彼女が近づいたときに呼吸することを思い出し、彼女の手を差し出した。

"こんにちは。"彼女の声は彼女の笑顔と同じくらい軽やかに強かった。

「あなたはセオドア・ベールでなければなりません。私はエスメレルダスイートウォーターです。」

彼は彼女の手を振って、彼女を一生懸命見て、話そうとした。最初の試みは確かな失敗でした。彼は一時的に呼吸と会話の仕方をすべて同時に忘れていました。彼はついに自分がセオドア・ベアであることを認めることができました。彼は彼女の手を離した。彼が目の中の女の子を見て、何か機械的に富んだことを考えようとしたとき、沈黙の期間がありました。彼女は彼と同じくらい背が高く、

ブロード。彼女の髪は腰より下まで伸び、彼女はそれを束縛せずに身に着け、彼女の高い額を横切る前髪はまっすぐな眉毛を通り過ぎ、側面と背中では彼女の肩から自由に落ちました。彼女の身長は、彼女のサイズを判断するための基準点から離れると、彼女は軽くて繊細に見えたであろうような比率でした。彼女はセオドアが今まで見た中で最も美しい女性でした。彼は何も言うことは絶対に考えられなかった。約5年間のように見えたが、彼は困難に取り組んだ。最後に、彼は家の第一印象を思い出しました。

「たとえば、この場所は内戦映画の舞台のように見えます。」

「それは内戦映画の舞台でした」とエスメレルダは頭を片側に向けてニヤリと笑いながら言った。

「映画会社がそれを購入し、約5年前に映画用に改造し、パブロが彼らから購入しました。」

「ああ」とセオドアは言った。彼は意志の努力で再び呼吸した。エスメレルダはほっそりした手を差し出した。

「家に来なさい」と彼女は言った、彼女のジェスチャーで彼の激しい内気を滑らかにした。

「映画セットの残りの部分のツアーを提供します。とても住みやすい場所です。」彼女はセオドアを歩き続け、彼の緊張を和らげ、さまざまな家具の歴史について話しました。彼女の良いユーモアとシンプルな親しみやすさが彼を彼の最悪の厄介さから遠ざけ始めたので、彼は彼女の前でより安心し始めました。彼女は彼とても信じられないように見えるのをやめ、正しく、ちょうど完全に正しく見え始めました。彼女の顔はとても親しみやすく、とても親しみやすいように見え始めました。彼女のほっそりした体は彼の前に浮かんでいるようだった。彼は彼女がどのように感じたかを思い出せることができるという漠然とした感じを持ち始めました。彼は彼女の頭が動くにつれて金色の髪が動くのを見て、彼女の話を聞いた、そして彼のすべての感覚が彼女に生き返ったようだった。彼はまだ緊張していましたが、ある意味で彼は人生で初めて快適に感じ始めました。彼が家に帰ったかのように。

「...そしてパブロおじさんは、あなたがその人かもしれないと思ったと私に言った」と彼女は言った。

彼は空想から出てきて、もはや恥ずかしがらず、もはや不快ではありませんが、平穏で、充実しています。今のところ何も問題ではないようです。彼は家に帰ってきた少女を見た。"うーん?"彼は言った。

彼女は瞬かく微笑んでいて、青い目は動く金の斑点で輝いていました。

「パブロおじさんがそれについて話すのを待ちましょう」と彼女は言い、小さなソファに移動して、彼を彼女のそばにそっと引き下げました。彼らはお互いを見て、セオドアはどのようなわけか彼らがいくなつかの知識と理解を共有しているように感じました。

「こんにちは、テッド」と彼の心は言った。彼は少し始めて、エスメレルダをよく見ました。彼女は彼を同じ温かい表情で見た。

「テッドと呼んでも大丈夫ですか？」彼女は声を出して言った。

彼は「はい、そうです」と思い、それを言葉で表現する前に、彼女は立ち上がって正面の窓まで数歩歩いていました。

「とても良い」と彼女は言った、窓を半分まで引き下げた。外は肌寒くなり始め、日没後の10月の夜はすぐに寒くなりました。

セオドアは彼女を見ながら座っていた。彼は、彼らが話さずに互いにコミュニケーションを取っているように見えるという事実について何かを言うことを考えましたが、彼の心は再び暖かくなり、安心しました、そして彼は本当にエスメレルダとのテレパシーを発見したことを知っていました、そして彼らの間のコミュニケーションは楽になります。それで、話す代わりに、彼は単に状況の認識とその楽しみを投影しました、そしてすぐに彼は彼女の同意と理解のプレッシャーを感じました。

「それは本当に言う必要はありません」と彼女は言った、彼に戻って、ラブシートで彼のそばに自分自身を再配置した。

「しかし、それを公式にするために、とにかくそれを言うつもりです。私はパブロに完全に同意します。あなたが一人です、大丈夫です。」

彼はうなずきました。彼はまだ自分が何のためにいるのかわからなかったが、彼がエスメレルダと共にここに所属していたことは疑いの余地なくそうだった。残りそれはそれ自身の良い時間に来るでしょう。セオドアは快適に腰を下ろし、小さなソファの後ろで腕を横切って、座ったときに腕を横切って落ちたエスメレルダの髪の毛で指を遊んでいました。

「この家は素晴らしいです。パブロが教授の給料でどうやってそれを買うことができたのか想像できませんが、それは私が今まで見た中で最高の場所です。」

「ああ、パブロおじさんは少したくさんのことをします。彼は大学のために教えたり研究したりするだけではありません。ほとんどの場合、彼は米国中の企業と相談しています。彼は軍隊の仕事さえしました。彼は国中を飛び回り、クライアントの長い待機リストを持っています。」

「彼はどのようにしてそれらすべての異なる分野を学びましたか？」

「彼はかなり珍しい能力を持っています」と彼女は言いました。「ほとんどの人よりも早く知識を吸収することができます。彼はマジシャンである私たちの友人と何年もの間これらの技術を開発してきました。彼が新しい主題の中に入ることを望むとき、彼はただ関連する文献を集めて、それを数日のうちに吸収します。時々、彼は本の遅い読者のほとんどよりもうまくやることさえできます。なぜなら、彼は行間を読む能力を持っているからです。」彼女はセオドアに、読者と著者の2つの心の間のリンクとして何らかの形で機能する本の精緻な絵を与えました。

「彼は多くの厄介な言葉を過去に見ることができ、書かれた言葉だけに頼らなければならない人々よりも著者の意味をよく理解していることがあります。非常に多くの善良な心は、彼らが発見したことを理解する能力を持っていますが、表現することはできません。おそらくもっと

ただし、重要なのは、単一の主題に関する彼の知識よりも、おそらく無関係な分野をリンクして、テクノロジーの新しい方法を生み出す能力です。彼は非常に連想的な心を持っています。」

彼女の目はセオドアのことを注意深く見守っていました、そして彼女は彼女が言ったことに対する彼の反応を彼の心の中で待っていました。

彼は彼女に精神的にニヤリと笑い、ついにパデエフスキーのオフィスにあるそれらすべての本の理由をはっきりと感じました。

「ああ」と彼は言った。彼は大丈夫だった。彼はユニークなセットアップ全体を歓迎しました-

素敵な木々、さわやかなそよ風、そして完全に成功したコリー犬のいる家、そして何よりも、おそらく、しかし確かに、彼の女の子、彼の仲間、彼の仲間であった女の子。奇妙に聞こえましたが、気分は良かったです。まるで家のような感じでした。

彼は彼女が考えたようにこれらすべての考えを理解していると感じ、言語で分析する必要がなければ「ああ」がどれだけ伝えることができるかを考えたとき、精神的な笑顔が彼の通常の冷静な顔に広がりました。

「ニャー」と隣の部屋が言った。

「パブロおじさんが来ました。彼は動物を使った研究についてあなたに話しましたか？」

「いいえ、彼はしていません。あいさつ、ええと、パブロ」とセオドアは言った。丸い小さな男が部屋に入ってきたとき、虎の縞模様の猫が彼のそばを落ち着いて歩いていた。彼女はスラブを下にして敷物の上でフロップし、彼はすぐに彼女のそばで四つんばいになりました。

「ニャー」と彼は、最初の供物とは異なる口調で言った。猫はお返しに何も言わなかったが、微笑んでいるようだった。それから突然、彼女は二重に曲がって尻尾をなめました。前足の片方が真ん中の真上でさりげなく手を振っていました。

パブロは座った姿勢になり、完全に垂直になりました。彼は彼を彼のオフィスに迎えたのと同じ晴れやかな挨拶でセオドアに行きました。

「それで、あなたはここに着きました、セオドア。農場についてどう思いますか？」

セオドアはこの家庭に神経質になっていた。

「なぜ人々が古き良き時代について話すのか、今私は理解できると思います、ああ、パブロ。」

「そして、あなたは私の姪に会いましたか？」

セオドアは彼のそばに座っている女の子を完全に満足して見ました。"はい。"

エスメレルダは金色の斑点のある目をパデエフスキーに向けた。

「あなたは正しかった、パブロおじさん。そのひとです。」

3人全員が彼らの最も嬉しい笑顔を浮かべた。

「はい」とパプロは言った。セオドアは自分がその一人であることを知っていました。彼は今までにそれを数回聞いていました。「本当に動物と話せますか？」他の問題に。「まあ、それは実際に話しているのではありません。」パプロは快適になるまで席で身をよじった。エスメレルダはレモネードを手の届くところに置いていました。

「あなたは私とエスメレルダに会いましたが、あなたが会っていないグループの別のメンバーがいます。彼の名前はジョシュアスターです。あなたは彼のことを聞いたことがあるかもしれません。彼は私たちの真の只中の有名人です。テレビは機能しますか？」セオドアは首を横に振った。彼はジョシュアスターという名前の人のことを聞いたことがありませんでした。

「まあ、多分あなたは持っていないでしょう。彼は日中オンになっています。しかし、夜に行われるいくつかのショーのクレジットで彼の名前に気づいたかもしれないと思いました。彼はテレビの作家でもあります。」

セオドアは彼のことを聞いていませんでした。

「まあ、とにかく。」パプロはレモネードで小さな男の子のように息を呑んだ。

「彼は私たちの非常に親しい友人でもあります。彼とエスメレルダは私と一緒にこの問題に取り組みました。彼らには私が持っていない才能があります。これについては、すぐに詳しく説明します。とにかく、彼らは動物を研究し、動物がテレパシーの原始的な形を使用して思考を伝達し、意味を伝えるために音で思考を変調することを発見しました。彼らは私を助けてくれました、そして今私はこれらの動物の思考音の変調のかなりの数を解釈することができます。」

"おー。"

パプエフスキーはレモネードを終え、別のグラスを取りました。

「あなたにとって、それはおそらく少し変わったように聞こえます。」

「とにかく、ユニークです。」セオドアはその状況をあまりにも楽しんでいて、それを異常とは言いませんでした。パプロが猫と話したいのなら大丈夫だった。彼ももっと力を。

「魔法に興味がありますか？」パプロは尋ねた。

セオドアの眉毛は混濁して上がった。「私はそれについて本当に何も知りません。」

「ほとんどの人は魔法を巧妙に説明します。」パプロは立ち上がり話しているとペースを取り始めました。セオドアは彼の講義を見て慣れ親しんでいた習慣です。

「真の魔法は、トリックや物理現象の生成とはほとんど関係がありません。それは、意識と思考の領域内で、アストラル面とメンタル面で機能します。そして、その目的と目的のすべては、思考の世界にあります。の場合

とにかく、白魔術。残念ながら、今や黒魔術には、現実の世界にあるいくつかの目的があります。」

さて、銃の息子は、セオドアを考えました。パブロはその魔法を呼ぶことができましたが、それは彼が彼の論文で書いていたもののように聞こえました：物理的な世界に影響を与える思考の世界の力。結局のところ、それはユニークでも珍しいことでもありませんでした。"もちろん。それは理こかなっている。

パブロは頭を戻して笑った。

「まあ、セオドア」と彼は最後に言った、「あなたは大丈夫になるだろう、私は信じている」。彼は彼ももっとレモネードを注いだ。

「私が以前に話したこの実験が嘘をつくのは魔法の分野です。まだ興味をお持ちですか？」

"もちろん。"

「それではやるべきことがたくさんあります、テッド。あなたはすでに私よりも多くのことを知っていますが、私は恐れています。あなたにはそれに対する才能があります。

ほら、私はエイリアンではありません。」

セオドアは眉をひそめ、エスメレルダに目を向けた。

「そうです、テッド。たとえば、彼はあなたと同じようにテレパシーを使用することはできません。彼は何年も練習を続けています。」

セオドアはパブロに目を向けた。

「それでも、どうして私はあなたよりも何かについてもっと知ることができるでしょうか？」

「まあ、テッド、この実験は知性よりもはるかに深い領域と関係があります。もちろん、私はあなたよりも、いくつかの分野で、知的に知っています。しかし、この魔法は精神に集中しています。そして、あなたは私ではなく、エスメレルダと私の親友であるジョシュア・スターと一緒に仕事をするようになります。私はあまり上手ではないので、どちらも上手です。彼らは両方とも白い魔術師です。エスメレルダが準備ができたと言うとすぐに、ジョシュアに会います。」

エスメレルダの金色の目は瞬かかった。

「パブロおじさん、1週間かからないでしょう。」

第二章

ジョ シュア・ スターは、リビングルームのカーペットの真ん中に仰向きに横になりました。彼の手は彼の顔の片側に広がり、彼は広げた指を通して彼女の机に座っていた彼の秘書であるスーザン・ クインに話し、彼が言ったそれぞれの言葉を取り除いた。彼女が約10フィート離れていたのに、彼はかなり大声で話していました。彼女のタイピストの椅子は、居間のその側の壁全体を構成する窓の広がりにはバックアップしていました。

ジョ シュアは床に平らに横たわっていても、商人の船員やレンジャーのように見え、天候に恵まれてタフに見えました。彼の顔は、その強く マークされた、ほとんど誇張された特徴と、風化したユーモアと 経綫のラインで、気楽で、無意識に強 、おそらく少し 残酷な、アウトドアマンとしてのジョ シュアの絵を完成させたようです。ジョ シュアの人間の個性の多くの部分である高い知性を 経綫豊富な目に示したのは、表現と ジェスチャーの微妙な詳細だけでした。

彼は、その意味が自分だけに知られている空中のパターンをたどりました。トレースには数秒しかかかりませんでした。スーザンは待っていました、彼女の指はタイプライターの鍵の上に構え、彼がそこに横たわっているときに彼を見ました。彼の顔は、ワシントンから 発されたニュースと 天気番組の15分間のセグメントを構成し、ネットワークの1つによって取り上げられた、毎日の朝のインタビューのモデレーターとして何百万ものテレビ視聴者に知られていました。独特のバリトンは、深みのある色調ではありませんが、耳障りなエッジと、屋外の男性の視覚的な示唆を 継続する音色へのわずかな引き寄せがあり、多くの多くの主婦にもよく知られていました。しかし、スーザンを反映して、彼女は主婦が決して知らないことをある程度詳細に知っていました。なぜなら、彼女は脚本家のはるかにプライベートな役割で毎日彼を見ている間、彼らは彼がインタビューアールとしての役割でのみ、保守的なスーツで匿名の椅子に座っているのを見たからです。テレビ用。彼とスーザンは一緒こうまく働いた。彼女は優れたタイピストであり、ジョ シュアが口述するのに快適であると 感じた速度で、ジョ シュアの話し言葉を書かれた構文に 翻訳するのに十分な識字能力を持っていました。

彼はこの才能のために彼女を選び、彼女を維持するために彼女の知的で 実証的な性格に十分満足していました。一緒に4年目です。スーザンは、非常に多額の給与と 4時間の労働時間という 明らかな利点に加えて、ジョ シュアスターを知ることのさまざまな喜びがあったため、仕事を続けることに強い意欲を持っていました。

彼は、今日もいつものように、見やすい人でした。一部の人は彼を 家庭的で 醜い男だと思っていましたが、彼の肉体的な存在は

非常に強、気に入らなくても注目を集めました。しかし、ほとんどの人がスーザンと一緒にあって、ジョ シュアが本当にハンサムだと感じました。今日、彼の痩せた、筋肉質のフレームは、ブルージーンズと長袖のスウェットシャツで覆われていました。彼は通常、実際よりも短く見えました。彼はアスリートの無意識の優雅さで身を持ち出し、彼の身長は完全に彼の体のプロポーションと一致しているように見えました。しかし、じゅうたんの上では、彼は6フィート2インチいっぱいに見えました。スーザンは彼の上の彼女の位置から、彼の顔を逆さまに見ることができ、集中力が落ち着いていて、広げた指を通して天井の方向に指示し、わずかに灰色の重い髪の毛のモップが彼の指を通してそして床の広がり絡まっています。

「シーン2」とジョ シュアは言っていました。

電話が鳴り、集中力を失い、彼はそれに答えるために立ち上がって、彼の本性である容易さで6つの長い宇宙の歩みを歩きました。彼が思考の方向を変えるのに数秒かかった間、彼の手は受信機で一時停止しました。彼はまだ創造的な領域で彼の心でビジネスをしようとしないうことを学びました。結果は常に完全なフィアスコであり、「しかし、あなたは言った...！」の混濁したコーラスで飾られていました。彼の顔は内向きの空白を失い、有名人のマスクをかぶった。「スタースピーキング」と彼は電話に言った。

彼がますます熱心に耳を傾けない間、長い休止がありました。彼が割り込んだので、独白は最終的に彼を退屈させたようでした。昨日言いましたが、今日も言います。お金を処理しなさい、男、ただお金を処理しなさい。お金について私を悩ませないでください。ただあなたのことをしてください。あなたはお金のビットで完全な権限を持っています...いいえ、ハーマン、あなたがお金を失っても私はあなたを責めません。計画を進めてください...あなたが最善だと思うものは何でも...はい、ハーマン、私は本当にそれを意味します。本当です。計画全体を進めてください...昨日、ハーマン

...まあ、考え直したり、考え直したりしないでください、あなたは正しいと思います。どうぞ、大丈夫ですか？... わかった。明日会いましょう。さようなら、ハーマン。」

ジョ シュアはレシーバーを交換するときに首を横に振った。

「彼は周りで最高の金融ウィザードの一人です。彼が自分の判断を信託することを学ぶだけなら、他の人のためではなく、自分のためにバンドルを作ることができます。」彼は電話で席から立ち上がって、家の裏側に40フィート伸びたガラスの壁に向かって歩き回り、家が立っていた丘の頂上から、ジョ シュアの裏庭。谷の斜面は野生のブラシが取り除かれ、花の茂みや石庭で手入れされ、地面には曲がりくねった小道が敷かれ、

清算。その目玉は白い建物で、その屋根は午後遅くの太陽の下で輝いていました。彼の秘書の視線は、窓から徐々に落ちていった素敵な敷地を越えて彼を追いかけてきました。「ハーマンをもっと注意深く見守るべきだと思いませんか？もし彼があなたのお金を失ったら、あなたはこの贅沢をすべて楽しむことができないでしょう。」

"贅沢?" ジョ シュアに尋ねた。

「きれいな木々とすべてのガジェットがここにあるこのビットは、1つの理由だけでここにあり。作業が簡単になります。贅沢は心の状態です、女の子。どこに行きたいか誰かに聞いてみてください。南の海に浮かぶ島を言う可能性があります。さて、私がすべてのお金を失った場合、私は破産を宣言し、南の海のチケットを差し出します。それは贅沢ですね？」

「それでも、ハーマンがしていることにもっと注意を払うべきだと思います。お金を全部失うのは嫌じゃないですか？」

スターは窓から引き返し、後ろのポケットにあるねぐらから手を引いて、彼女に向かってイタリア語のジェスチャーをしました。

「あなたは私を台無しにしようとしていますか？ラクダと針、そして金持ちと天国についてのそのビットはどうですか？あなたは私を天国から遠ざけようとしているのですか？」

スージーは考えを振り払った。

「いや、いや、あなたはすでに金持ちになるのに十分なお金を持っているということです。好きかどうかにかかわらず、あなたは金持ちです。」

「たとえ話は、お金の量ではなく、お金についての考え方に関係していると思いました。とにかく、お金のことを考えるよりもやりたいことがあります。ハーマンは私よりもそのことについて多くのことを知っています。彼が何をしているのかを理解するのに苦労したいのなら、そもそも彼を雇う必要はないでしょう。」彼は話している間、スージーのタイプライターのテーブルである小さな黒い立方体に戻って歩きました。それは正面の窓の反対側を向いて座っていて、ジョ シュアはそれに腰を下ろした。

「さて、お金を忘れて、このスクリプトの作成に戻りましょう。結句のところ、残り3分です。」

ミス・クインは彼女の時計に相対しました。「6:14、え？私の時計は遅くに違いない。6:12としか書かれていません。」

スターはかすかにショックを受けたように見えた。

「ガジェット！もちろん、あなたの時計は再び遅くなっています。正確に...」

スージーは割り込んだ。私を惜しまない。正確には6時14分です。とにかく、どうやって今何時かわかりますか？あなたが時計を見ているのを見たことさえありません。」

「私は所有していません。夜なのか昼なのかを知っている人よりも少しだけ絞り込んでいます。」

スーザンは黙って待っていた。

"それで全部です?"彼女はまげの下から彼を見て躊躇し、それ以上尋ねないことに決めました。彼のさまざまなスキルや奇妙さについての質問は、彼の通常の良いユーモアを悪化させる傾向がありました。質問を落とすほうがよかった。彼女は彼が時間についてどのように知っているかを理解したわけではありません。しかし、彼女は、ジョ シュア・スターが夕方6時7分以降に仕事をしたことは決してないことを理解していました。彼はまた、なぜそのカットオフタイムについての彼女の質問に答えていませんでした。実際、彼は説明のつかない男ではありませんでした。彼女は外面がとても魅力的だと感じていました。彼は非常に見栄えが良く、怒りっぽい方法でした。彼の顔は大きな力と自信を持っていて、彼の目はとても穏やかでした。彼は男性が快適に感じ、女性が常に惹かれている男性的な活力を醸し出しています。彼は多くの知人がいて、敵はほとんどいませんでした。

しかし、彼女はジョ シュアと一緒に水面下を見ることはできませんでした。彼は3年間、彼女と個人的な問題について話し合うことはありませんでしたが、彼は常に彼女の事柄について非常に注意深く尋ね、彼女は時々彼に打ち明けました。彼は本当に彼女を困惑させた。彼女は彼に魅了されましたが、彼が彼と結婚するように頼んだらどうするのだろうか時々思いました。あなたが愛した男を理解していない一生は、快適なものではありませんでした。

しかしもちろん、彼女はいつも自分自身に思い出させました。彼はそもそも彼女に尋ねることは決してありませんでした。それは彼女を安心させただけでなく、少し収縮しました。それは、社会的パターンの範囲内で、あまりにも理解しやすいことです。彼は完全に外で活動しているようで、スーザンの上記の考え方では、通常の社会は、特別な目標や深い野心なしに人生を歩き回り、常に新しいことを考え、精神的に静止することはありませんでしたが、彼はかなり落ち着いた人でした物理的に、彼のホームベースを離れることはめったにありません。

そして、専門的で注意深い秘書として、彼女は4時間の作業セッション中に彼が自分自身と彼女を利用したことを賞賛しました。彼は正確に彼女のタイピング速度で彼女に口述しました、そして、1日で、彼はほとんどのテレビ作家が3日したのと同じくらい多くを知ることができました。彼は言葉をためらうことはめったになく、アイデアを決して躊躇しませんでした、そして彼が書いたものは良かった、とても良かったです。彼女は、タイピング速度の制限とマシンの紙を交換する必要がなければ、彼はもっと速く作業できたのではないかと疑っていました。彼は録音装置に口述しようとしたのですが、聴衆がいることに慣れていて、その上、彼は自由に動き回ってエネルギーの一部を取り除く能力がなく、作成中に歩き回るのが好きでした。彼の体は絶えず出されて、彼は見つけました

彼自身もほとんど働くことができません。そして、彼らは午後の2時間のセッションに戻って滞在しました。彼の目標は、2時間のセッションごとにテレビ1時間分の資料を提供することでした。彼は長い間その目標を逃していませんでした。彼がそうしたとき、それは電話があまりにも頻りに鳴ったという理由だけでした。

これでその日の作業は終わりました。ジョーシュアは手のひらをじゅうたんのの上に置き、体をひっくり返し、机から部屋の端にあるバーまで歩いて行きました。スーザンはバーに着くと大きな愛着を込めて見守っていて、そこにある低いイスツールの1つに座った姿勢になりました。彼女は彼がそれができるとは思っていませんでした。「毎日何か新しいことを学びなさい」と彼女は笑い、そしてすぐに言いました、「いいえ、いいえ、私はそれをします」。

ジョーシュアは、まるで電荷を帯びているかのようにジンボトルから手を落しました。「OK、OK、役員、私は二度とそれをしないと約束します。」彼は両手を後ろのポケットに戻し、いつものように部屋を歩き回り始めた。彼が後ろの窓の遠端に来たとき、彼はじっと立っていました。太陽は沈む最後の瞬間にあり、真鍮のオレンジ色のハードディスクは、最後の厚い光線を遠くから谷に注ぎました。彼はとても静かに話しました。「その星の周りを38回旅行しましたが、それは私に屈しています。」

スーザンはジンと氷に対処していました。銀のガラスのチャリンという音は彼の言葉を覆い隠した。「何？」

「彼らの星の周りの38回の旅行。たった38回の旅行でこれが疲れてはいけません。浜のクジラのように呼吸している私を見てください。私がしたのは、手で20フィート歩くことだけでした。」

「あなたは何かについて話していますか？」スーザンは言った。

「私はあなたが何を意味するのか分かりません。ここ。」彼女は彼にマティーニでいっぱいシェーカーを手渡した。「今、どの星の周りを38回旅行しますか？」

彼はシェーカーを取り、名誉を与え始めました。

「見て。この星の周りをたった38回旅行しただけで、なぜ私はそんなに疲れ果てているのでしょうか？」彼は夕日に向かってジェスチャーをした。

「つまり、それはまったく距離ではありません。これは本当に奇妙な場所です。」

スーザンは今追いついていた。

「あなたは38歳です、あなたは38回太陽の周りにいましたか？」

「そうです、それが私が言ったことです。」

「私はそれをそのように考えたことはありませんでしたが、それが私たちが年輪を伝える方法だと思います。惑星が太陽の周りを回る頻度によって。」その考えは彼女に興味を持った。

彼女は活発な心を持っていて、新しい考えで遊ぶことを完全に楽しんでいました。「しかし、あなたは38に見えません、ジョ シュ、あなたはあなたの髪の色を除いて、実際には30に見えません。」

"それは問題ではありません。そんなに年をとってはいけません。この短い距離を移動しても、まったく効果がないはずですよ。"

"距離?"

"右。地震計の座標系を使用し、円軌道を仮定すると(ジョ シュは一時停止、精神的に計算します)、惑星は年間約億8500万マイルを移動します。ですから、私は約2億マイルの年齢です。"

"時間は距離に等しいですよ?スーザンの心は、新しいコンセプトを取り入れようとして、レースをしていました。"

"まあ、哲学があります。空間と時間が同じであるならば、それを正しく持っていたのは古いヘラクレスだけでした。彼はすべてのものが一つであると言いました。そして、彼でさえ、同じ川に2度足を踏み入れることができるとは思っていませんでした。"

"20世紀を忘れないでください。"ジョ シュはマティーニの混合物を穏やかに振っていました。

"哲学はもはや問題ではありません。それはすべて科学です。そして、そのほとんどはアインシュタインの道を進んでいます。彼らはまだ出てきてそれを言っていませんが、すべてが他のすべてに関連している場合、時間は時間であり、空間は空間であり、二人は決して会うことはないという古い考えは間違っているように見えます。そして私は22億マイルの年齢で、それより1光年上だと感じています。"

"おじいさん、何を言ってください。次の宇宙飛行に乗り、地球を反時計回りに約10年間回ります。それならあなたがすべきです。"

"ついに若返りの泉。いいね、スーザン。切符を売ることができました。私たちの宇宙船に乗ってくつろいでください!"

"聞いてください、私たちがそれを行うことができれば、あなたはテレビのために書くことを忘れることができます。私は素晴らしい市場を知っています。全国が若くなりたいと思っています。"彼女は別の考えに興味をそそられて立ち止まった。

"私はどこまでですか?"

"ああ、あなたは短距離走者です。見てみましょう、あなたはたった160億人です。"

彼は氷のように冷たいマティーニを2つのグラスにデカントしました。

"うわー、それはよさそうだ"とスーザンは彼女に手を伸ばして言った。

"あなたは本当にその機械的の口述で女の子を身に着けています。"ジョ シュはニヤリと笑い、目の隅の線がカラスの足に縮んでいた。

"東で最速のタイプライターへの乾杯。"

電話は彼らの最初の一口を中断した。

エスメレルダスイートウォーターのはりつけ

「営業時間後」とスーザンは、動かないように手を上に置いて言った。
彼は彼女の手を彼の自由なもので軽くたたき、そして彼自身を解放した。電話が再び鳴り、彼は数分間それをじっと見ました。
「これはビジネスではありません。」彼は受信機を手にとった。
「こんにちは、パブロ。面白い農場はどうですか？」
パブロ・パデエフスキーの声が静かな部屋にはっきりと聞こえ、彼のクリップされたアクセントはスーザンにかなり聞こえました。
「罰金。聞いてください、私たちが待ち望んでいた人を見つけました。」
「何？連絡先のことですか？」
「はい。私たちは皆、遅かれ早かれそれが起こらなければならないことを知っていました、そしてそれはそうしました。彼はちょうど大学の私のオフィスに入ったところですよ。」
「それは私が期待していたことです。物事を探しに行くのは決して良いことではありません。彼は必ず現れた。しかし、それが起こったとはまだ信じがたいです。本気ですか？」
「まあ、私はかなり確言していました、しかしエスメレルダは彼女が絶対に確言していると言います。そして彼は今ここにいます、エスメレルダは一週間そこら彼と一緒に働いています。
ジョシュは興奮して髪の毛に指を絡ませていました。指が動かなくなった。
「なぜ彼女は寺院に出勤しなかったのだらうと思いました。」ジョシュは再び髪を引張り始めました。
「良い！すごい！美しい！今それを進めることができますか？すぐにここを乗り越えることができますか？コミュニケーションの試みを進めることができますか？」
「まあ、私たちは今夜みんなで集まってそれについて話すかもしれないと思った。後であなたの場所に立ち寄ってみませんか？」
「いつでも。たとえば、次の10分間いつでもどうでしょうか。」
「私たちはすぐにそれを達成することはできません。しかし、私たちはそこにいます。」
「私はあなたを期待しています。」ジョシュはレシーバーを下に置き、スーザンを見上げました。彼女は彼に微笑んだ。
「あなたは、今年2つのクリスマスがあることを知ったばかりの小さな男の子のように見えます。」
彼は手を伸ばして両肩で彼女を連れて行き、彼の手は興奮して緊張した。
「私のためにあります！私はこれを何年も待っていました。」
「何を待っている？」
「まあ、それは少し複雑です。それは私の実質的な仕事のいくつかと関係があります。」

「私には理解できませんし、決して理解しません。あなたは一度あなたの庭で何が起こったのか教えてくれましたが、それは私には奇妙に聞こえました。しかし、私はあなたにとっても満足しています。本当に私です。ここで、マティーニを飲みましょう！祝！

"彼女は彼のために彼のグラスを差し出した。
"いいえ。私は今、ワゴンに乗っており、今後数週間はワゴンに乗っています。"
スーザンはグラスを下に置き、彼女を拾い上げ、そしてそれを思慮深くすりしました。ジョシュが飲心のをやめることは、彼の通常の習慣からの大きな逸脱でした。それは、この呼びかけが彼にとってどれほど重要であったに違いないかを彼女に伝えました。ジョシュがアルコール依存症だったわけではありません。彼はイブニングドリンクの有無にかかわらず機能することができました。しかし、彼はかなり大量の飲酒の期間がありました。多くの場合、最近、マティーニの時間は夕食後に終わり、ジョシュがポーチや庭の椅子にマツセラムのボトルを持ってさまよっているのを見つけます。そこで彼は座って、飲み物をじっと飲みながら、星が出るまで深まりゆく夜の空を見下ろしていました。スーザンは彼の要求に応じていくつかの夜を過ごしました、そしてこれらの期間中に彼女は彼のこれらの気分が孤独であると感じたので、そして非常に当然のことながら、自分でやることを見つけるでしょう。彼は決して落ち込んでいるようには見えなかったし、彼女は彼が不機嫌だったと言うこともできなかった。彼はちょうど非常に孤立し、自分自身に引きこもりました。彼女はそれらを、アナリストの一種の代理人であるJoshの調整の時期と考えました。

実際には、ジョシュアはスーザンの能力を尊重し、彼女の知性を楽しんでいましたが、彼女が彼を理解することに決して近づくことはないことを彼は知っていました。彼女は彼が一人で座って彼の考えを再調整し、彼の日々のねじれを取り除くと思った。目的はまったく異なりました。彼はしばらくの間、疲れていた惑星に座って、彼が見つけたいと思っていたものとは完全に反対の精神的な雰囲気の中で生活することの毎日の痛みを少し鈍らせた、そして彼は見上げました創造、何百万もの星、そして家に望むように非常に遠く離れた太陽のことを考えました。

スーザンは、彼を面白いが、最終的には浅い人、何も真剣に受け止めていない人だと思っていました。実際、彼は非常に真剣に考えていたので、長い間完全に一人でいました。彼が完全に中心的だと考えていることにまったく注意を払っている人は誰もいなかったからです。彼はずっと前にパブロを見つけました、そしてパブロが少なくとも知恵を探そうとしたので彼らは友達でした。そして、エスメレルダと一緒に、ジョシュアは彼女の精神の福祉のために彼がしたのと同じくらい気にかけているもう一人の人を見つけました。そして、彼らは一緒に、ジョシュアが彼の庭に建てた神殿で白魔法の儀式を実践しました。

しかし、ジョシュアは子供の頃に最初にエスメレルダと一緒に働いていたので、彼は彼女の完全な性格を発見したことはありませんでした。彼は彼女を彼自身の意識の一部、彼の精神的な強さの一部として考えました。彼女の日常の世界と彼の

まったく噛み合わない。そして、ジョ シュアは出会った人々をスーザンのように見つけ続け、一時的な将来のある目標を目指し、彼らの孤独を調整、成功の可能性と失敗の可能性について考え、彼が愚かだとしか考えられないことを際限なく心配しましたゲーム。そして、ますます、彼は彼がエイリアンであった惑星に一人で座って、ラム酒をすすりながら、そして星を見ました。

スーザンは、ジョ シュアが彼女に彼の妻になることを決して求めないだろうと考えるのは非常に正しかったが、彼女は理由がわからなかった。彼女は自分が妻の候補者としての資格を欠いているとは決して考えなかったでしょう。しかし、ジョ シュにとって、彼女は絶望的に不十分でした。彼女はかわいくて、頭が良くて、便利でしたが、彼を暖めたり、彼の精神を休ませたりする能力は何もありませんでした。彼女は彼が結婚したいとは思わなかったと思った。それどころか、彼はすでに落ち着いていて、彼の家の非常に居心地のよさは、彼の孤独をより強烈にしました。彼はその場所を家族の本物の暖かさで満たすのが一番幸せだっただろう。ずっと昔、彼はこの惑星で彼の家族になり得る女性を見つける望みはないと決心し、彼は心の扉を閉め、見るのをやめました。彼は自分の環境を異星人として見ることに慣れていて、仲間の人間に愚かさ以外の何も期待していませんでした。彼にとってまだ価値のあることの1つは、彼自身、そしてエスメレルダとの、そして過去7年間、儀式の魔法の領域でのパブロとの研究でした。さて、ついに、霊的な面で望まれることが物理的に通過するようになりました。今夜、ジョ シュアには孤独はありませんでした。彼はスーザンの驚いた奇妙な顔を見て、こう言いました。「ワゴンに乗って！この世界はどうなるのでしょうか？」

スーザンは彼を理解しようとするのを再びあきらめました。

「もうすぐ終わるとおっしゃっています。私が行く時間ですか？」

ジョ シュは片方の手を肩の後ろに置き、そっと振りました。「よろしいですか？」

「全くない。今夜よりも拘束されるのですか？」

「今は本当にわかりません。明日電話してもらえますか、それとも私に電話してもらいたいですか？」

スーザンは思った。

「何を教えてくれ。スタジオでの作業が終わったら、明日の朝に電話します。次に、いつ報告するかを教えてください。時間が必要な場合は、応答サービスにすべての通話切り替えてもらいます。私に電話して指示を与えることができます。」

「いいね」とジョ シュは彼女を薄手のコートに導き、それを手伝って言った。

「とにかく私たちは執筆を進めています、そしてこれは本当に時間がかかるかもしれませんが。そのことについては、私もいくつかのインタビューを録音しました。あなたが扱うことができます

かなり長い間、日常的なもの。電話をかけない場合は、あなたが最もよく思うことをしてください。」

彼は彼女に軽くキスをし、彼女は彼女の手を彼の頬に当てて答えた。

「OK、ジョーシュ。私はあなたを破産します、またはハーマンと私は私たち間でそれをします。彼はおそらく心臓発作を起こすでしょう、あなたが毎日話すことなく、それについて考えてみてください。しかし、心酔しないでください。私があるあなたの財政を台無しにした後、私もあなたを好きになるでしょう。」

"いい娘。"彼は彼女を家の裏側の1階の下に隠れている3台の車のガレージに連れ出し、丘の斜面をスペースとして使用しました。彼のランボルギーニムイラは、彼が過去に所有し、販売したことのない別の車の隣に小さくエレガントに座っていました。

3番目のスペースはスーザンのコンバーチブルに属していました。彼女はトップスダウンの熱心なドライバーであり、4つのギアを完全に楽しんでおり、非常にうまく運転していました。彼女はタイプした方法をすばやく、エラーなしで運転しました。近い将来彼女の居場所に、そしてそれらをうまく利用する。

ジョーシュアは、テールライトが私道を下り、道路の最初の曲がり角の周りで後退するのを見ました。彼は彼女がいなくなったことにいくらかの安堵を感じました、それは彼が他の夜には感じなかったでしょう。しかし、パプロの発見のニュースが頭に浮かび、彼はグループの差し迫った到着だけを考えていました。薄明かりの中で瘦せて暗くなり、彼は急いで居間に戻り、バーとテーブルを掃除し、眼鏡を外し、湿気の輪を拭きました。タイプライターはテーブルの下に入り、家具は2つの快適な椅子の間に座ったシンプルな黒い立方体になりました。

それから、後ろの窓のそばに身を置き、靴を脱いで床こしゃがみ込み、インド風に足を組んで、空と最初の星を眺めて待っていました。

第3章

パブロはセオドアについてジョー・シュアとの電話での会話を終えたばかりで、受信機が彼にぶつかったとき、受信機をクレードルに戻しました。

3番目のリングで、彼はそれを拾いました。「パデエフスキー」と彼はそれに言った。「今回もあなたが勝ちます」と、ラインの反対側の声が言った。ニューヨークの人々はあなたのやり方でそれをしなければなりません。何か事故が起こらない限り。」

「もし私があなただったら、私は脅威に非常に注意するでしょう」とパブロは言いました。「もちろん、それが脅威という意味ではなかったと思います。」

「好きなように取ってください」と声が言った。

「私たちには脅威に対処する余地がありませんね。あなたが勝ちます。」

「まあ、このように見てください。」パデエフスキーは電話にニヤリと笑った。

「金は諸悪の根源であります。私はあなたの改革への広い道を切り開いたところです。」もう一方の端の音が少し揺れました。

「ほら、パデエフスキー、私にそれを与えないでください。あなたが何をしようとしているのか教えてください、それだけです。何を？あなたはこれを続けることができないことを知っています。」

「はい、できます」とパブロは元気に言いました。これですべてが終了しました。終わりました。それについて良いスポーツになりなさい。金剛炎害の利点を見てください。会議を身に着けたり、深夜を過ごしたり、...

声が途切れ、激しく、怒りに満ちた。

「私はあなたにパデエフスキーを連れて行きます。それが私が今までにした最後のことであるならば、私はこれのためにあなたを個人的に手こ入れします。聞こえる？」

Padeyevskyは受信機に非常に冷たく微笑んだ。

「動く指は書く」と彼は言った、「そして、書くことで、先に進む」。非常にゆっくりと、彼はレシーバーをクレードルまで下げました。そこに座って、最近の会話に満足して心を動かし、片方の小さな手をあごに当て、かっこいい体をリラックスさせました。念のために、彼はすぐにニューヨークに旅行したほうがいいかもしれません。彼の小さな黒い目は、なじみのあるホールをぼんやりとさまよって、エスメレルダを初めて見たとき、家の後ろからドアのそばに立って、手を押し合わせ、体が何とか身を寄せ合って、しわを狭めました。

「エスメレルダ！あなたは私を驚かせました。」

彼女は何も言わず、ただ彼を見続けた。

「何か問題がありますか？」彼は尋ねた。「セオドアに何かが起こった、または...」

「ああ、パブロ」彼女は泣かないようにそっと言った。

「ああ、パブロおじさん、あなたのオーラ。なに、パブロ？あなたが電話している間、それはそのような暗闇でいっぱいでした。」彼女はあきらめ、握りしめた手に向かって泣き始め、彼に向かって歩きました。彼女は急いで言った、「私はそれを理解していません。あなたが私を見たとき、それは変わりました、そしてそれからそれはとても速く戻りました。それは今、いつものように大丈夫です。ああ、パブロ！どうすればそれを手に入れることができますか？」

彼女は今近くにおいて、パブロは立ち上がってぎこちなく彼女を彼に押し付け、ベストに対して彼女を泣かせました。目はもはやしわになりませんでしたが、彼の姪への愛情で、彼らの黒さはこれまでにないほど柔らかくなりました。

「私の愛する人、この世界には良いものと悪いものの両方がたくさんあり、私たち一人一人がそれぞれ少しずつ持っています。あなたは私にこれを発見しました、そして私は申し訳ありません。しかし、これは私たちが住んでいる世界であり、あなたはその両側に直面しなければなりません。あなたがこれを見て大変申し訳ありません。私は長い間あなたから多くの醜いものを遠ざけてきました、そしてこの醜さはあなたに最も近いものです。しかし、あなたの古き良きパブロはまだここにおいて、まだ本物です。」

エスメレルダは彼の肩に向かって叫びました、そして、パブロは彼女が叫び声を上げている間、待っていることがあることに気づいて、話すのをやめました。女性、彼は愛情を込めて考えました。彼は沈黙の中で軽くたたきました、彼のベストは正面全体でかなり飽和状態になり、彼の腕は眼についた。

最後に、エスメレルダはピンクの顔を肩から上げました。

「大丈夫、それはそこにある、このすべての否定性」と彼女は言った、「そして世界で最も安全な男である私の叔父もそれを持っています、しかし私がそれに直面しても私は得られませんに慣れている。あなたは私を闇に直面させることができますが、闇が存在するという理由だけで私を光から遠ざけることはできません。パブロ、私はそれと同じくらいタフです。私はそれに直面し、それを理解し、それが何であるかを見ることができます。」

「そしてそれは何ですか？」

「分離」とエスメレルダは言った。

「誰かがすべての人を忘れて、自分の宇宙と自分の理由を作り始めたとき。人が親切であることから身を隠し、人を傷つけるルールを作り上げる時。人々が怖がり、創造物から逃げる時。あなたは私にそれを見せろ、あなたの中にそれを見せてもらうことができますが、それでも私には光からの分離のように見えます。そして、私は光を持って立っています。」

パブロの声は穏やかでした。

「そして、なぜあなたは分離を強耐するのですか、いや子？光と闇は一つです。同じ創造物の2つの顔、わずかに異なるだけ。私の子供である二人の間の隔たりはとても広いと思いますが、それでもあなたの知性だけが違いを大きく見つけることができ、あなたの知性は役に立たないのです。それはあなたがあなたからボギーマンを置くようにするだけなので、あなたはそれについて考える必要はありません。しかし、悪は善と同じくらい立派です、

親愛なる君へ。浅くならないでください。悪はあなたの周りにあり、善よりもはるかに悪であり、あなたはそれを軽蔑すべきではありません。」

その時、彼は彼女を見て、その表情を見て、途中で講義をやめました。

「ああ、エスメレルダ、許してください。ごめんなさい。ポジティブなものはすべてネガティブにもなり得ることをあなたに見てもらいたかっただけです。

2つの間にわずかな違いしかないこと。私の子供、あなたは私にそれを許してくれますか？」

彼女は彼を見て、混話と嫌悪感がより静かな感情に溶け込んだ。サンタクローズの笑顔は、彼女がよく呼んでいたように、再びそこにあり、彼女が何年も見ていたように、彼のオーラは穏やかで澄んでいました。それでも、数分前、彼は彼女の意識、暗く邪悪なオーラに対して失礼で醜い侮辱をしていた。これを理解するためには、かなりの瞑想が必要でした。

パプロはまだ彼女が何かを言うのを待っていました。彼女は心を振り返し、話の糸を見つけました。

「大丈夫です、パプロおじさん。私は学ぶためにここにいるだけです。ずっと前に会ったらしいのと思っていたので、それと一体になろうと試み始めたのではないのでしょうか。私が学ぶことがたくさんあることを知ったとき、どうして私に自分自身をそんなに確言させることができますか？」

彼女は怒っているようには聞こえず、イライラしていませんでした。パプロは彼女を注意深く見ました。彼女は首を横に振った。

「いいえ、私は再び泣く準備ができていません。これで完了です。しかし、私に話してください。何があなたをこの否定性へ引き付けますか？それは本当に私を混話させるものでなければなりません。まったく引張られているとは思いません。」

「私の子供よ、片付けるには多くの混話があります。あなたによって、私によって、私たち全員によって。どうして私が意識的にネガティブに惹かれていると思いますか？」

おそらくそれは単に私の中にチャンネルを見つけるだけです。あなたはそれを悪く名付けましたが、それでも、二重に分極化された宇宙では、それは単なる極ではありませんか？なぜ一方の極がもう一方の極よりも優れている必要があるのですか？あなたは私の二元性に反発しました。それでも、二重の世界では、なぜ二重になりませんか？」

「わかった、パプロ。私はやがて理解するでしょう、そしてその間あなたはまだパプロおじさんです、そして私はあなたを大切にします。何もそれを変えることはできません。しかし、これはすべて非常に突然です。私はあなたが1つのことだと思っていましたが、今では、ジキル博士とハイド氏のように、あなたは2人だと思っています。確かでしたが、今はまったくわかりません。あなたとジョシユアが私にすべてを教えてくれたと思いました。

今、私は別の方法で知っています。」

「私の子供、私の子供」とパプロは薄暗いホールに立って、彼がこのレッスンを始めたことがないことを望み、それをやりたいと思って言った、今それは始まった。

「私はあなたに何も教えていません。私は何も知りません。」

「じゃあ、パプロ、どこへ行くの？」

パブロは彼らを隔てる一步を踏み出し、彼女の頭を再び彼のところに連れて行った。「私の子よ、あなたの足をしっかりとした地面に戻してください。私たちはどこにも行きません。私たち全員が学ぶことはたくさんあります。あなたはこれを学びます、そしてあなたがそれを知っているとき、あなたはあなたが以前いた場所にいるでしょう：知恵を持っているが、何も知らないのです。私たちは何も知ることができないからです。これは知恵を許す環境ではありません。私たちは単に行動しなければなりません。私は正しくないのですか？」彼は彼女に微笑んで、姪に対する彼の特徴のない鈍さを恥づかしく思った。

「そうだと思います、パブロおじさん。」エスメレルダは彼に微笑んだ。彼女の顔は再び澄んだ。

「そして、行動について言えば、私たちはジョー シュの予定ですよ？テッドの準備ができました。準備できました。」

「私も準備ができています」とドクターは言いました。"しましようか?"

彼女は彼の腕を取り、彼らはメルセデスのそばで彼らを待ってセオドアに出て行った。

第四章

エスメレルダの予測に忠実に、セオドアとジョ シュアスターの会談は、セオドアが農場に来てからわずか1週間後に行われました。ジョ シュアは、セオドアが彼らの計画された実験で欠けているリンクであることをすぐに見て、儀式に向けた訓練は順調に進んだ。セオドアは、10日間の準備に、これまでの人生でこれまで以上に一生懸命働いていました。もちろん、彼は前向きな方向への強い可能性があり、ジョ シュアのレッスンは彼とうまく調和していました。彼は暫定的に魔法の分野を学び始めました。瞑想は非常に感性的な力を要しました。なぜなら、肉体的な自己は瞑想的な生活に適合していないからです。これらの分野が要求する集中力は、セオドアを精神的および感性的に汚染したと感じさせました。彼はしばしば、自分にはこれに対する適性があるのではないかと疑っていました。

しかし、彼が思っていたよりも日々の過ごし方が良かった。彼は儀式魔法の成功にとって非常に重要な彼の魔法の性格に自信を持っていませんでしたが、彼の非常に前向きな方向性の軽い体を送ることができるように、セオドア・ベールの日常の性格の彼の心をクリアすることができましたエスメレルダとジョ シュアの助けを借りて。彼は自分が何をしているのか全くわかりませんでした。そのためには何卒もの見習いが必要です。

しかし、彼らが必要としていたものが開発されました。セオドアは儀式に二次的な役割を果たすことができました。彼の先生は彼とても満足していた。

彼らはこの実験の準備にセオドアよりはるかに多くの時間を費やしていました。彼らの魔法の個性は何年もわたって作られてきました。ジョ シュアはエスメレルダが生まれる前から白魔法を実践していた。彼の子供時代はイギリスで過ごしていました、そしてそこでの魔法師は男の子に導きました。彼は10歳のときに見習いに連れて行っていました。ジョ シュアは思考の世界の領域内で毎日働き、ゆっくりとした確言を持って精神内力の力に対する適切な感性的バイアスを獲得し、善への意志を発達させました。彼の先生と彼の先生の先生がそうであったように、彼はエイリアンでした。彼は、初期の男性時代に米国に来たとき、西側世界で白魔法の仲間がいなくなるまで進歩していました。彼はエイリアンだったので、セオドアや他の同種の人々と彼の違いの孤虫を分かち合った。より高度に進化した実体の1つの意識は、花粉のように宇宙全体に漂います。ほとんどが故郷の近くに播種されています。長い旅に迷う人はごくわずかで、自分たちの太陽ではなく太陽によって暖められるようになります。ジョ シュアがパブロ・パデエフスキーの小さな姪と会ったとき、10年前、彼は彼女の中に仲間の放浪者を認識していました。パデエフスキーは子供を連れて行き、彼女を愛するように成長しました

彼女は父親と母親を失ったからです。彼女がこの惑星で孤児になったので、ジョ シュアは彼女を愛していました。

エスメレルダは9歳でジョ シュアの見習いになりました。何年もわたって、彼女は、ジョ シュアの魔術師の役割における柔軟性に到達し、それを通過するまで、穏やかな方法で真の魔法の性格をますます引き受けてきました。彼女の規律は、彼女の女性のしなやかな自己の内側のひだの中に隠されていたため、非常に強烈であり、ジョ シュアが彼の前の教師よりも熟練したように、彼女はオカルト操作の分野で彼女の教師の成功を追い抜くことができました。

エスメレルダの成功はジョ シュアを大いに喜ばせました。彼女が生み出したポジティブへの偏見が彼の意識を光で満たし、彼は彼女の力が地球上の白い魔術師の小さなコミュニティと彼らの全体的な極性に追加されたと感じました。

エスメレルダは何年もわたって成長するにつれて、彼女が住んでいた世界のより微妙な感性的な現実について多くの理解を深め、彼女の知恵は彼女の年代順の年齢よりはるかに大きかった。彼女は、自分の美しさを無駄にしたり、それによって他の人に影響を与えたいと思ったりしたかもしれない同年代の他の人との接触から身を遠ざけていました。彼女の最も強い肉体的欲求は、叔父の農場の田舎の満足の中で静かに暮らすことでした。彼女は、毎日の家政と週2回の屋外の男性の助けを借りて、家とその周辺の世話を監督し、自分で読書と勉強をし、毎日の瞑想の時間一人で、そしてジョ シュアと一緒に寺院で過ごしました。彼女は今19歳になり、成長しましたが、ジョ シュアはまだ見習いの観点から彼女のことを考えていました。そして、エスメレルダは、ジョ シュアが今や自分と同等であることをはっきりと見た場合に対処しなければならない困難を見て、支援または強化の役割を続けることに満足していました。彼女は彼が彼の孤独に対して閉めたドアを見た。彼女は、ジョ シュアが彼女の新しい女性らしさの暖かさで慰めを得ることができるかもしれない瞬間を見ていました。

したがって、彼女は彼にまだ子供として彼女を考えさせることに満足していました。そして彼女は彼を子供としても扱い、彼を大切に、彼をユーモアを交え、彼の儀式の仕事で彼をサポートする能力に満足し、彼が儀式の言葉を話すときに彼女の意志を彼に貸し、彼の形の光をエッチングしました空気。

ジョ シュアが不完全な魔法の実材だったわけではありません。何年もの間、彼が住んでいた文化の愚かさに容易に耐えることができない人に彼らの犠牲を払っていました。彼の社会的人格は幾分悪化していた。彼は人々に正気を期待するつもりはなく、外の世界に開かれているという芸術をほとんど失っていました。彼はエスメレルダをはっきりと見ることはできませんでした

彼の日々の思考の限界が高まっているためです。彼に失われた物理的な世界の他の詳細がありました。

しかし、これは決して彼の魔法の性格を妨げるものではありませんでした。繰り返しの召喚がそれをますます実質的に貸したので、それは強いまでした。確かに、それは今では非常に確立されており、ジョ シュアは普通の人々が服を着るのにかかるわずかな意志でそれに滑り込むことができました。

ジョ シュアとエスメレルダは長い間一緒に働いていました、そして彼らが力を増すにつれて、彼らはジョ シュアが実験的な魔法と呼んだもののランクに卒業しました。彼らは両方ともエイリアンだったので、彼らはしばしば彼らの意識を精神面を越えて送り、彼らの欲求により積極的に近い惑星を探していました。彼らはそのような惑星を発見し、それを研究している間に、空間と時間の次元を超越した可能性を発見しました。この惑星から地球への心の部分的な移動がありました。移された2つのマインドセグメントの1つは、現在Esmerelda

Sweetwaterとして知られていることでした。彼女の検索では、Esmereldaは彼女の故郷で起っていました。もう一方のマインドセグメントはセオドアベアと呼ばれる個人であると今では決定されていました。

この発見は、来るべき儀式に至るまでのすべての計画の基礎でした。彼らは何年もわたって実験の要素を注意深く集めてきました。セオドアを見つけることが最後の要件でした、そして行動の時は今ここにありました。儀式はもうすぐ実現しました。

式典はとても重要だったので、浄化の準備はいつもより慎重でした。彼らの姉妹惑星からの人々の到来のためのオカルトの準備は、彼らが光の惑星に残されていた彼らの対応者、彼らのより高い自分と呼ぶことを望んでいた寺院からすべての否定性を一掃することを含みました。

彼らはこれまで何度もこの浄化の儀式を行っていました。しかし、これまで彼らにとってそれほど重要だったことはありませんでした。今回は、彼らは単に魔法の場所を一掃するだけでなく、この場所とその周辺の純度をはるかに純粋な惑星のレベルに引き上げようとしていたからです。彼らはこれに成功することを非常に望んでいました。なぜなら、彼らのカウンターパートの実際の着陸は、彼らが長い間信仰を持って働いてきたことを実際に多く約束しているようだったからです。したがって、過去7日間、4人全員が断食していました。ジョ シュアとパブロにとって、これを達成するのは最も困難でした。エスメレルダとセオドアはとにかく無頓着でした。彼らの好色な傾向は、同じ期間、萎縮するままでした。今回は、エスメレルダとジョ シュアが儀式の代わりに一緒に働き、儀式が来るために彼らの意識を一緒に準備しました。沈黙の中で

反射して、ジョ シュアは彼の意識を光の中に送り、エスメレルダは彼女をそれに向けて送り、ますます容易にそれを見つけて完全に一つになりました。ほぼ完全に平凡な日々でしたが、後にジョ シュアはこの準備期間をとても幸せに振り返りました。

11日目は式典の日でした。朝、パデエフスキー派がジョ シュアの家こやって来て、グループは正午まで座っておしゃべりをしました。午後の早い時間に、彼らは皆、しばらく一緒に黙って座っていました。なぜなら、ドクターとベアは二次的なメンバーとして儀式の範囲内にいるはずだったからです。午後の時間が経過すると、エスメレルダとジョ シュアは他の2人から離れ、それぞれ一人で最終的な準備に取り掛かりました。

ジョ シュアとエスメレルダが、ジョ シュアのヨーロッパ式庭園の真ん中に、小さくて静かに見える5面の建物のドアを開けたとき、それは夕暮れでした。しかし、この建物は、星空の下で夏の夜を過ごすことよりも目的が多かった。それはジョ シュアによって建てられました。彼はずっと前にすべての釘を置き、すべての石を置いていました。これはその男にはほとんど特徴がありませんでした。ジョ シュアは、野生のロングホーンをローピングするオープンレンジで毎日過ごしているように見えました。実際には、彼の気質にもかかわらず、彼の気質の強さは常に維持されていました。彼は必要のない肉体的な仕事をしたことは一度もない。

しかし、彼がその建築者であることが非常に必要だったので、彼は彼の庭の部屋を建てました。それは彼の魔法の個性のために設けられた魔法の部屋であり、建物の護符が彼の仕事であるという強さはかなりのものだったからです。そして10年間、彼とエスメレルダはここで彼らの儀式の仕事を研究し、行いました。ここに、永遠の力のチャネルの形があり、それらの呼び出しの長く絶え間ない繰り返しを通して、ほとんど独立した生活に強化されています。これは、ジョ シュアとエスメレルダがこの中心的な儀式を始める前に、すでに光の場所であり、癒しと全体性の精神が宿り、2人の魔術師の意識と一緒にあって、すべてである人。

ジョ シュアは金色のローブを着て部屋に入り、祭壇、部屋の真ん中にあるテーブルの幅の2倍の長さで、金色の布、ろうそく、開いた聖書で覆われていました。

エスメレルダも祭壇に向かって移動し、立ち止まってパブロとセオドアに彼女の方に来るように手招きしました。

彼女は彼らを祭壇から4歩離れた小さな部屋に2歩止め、祭壇の側面と一列に並べました。ジョ シュアは立っていた

動かず、部屋の東側のドアに面して、彼の手は祈りの姿勢で彼の胸を支えました。エスメレルダはパデエフスキーの手に触れ、次にテッドの手に触れて同じ姿勢でそれらを形成しました。

セオドアが心を落ち着かせようとした一時停止があり、パプロはすでに心を落ち着かせ、反省し、子供の頃に連れて行かれた教会の考えを解放しました。彼は二度と祈りの中で手を握りしめたとは思っていませんでした。アーメン、彼は思った。だからそれでいい。儀式は儀式であり、同じシンボルのいくつかを使用するのに役立つとは思いません。エスメレルダは、ジョ シュアと同じように金で身を包み、非常に複雑で複雑に彫られたデザインの十字架を胸につけ、部屋の周りをゆっくりと歩きながら反時計回りに歩き、ジョ シュアに立ち寄った。彼らは立っていて、肩に触れ、目を鮮やかにほつきりと開いていました。「私たちは準備ができています」とエスメレルダは言いました。

権力と権威を持って鳴り響く ジョ シュアの声は、「シエメシュ」という言葉を発音しました。寺院を通して振動する音とエスメレルダとジョ シュアはそれを彼らの目で見るようで、それが反響するのを見て、彼らの視線の前に明るい場所があるように見えるまで、彼らの意志の力で静止した空気の中でその音を強めましたそれは雲をふるいにかけた日光の効果できらめきました。形はありませんが、手に負えない人生に満ちています。

エスメレルダはジョ シュアの方に顔を上げ、彼女の目は少しの間閉じ、まるで黙忍しているかのようにスキミングを閉じた。彼は頭を少し彼女に向けて曲げ、彼らはテーブルの後ろで互いに近づいた。

一時停止がありましたが、マントルのように彼らの触れる肩に沈黙が落ち着いたようでした。それから、沈黙から、そしてその保護の継ぎとして、ジョ シュアは「ティファレス」という言葉を発音しました。繰り返になりますが、彼の声は、通常のバリトンを話す声とはまったく異なり、音色で振動しているように見えました。静かに見えたが、大量のノイズを聞いたときに耳に届く 静かな音で、実際に知覚する音量を区別できなくなりました。再び、2組の魔術師の目は、驚が1マイル下の地面を見るのと同じくらい注意深く その空を見て、彼らの前の大気を見つめました。地上の自然の獲物はここで待っていませんでした。彼らはこの惑星を保護する人、太陽の光を放つ光線であり、ここでその名前が呼ばれている人の祝福だけを待っていました。

一時停止は、集中の時間は短いと同じくらい短く、希望の時間はいつでも短いのです。そして、エスメレルダとジョ シュアの前で踊っていたように見える影の日光のモードが明るくなり、ほんの一瞬、両方に炎があったように見えました。

寺院全体の燃える光。パブロとセオドアは彼らと一緒に部屋の明白な光に恐れて近くに立っていましたが、この祝福を呼び起こした彼らがそれを受け入れて吸収したので、光はほとんどエスメレルダとジョ シュアの一部になっているようでした。

今こそ儀式そのもの、彼らの場所の浄化の時であり、それは光の惑星との接触を成功させるために必要な前置きでした。エスメレルダが再び、そしてより明らかにジョ シュアの助手になったとき、2人の魔術師の間にはほとんど気付かれないほどの分離の動きがありました。彼は非常にゆっくりと、眉、胸、肩に十字架の印を付けました。十字架の各ポイントで、彼は「アテ、マルクス、ヴェ・ゲブラ、ヴェ・ゲドゥラ」という言葉を詠いました。

「ル・オラム・アーメン」と胸に手を組むと、十字架の跡として二人の炎が輝き始めたようです。ジョ シュアは、十字架の上部に頂点があり、その5つの側面が星のように重なっている5面の図を空中に描いたときに、この光をさらに引き出しました。星が描かれ、十字架の光で輝き始めた後、ジョ シュアは胸の前で素早く短く刺すような動きで手を動かし、「Yod-Heh-Vau-Heh」という名前を言いました。

エスメレルダを横にした目は、目の前の形に完全に集中し、ジョ シュは東から南、西北、そして再び東向きを変え、各方向に五芒星を作り、詠いました。儀式の言葉。彼は南で「Ah-Doh-Ni」、西で「Eh-He-Heh」、北で「Ah-Gla」と話しました。言葉は彼が描いた形を輝かしい空気の中に浮かび上がらせ、彼とエスメレルダは彼らの回転の終わりに、セオドアとパブロからそれらをほとんど隠した光の形で囲まれました。白い右の柵が数分間彼らの前で揺らめき、ジョ シュアはゆっくりと腕を上げて体の大きな十字架を作り、エスメレルダは目を閉じて立って、あごを持ち上げ、腕を両脇に置き、すべての意志を彼に貸した。

それからジョ シュアはもう一度詠いました、彼の声はまだジョ シュアを魔術師とマークしたその膨満感で振動しています。

「私の前に、ラファエル。私の後ろに、ガブリエル。私の右手には、マイケル。私の左手には、ウリエル」と彼は言った。そして、ウォッチャーは、光が色と実体のきらめきにバーストするのを見ました：黄色、青、赤、緑、そしてそれらの色のすべての補色と低音、4つの方向のそれぞれに1つずつ。穏やかな空気その風、水を通る光の柔らかな輝き、鋼鉄の硬い光沢、熟した小麦の香り、そして香りのよい干し草がありました。見守っていた二人は目を隠したかったのですが、手を上げたり目を閉じたりする意志は彼らの命令ではありませんでした。それは儀式の力に巻き込まれ、二人の白人の魔術師によって何度も実践されたからです。彼らの前に、しかしそのような目に見える強さで決して達成されませんでした。今だけ意志をしました

これらの儀式を実践している2人のうち、完全に一致します。仕事が完全に終わったのは今だけです。そして、ついに二人の力がその使用の完成に達したとき、ジョ シュアは準備の儀式を終わらせた言葉を話しました：

「私の周りでは五芒星を炎上させ、私の上には六つの光線の星が輝いています。」
準備の儀式は終わりました。召喚の時が来ました。エスメレルダはセオドアに向かって4歩歩き、彼を手に取り、ジョ シュアの真正面、彼と祭壇の間に彼を置きました。彼は手をつないで立ち、目を閉じて集中し、姿勢をまっすぐにして、ジョ シュアにすべての意志を貸しました。長い間、完全な沈黙がありました。彼らは空中で建物の張りを感じることができました。その後、色とりどりの光が再び白くなり、2つの中心が白くなり始め、すべての光が2つの形に組み込まれるまで光を成り立たせました。エスメレルダとセオドアの、そして彼らから彼らの頭の上の空中に続き、小さな寺院の天井を通過して消えました。

"来られますか?" ジョ シュアは尋ねました。

「私たちは来て、奉仕します」と彼らは答えました。

これらの言葉が聞こえなくなると、形は見えなくなり、魔法のように帯電した光を取り込んで、室内の雰囲気は静かな日常の空気の正常な状態に戻りました。儀式は終わり、成功しました。

その公演の4人のメンバーはかき混ぜられ、黙って寺院のドアまで歩き始めました。待機は終わり、行動が始まりました。それで、パデエフスキーとセオドアを考え、エスメレルダを考え、ジョ シュアを詳しく調べました。彼は勝利の瞬間に実際に共有していなかった、と彼女は思った。彼はどのようなわけか離れていた。彼女は彼が彼女の目を感じるまで彼を見つめ、視線を戻した。彼の目の上にボールが描かれていました。彼女は今のところ彼を彼自身に任せなければならないでしょう。口に出さない考えのこの交際が全く気づかなかった他の2人に続いて、彼女はジョ シュの家に向かって急いで行きました。しかし、急いでいると、影が頭に浮かぶのを感じました。何かが本来あるべき姿ではなかったのです。ジョ シュアの視線は説明のつかない、しかし非常に現実的な問題を抱えていたからです。彼がそれについて話す準備ができるまで待つ必要があるでしょう。エスメレルダは精神的な肩をすくめ、ジョ シュを独り占めました。

ジョ シュアは悩みを抱えて神殿の中にとどまっていた。彼の目は彼らのボールを持ち上げ、彼は小さな部屋の床に座った、

彼は静かに勉強している間、しばしば座っていたので、ドアに面して、祭壇に背を向けていました。彼が座っていると、彼は彼の前を見て、すぐにある種の光が彼の前で固まり始めました。儀式の間に現れた2つの若くしてスリムな形は異なり、この形は知恵と時代をイメージしていました。あごひげを生やした顔、白亜の石から切り取られたように見える特徴と骨、長いローブのように白い。セージの長い髪は、床に頭を下げたジョシュアの姿を見下ろすと、肩に動き、次のように話しました。

「私の息子よ、立ち上がって、落ち着いてください。あなたが電話したので、私は来ますが、あなたが求める答えをあなたにもたらさないためです。これらの答えは、この惑星のオーラの領域内にありません。あなたは今夜、この惑星の表面ではほとんどやろうとしないことをしました。あなたは、この惑星で考えられるよりもはるかに善に偏っている、あなたの数の2つの別の惑星の対応物の光から召喚しました。あなたは私たち全員の純粋さと黒さから、この惑星で私たちの内に住んでいないが、それでも私たちの全体の中に住んでいる純粋さを召喚しました。あなたはすべてである人の一部として行動しました、そしてあなたはあなたの自由意志を使ってあなたが最もよく考えるように行動しました。これはあなたの特権であり、あなたが光に向かってあまり強く分極していなかったら、あなたはこの行為をすることができなかっただろうとあなたに言います。光を見つけるのはあなたの選択でした、そしてそれをここに持つのはあなたの選択でした。教育分野の私たちは、いかなる行為に対してもあなたに指示することができませんでした。私たちはあなたの考えとあなたの意図に関してのみ提案をすることができました。そのような考え方は私たちの知識と理解を超えているため、この行為は私たちによって承認または不承認のいずれにもなりません。私はあなたに、無限の者の平和と愛についてのみ話すことができます。それは、彼に仕えるためのあなたの努力において常にあなたと共にあるでしょう。私はあなたを彼の愛と彼の光の中に置き去りにします。さようなら、私の兄弟。さようなら。」

ジョシュアがそれを見つめると、先生のイメージは完全に消えるまで消えていきました。夜の闇が庭にやって来て、ジョシュアはまだ影を落とした形で祭壇に座りました。彼の個人的な考えが彼を彼の先生に連れて来たので、彼の目は閉じて、何分間も開いたままで、一度だけ開いた。そして、怒りの短い表現が彼の顔を横切った。彼の目はちらちらと開いた。

それから彼の目は再び閉じました、そして彼はまだ、ジョシュア・スター、精力的で確かな足の男であったその地上の本質から彼の肉体の群がった形の中で失われ、儀式の強力で賢明な魔術師から等しく失われました。彼のしゃがんだ体の中の空間は広大で空っぽになり、その中には小さく孤独に座っていた、個性やパターンのないジョシュアである3番目のジョシュアがいました。その本質はこの地球のものであったが、それでも

その刺激のどれも、木は実体であり、実体はついにジョ シュアを起して彼を外に連れ出し、彼の庭の暗闇の中に立っていたので、それは単なる実体であり、それ以上のものではありませんでした。彼は時間の感覚を失ったようだった。彼は立って、木々、それらを養う地面、それらをかき混ぜる空気と混ざり合っただけでした。そして彼が立っているとき、彼は彼の内にあり、彼のいない暗闇の無限大に話しかけました。彼の創造主はいたるところにいて、彼は自分の考えを自分自身に話しました。なぜなら、彼の最大の疑念の時に、ジョ シュアにはこの聴衆以外に話す人がいなかったからです。彼の友人たちは、彼から離れたところにある家の丘を登っていました。彼は彼らに加わることができず、彼をこの疑惑の時代に連れて行ったヨ シュアは彼らに彼に加わるように頼む能力を失っていました。それでも、この夜の孤独の中で、彼は彼についてのすべての創造物の豊富さの継承として立っていました、そして彼は彼の考えを話すことができました。そして彼は心を開いて話しました。

「千の砂漠の変化する砂から、惑星の表面の変化する輪郭が出てきます。山々はしばらくの間立っていて、私たちの目には強くて変わらない。砂が来て、山はゆっくりとなくなります。人々はあるかに永続的ではありません。山は肉だけであり、侵食された要素は砂のかみ傷のように過酷である必要はありません。そして、人々の考えは人々よりも永続的ではありません。それらの形は人間の目にはわかりません。なぜなら、それらを構成する素材は繊細すぎて見るのができないからです。それは夢の媒体であり、その質感は空気のように薄くてゆるいのです。

「そして私はこの生きている惑星の上に立っています、そしてそれは夜なので息を吸います。明日はその日の魅力に変わり、太陽の光を吐き出します。そのリズムは、惑星が一度呼吸する前に千回呼吸する男性の速い呼吸と比較して長いのです。そして、この脈動する人類の中の世界、思考の世界は、肺や大気の呼吸よりも1000倍速く呼吸します。それは、番号のないテーマやバリエーションで考え、考え、各思考の間で長く、長い間一時停止します。それぞれの思考によって創造物がより豊かになり、太陽や暗闇に向きを変えて、再び考えるためのインスピレーションを得るのを一時停止する必要があります。

「そして、男性は別々に動くことも、別々に考えることもありません。一人の男の思考の雰囲気は他の雰囲気や他の思考に触れ、それらの相互作用が創造の一部になります。その性質は言語と知性を1000倍超えているので、世界と世界の出会いは私たちによってぼんやりとしか認識されません。それでも、思考、そして思考の統合は強力であり、宇宙を動かします。

「そして、この考えの組み合わせにおいて、責任はどこにあるのでしょうか？」ジョ シュアは目を閉じて夜空こさらに高く 向けました。

「私たちが今日一緒にしたこのことの責任者は誰ですか。

「実際、私の意志が主導的なものだったという点で、私はこれから起こることすべてに責任を負いませんか？私がこのことをした今、私は彼らの生活のどのような変化に責任がありませんか？

「それでも、私は良いことしか試みませんでした。しかし、試みは何が良いのでしょうか？私たちは何をすることができますか、私たちは無価値なツールしか使用できない知性の生き物ですか？この知性を利用することで、私はどのような結論に達しましたか？「しかし、私が行動するために現実の世界に配置されなかったのなら、なぜ私はここに配置されたのですか？行動を起こさなければ、物理的な環境は役に立ちません。そして、すべての行動はどのようなわけか私たちの意識の産物であり、私たちにできることは、私たちができる限りその意識を私たちの目標に向けることです。化学体を吸収し、この惑星の表面に直立することを学んだ、意識と呼ばれるエネルギーと 偏見以外の私は何ですか？

「そして、私自身であるこのエネルギーは、良い側または悪い側のどちらかに向かって分極化するように、私の行動のそれぞれとともに動きます。それぞれの行動で、私は中心から光の統一または暗闇の分離に向かって移動しますが、それでも、いつ、どこまで、またはどの方向に移動したかをどのように知ることができますか？私にはこの知性はありません、このばかげた心のゲームプレイヤー。

「しかし、エスメルダと私は、この飛行機で、そしてこれらのツールを使ってさえ、とにかく 学ぶことをとても長くそしてとても一生懸命に試みました。そして私たちの力で、私たちはこの惑星をその正の光の極に向けるようにこのように行動することに決めました。

「そして、なぜ、その前に部外者をここに連れてくるのが自由意志であるその善を侵害することであると私を襲わなかったのですか？誰かに何かをさせたり考えさせたりするのは良いことなのか悪いことなのか。そして、私たちが真に前向きな存在、統一の惑星の純粋な産物の光に直面した場合、私たちがこの惑星の悪を破壊するのは力ではありませんか？どんな悪もそれを無視できますか？求めない人は見つけるのを避けることができますか？

「ああ」とジョ シュアは言いました。「私たちが善のために意図したことは、この誤りによって善を打ち消し、平和の代わりに混乱をもたらすのに十分な悪である可能性があることは間違いありません。

「しかし、おそらく私の知性は、混乱の中でこれらの考えを生み出しているだけです。おそらく 重要なのは、私がすべての人と行動したということです

すべての人に代わって私の力。これは彼への私の贈り物であり、彼である創造物への私の贈り物です。

「しかし、私の知恵についてはわかりません。私は生きてきて行動しましたが、私が見たり行ったりしたことすべてを理解することはできません。

「それでも私はあなたに平和を願っています、私の惑星、今のところ私はあなたの子供であり、あなたの前で謙虚です。

平和、最愛の惑星、平和、平和はあなたと共にあり、父の創造です。」

それから、彼の体の強さに見知らぬ人であったジョシュアは、その休暇を取り始めました。彼の日常の自己は彼の地上のフレームを満たし始め、丘の上の家に向かうことができ、ジョシュアは、彼の最愛の友人を中に入れて、家に向かって歩き始めました。アイデンティティの欠如、創造物の一体性、彼が想定していた彼の意識。

彼が一人で困惑していたことは、彼の心から落とすことはできませんでした。なぜなら、彼は人間であり、知性の生き物であり、疑いは肩をすくめられるべきではなかったからです。しかし、彼はそれを自分の中に片付け、その存在の重荷を自分の重荷として取りました。彼は庭の暗い小道から向きを変えて歩き、頭を下げて登り、丘を登って待っている家に行きました。

ジョシュアと彼を待っていた3人との絆は強く微妙でした。彼とパブロ・パデエフスキーの間には本当の親和性がありました。どちらも冷酷な男だった。パデエフスキーは繊細さの欠如のために冷酷であり、彼の途方もない知性、等量に集中する能力を使用して、率直な信仰と探求を通してゆっくりと賢明に成長しました。ジョシュアはゆっくりと冷酷になり、終わりのない自然の繊細さのために、そしてますます痛みを伴うユーモアのセンスのために、彼が笑うまで、まるで泣いたかのようにでした、そして彼は笑うことと泣くことの両方をやめました。

彼の知恵はこの痛みとその終焉に基づいて構築されました。なぜなら、それは常に微妙な人のための知恵への道だからです。彼は彼の痛みの産物として外見上は相性が良く、単純で成功し、そして彼は痛みが触れることができないという彼の思考の唯一の部分である希望の能力の産物として白魔術を研究しました。男ジョシュアは、成功の装身具を楽しむことを決心し、マスメディアで働くことを決心しました。非常に多くの人々の愚かさを理解しているなら、成功するためのより良い場所は何ですか？

ジョシュアは、テレビの脚本家および個性として、彼が触れたすべてのプロジェクトを純金に変えるという評判を持っていました。彼の優れた直感的な心は、聴衆の心を操作するのに問題はありませんでした。

そして彼とパブロは彼らの成功と成功への意志、彼らの冷酷さと彼らの心の能力を共有しました。この組み合わせは友情にとって良いものでした。どちらにも他の親しい友人はいませんでした。パブロにはありませんでした。

他の友達、ジョ シュアには、自分が自分の気持ちに返礼しなかったことを知らずに、自分たちを友達だと思っている知人がたくさんいました。ジョ シュアを待っている小グループ以外の誰か、彼の最初の個性の殻、見栄えの良い、磁気的なジョ シュアを乗り越えて彼の何かを理解しました。パブロだけがその気の合う性格の下で冷静な静けさを感じました、そしてジョ シュアはそれに応じて他の男性の周りよりパブロの周りでより快適に感じました。ジョ シュアはパブロも理解していました。彼は、ユーモアの欠如に伴う思考の粗さを見て許し、また、その人を動かした知識への渴望を求めているのを見ました。彼らは本当にお互いを好きで、お互いの精神的な雰囲気は非常に組み合わせることができると感じました。

しかし、ジョ シュアを待っていた3人の中で最も強い絆は、パブロとではありませんでした。それはエスメレルダと一緒にでした。エスメレルダはジョ シュアの表情や気分を綿密に読むことができたものの、彼女を理解したり、完全に気づいたりする能力は、彼がまだ彼女を彼が10年前に見習いとして教え始めた9歳。それでも、友情以上のものに彼らの絆を話す時が過ぎ去ったとしても、彼らの関係には、単なる友情の絆以上のものがありました。彼らは男と女であり、彼らの間の感情はその極端に関連していたからです。ジョ シュアに、エスメレルダは彼が望んでいたすべてを代表しました：すべての良い、すべての積極性。エスメレルダは今度は、ジョ シュアが自分の能力を十分に理解しているのを見て、彼の深い自己の大きな悲しみを見て、その悲しみを自分自身のために取りましたが、彼女はそれについて話しませんでした。彼女は彼女への彼の愛も見て、それも大事にしましたが、これも決して話されませんでした、そして沈黙の中で彼女は彼を彼女に精神的に集め、彼女の優しさの薬で彼を慰めました。彼女は彼の世界に対する感情の欠如の本当の荒野を理解していませんでした。彼女は否定的な思考のどの部分も直接理解しておらず、そうだと想像できませんでした。彼女は、パブロの残りの人類に対する同じ冷静な感情の欠如を見逃しました。彼らは彼女がそれを見逃すのを助けたので、彼らの性質の冷たい面は常に彼女から離れていました。これは、これらの3つの精神が楽しんだ非常に現実的な混ざり合いを無効にしませんでした。

4番目のメンバーであるセオドアは、パデエフスキーやジョ シュとほとんど親密ではありませんでした。彼はエスメレルダに最も近かった。彼女は彼の素朴で心のこもった性格を構築するための中心を与えていました。彼は前世で、彼を本当の感情に駆り立てることができるものは何一つありませんでした。エスメレルダは彼をかき混ぜた。何年も結婚している人々が近くにいるので、2人は近くにいました：彼らは一緒に快適になりました、そして彼の世界は

知的な探求と絶え間ない精神的な放浪は、他の人間への強い愛の感情に合うように拡大し、孤独から抜け出しました。彼のそれぞれの考えは、エスメレルダの思考の世界に触れ、仲間を見つけました。これらの人々のように、この惑星で最初に会ったことからではなく、この現在の幻想から遠く離れた多くの、何度も、そして場所で何度も親密になったので、彼らの思考は混ざり合っていました。最後の方法。彼の生涯、セオドアはどんな種類の強さにも全く興味がありませんでした。今、彼は自分の強さを発見しました。エスメレルダは彼を認めるほど彼を愛していませんでした。彼は彼女の一部であり、彼女は彼の一部でした。セオドアはそれを理解し、大事にしていたので、彼女はすでに強いので、彼女の力に対する支持を見つけました。そして、とても理解し、とても注意深く慰めたエスメレルダは、理解され、慰められました。これらの4つが作った思考のウェビングから、それぞれに加えられたそれぞれの思考の強さの合計よりもはるかに大きな力が生まれました。力は彼らの意志の手を上げて感じられるのに十分でした。

ジョシュはいつもの習慣よりもゆっくりとドアを通り抜け、夜のそよ風に逆って慎重に考えながら画面を閉じました。彼は振り返り、エスメレルダは神聖にいたように注意深く見守っていました。何かの間違っていました。今回、ジョシュアは彼女の視線を見るのに十分な外の世界を知っていました。彼はそれを数秒間返し、それから無言でうなずいた。彼女はソファから立ち上がってバーに行きました。

「私はあなたに飲み物を直します、ジョシュ」と彼女は言いました。

「座って、あなたの考えを教えてください。」

「私たちはそれをやったと思います」とジョシュは座ってグラスを受け取って言った。エスメレルダもぼんやりとソファの端に座って、ジョシュに顔を向けました。ジョシュは、いくつかの異なる表情のもつれであり、困惑した眉をひそめ、ジョシュの心配のかけらと争う成功の笑顔でした。

「私たちはここに完全に座ることができず、試してみることもできませんでした、ジョシュ。」

私たちはこれに長い間取り組んできました、そしてセオドアが来たとき...」彼女は途切れました。「それは何ですか？」彼女は言いました。

ジョシュは自分のグラスを見て座って、手でそれをひっくり返しました。

「大丈夫です」と彼は言った。

「彼らがここに来たときに彼らが成功しないのではないかと心配しているのですか？」

「いや、いや。それはまったくそうではありません。」

ジョシュアが自分の周りの心算を閉じて、それ以上語らないことに決めたとき、少しの間沈黙がありました。セオドアは静かに座り、グループの中で最も満足していました。

「どうやって私を本当に知ったの？」彼は尋ねた。

エスメレルダはジョ シュアから注意を引きました。ジョ シュアの心は彼女が「知る限り」まだ混乱していました。

「ええと、テッド、あなたと私が生まれたとき、私たちは特別な理由で生まれました。誰もがそうだと思いますが、私たちの理由はいくつかよりも明白でした。私たちの存在の焦点は、この儀式、その準備、そしてその結果でした。ジョ シュアと私はこれを最初はぼんやりと発見しましたが、私たちがより強力になるにつれて、年を追うごとにますます明確になりました。私たちは儀式に関与する人がいることを発見しました、そしてあなたがパプロに來るとすぐにあなたがその人であることを私たちは知っていました。彼はあなたがそのような天才であること、あなたが提出したその紙、そしてあなたの見た目から推測しましたが、あなたと私が少しの間一緒にいたとすぐに、私は方法のためにはるかに確実に言うことができました私たちの意識は一緒に適合しました。そして、この儀式が私たちをここに呼ぶために時間と空間に響き渡ったように、私たちが瞑想で見た惑星系からの私たちの精神的な対応物と呼びました。物理的な構成ではまったく知られていないように見えるため、非常に遠く離れている必要があります。しかし、重要なことは、これら2つが私たちの対応物であり、同じ意識に参加しているということです。そして、理論は、とにかく、ここでの私たち自身と、完全に創造主の光の中で惑星系からの私たち自身のこの結合を通して、現在の惑星系に存在する否定性をもたらした条件の理解をもたらすかもしれないということです。そして、私たちは、私たちが選んだこの惑星系プラスの影響を与える可能性のある何かをしたり、何かを始めたりできることを望んでいました。私たちは病気にかかっている惑星系に住んでいるからです。

そして、それをうまくやることは幸いなことです。」

「そうです」とパプロは言いました。「そして、ここでは否定性が非常に速く高まっているので、残り時間はあまりありません。そして、それが十分な人々によって、彼らの自由意志によって選ばれると、エスメレルダとジョ シュアは、ここに住む多くの人々の自由意志に干渉せずにできることは何もないと言います。

惑星系をその負の極性に任せなければならないだけです。」

「しかし今のところ、私たちが始めたばかりで、ここにたった2人の人々がいれば、地球の集団的自由意志を侵害することはないと判断しました。」とエスメレルダは言いました。彼女は一時停止し、彼女の目は突然青くなりました。

「ジョ シュア、それがあなたを悩ませているのですか？自由意志がこれらすべてに違反することについて考え直したことがありますか？」

ジョ シュアは、彼女が叱責の1つとして認識した表情を彼女に与えました。

"後で。"彼はセオドアに目を向けた。

「あなたが来てくれてとても嬉しかったです。あなたがいなければ、この儀式が成功する可能性はなかったと思います。

どんなに強力でも、一人は二人の力が足りないのです。姉妹銀河から相手を召喚できるようにするには、ここに対応する二人が必要でした。ここにいるあなたと一緒に、私たちは成功したようです。私たちは希望することしかできません

エスメレルダスイートウォーターのはりつけ

私たちがうまくやったこと。多くの教師が以前にここに物理的にいて、彼らは善のために努力しました、しかしそれでも否定性は繁栄しました。おそらく、この努力も失敗し、この表面にあるものは、創造主の光から他のいくつかの惑星を奪った暗黒の深淵に私たち全員が深く渦巻くまで、ますます悪に近づきます。今でも、あなたがすでにあなたの人生で見て、パブロに話しているように、この惑星には、社会がどんな知恵にも関わっているようなことはほとんど、あるいはまったくありません。私たちが今できることは、この惑星の男性に善と悪の選択を与える一連のイベントを開始することです。そうすることで、彼らは意識の両面、統一と分離の両方を見ることができ、それらの間で自由に選択することができます。」

第5章

MathpartFendlerは猫を見ながら座っていました。猫はMathpartFendlerを見ながら座っていました。

「なぜ猫が私を見ているのだろうか」とMathpartは考えました。猫はまばたきをせずに見つめ返しました。

彼らは長い間お互いを見つめていました、猫とMathpart。彼らは両方とも何もしてませんでした、彼らは働くより座っていることを好みました。彼らはどちらも怠惰で、どちらも栄養価が高く、どちらも非常に単純な思考を与えられていました。彼らには多くの共通点がありました。

しかし、Mathpartは座って、彼が何年も考えていた考えを考えました。それは猫の次の食事時間と関係がありました。

Mathpartはずっと前に、猫が自分で食事をとる必要がないことに気づいていました。実際、猫は一日中座っているか、好きなことをして、食べ物が出てきました。実際、猫は成功した、とMathpartは考えました。猫は物事を望む必要はありませんでした。物事はそれにきました。

そして、なぜ彼、Mathpart、成功しなかったのですか？彼はこれについて考えていました。彼が学校で成功したことがなかったという事実、そして彼が町で仕事を見つけたことがなかったという事実はしばしば見られました、しかしこれらのことはとにかく彼にとって成功を意味しませんでした。彼は食卓に食べ物を保管するのに十分な農産物を相續しており、パデエフスキー博士のための彼の仕事は彼に初歩的な贅沢を与えました。しかし、Mathpartは、これらのことのために、運び、植え付け、世話をし、収穫するために働かなければならなかったと考えました。

猫はMathpartを見ました。

Mathpartは猫を見ました。そしてMathpartは、彼、Mathpartは、権利によって2つの中でより成功すべきであることに気づきました。結局のところ、彼は猫よりも重要ではなかったのですか？彼は、猫よりも男性を支持する評面が聖書のどこかにあることをほぼ確信していました。そしてそれが聖書にあったなら、それは真実でした。それで解決しました。

それでも、Mathpartは、その猫に飽きやっているとしました。

猫は、Mathpartの草の姿が椅子から立ち上がって台所に入ると、見続けました。冷蔵庫のドアが開くと、猫はゆっくりと4フィートを下に置き、ピンクのあくびをして口を大きく伸ばしました。Mathpartがボウルを出し、「キティキティ」と呼んだとき、猫はくつろぎの場所からきちんと足を踏み入れました。そして素直にラップし、飲み物の間に短いゴロゴロという音を発しました。

Mathpartは再び冷蔵庫を開け、オレンジを取り出しました。彼は新鮮なジューシーな作品の味を心から愛していました。それらは彼が自分で育てることができなかった作物であり、彼にとって大きな価値がありました。長い間それは見えていた

もし彼が猫の神であり、猫にミルクのボウルを提供したなら、彼の神は彼にオレンジのボウルを提供するべきであることを彼に明確にした。

この考えを念頭に置いて、彼は揺れる壁の古い家の正面玄関である裏口に行き、首をかき上げてオレンジ色のボウルを探して空を見上げました。これは彼が持っていた儀式です。毎晩長い間演奏しました。

彼は夕日の色をかなり注意深く見ました。今回も空はオレンジを降ろしていませんでした。大きな円卓に腰を下ろし、オレンジをはがし始めたとき、マスパートは首を横に振った。彼にとってオレンジが決してないはずだというのは不公平に思えた。たぶん、たぶん、Mathpartの神は引退したのだろう。または死んでいた。

Mathpartは、まさにその考えに不快感を覚えました。それは冒険でした！それは信仰の欠如でした！

彼は冷蔵庫に戻り、木製のボウルの中のオレンジを見つめました。突然の決意で、彼は再び台所のドアの方を向いた。今回は、彼はもっと難しく見えます。決意が固まり、行動が正確になったと感じたマスパートは、ドアを通り抜けて後ろをかがみ、双眼鏡のように両手を目の周りに持って、夕方の空を左右に掃き始めました。

2回目のスweepで、彼は非常に高い高さにボウルを見つけました。手がない、やや彼の失望に。しかし、少なくとも彼は、彼の知性が彼にいつかそこにいると言ったオレンジのボウルを見つけました。大きなボウルが彼に直接向かってくるように見えたが、それは完全に適切でした。それでも、神の手によって訪れられた興奮が彼の心に浸透し始めました、そして彼がオレンジの供給に会うために走り始めたとき、彼は一気に3つの後退ステップを踏みました。

10歩後、彼は突然事態に向けて家に戻り、玄関の敷居をつまずいて台所に落ち、猫を驚かせました。彼は自分を持ち上げて冷蔵庫のドアを閉めた。再び振り返ると、彼は自分の植栽を台無しにしないように注意しながら、ドアの外と庭の向こう側に真剣に駆け込んだ。家畜を庭から遠ざける有刺鉄線の柵が、夕方の深い光の中で彼のところにやってきました。彼はそれに全体的な足をつかみ、彼自身を切り離しました。彼は自分の財産の端に来て、パデエフスキーの地所の境界を示す小さな小川を横切って、大きな果物のボウルが着陸しようとしているように見える大きな牧草地を見ることができるようまで走り続けました。ボウルはまだ下降していて、Mathpartはその光を見ることができました。それはいくつかの宗教的な意味を持っているようでした。彼は彼が空からの果物の贈り主のスポークスマンであった宗教について考え始めました。彼が光るボウルを見ていると、彼の心は高く鼓動し、彼の意識の中で、長年彼に潜んでいた宗教的狂言の最初の表現が発達しました。「空に浮かぶ素晴らしい黄金の実」と彼は

考え。彼は常に宗教的狂言者になりたいと思っていましたが、これまでにインスピレーションを得たことはありませんでした。今、彼は確かに儀式とドラマに対する彼の飢えた食欲を甘やかすことができるでしょう。おそらく彼は日曜日に白いローブを着るべきです。あるいは、いや、オレンジ色のローブの方がいいかもしれないと彼は思った。彼はオレンジ色のローブを着た宗教的な男性についてのニュース映画や映画を見たことがありますか？彼らは仏教徒でしたか？まあ、とにかく、彼らはそれらの異教徒の宗教の1つでした。彼らのオレンジ色のローブは、彼がそれを装備していることを除外しませんでした。

オレンジのポウルはどんどん近づいてきました。それは少なくとも直径100フィートのようで、彼は畏敬の念を抱き、そのような比率のオレンジのポウルから調達できる素晴らしい量のおいしいジュースを考えました。自発的に喉が上がり、最初の祈りを思い起こして、彼はそれを声に出して詠いました。そして彼はこの瞬間に彼の魂の中で、疑いの余地なく、神がいることを知っていました。

「そして彼らは神が死んだと思った」と彼は叫んだ。

「彼らがこの果物のポウルを見るまで待ってください！」

ポウルは素早く近づき、人間の価値と神の恵みの象徴でした。

「日曜日まで待ってください。」彼はポウルに話しかけ、彼の存在の頂点に声をかけました。

「そして、私がオーバーオールを教会に着ていたので、彼らは私に鼻を突き刺しました。日曜日まで待ってください、私は証言をします！」

ビジョンは彼の前に上がり、彼は最高峰にあり、彼の最愛の夢は達成されました。彼の両親が祖父母に預けて二度と迎えに来なかった孤独な田舎の子供はもういませんでした。彼はもはや、この厄介な農家と200エーカーの貧しい森林と牧草地の孤立した居住者であり、現在は成長しており、祖父母は亡くなっています。ラバを追いかけて、猫に餌をやる彼は、もはや愚かなMathpartFendlerではありません。さて、彼は教会で証言し、祈るでしょう、そして町の人々は皆、彼、MathpartFendlerが彼自身の奇跡に値する人であることを知っているでしょう。はい、奇跡です。この美しく輝く果物のポウルは奇跡ではありませんでしたか？

彼の目はこれらの喜びの内面の熟考に閉じていました、しかし彼は新しい考えが彼を襲ったので突然空想から身を震わせました。彼には目撃者がいなかった。目撃者のいない奇跡とは何でしたか？目撃者を必死に見回すと、ポウルが底から伸びた3本の足で止まったのがわかりました。ポウルが果物でいっぱいではなかったという事実を彼が取り入れたとき、彼の心には突然の混濁がありました。実際、わずかに丸みを帯びた構成で、上面全体が閉じていました。

Mathpartは慌てませんでした。彼は自分自身に敵しいものでした。彼が頭を失ったので、この奇跡は逃げるつもりはありませんでした。多分それは覆われた皿でした。そうです！オレンジを天国への旅、雨、ほこりのかけらから守る鳥がいるでしょう。もちろんそれはカバーされるでしょう。彼は、目が追うよりも早く、ポウルの側面に引き戸が開いたときに、そのような巨大な蓋を取り外す問題を考えていました。背の高い金髪の男性と同じ身長と公平さの女性の2人がポウルから地面に降りました。彼はポウルからの輝きの中でそれらをはっきりと見ることができました。少女はMathpartに、Esmerelda Sweetwaterのように見えました。しかし、彼女はそうすることができませんでした。彼女はそれらの2つが持っていたようなそれらの起き上がりの1つを決して着ませんでした。光の中で銀色にきらめくある種のカバーオール。そしてタイト？なぜ、それは下品でした、それだけです。そして、それは彼を襲った、人々は彼のオレンジのポウルから歩いて何をしていたのか？

Mathpartは侵入者に激怒してワイルドでした。彼がそれらを見ていると、ポウルはその細い三脚でバランスを取り、その後後退し、それが来たよりもはるかに速く進み、Mathpart Fendlerのためにオレンジを1つも1つも預けませんでした。代わりに、Mathpartは、おそらく乗っ取られたと考えました。はい、それでした。悪臭を放つCommieエージェントに乗っ取られました。それらの2人は共産主義者でした。彼は彼らの背中を、川の端にある低木林の彼の隠しバールの上で覗みつけました。彼の憤慨し、横行する疑わしい目は、彼らに向かってくる他の2人を選び出しました。その女の子もエスメレルダのように見ただけでなく、彼は深まる夕方の光の中で見ることができました。彼らはおそらくすべて変装していた、とMathpartは考えた。まあ、彼はこれを支持するつもりはなかった！

フォーサムは牧草地の広がりの中で会い、Mathpartは彼らが何をしていたのか理解できませんでした。彼は濡れた忍び寄り歩き方で小川を渡り、彼らに近づきました。彼らはお互いに抱き合っているようで、4人全員でした。ただそこに立って、無作為に抱き合っ、動いたり話したりしません。

Mathpartは、時間を使って聴覚距離内に到達しました。しかし、彼らは話しているのではなく、ただ立っているだけでした。ついに彼らは互いに離れて立ち、4人全員が腕の長さで立たまま、静かになりました。

Mathpartは、彼らを可能な限りじっと見つめていました。すべてが半光の中でとても背が高く、スリムでした。

それらは4種類のように、非常に魅力的でした。おそらくいくつかのプロットのために厳選された彼は、自分自身に思い出させ、彼らの美貌で私たちの自信を勝ち取ることを考えました。これらの汚いコミュニティに敵しく対処するという彼の決意は、これで深まりました。

それらの1つは話しました。男性の声でした。「地球へようこそ」と書かれていました。

短い沈黙がありました。すると同じ声で、「私の名前はセオドア・ベアです。エスメレルダ・スウィートウォーターです。皆様のお越しを心よりお待ちしております。」

「Esmerelda Sweetwaterは汚い共産主義のスパイです」とMathpartは驚いた。彼はそのかなり若いことを信じるできませんでした。果物のポウルから足を踏み入れた二人は話ししました。

「私たちは、すべての人の愛と光の中であなたに挨拶します。私たちはあなたに私たちの精神と私たちの体を奉仕させます」と彼らは一斉に言いました。

Mathpartは彼らが言っていることに完全に混乱していました。それは秘密のCommieコードの一部でしたか？彼はその考えで少し心のこもったものになりました。たぶん彼は、Aの米国に対する汚い共産主義の脅威全体を壊すであろうある種のパスワードを耳にしたのだろう。ねえ、それはかなり良いだろう。結局のところ、あなたがそれに真っ向から来たとき、より重要なことは何でしたか？神、それとも共産主義の抹消？彼は間違いなく元気づけられたと感じた。

彼らは今何を言っていましたか？彼らはもっと立って、見て、手をつないでいるようでした。彼らは皆笑顔でした。最初に話していた男性は、話し始めてから止まり続けました。最後に彼は、「15分間の歓迎のスピーチをしましたが、今は無意味に思えます。しかし、私たちはあなたのサービスにあります。行こうか？」

別の静止した沈黙がありました。それからエスメレルダは話ししました。

「気になったら、別の友達に会う家に直接アクセスすることができます。出発する前に気になることはありますか？」

「いいえ」と二人は微笑みながら、彼らがいた場所ことどもりながら言った。さらに一時停止があり、4人が立って光を放ち、Mathpartは小川のそばの薄い森の端でしゃがみ、彼らの言葉を自分自身につぶやき、彼がそれらを忘れないようにしました。それから、エスメレルダ・スウィートウォーターを持った少年は向きを変え、牧草地の遠端に向かって歩きました。そこから彼らは最初に現れました。エスメレルダとポウルからのペアは彼に続いた。彼らが十分に離れていて、Mathpartが耳にされたり発見されたりすることなく追跡できるようになると、彼は彼らが古い車に乗り込むのを見るのに間に合うように、不器用な傲慢さで急いで行きました。

彼の心は彼にとって不思議なスピードで働いていました。それは午後と夕方の考えにとっても刺激されていたので、彼は英雄の脳のように働いているように見えました。彼は映画の中にいるように感じた。それは完璧に機能します。彼らは、彼らが通っていた古いワゴン道路を降りるためにほとんど幹線道路に戻る必要があり、それから彼らは彼らの住居に到達するために彼の私道を通り過ぎて、または高速道路に到達する必要がありました。じゃあ！

何年もの間、ラバが歩くのと同じ速さでしか動いていないマトパートの足は、彼が農家に戻るときにかなり下を飛んでおり、彼のLCスミスは二連式の散弾銃を持っていました。彼はそれらのコミュニティを修正するでしょう。はい、サー、はい、ボブ、彼はそれらの汚いローダウンの破綻したファシスト裏切り者共産主義者を修正するでしょう。彼は彼の裏口に疾走し、猫を尻尾を厚くするスリーブに入れ、その間に彼女は台所の周囲を10回走り回り、流しを攻撃した。

MathpartはLCSmithをつかみ、銃の近くに置いていた砲弾の箱からそれを積み込み、再び頭を出し、道路への8フィートの落下を覆い隠していた背の高い雑草に真逆さまに行きました。つるが彼の足首を取り、Mathpartを下り、同時に道路に転がり、セオドアは荷馬車の道路から角を曲がった。

セオドアの反射神経は見事でしたが、道路は車をスキッドに入れ、マトパートが彼の足に苦労し始めたちょうどその時、車のフロントバンパーはそれが止まったので彼をあまり優しく動かしませんでした。打撃は彼をノックダウンし、彼が行くと、彼のショットガンは空中に放出されました。このわずかな誤算にもかかわらず、Mathpartは散弾銃を絶え間なく振って、再び立ち上がるのに苦労し、車の前輪の間からスクランプリングしました。「動かないで下さい！」彼は飛び散った。「私はあなたをカバーしました！」エスメレルダは叫びました。私です、エスメレルダ・スイートウォーター。」

「汚い共産主義者のスパイ！」

Mathpartは叫んだ。盲目的な怒りで、彼は車に銃を向けた。

エスメレルダは息を呑んだ。「彼を止めて！」

宇宙から来た男が車の手前のドアから現れ、マトパートとエスメレルダの間に足を踏み入れ、マトパートの目を直視した。

Mathpartは侵入者に銃を向け始めましたが、代わりに道路に銃の尻を置いていることに気づきました。彼の表現は、必死の怒りから、最初は混乱し、そして後悔へと変わりました。彼はその男を約30秒間見ました。それから彼は後退した。

「あなたはコミーではありません。」彼は道路を見下ろし、次にエスメレルダを見下ろしました。「彼はコミーではありません、ミス・スイートウォーター。」

「もちろん違います」とエスメレルダは言った。「彼が何だと思ったのですか？」

「まあ」と挫折したMathpart。

「まあ、彼は遠くから見るとコミーのように見えたが...まあ、彼はコミーではありません。」

Behrは、すでに車から出て、Mathpartに向かって移動しました。

「どうやってわかるのか」と彼は彼に尋ねた。

Mathpartは頭をかいた。

「まあ、彼ただいい人です。彼ただいいです、それだけです。そして、Commiesは良くありません。」

エスメレルダは、「それで、マスパート、私たちが撃ったのですか？」と言いました。

彼はうなずきました。彼女も車から降りて、彼の周りに腕を組むために行きました。

「まあ、私たちはコミュニティではありません。私と一緒に家に戻ってきてください。

怪我をしていないか見てみましょう。」彼女は徹底的に懲らしめられ、謙虚な男を彼の台所に連れて行き、それでも彼の頭を振って、彼の果物のボウルから現れた二人の存在を彼の肩越しに振り返った。

第6章

エスメレルダはマスパートを台所のテーブルに戻し、ホットコーヒーを与え、彼を落着かせました。彼女はまた、彼らがドアに入ったときに世界の終わりを待っていたストーンの後ろにいた猫に、穏やかな口調でなだめるような言葉を話しました。彼女がMathpartの農家を去るまでに、彼女は彼を笑わせるだけの当局に何が起きたのかを何も言うことは何の役にも立たないという結論に彼を助けることができました。彼はまた、エスメレルダと彼女の3つのコホートが何らかの秘密の方法で政府を助けていると信じるように自分自身に話しかけました。エスメレルダはこれを否定していませんでした。彼女は単にそれについて話すことができないと彼に言っただけでした。

Mathpartは満足していた。沈黙を守ることによって彼の国を助けるために彼の役目を果たして幸いです。彼らは仲良く別れた。猫は尻尾をふわふわさせず、Mathpartの足元に座っていました。これは、両方が台所にいるときのいつもの習慣でした。

彼らはセオドアの車の中で彼女を待っていました。2人の訪問者は後部座席に静かに座っていました。彼らは本当に来ていました。彼女は彼らがそうすることに疑いの余地はありませんでした。儀式の肯定の後、誰も持っていませんでした。しかし、セオドアとエスメレルダの両方が寺院で2つの光の体を見ている間に受け取ったテレパシーメッセージは、パブロの300エーカーの一部として認識できる半光の中で工芸品が静止するという精神的な絵でした。どちらもその光が夜明けか夕暮れかを見分けることができなかったので、一日の両方の時間を待っていた。ジョーシュアはいつも週の早い時間に起きたので、ニューヨークのために録音された毎日のインタビューのためにワシントンの彼のテレビスタジオを訪問しました、そしてパブロが本当の好みから早く起きたので、それらの2人は日の出をカバーしました、そしてセオドアとエスメレルダ夕日が沈む。儀式後、日目に着陸した。

彼らは儀式が人々の到着で最高潮に達することを期待していました。彼らはそれに備えていました。彼らはそれを熱心に待っていました。しかし、彼らの訪問の現実はまだショックでした。エスメレルダは後部座席の二人に微笑んだ。まるで鏡を見ているように、彼女を見るのはとても不思議でした。エスメレルダは、黄褐色の色、6フィートの高さ、細くて滑らかな筋肉の姿で、彼女に非常に似ている人を見ることにまったく慣れていませんでした。最初は不安なことでした。

セオドアは農場ではなくジョーシュアの家で車で行きました。パブロは仕事でその朝早くニューヨークに行き、真夜中か少し前まで彼が戻ってくることを期待しないように彼らに言ったからです。今はかろうじて7時でした。彼らはジョーシュアが彼の大きなテレビの照らされたスクリーンを見ながら、正面の窓のそばでくつろいでいるのを見つけました。彼らは正面で会った。

ドアを開けて、訪問者の一人一人を手にとって挨拶した後、彼は彼らを部屋に戻し、テレビの電源を切りました。

「私のスクリプトの1つ。彼らがどれほどひどくそれを虐待したかを見るためにそれを持っていました。」

エスメレルダはグラスとフルーツジュースを取り出してバーに歩いて行きました。ジョシュアは、大きな窓のある部屋の端を横切る長いソファに宇宙から人々を座らせ、彼らを見つめていました。彼らの美しさはとても明るかった。

"良い。私は、あなたをこの惑星に向けた最も効率的な方法であると思うものを考え出しました、私の友人。それには少し時間がかかります。おそらくあなた方一人一人に一週間か十日かかります。しかし、私はそれが最も速い方法になると思います。あなたがこの惑星にいる間は、あなたが安全であることを確認するために私があなたと一緒にいる場合を除いて、いかなる状況でもあなたの肉体を決して離れないように今あなたにお願いします。私はこれがあなたの故郷の惑星でのあなたの通常の習慣とは大きく異なることを知っています。しかし、あなたはこの惑星が異なっていることに気が付くでしょう。私が提案するようにやってくれませんか？」

両方の宇宙訪問者はうなずいた。"はい。"

"良い。ここであなたに降りかかる可能性のある危険性をすぐに説明することはできませんが、あなたが私たちについて学ぶにつれて、あなたは理解するようになると思います。さて、私が考えていたのは、一度一人があなたの肉体を離れ、この惑星の精神面の完全なツアーに時間を費やし、私たちがアカシックレコードと呼ぶ私たちの惑星の歴史を見ることでした。私はあなたのために信頼できる有能なガイドを持っています。彼は長年私自身の先生でした。彼はこの惑星の精神面に非常に精通しているので、あなたを十分に保護することができます。彼は数千年の間、教育の領域内で見識があり、機能してきました。私の兄弟、私はおそらくあなたがアストラル界を旅して私たちのアカシックレコードを見る最初の人になるかもしれないと思いました。これはあなたに納得できますか？」

"はい。"

"良い。エスメレルダと私が先生を召喚し、使用していないときに身体の休憩を用意するのは簡単なことです。私たちは私の寺院に行きます。」彼はセオドア、すべてのビジネスに目を向けました。

「テッド、妹をバプロに連れて行ってくれませんか？」農場の訪問者ごとに部屋が用意されていました。

「後でエスメレルダを家に持ち帰ります。おそらく1つか2つくらいです。とにかく遅。」

セオドアは、エイリアンとの会話に対するジョシュアの活発なアプローチに明らかに驚かされました。彼は、いくつかの単音節を超えて、彼らに話す機会を与えていませんでした。彼は小さな話こふけり、お互いを知ることはありませんでした。それは彼を少し不親切だと思った。

「私はあなたが何を考えているか知っています」とジョ シュアは言いました。セオドアは驚いて彼を見ました。

「ほら、テッド。これは非常に独特な場所、この惑星です。彼らが私たちの歴史についてより多くのことを理解するまで、私たちが彼らに言うことは何も意味がありません。」セオドアは回復した。

「OK、ジョ シュ、確かに。彼女を家に連れて帰ります。明日お会いしましょう。」

"右。ありがとう、テッド。"

セオドアは席から立ち上がって、ソファの宇宙少女の側に行き、彼女の手を取りました。

"さあ行こう。"彼は両方とも言葉を言って、それらを精神的に投影しようとした、そして、女の子の笑顔と一致したテレパシー合意によって鞅われました。彼は彼女と、そしてエスメレルダとそれをすることができました。とても良い。

不機嫌で不敏なフォードは、ジョ シュアの家と農場の間の田舎道のカーブの周りを穏やかに揺れ始めました。これは郡のこの部分で最大の道路であり、4車線でしたが、新しい道路や滑らかな道路ではありませんでした。窓を下ろし、コオロギの鳴き声が鳴り響き、露の香りとほこりっぽい道が静かなそよ風に乗って、車で降りるのはきれいな道でした。彼らはロードハウスを通り過ぎました。それは、田舎に住むかなり裕福な人々がたくさんいるところならどこでも湧き出るような場所です。ネオンライトとあばたのある砂利の駐車場があり、外からはゴミ捨て場のように見えました。中は暗すぎて、その場所がゴミだらけかどうか分かりませんでした。小さなダンスコンボ、小さなメニューがありました。

宇宙から来た少女が初めてかき混ぜた。「式典が進行中です。」

セオドアは彼女の顔をちらっと見た後、別の長い顔をした。"何?"

「式典はそこにありました。」女の子は指さした。

"それか?それはただのホンキートンクです。彼らが踊る場所。"

「私たちはそれを見るでしょう。」

しますか?セオドアは少女の発言の積極性に戸惑いました。なぜ彼女はそこに行きたいのですか?彼は彼女の服を見た。彼女と彼女と一緒に来た男性はどちらも、ジャージのように非常に薄い素材であったことを除けば、スキースーツのように見えるツーピースの服を着ていました。

彼らは銀色で、体の線に忠実に固執していました。非常に忠実に。セオドアが彼女の外見を考えたとき、彼女がスーツの長袖のハイネックのトップの下に何も着ていないことが彼に明らかになりました。効果は審美的に心地よいものでしたが、

アメリカの文化、残念ながら驚くべきことです。彼は彼女をどこにも連れて行けなかった。彼ができますか？

彼女は彼を見ていました、明らかに彼が彼女を彼女の「儀式」に護衛しようとしていたことを確言していました。

さて、なぜですか？彼女のコスチュームは、彼が見た他の多くのコスチュームほど大胆ではありませんでした。彼の仲間の人間の奇妙な回転を見るのは彼女にとって害にはならないでしょう。彼は脇道に戻り、ロードハウスの方を向き、丘陵の駐車場に引き込まれ、由緒あるフォードの場所を見つけました。

彼らは小さな玄関の両開きのドアを通り抜け、死んで立ち止まり、ふさわしい暗闇の中を見ようとしました。ライトショーが進行中で、音の壁が彼らの耳を越えて脈打っていました。音楽は目に見えた。それは具体的でした。味わうことができました。電氣的に増されたギター、ベース、オルガンは名人の手にはありませんでした。しかし、増幅システムはそれを知らず、気にしませんでした。そして、ハーモニーは、揺れているかどうかにかかわらず、無邪げなノイズの暴力の中で部屋の端の周りのダンサーと見物人に押し付けられました。ドラマーは、増された弦を弾き、兄弟たちに勇敢に追いついてきました。ビートはここで輝かしい存在でした。

セオドアは彼の新しい友人の隣に立って、部外者の困惑した目で議事を見ていた。彼は決して踊ることができなかったし、踊りたくなかった。パノラマは彼の耳と目を傷つけ、筋肉を動かしませんでした。それはただ騒々しくて疲れました。彼は宇宙から来た少女がどのように光景を撮っているのかを見た。彼女はそこにいませんでした。彼女が彼から離れて歩いているとき、彼は彼女の服のきらめきを見ることができました。彼女の手は、流れるようなシャツとモダンにカットされたズボンを着た子供に奪われていた。彼らは踊ろうとしていました。セオドアは大声でうめき声を上げ、テーブルの列を通り抜けて彼女に向かって進んだ。

しかし、手遅れでした。ライトがオン、オフ、オン、オフ、オンで点滅しました。アンプの電子ピックアップが照明システムの色と周波数のスイッチをアクティブにしたとき、動きはざくざくし、誇張され、中断され、奇妙に美しいように見えました。彼らは彼女の銀の服を着た女の子も活性化しているようでした。さらに内向きにうめき声を上げて、セオドアは、宇宙から少女を見ているのはもはや彼だけではないと述べた。彼女が着ていた服で注意深く輪郭を描かれ、点滅するライトに照らされて揺らめく彼女の愛らしい、ぴんと張った体は、まるで音楽の一部であるかのように動いた。大きくなりました。バンドは彼女に気づいていた。彼女はますます熱帯的になりました：どうして彼女はそれをすることができたのか、セオドアは疑問に思いました。彼女は簡単に彼が今まで見た中で最高のダンサーでした。彼女のしなやかな体は音楽の性的で原始的なビートに合わせて動き、彼女の庭の長い髪は漂い、鞭打ちました。

それ。ステージの小さなエプロンを持っていたゴーゴーガールが飛び降り、気さくに宇宙少女に代わって動いた。

「ああ、いや」とセオドアは思いました。女の子は、音楽の盛り上がりの中でビートを逃さずに4フィート上にバウンドしました。

今、その場所は本当に彼女に気づき始めました。部屋の端にあるテーブルに座っていた人たちが、すでにダンサーでいっぱいだった部屋の中央に引越始め、踊っていた人たちが立ち止まり、場所を探し始めました。誰もが拍手し、音楽の脈動で前後に揺れていました。ミュージシャンは、機器から余分なデシベルを引き出そうとして怒っていました。その場所は、突然、興奮した市民には混雑しすぎました。はっきりと見えるほど近くに十分な場所がありませんでした。誰かが他の人のテーブルに登るといふ明るい考えを思いつき、テーブルが選ばれた男は激しく反対しました。誰かの体重で椅子が壊れた。ノイズの表面の小さな亀裂から聞こえるかすかなうめき声がありました。ある男性は、夕方の彼の女性が隣人の男性の足によって無礼に使われたと感じたようです。突然の叫び声と、別の椅子の不吉な亀裂がありました。最初の拳が最初の顔に会った。音楽は続いた。少女は風のように動き続けた。セオドアは部屋の半分しか見ることができませんでした。彼は3つの別々の口論を数えました。警察がここに到着するのに10分もかからないはずですが。

その場所のヒューズボックスを見つけるというぼんやりとしたアイデアが夜明けするまで、宇宙の女の子にたどり着く方法は彼に現れませんでした。セオドアはトイレに通じる汚れた小さな廊下を下りました。目に見えるヒューズボックスはありません。ユーティリティクローゼットがありました。彼はそれを開けると、壁に黒い金属の箱を見つけました。これは彼が考えていたもののように見えました。彼はその横にあるレバーを引くと、満足のいく黒さが小さなホールに落ちた。ストロボライトが止まり、楽器が死んで、ドラマーが遅れるまで、ドラマーを一気に一人にして、演奏もやめました。

悲鳴にはいくつかの種動があり、テーブルと椅子が卸売りされ始めたときの素晴らしい歯ごたえのある音がしました。暴動が起こった。さて、目的は、宇宙から少女を取り戻し、警察が来る前に後ろに出て、過去のない少女を特定しようとする事でした。そして、誰がおそらく下品な服装のために馴ら引きずり込まれるでしょう。ああ少年。

彼は小さな後部出口をチェックした。エールロックが降伏し、外は馬場でした。セオドアは廊下のコンクリートの壁に背を向け、混話を忘れようとした。彼は彼女をここに呼んでもらえますか？

精神的に、彼は彼が以前に暫定的にテストした彼の心と彼女の間のつながりを探しました。彼は彼女を召喚した。彼に強い安堵感を持って、彼は彼女の承認を感じ、数秒で彼女の手を彼の中に入れました。彼女はステージを降りて、横にあるトイレのドアを通過して、暴れ回ったダンスフロアの邪魔にならないように、そして誰も押し寄せていた正面玄関を通り抜けるのに簡単な時間を過ごしました。

セオドアは再び彼女を手に取り、彼女と一緒に彼の車に走った。彼の耳が警察のサイレンの音を聞く前に、彼はなんとか高速道路を引っ張っていた。彼らはそれを成し遂げました。道路を4分の1マイル下ったところで、2台のパトカーに出会い、青いライトが点滅し、目的地に向かってあまりにも熱心に叫んで、1台の古いフォードに気づきませんでした。危険は過ぎ去った。

セオドアは、自宅以外の場所で自分の責任を引き受けたことで、内面的に非常に厳しくなり始めました。そして、どうやって彼女はそんなに早くダンスを学ぶことができたのでしょうか？

宇宙から来た少女は振り返り、彼に向かって光を放ち、エスメレルダが抱いたのと同じ金色の斑点で目を踊った。「この惑星の人々は非常に賢明です。」

セオドアは安堵のために麻痺しすぎて、「何？」以上のことを言うことができませんでした。「彼らの寺院には精神の成長がたくさんあります。」

セオドアの目の間に線が現れた。彼の鼻はしわが寄っていた。

「神殿？それは寺院ではありませんでした。それはロードハウスでした。人々が楽しみに行く場所です。」

少女は穏やかで踊る笑顔で彼を尊敬し続けた。彼女の声は落ち着いていて、自分自身をリフレッシュせず長い間踊っていたので少しハスキーでした。

「そこにいた人の多くは私と交際したいと思っていました。私は戻るべきです。」

セオドアの目は少しの間開いた。ああ少年。

「持つ。この惑星で、あなたを望んでいるすべての人と交際することはできません。」

彼は少しの間自分自身に考えました：なぜ彼女はできなかったのですか。

「それはこの惑星の法律によって支離されています。」

「私は交際の法則を知っています。」

セオドアは、彼女と彼がコミュニケーションをとっていないことを知っていました。

「いや、いや、私は人為的な法律を意味します。あなたが合法的に絡んでいる限り、この惑星で交尾することは合法ではありません。」

「私は人間が法律を作ることができることを知りません。私は創造主の法則だけを知っています。」

セオドアは彼女が何を意味するのか知っていました。彼はエスメレルダに会ったので、創造主の交配の法則についてよく考えていましたが、彼女とても単純に惹かれていました。彼ら間の物理的な魅力は、お互いの親和性によって可能になった極生の表現であるように彼は見えました。彼らは、どういうわけか、非常に同じ鍵のように見えました。

しかし、宇宙から来た少女はその法則を信頼すべきではありません。親和性や極生あまり気にしない人が多すぎました。彼は再考した。

「いいえ、ここではそのようには機能しません。人々は結婚のようなものを紙に書き留めて、それらを法律と呼びました。これらの法律は、すべての人々に正しいものとして受け入れられています。そして、これらの法律に従わない人は、残りの人々によって罰せられます。彼らは彼らに制限を課し、彼らを犯罪者と呼びます。

少女の目は彼に不思議に思った。

「しかし、それは創造主の選択の自由の法則に違反しています。」

なぜジョシュが以前に宇宙からの人々ととてもビジネスライクで無愛想だったのがセオドアに明らかになりました。少女がこの惑星に慣れるまで、彼女が来た環境について彼女とコミュニケーションをとることは不可能でした。彼は彼女の開いた、疑わしい顔に微笑んだ。

「アカシックレコードを見て、惑星の知識を味わうと、すべてが明らかになると思います。」

これは微弱でしたが、女の子を満足させるようでした。彼女はそれを喜んでそして容易に受け入れ、彼らの旅の短い残り間にそれ以上話しませんでした。セオドアの残りの仕事は短くて簡単でした。彼は彼女に食べ物を提供しましたが、彼女はそれを断り、エスメレルダが彼女の滞在のために用意した部屋を彼女に見せました。エスメレルダのクローゼットから、朝に着る服がいくつかありました。ベッドのカバーは折りたたまれていました。彼は彼女を去り、ホールを横切って、階段の頭から1つのドアを離れて自分の部屋に行きました。ほぼ11歳でした。寝る時間。

家は暗くなり、そして眠りました。

第7章

ニューヨーク市からのシャトルは10時37分にワシントンナショナルに着陸しました。パブロは彼の6.3メルセデスを駐車場から出しました。運転は夜遅くまでかなり簡単でした。彼は11時の数分前に2マイルの私道に変わった。

Padeyevskyが立ち上がるのは非常に遅かった。彼は日中は時計のように走り去り、これらの遅い時間には体調が悪かった。しかし、その仕事は行われなければなりませんでした。彼は物事を止められないように準備したかったのです。彼は成功した。彼は私道をオフにした道路を通り過ぎました。その頭の郵便受けには「MathpartFendler」と記されていました。

Mathpartのドライブの下にほとんど見えないところに駐車されたキャデラックリムジンがありました。パブロの警報システムは少しけいれんし始めました。

Mathpartはリムジンを持っている人を知りません。もし彼が訪問していたら、そして夜のこの時間...彼はニューヨークへの訪問を思い出しました。彼は敵が見ることができるよう、そこで公然と事業を行っていました。彼らは応答しているでしょうか？彼は彼らが何かをすることを期待していなかった。彼らが単に敗北を認めることを期待していた。彼がそれらを取り返しのつかないほど隅こ移させたことは明らかでした。

彼は農場までの残りの道を運転しました、彼の心はそれについて困惑しました。彼らの組織の歴史の中でより原始的な時期に彼らの特徴づけたような暴力的なビジネス行為には30年遅すぎました。彼らはもう復讐をしませんでした。彼らはしたか？

彼はそれが気に入らなかった。すべてが順調に進んでいることを確認した後、おそらく彼はフェンドラーの家に戻って周りを見回したでしょう。見られずに。

暗い家は静かで快適に見えました。それは時折きしみ、10月の夜の寒さの中で、その骨は落ち着きました。パブロの重りが優雅に丸められて2階を通過する各ステップに置かれると、小さな音でより速きしみました。ホールライトは消されていた。パブロは階段の一番上にある彼の左側の最初のドアに立ち寄った。それは彼女が来たときに宇宙少女が使用するために指定された部屋だった。ドアは半分開いていて、パブロはそれを聞いていました。彼はゆっくりと静かに呼吸が聞こえると思った。彼は眠っている姿を見たが、部屋には入らなかった。

彼女の向かいの部屋はエスメレルダのものでした。ドアは大きく開いていて、ベッドはまだ構成されていました。うーん。

彼は部屋に入って、彼女が家こいないことを確認し、セオドアとエスメレルダのドレッシングルームをつなぐドアをちらっと見た後、ホールに戻った。セオドアのドアは開いていて、彼はそこにいました。彼も一人でした。パブロはそれを彼自身の満足に決定し、そして

セオドアのベッドに行き、彼をとても優しく目覚めさせました。セオドアの目はすぐに開いた。

「こんにちは、パブロ。旅どうだった？」それから睡眠は彼を完全に残しました。彼は起き上がった。

「ねえ、私たちは2人の宇宙人を手に入れました！ジョ シュアとエスメレルダは男を神殿に留め、私は女の子をここに連れてきました。彼女は眠っています。」

窓から差し込む薄暗い月明かりの下で、パブロの黒い目は柔らかくなった。

「それは素晴らしいことです。それについて教えて！」

セオドアは夕方の出来事を要約し、パブロは満足と興奮をもって耳から耳へとうなずき、ニヤリと笑いました。それをすべて聞いて、セオドアの眠そうな肩を数回叩いた後、彼は立ち上がって休憩を取った。

「まあ、テッド、朝お会いしましょう。朝 お二人ともお会いしましょう。エスメレルダは今夜帰りますか？来た男はどうですか？」

「まあ、ジョ シュは彼が彼のガイドと一緒に惑星の精神的な飛行機のツアーに男を送るつもりであると言いました。そして彼は、いわば宇宙から男を見た後、エスメレルダを1、2人くらい家に連れて帰ると言った。」

パブロはうなずいた。彼はセオドアにまた出かけることを告げることを考え、それから反対することに決めました。男の子を寝かせたほうがいい。とにかく、なぜ彼が外出するのかを説明するのは難しすぎた。「朝にお会いしましょう、テッド」と彼は繰り返した。セオドアはすでに目を閉じていて、枕こうなずき、パブロは出て行って、後ろのドアを閉めました。彼はそれを通り過ぎたときに少女のドアも閉め、それから前の階段を降りた。正面の窓から彼は芝生を見ることができた。それは人間の住人を空にした。彼は聞いていた。すべてが静かでした。

彼は自分の巣窟に戻り、ドアを閉めた。部屋を支配する巨大なマホガニーの机がありました。彼はそれに行き、その引き出しの1つをロック解除しました。中には長い銃身のスミスアンドウェッソンリボルバーがありました。一見、武器の目的は標的射撃であるように見えたが、注意深く見ると、これははるかに特殊な武器であることがわかりました。スミスアンドウェッソン.357マグナム弾とランプタイプのボーマンフロントサイトがはめ込まれ、リアはマイクロメートルです。視力。バレルの長さは6インチでした。それは、ガンマンのコンパニオンとターゲットピースの非常にモダンで精巧に作られた組み合わせでした。

パブロが取り外して158粒の弾薬に交換した、ターゲットのウッドカッターが搭載されていました。丸く太陽な顔をした男は、シリンダーをパチンと閉め、武器を一瞥した目で見ました。

大切な友達。彼はそれを扱うのが簡単で、完璧で、愛情深いので、彼はそれで多くの時間を費やしたように思われるでしょう。

彼は吸い込み、ズボンを彼のカッコいい真ん中から引き離し、そして長い銃身の武器を彼のウエストバンドに突き刺した。反省の瞬間がありました。それから彼はその特異な内容から解放された引き出しを閉じ、研究ドアを開け、そして眠っている家から彼のメルセデスまで非常に静かに歩いた。円形の私道とアクセス道路のわずかな下り坂の勾配により、彼はニュートラルからシフトしてクラッチを切る前に、家の住民の耳から離れることができました。曲がりくねった道は、彼の場所と Mathpart の場所の境界を示す小川をためらうように通り抜けました。小川のベッドを少し過ぎたところで、彼は車を堤防の上に振り上げて隠れ場所に行きました。隠れ場所は見知らぬ人にはまったく邪魔にならず、パブロのように土地を知らない人にはまったくアクセスできませんでした。彼は車から降りた。彼は後部柵の列から Mathpart の所有物に近づいていました。農家の裏側にある窓が前方にありました。描かれた2つの色合いの両側に垂直の破片で光が現れました。誰かが台所にいました。家の残りの部分は暗かった。パブロは非常にこっそりと家の側面に近づき、光の破片の1つに目を向けました。マスパート・フェンドラーは台所のテーブルに座って、顔がわからない男性と会話を交わし、彼の位置によって部分的に視界から隠され、照明によって影に投げ込まれた。しかし、マスパートの顔はパブロにははっきりしていて、その上で彼は興奮と恐怖の混合物を読んだ。パブロはマスパートの言葉を聞くことができました：彼はパデエフスキーの家の寝室の配置について話すことを拒否していました。その知識への彼のアクセスは合法的に十分になりました：彼は屋外の仕事をするために、そして行われる必要があるどんな重い仕事でも屋内を助けるために週2回エスメレルダによって雇われました。

フェンドラーは、パブロが到着する前のしばらくの間、明らかにこの情報を拒否していました。なぜなら、血が彼の口の横からシャツにゆっくりと滴り落ちていたからです。彼の頬にも切り傷がありました。ひどく腫れていました。

マスパートは話すのをやめ、他の男が彼に促したとき、彼は首を横に振った。男は起き上がって Mathpart の側にやって来て、ゆっくりと手を上げ、ジェスチャーと言葉の両方で彼を脅しました。パブロはそれらを簡単に理解することができました。

「聞いてください、友よ、私たちは今から約1時間後にこれをやってのけるつもりです。あなたと一緒に、またはあなたなしで。意味がわかりますか？」

Mathpart は屈服しましたが、再び首を横に振ると、手が下がり始めました。

Padeyevsky は、見知らぬ人の使命が何であるかを発見し、匿名で去ることを計画していましたが、彼は待機して Mathpart を許可することができませんでした。

殺される。打撃の音がして、Mathpartは彼の頬に別の切り傷を負った。男は拳銃をつけているに違いない。パデエフスキーはウエストバンドからマグナムを取り出し、トリガーとハンマーの拍車に同時に圧力をかけ、リボルバーを完全なコック位置に持って行き、わずかなカチッという音だけを出した。彼はポーチにできるだけ静かに移動し、ポーチに足を踏み入れ、家の壁に沿って小さな一歩を踏み出してドアに移動しました。そこでは、ボードが彼の体重でしむことはありませんでした。

ドアノブは非常にゆっくりと、非常に注意深く回転したので、中の人はノブが回っているのを見ることができませんでした。それからパプロはドアを押し開け、リングを持った男の真ん中を着実に狙うまでリボルバーを下げました。見知らぬ人の顔はMathpartの顔と同じくらい驚いた。彼はリング状の手を動かし始めましたが、彼は銃身を直接見ていました。

.357。彼は気が変わった。手の動きが止まった。代わりに口が動いた。

"あなたは誰?"

フェンドラーは、ぼんやりとした、制御不能な声で答えた。「博士。パデエフスキー！」男の顔の鋭さは少し和らぎました。驚きは、そのラインにもっとエッジングしていました。彼はじっとしていると、パデエフスキーの銃の銃身をのぞき込んだ。彼はその銃をよく知っていました。彼はそれを賞賛した。彼はそれが持っているパンチの種類にあまりにも気づいていました。彼はまた、銃の狙いの安定性にも気づいていました。

パデエフスキー博士は彼の尊厳に立っていました。

「さて、先生。私は神経質な人ですのでご注意ください。あなたは非常にゆっくり動くことによって私をユーモアを交わすことができます。私は神経質な状態にあり、突然の動きで指がぐらぐらする可能性が高いためです。非常にゆっくりと、左手で武器を取り外します。」

「しかし、私は武装していません。」

パプロの銃の手はわずかにびくびく動いた。

男性の鳴った手は、非常にゆっくりと腰に向かって再び動きました。

「私は左手を言いました。」パプロの声はとても静かでした。左手は言われた通りにやった。

"今。床に置いて、このように足で蹴ります。」男はそうしました。

パデエフスキーの狙いは揺らぐことも、見知らぬ人から目を離すこともありませんでした。彼はゆっくりと身をかかめ、短い銃身のリボルバーを回収しました。彼はそれをスポーツコートのポケットに入れ、Mathpartを簡単に見ました。彼はどうやら彼をあまりにも多くのダメージから救うことができたようです。彼の顔は腫れているように見えたが

比較的無傷。しかし、彼の目は固定され、彼の口は開いたままでした。彼は非常に短い呼吸をして、呼吸困難でした。

パプロは銃で身振りをした。

「今、あなたが私の友人にしたことを見てください。あなたはそれをするべきではありませんでした。あなたはルッソに戻って彼に彼の犬を引き抜くように言います、あなたは私を聞きますか？彼は馬鹿を扱っていません。そして、私はあなたに個人的に言います、あなたがここに再び現れるならば、私はそれほど礼儀正しくはありません。私は非常に短気です。」

厳しい脅威はホーンの音によって打ち砕かれました。車のヘッドライトは、キャデラックパプロが以前に見たおおよその位置から、丘を70ヤードほど下ったところで再び点滅しました。彼は開いたドアをちらっと見た、そして男は彼を驚かせた。彼はハリネズミのように座席して転がり、パデエフスキーが彼が倒れるのを見るまでに、彼は角で支えられたマトパートの二連式霰弾銃にほとんど到達していました。

Padeyevskyは動く人物にショットを撮りました。彼はMathpartの壁に小さな穴を開けましたが、その男を完全に逃しました。彼が武器を再調整する前に、プロのガンマンはLCスミスを振り、パプロのベルトに真っ直ぐに向け、トリガーを押しました。彼の撃撃は空の部屋にスナップしました：Mathpartは彼のショットガンを家の周りにロードしたままにしませんでした。

パプロは、空のショットガンを持って、壁に不器用に広がった男に再び.357を水平にしました。「もし私があなたなら、他の樽は試さないでしょう。」

男は霰弾銃を下ろした。

パプロは再びMathpartをちらっと見た。彼はひどい状態で、彼の顔は灰色で、彼の位置は彼の椅子で凍っていた。パプロの耳から2インチのところに弾丸がドアフレームを破り、それを発射した武器の報告が私道に響き渡った。パプロは、1分前に見たヘッドライトの方向に2ショットをポンプで戻すのに十分な時間垂直ことどもり、ドアの後ろの床に落ちました。His.357は頑固に隅の男を指差していた。

彼はそこに座って、私道のスタートで車のエンジンを聞いた。後退しました。彼は手の甲のようにアクセス道路を知っていて、リムジンがMathpartの私道の頭で到達し、高速道路に通じる道路に曲がるのを遅らせたとき、リムジンに耳を傾けました。

それから彼は立ち上がって、本当に震えました。車は左に曲がっていませんでした。右に曲がっていた。考えられる唯一の目的は農場でした。キャデラックは宇宙とセオドアから少女に向かっていた。

パブロはここでもう仕事をしていませんでした。彼は農場に戻らなければなりませんでした。彼は目で重いドアを見つけました。それはユーティリティルームであることが判明しました。隅こいたガンマンは、パブロの説得力のある雄弁なポリマーによって動かされて、そこに入りました。PabloはMathpartとの通言に目を向けました。

"私に付いてきて。私はあなたを彼と一緒にここに残すことはできません。"

Mathpartはぼんやりとした合意こうなずいた。

パデエフスキーは、男が別の武器を持っていた場合に備えて脇に立って、ユーティリティルームで重いボルトを撃ちました。空のショットガンの上の棚に、半分使用されたショットガンシエルの箱が置かれていました。パブロはその中身を彼の他のコートのポケットに捨て、LCスミスをつかみ、そして彼らは彼の車のために走った。

エンジンが始動し、彼はこれまでこの道路を運転したよりも速く、道路に沿って家までエンジンを引き戻しました。世話をしているメルセデスは、慎重に植えられた芝生を直接横切つて、エスメレルダが何年もの間育ててきた牡丹の境界線に入りました。キャデラックは見えませんでした。パブロは低い茂みを飛び越え、彼の家の不気味に開いた正面玄関に移動しました。まだ完全に暗かった。誰も明かりをつけていなかった。彼は簡単に耳を傾けました：足場はまったくなく、1階での動きもありませんでした。彼は一度に2つのステップを実行し、短い脚を強く伸ばしました。宇宙少女の部屋への扉が開いていた。

彼は明かりをつけた：彼女は静かに行っていた。彼らは彼女を連れて行った。彼はエンジンが始動し、車が向きを変えるという突然の音を聞いた。それは家の後ろから来ていました。パデエフスキーは階段を下り、ドアのすぐ内側の正面玄関で失神したマトパートをほぼ通り過ぎた。彼は車が家の前に着くとゆっくりと聞こえた。数発の音がした。パブロはちょうど間に合うように正面玄関を通り抜け、牡丹の前の遊撃手から車で離れるのを見ました。彼は彼のメルセデスに走りました：1つのパンクしたタイヤが彼の視線を迎えました。セオドアの車？いいえ、それはもっとひどいことでした。きちんと駐車された車両の角度が攻撃をさらに容易にし、彼のタイヤが2つなくなったため、ラジエーターが私道に液体を注いでいました。パブロは振り返り、再び家に戻った。彼は階段でセオドアに会い、ショットの音から目を覚ました。

"どうしたの？"

"宇宙から来た少女が誘拐されました。ジョシュアに電話して、エスメレルダとその男をこの宇宙からすぐに連れてくるように言ってください。彼女を取り戻す必要があります。"

"後を追うのはどうですか..."

パブロは片方の鋭い手を振った。彼の声は切り取られた。

"彼らは私たちの両方のタイヤを撃ち落としました。そしてあなたのラジエーター。"

Joshに電話したら、外に出て助けてください

メルセデスのタイヤを交換します。ああ、そしてあなたがそこでMathpartをソファに、あるいはおそらく洞穴の隣の客室に入れることができるかどうか見てください。彼は気絶したばかりです。」

セオドアが電話の階下の内線のそばに座ってジョ シュアの家で電話をかけたとき、パプロは外に戻った。彼はジョ シュアがエスメレルダと一緒に出発する準備をしているのを見つけました。彼らは、メンタルプレーンを巡るツアーのために、宇宙飛行士を教師と一緒に残していました。

ジョ シュアは誘拐の現実をすばやく把握し、セオドアに10分で全員が到着することを伝え、電話を切りました。セオドアは、この到着予定時刻はありそうもないと感じました。ジョ シュアの家は田舎道を越えて15マイル離れていました。

彼はMathpartを快適にした後州に出て、ジョ シュアのムイラが10分後に農場のサーキュラードドライブに回り込んだとき、セオドアはちょうどメルセデスのホイールのラグナットを締めていました。パプロは台無しにされたタイヤをトランクに入れていた。

ムイラが止まり、イワシの缶がゆっくりと開きました。ランボルギーニは小さな2人乗りで、3人の乗員全員が6フィート以上の高さでした。見るのは辛かったです、エスメレルダは曲がり角と折り畳みの矢面に立たされていました、そして宇宙人はひどく座っていました。不快感はほぼ均等でした。彼らは脱出した。

「中」とジョ シュアは言った。

存在するすべての人が中に軍隊を組んだ。彼らは座った。エスメレルダは一瞥して、コーヒーを飲むために部屋から少し出て行った。彼女のおじはコーヒーをととても必要としているようだった。

「まあ、ええと」とパプロは言った。

彼は座った。それから彼は再び立ち上がって、ポケットがたるみ、彼の動きに伴うカートリッジの鈍いカチッという音がした。

「まあ」と彼は言った。彼が言葉を失ったのはほとんど違っていた。スターは思いやりを持って見守っていた。彼の優しい声は励まそうとした。

「どうぞ、パプロ。あなたは友達の中にいます。」

宇宙から来た男は座って、黒い液本のカップを手にとって、それを飲まなかった。彼はその味が好きではなかった。彼の新しい先生は、アカシックレコードを通して彼を導くために、彼と話し始めたばかりでした。しかし、彼と彼の妹がこの惑星で実行することになっている使命についての不安感を彼が非常に意識するようになったのは、最初は十分でした。彼が見た小さなことから、この惑星はすべてである人と全く一致していませんでした。ポジティブな惑星ではありません。彼

彼が来る前に、この惑星がどのくらい負の分極に向かっているのかを知らなかった。今、彼の主な考えは、おそらく、これらの人々に奉仕するために彼がここでできることは何もないということでした。なぜなら、彼らが光からの分離を選択した場合、彼らは、惑星が享受していた極性を変えようとする惑星の集約的自由意志に対する明らかな侵害のように見えたからです。ここの彼の兄弟は彼らの知恵で奉仕することができました。彼らはここでネイティブであり、惑星の集約的な極性で適切な声を持っていました。しかし、彼の故郷は他の場所にありました。

彼の心は現在の状況に戻った。

パプロはついに、彼らが最初に知りたいことを少しはっきりと尋ねるのに十分な舌を見つけました。

「誰が彼女を誘拐したのですか？」 ジョ シュアは尋ねました。「ええと」

エスメレルダは宇宙から男に寄りかかり、パプロの肩を軽くたたいた。

「大丈夫です、パプロおじさん。私はあなたが何かに混乱していることを知っています。そういうわけで、私が入って来てあなたのオーラを見たその日、あなたは電話に出ていましたね？」

パプロは彼女を見ました。「はい。」

「それで、あなたも今日ニューヨークにいたのですか？」

「わかった。はい、エスメレルダ、そうだった。」パプロは深呼吸をしました、そして、不機嫌そうな混乱のいくらかは彼の表現を残しました。彼は全体の話をすることに辞任していた。宇宙から来た男がそれを聞かなければならなかったのは残念でした。エスメレルダがそれを聞かなければならなかったのは残念でした。しかし、彼らは宇宙から少女を見つけなければなりません。

「彼らは国内最大のハンディキャップ組織で働いていたと思います。」

ジョ シュアは少し戸惑いましたが、ショックを受けていませんでした。

「あなたのつながりは何ですか？」 "ギャンブル。馬。"

エスメレルダとジョ シュアの両方が今困惑しているように見えました。セオドアの表情は、彼をこの親密な交際を引き込んだ男の性格を再評価しているように、内向きに見えました。彼は、人間の性格に矛盾の余地がどれほどあるかを発見するのにやや若かったが、ヒーロー崇拜への傾向は少し多すぎた。これには時間がかかります。

"ギャンブル?" ジョ シュアに促した。

"それは正しい。私のお金のほとんどはトラックで稼がれています。" エスメレルダは唇をまとめて、それを整理しようとしました。

「では、あなたが行ったコンサルティングはすべて本物ではなかったのですか？」

「いいえ、それは正当なことでした。しかし、それは私を快適にするだけだったでしょう。私は快適以上のものです。私ととても金持ちですそれは約年前に始まりました。あなたは私が動物言語でやってきた仕事を知っています。

さて、約年前、動物の動機の複雑さを研究しているときに、興味深い詳細を見つけました。ジョ シュアと私は、他の動物の中でも特に馬を見ていました。」

ジョ シュアはうなずいた。彼はそれを思い出しました。彼は、パブロの動物研究の初期に、いくつかの異なる動物でパデエフスキーをかなり助けました。

「私は、レースの勝者に常に明らかであると思われる馬の1つの感性的な傾向を追跡できることを発見しました。最初は偶然に気づきました。それから私は興味を持ち、どんなレースでもすべての動物を観察した場合、勝利

ああ、たとえば、フィールドの半分がこの感性的な傾向を持っていることを発見しました。負けた半分はそうではありません。

「それで、私は自分の理論をテストするために、少しだけ賭け始めました。最初、私はかなりうまくやっただけで、10回のうち約10回勝ちました。それから私は使用した方法を改良し始めました、そして数年後、私は賭けるたびに私が勝つところまで平均が増加するのを見つけました。さて、去年まで貪欲になりませんでした。それからパデエフスキーは羊のように見えました-

私はかなり多額の賭けを始めました。それらを本で配置し、それらを周りに広げます。しかし、組織内の誰かが最終的に彼らがあまりにも多くのお金を失っていると推測しました。彼らはそれに男性を乗せて、私への資金の絶え間ない流れをたどりました。彼らは私を脅した。彼らが私に嫌がらせを続けたら、私は彼らを台無しにするだろうと彼らに言いました。私はそれをするのができました、あなたは知っています。特定の人に私の方法を知るだけです。今日はまさにそのことをアレンジするためにニューヨークに行きました。かなり複雑な取引決めであり、私が少し話し合った男性が後戻りしなければ、非常に容赦がありません。」

「あなたはそれをまったく止められないということですか？止めたら女の子を取り戻せますか？」ジョ シュアは指で髪をとかし始めました。

「止められないと思います。もちろん、試したことはありません。しかし、私はそれを止められないように設定しました。今のことは、女の子を自分たちで取り戻すことです。組織は彼女を手放すつもりはありません。私はそれを確言しています。彼らは私のお金を欲しがっていません。彼らはただ私を止めて欲しいのです。」

「まあ、やってみて、それを解きほぐしてください。」

パブロは大きく起きて、電話を使うために廊下に入った。彼は20分間電話に出ていました、そして彼は不機嫌そうに見えて戻ってきました。

「いいえ、止められません。とにかく、十分な速さではありません。」

彼は、快適な部屋の真ん中に、落胆した、不格好な姿で立っていました。

エスメレルダスイートウォーターのはりつけ

ジョ シュアは立ち上がった。

「それでは、私たちは自分たちで女の子を取り戻そうとしなければなりません。もちろん、彼らは彼女がエスメレルダだと思っています。」

エスメレルダは見上げて驚いた。それは本当に明白でした、しかし彼女はそれをそのように考えていませんでした。

ジョ シュアは彼女を見ました。

「エスメレルダ、あなたは私たちの兄弟を除いて、この誰よりも女の子に近い考えを持っています。考えて彼女に連絡してもらえますか？」

エスメレルダはその男を宇宙から見た。

「お姉さんを見つけられますか？」宇宙から来た男は目を閉じ、すぐに「はい」と言いました。「じゃあ、私たちが彼女に連れて行ってくれませんか？」

宇宙から来た男は、その質問が何を意味するのかわからず、混濁して黙っていました。

エスメレルダ自身が目を閉じて数分間座った後、ジョ シュの方を向いた。

「はい、できます。」

少なくとも、誘拐犯が少女を宇宙から連れて行った場所を見つけることができたようです。それが始まりでした。ジョ シュアは大きな正面玄関を出ました。

「さあ、行きましょう。」

彼らは一緒に家を出て、秋の夜の暗闇の中に、パブロはまだ武器を積んでいて、エスメレルダと宇宙から来た男は手をつないでいました。

第8章

「おばあさんを運転させてください」とジョ シュは言いました。

「あなたはうんざりしているように見えます、パブロ。」

丸い医者を目に見えてほつれていました、そして彼の目は倦怠感で覆われていました、彼の安堵の笑みで完全に失われました。

「あなたはそれをします、私の良い仲間。そして、彼女を舗道に置いておくように注意してください。この機会に後部座席で少し休憩させていただきたいと思います。これは本物の車であり、おもちゃの1つではありません。」

ジョ シュは見返りにニヤリと笑い、メルセデスの運転席に腰を下ろした。

「彼女が入るのに十分な大きさの道路を見つけることができれば、私はできることをします。」

セオドアとエスメレルダは後部座席でパブロに加わり、宇宙から来た男は右前部座席を提議されました。彼は妹について尋ねられて以来話をしていませんでした、そして彼とエスメレルダが持っていたつながりを除いて、彼の物理的な環境に気づかずにトランス状態で座っていました。

エスメレルダはとても静かで、集中して目を閉じていましたが、ドアが開き、エンジンを始動させたとき、ジョ シュは話しかけることができました。

「私たちはオフです、エスメレルダ、でもどこへ行くの？」

彼女は宇宙人を見て、ほぼ北東を指さした。「そのように。」

宇宙飛行士は簡単に同意した。

"わかった。"ジョ シュアは私道に沿って車を操縦しました。

「それは、高速道路が私たちをほぼ正しい道に連れて行くことを意味します。」彼は、アクセス道路から外れるまで最初の2つのギアで車を維持し、その後、車のバフのスムーズなアクションで3番目から4番目に車を運びました。エンジンはしなやかに反応し、その後落ち着いて巡航し、着実に喉を鳴らしました。ジョ シュアも落ち着き、肩をシートに向けて戻し、腕をまっすぐにしました。

「スタッフカーとしては悪くない」と彼はバックミラーでパブロを見て、眠っている教授を笑いながら言った。

彼は鏡をもっと注意深くちらりと見て、セオドアの目をとらえた。

「私たちはフォローされていると思います。」

セオドアは後ろの窓の外を見ました。

"君の言う通りかもね。その車は長い間私たちと一緒にいました。私たちが高速道路をオンにして以来、それはちょうどそこに座っていて、約0.5マイル後ろにありました。」

ジョ シュアはまだ彼のバックミラーを調べていました。「彼らは尻尾だと思いますか？」

セオドアはうなずいた。

「まあ、そうでない場合、彼らはそれのように見せようとしています。少しスピードを上げて、彼らが追いついていくかどうか見てみませんか？」

「そうするかもしれませんが。このはしけが何をするか見てください。」車が加速し続け、簡単に聞こえ、

120を超えてペグに向かったときでも、スムーズです。ジョ シュアは、アクセスが制限された高速道路に乗って以来、尻尾以外で最初に遭遇した、びっくりした眠そうなフォルクスワーゲンを通過しました。セオドアは座席で振り返り、2台目の車のヘッドライトを見ていました。

「彼らは私たちと一緒に、ジョ シュ。」フォルクスワーゲンは2台目の車の通過に非常に神経質になっていたため、緊急レーンに引き込まれて停止しました。

2台の車がまっすぐな灰色の道を弾丸のように過ぎたため、すぐに見えなくなりました。

パブロは突然目を覚まし、彼が落ち着いていた車の叫び声の速さをぼんやりと意識するようになりました。彼は、ぼんやりとした、半分開いた目で窓の外を見ました。目が広がった。彼は非常にまっすぐに、非常に速く立ち上がり、ジョ シュアに怒鳴りました。「あなたは私の車で何をしていますのですか、あなたはまっすぐな腕のマニアックですか？」

「ぶらぶらして、パブロ。」ジョ シュアは口の横から話していました。彼はあえて道路から頭を向けず、制限速度の2倍の速度で道路を走行していました。

「私たちがフォローされているので、私はブッシュしています。後ろを見てください。」

パブロは言われた通りにやった。「彼らは誰なの？」

ジョ シュアはその質問にニヤリと笑った。

「ワトソン、私があなたに尋ねようとしていたことだけです。私は悪いことをして撃たれた人ではありません。これらのジョーカーが誰であるかについて、あなたは何か考えがありませんか？」

パブロは再び見ました。

「いいえ、彼らが少女を誘拐したのと同じ人々でない限り。しかし、なぜ彼らは私たちをフォローしているのでしょうか？彼らはすでに彼らが求めているものを持っています。たぶん、彼らは私に圧力をかけるために複数の方法を試みています。」

「私たちは間違いなくフォローされています」とセオドアは言いました。

「聞いて、誰か地図を持っていますか？もし私たちが田舎道に乗ることができれば、私たちはそれらを失う可能性があるに違いありません。彼らの車はスピードがありますが、ジョ シュはハードカーブで彼らを失う可能性があると思います。」

パブロは宇宙飛行士の肩越しに手を伸ばし、ロードマップを見つけるまでグローブボックスを釣りました。彼はその上で彼らの場所を特定し、前方に見える可能性のある道路を見つけました。彼は地図をベールに見せた。「これはどう？」

「かなりいい。聞いてください、ジョ シュ、それは私たちが今いる場所から約10マイルなので、約分まで到着します。そこは右に曲がり、ほぼUターンします。最初の舗装道路のようです。わかった？」

ジョ シュアはうなずいた。「エスメレルダ、もっと南に行ってみませんか？」

「それはどちらの方法ですか？」ジョ シュアは指摘した。

「いいえ、それは正しい方法ではありません。そうです。」彼女は頑固にそして着実に北東を指さした。

ジョ シュアは少し振り返ってパブロに呼びかけました。「私たちが今行っている道に戻る方法がありますか？」

パブロが相槌した。

「はい、約30マイル後に、私たちを取り戻すカットオフがあります。でも時間を失うでしょうね」

「もちろんですが、私たちの後ろにいるこれらの鳥も失う可能性があります。それは試みに値します。彼らは危険かもしれません。」

パブロはうなずいた。

「その可能性は非常に高いです。」セオドアは考えを持っていました。

「エスメレルダ！」

彼女はかき混ぜた。"はい?"

「私たちがフォローしている人々について何か教えていただけますか？」

彼女は素直に目を閉じて集中しましたが、数秒以内に再び目を開きました。

「いいえ、私は彼らに近づくことができません。私は彼らを知りません、そして私が他の人々を拾うことができる唯一の方法は彼らが私の注意を呼びかけるか、彼らが私に精通していることです。すみません、テッド。宇宙から来た私たちの友人がもっと教えてくれるかもしれません。」彼女は再び少しの間目を閉じ、宇宙飛行士と一緒に再び目を開いた。

「この車をフォローしているエンティティについて、できることは何でも教えてください。」

宇宙から来た男はじっと座っていて、車が彼を動かしたときを除いて、まったく動いていませんでした。これは彼の絶え間ない習慣でした。彼は話したり考えたりするときに腕や手を動かしたことはありませんでした。彼の色白の顔は決して着色せず、彼のかなり広い口はいつでも笑顔以外の表現に移りませんでした。

セオドアの顔は絶え間なく動いており、広い口は動き、喜び、不安、思考の色は彼の薄い肌を急速に横切って動き、その色調は絶えず変化していました。その結果、カジュアルな観察者は、同じ身長と色を除いて、2人の男性がまったく似ているとは思わなかったかもしれません。今のところ、違いは特に明白でした。テッドは膝を後ろの窓に向けており、目は熱心で暗く、高い頬骨、寺院の筋肉、顎の緊張に興奮が溢れていました。宇宙から来た男は、エスメレルダの要請で目を閉じ、彼女の召喚で注意を向けるために開いた。それが彼の唯一の認識できる動きだった。今、彼のまぶたは彼の目の氷のような灰色がかかった青の上で閉じられました。彼の白い肌は、それが覆って保護していた筋肉と骨の骨組みの上に滑らかに横たわっていました。彼は集中して1分後に話しました。「2つのグループがあります。」

エスメレルダスイートウォーターのはりつけ

側近全体が彼を見るようになりました。 "どう言う意味ですか？エスメレルダは尋ねた。" "私たちの0.5マイル後ろに何人かの男性が乗っている車があります。これらは私たちが意味した人々です。私たちの後ろに私たちをフォローしている追加の人がいますか？" "はい。"

"では、何台の車が私たちをフォローしていますか？" "二。"

エスメレルダはパブロに目を向けた。パブロは困惑し、ほとんど不機嫌そうな顔をして座っていた。目はめちやくちゃになって、ジョ シュアの首の後ろを見ていた。

"それなら、それらすべてについて彼に尋ねなさい"と彼はエスメレルダに語った。

彼女は指示通りに彼に質問し、彼らは皆、さらなる憚りを待っていました。誰も来なかった。宇宙から来た男は再び彫像のように座り、目を閉じ始めた。

"待って、私の兄弟"とエスメレルダは言った。

"これらの人々について、これ以上何か教えていただけませんか？"

"いいえ。"

ジョ シュアはカットオフを見つけ、それに近づくために反対側の道路からほぼ離れたところに自動車を傾け、急ブレーキをかけて2番目にシフトダウンし、急カーブから加速して時速100マイル以上で車を押し戻しました。パデエフスキーは一瞬唖然としたようだった。

"ジョ シュ、私の代わりにこの車を運転してくれてとてもうれしいです。しっかりとした地面で人と向き合うのは構わないが、このことで死ぬのは怖い。"

セオドアはまだ後ろの窓に接着されていました。

"2台目の車が見えます"と彼は発表しました。ジョ シュアのスキルが、カーブの悪い側にある木の幹をかわろうじて通り過ぎて、かなりの大きさの丘の上に置いたのです。

"私は...パレードが大好きです"とジョ シュははっきりとした、共鳴する、そして明らかに不正確なバリトンで歌いました。彼らは、なだらかな丘を上り下りしながら、次々と曲がりくねって曲がっていました。これは確かに田舎道でした。

"私はそれが機能していると思います"とテッドは歓喜しました。

"少なくとも、どちらももう見えません。"

ジョ シュアは大きな車のハムチューンを作り、2つのミドルギアに忍び込み、スピードとハンドリングのどちらを選択するかが決定され、再決定されたときにバックアウトしました。

"認めざるを得ない、パブロ。あなたの車は、壮大なツーリングカーとしてはそれほど悪くはありません。"

車両の所有者は後部座席の張りに縮みました。

"運転するだけだ、ジョ シュ。運転するだけです。"

エスメレルダは笑っていた。「ジョ シュア、楽しんでいると思います。」
 ジョ シュアは楽しんでいました。彼はほとんど誰とも競争することはありませんでしたが、ここで状況が発生し、彼はそれを楽しんだ。安全と災害の間の彼のスキルだけで、死に近い横骨の挑戦は、彼が手に負えない感傷こいたことを忘れることができるという点に彼の興味を抱きました。彼は完全に楽しんでいました。彼の目の隅の皮膚は少ししわが寄っていて、彼は彼女につぶやきました。それはあなたの良いおじさんの死かもしれせん。」

彼は巧みにギアを下げ、ドリフトをかりうじて回避しながら、車を急カーブに滑り込ませた。2車線道路の片側に小さな牧場風の家が見えてきました。

「そのガレージに引っ張ってドアを閉めるのはどうですか？」パプロは言った。

ジョ シュアはうなずいた。

"美しい。天才の一撃!"彼は再びシフトダウンし、その場所の私道に引き込み、直接オープンガレージに引き込みました。彼はエンジンを殺し、ガレージのドアを閉めるために出て行った。彼は、追いかけている車が通り過ぎて道を消えていくのを、ドアの長い窓から見守っていました。とても肌寒く、とても田舎で、とてもしっかりした声が、「あなた方の誰も、一挙に行動しないでください」と言ったとき、彼らのほこりはまだ落ち着いていました。

まだ瞑想に没頭していた宇宙から来た男を除いて、彼らは皆、声の方向に向きを変えました。それは彼らの近くにあり、ガレージから小さな家に通じる網戸から来たようです。「その車から降りて、今は本当に簡単です。」

ドアが開いて、彼らは従いました、エスメレルダと宇宙からの男は最後に。抵抗の可能性についての考えはジョ シュアとパプロの心、さらにはセオドアの心を越えましたが、誰も残りを傷つけるチャンスを望んでいませんでした。しかし、5人全員がまったく抵抗することなく車のドアを閉め、次にガレージのドアを開けてガレージの前に並ぶように指示に従いました。

OK、リリー、あなたは彼らに銃を構えています。チェックしてみます。」時は過ぎた。次に、「この小さな太った人はポリバーを持っています。」パプロの高まる反対意見をめぐって、彼はそれを取り除いた。

彼らが彼を見ることができるよう、彼は初めて彼らの前を動き回った。彼はずんぐりした、血色の良い顔の真ん中の高さで、ほぼ禿げていて、耳の下の二重あごと深い首のしわによって完成した広くて肉付きの良い顔に、小さくて形の良い特徴が密接に構築されていました。"良い、

今。リリー、ここで何を手に入れたの？」リリーの答えは決して来ませんでした。なぜなら、彼らを追いかけていた車の1台が、失われた道を捨おうとして、丘を越えてパレルで戻ってきたからです。車の1人の乗員はグループを見ました、そして彼らの後ろに、メルセデス。彼は車を私道に押し込み、ガレージの前で方向転換するまでその長さを伸ばし、車のフロントバンパーがガレージの遠い角を指すように車の広がりや横切った角度を付けました。彼は男性の一人がリボルバーを持っているのを見ていました。車の彼の側に開いたドアは、男性が彼の武器を置くように説得できなかった場合、保護のために使用することができます。

ハゲ男は彼が守っていた5人から向きを変え、今や彼のリボルバーを侵入者の頭に向けさせた。彼の心には疑いの余地はありませんでしたが、この新しい到着はこれらの他の5人と同盟関係あり、彼を脅かすためにここに来ていました。車内の男は、反射行動で、リボルバーの銃身の印象的な穴が彼に水平になり、フロントガラスの下に隠れ、車のドアを開け、頭を窓の高さより下に保ち、自分のピストルをハゲ男に向けて持ち上げました。

彼は話し始めましたが、彼の判決も出されませんでした。なぜなら、車が駐車された角度で、リリーは自分が何をしているかを簡単に見ることができたからです。彼女は夫に対してピストルが上げられているのを見た。彼女は彼を守らなければ彼が殺されることを知っていた。そして侵入者が口を開いて連絡を取り合うと、リリーは銃の手をまっすぐに出し、もう一方の手で手首を握り、彼を撃った。男は不器用に車から落ちた。彼のピストルは彼の手から跳ね返った。彼は倒れたところから動かなかった。

禿げ頭の男はパプロのリボルバーをゆっくりと下げ、私道の向こう側で犠牲者を信じられないほど見つめた。彼はグループを振り返り、次に隠されたリリーを振り返った。

「あなたは彼を撃った。」

"うん。"

彼は途方に暮れて数秒間動かなくなった。

「彼らを覆っておいてください、リリー。誰もあなたから離れることはありません。リリーは死んだリスのショットです。彼女は見逃すことはありません。」

彼は、無秩序に広がった体が横たわっている場所に足を踏み入れ、それを車から完全に切り離し、リボルバーの準備を整えたまま、慎重に調べました。彼は男が落とした銃を手に取り、ポケットに入れました。それから彼は彼の隣に座り、彼女の網戸の後ろにあるリリーを見ました。「彼は死にました。あなたは彼を殺した、リリー。」

「私がいなかったら、彼はあなたを殺していたでしょう。」動揺のない声は、正当な憤慨の痕跡を残しました。

彼は新しく到着した死者に戻り、ポケットを通り抜け始めました。パブロの車からの5人はまだ手を上げて立っていて、ますます落ち着きを失っていました。パブロは誘拐について罪悪感を感じるのをやめました。彼はダメージを直すことに失敗したことに不満を感じるのをやめました。彼は本当の怒りの危機に瀕していた。ジョシュアは、特徴的に、十分な時間を過ごしていました。彼は、彼の上の緑と金色の葉を見上げて、テレビのために事件全体を精神的に書き直していました。「もし私がテープレコーダーしか持っていなかったら」彼は立っていたエスメレルダにつぶやいていた。セオドアは、この状況から抜け出すためのもっともらしい方法を考えようとしていました。宇宙から来た男だけがまったく動かずに続けました。彼は両手を上げて立った。エスメレルダは、この姿勢が必要であると彼に説明しました。彼の目はまだ閉じていて、彼の考えは宇宙からの彼の妹と一緒に、なぜならこれは彼のホストの最初の要求であり、彼は彼の物理的環境の状況に関係なく続けました。他の4組の武器は、持ちこたえられることに非常にうざりしていました。家の所有者は、死んだ男のポケットを通り抜けながら話しました。「私はこの郡の副保安官であり、自分の財産と共通の平和を守る権利を得たと思います。そうじゃない、リリー？」

"うん。"

リリーからの繰り返しの合意は、これから彼らを解放する彼の能力に対する誰かの自信を高めるために何もありませんでした。「私たちは本当にここで何かバスターを抱えていましたね、リリー？」セオドアは非常に穏やかに声を上げた。

「疑わしいことを何もしないと約束したら、手を下ろすことができますか？」

"いいえ。"

副官はまだポケットを通り抜けていた。

"どうぞ。これが彼の財布です。これらの愚痴ほどのギャングにいるのだろうか。そして女の子とも。本物に違いない..."男の健康的な色が顔に残した。彼は病気に見え、そして突然、病気になる。彼は身分証明書を読んだ。彼はそれを読み直した。彼は男の顔を見て、草の上に横たわり、生命を失った。

「リリー」と彼は、薄く困惑した尊厳を持って調子を整えた。

「ここには面白いことがあります。出て来い。」

リリーが来ました。リリーは曲がって見ました。彼女はカードを裏返し、もう少し見ました。「米陸軍の犯罪捜査部門とは何ですか？」彼女は夫に尋ねた。

「それはある種のコードですか？」

「ユリ、私たちは政府の男を撃った。」

副官は座った。一斉に、彼らは振り返り、空中で彼らに対して自重で立っている惨めな5人の腕を見ました。「さあ、見て」とパブロは言った。
「私はパブロ・パデエフスキー博士です。私たちはギャングではありません。」
「では、何が起っているのですか？この男はあなたを追いかけています、彼はあなたを捕まえようとしていましたか？」
パブロは、考えようとしていたときにいつもそうだったように、少しばかげているように見えました。「まあ、私たちは…」
パブロは困惑した。
「私はジョ シュアスターです」とジョ シュアは言いました。
リリーは彼を注意深く見ました。
「彼は真実を語っています、ヒューバート。私は彼をテレビで知っています。私は彼をテレビで何度も見ました。」
「彼は何ですか、ある種の俳優ですか？」
「まあ、正確ではありません。しかし、私は彼をテレビで見ました。」
"わかった。私たちはあなたの一人を特定しました。どうしたの?"
「最初に手を下ろしてもいいですか？」スターはリリーに話しかけた。
「レッツ、ヒューバート。」
彼らは大きな安堵で腕を下げ、宇宙飛行士は彼らの先導に従いました。
パブロは今話ししました。
「私たちはいくつかの重要な使命を担っています。私たちは軍人と同じ側で働いています。あなたは5人の私的でまともな市民を抱えています。言っておきますが、私たちは道に戻らなければなりません。」
副官は草の上こじっと座っていたので、リリーは彼に話しかけました。
「どうしたんだ、ヒューバート？」
白い顔の男は蒼白を通して話そうとしました、そして彼の声は彼の顔のように青白く、そしてはるかに薄くなりました。「彼は真実を語っていると思います、リリー。」
一言も言わずに、彼は座った姿勢から直立して家の中に入った。
リリーは彼の後に始めました。
「すみませんが、Hubertに問題があります。私は彼の世話をしに行かなければなりませんでした。」彼女はスターに目を向けた。
「私はあなたがギャングになれないことを知っていました、スターさん。テレビであなたに会いました。」彼女は、形のない、短く、そして無限に威厳のある人物である夫の後に家に入った。
ジョ シュア、パブロ、セオドアが車に走りました。エスメレルダは再び宇宙から男に連絡を取り、後陪を持ち上げた。彼らはドアを閉め、ジョ シュアはCIDの男のセダンの周りを操縦し、

メルセデスは私道を転がり始めます。ドライブの約半分の長さで転がっていたのは、乗員が「よし、その車を止めて手を上げて出て行け」という非常に馴染みのあるコマンドを聞いたときでした。

車が私道のふもとに引き込まれ、私道をふさいでいた。これらの新しい声を追い越そうとしても無駄でした。彼らを追いかけていた他の車は、私道を完全に塞ぐ位置にありました。ドライブの両側に急な溝があるため、行く場所がありませんでした。

ジョシュアは避けられないことに頭を下げ、車を眠りに戻し、パーキングブレーキをかけ、長い体を車輪の後ろの座席から外しました。他の人たちはそれに続き、最後のハンズアップでまだ疲れていた腕をよじ登り、持ち上げました。

二人の男が私道をふさいで車から降りた。そのうちの一人は、パプロを微笑みながら見ていました。友好的ではありませんが、認識に満ちていました。

「大佐、教会！」パデエフスキーの今では血まみれの目が彼の知人を取り込んだ。

「あなたはここで何をしているの？」

「常にサイの自信、パプロ。ただし、ここで質問します。クローズ大尉はどこ？」

パプロはガレージのそばの芝生で頭を体に向けて傾けた。

「それは私たちのしていることではありません、大佐。」

大佐は彼の同盟国を前進させ、「彼らを見てください」と彼に言いました。彼は長い私道を歩いて、不活性で傾向のある形のクラウド大尉に行き、生命の兆効がないか徹底的に調べましたが、何も見つかりませんでした。

「パデエフスキー、私はあなたがある程度の能力を持っているという個人的な印象を持っています。あなたの説明に耳を傾けることを保証します。」彼の声は、ピッチではありませんが、各単語で鋭くなり、音量が大きくなりました。

「しかし、米国陸軍の将校は死んでいます。そして、あなたがそれと何か関係があるのなら、あなたは長い間質問をすることはないでしょう。了解した？」

パデエフスキーは彼の頭をうなずいた。「ああ、そうだ。今、分かりますか ...」

「ちょっと待って。」大佐は家を見るようになった。「そこに誰かいますか？」

「はい、あなたのキャプテン・クローズを撃った女性と彼女の夫。彼は副保安官です。」

大佐は凜然とした不信感で少し目を細め、「ここで待つて、アームストロング」と言った。彼は慎重にドライブを上って家の前に向かって移動しました。しかし、財産の擁護の兆候はなく、彼は正面玄関に姿を消し、3分後に再び出てきました。

「私はあなた方全員を家に連れて欲しい」と彼は正面の階段から言った。彼らは全員、アームストロングのプロンプトで、正面玄関にドライブを提出しました。リリーが人口のために十分な椅子を生産したので、短い国内の騒ぎがありました、そして、明らかに大佐の命令に従って、副官とリリーは台所に戻りました。

「わかった、パデエフスキー。彼女は船長を撃った、大丈夫。ちなみに、代理人がまだ認めていなくても、演技をしていることがわかります。

では、すべてがどのように起こったかを説明してみてもいいでしょうか。」

パブロは、彼を克服することを脅かし続けた完全な倦怠感から立ち直り、彼をここに置いた一連の行動を正直に概説するという信頼できる仕事をしました。

「私たち5人は、あなたの男の死とは何の関係もない個人的な問題に関与しています。私たちは今朝早く家を出る緊急の理由がありました、そして私たちは出発後に私たちがフォローされていることを発見しました。私たちがあなたであることがわかった私たちの尻尾を逃げるために、私たちは脇道を取り、この私道に引き込みました。私たちがフォローしています。しかし、私たちがこれらの敷地内にいる間、副官は彼のリボルバーで私たちに脅し、私たちをここに留まらせました。それ以来、私たちはここにいます。そして、私たちの道にいることだけを望んでいます。」

教会はパデエフスキーの話を明白な信念で聞いていました。

「わかりました、それは正しいように聞こえます。しかし、ここで最も重要な項目を1つ省略しました。なぜそんなに急いで家を出たのですか、その夜の時間こそ？」

パブロの裏地の、やや油っぽい顔は、悔しさの表情を帯びていた。

「まあ、私はむしろ言いたくないです。」

教会は顔が暗く見え始めました。

「ほら、パデエフスキー。私はあなたにとっても辛抱強く待っています。しかし、男は殺されました、そして私はむしろあなたが言ったほうがいいです。

そして今。」

パブロは席に着いた。

「私たちが家を出たのは、あなたや信号隊、大佐とは何の関係もありません。しかし、私が私たちの使命をあなたに話すならば、それは私の友人の一人の命を危険にさらすでしょう。」

「とにかく、この男は誰ですか？」スターは知りたかった。

「私は彼の技術者といくつかのコンサルティング作業を行いました」とパブロは言いました。

「私たちは2年以上前に、数か月間一緒に働きました。」彼はゆっくりと動いて大佐の方を向いた。

「私はとても疲れています、チャーチ。しかし、私たちが私道に入る前は、これらの人々は私とは何の関係もありませんでした。私たちは厳密に私的な事柄に関心しています、そして私はすでに

…」

「殺人は私的な事柄ではありません！」大佐は立ち上がっていた。

「さあ、ここを見てください、パデエフスキー、あなたはそれを知っているかどうかにかかわらず、お湯の中にいます。私はあなた方全員を殺人の重要な目撃者として閉じ込めさせることができます、そしてさらに、私たちが十分によく見るならば、私たちはあなたとあなたの党が事件全体を引き起こしたことを発見するでしょう、そして非難されるべきですキャプテン・クロースの殺害にも。今、あなたは私と一緒にきれいになります。」

パブロは下唇からもう少し肉を取り出しました。

「難しさを話したら、それが本当に私が言っている真実であり、これは私的な問題であることがわかった後、誰も自白を繰り返さないことを約束しますか？」

「それが事件に密接に関係していなければ、私はそれを秘密にしておくことを約束できると思います。」

「わかった。」パブロはしぶしぶ口を開いて話し、ジョシュの方を向いた。ジョシュは「パブロ、あなたにできることはそれだけだ」とうなずいた。

パブロが始まりました。

「ご存知のように、私は金持ちの大佐です。私は誘拐の試みの成功の犠牲者でした。彼らは私の姪、エスメレルダを手に入れていると思っていましたが、残念ながら彼らは私たちが昨夜家に滞在していたゲストを彼女と間違えました。彼女は危険にさらされている可能性があると考えているため、ゲストのところに行き、彼女を引き換えようとしています。」

「あなたのタイヤを撃ち抜いた人々。彼らは誘拐犯ですか？」大佐は尋ねた。

パブロはうなずいた。

「私たちはあなた、パデエフスキー、そしてあなたと私が一緒に取り組んだプロジェクトに関係するすべての人を見守ってきました。私たちは、誰かがそのプロジェクトに残業していたという情報を得ました。反対側のために。そして、私たちがあなたを注意深く見たとき、私たちはあなたとシンジケートの間に何らかのつながりがあることを発見しました。」大佐は待っていた。

「ほら、大佐、つながりがあります。しかし、それはあなたの人々が取り組んでいるケースとは何の関係もありません。私は誰も秘密を売っていません。

それに、売るものはないと思います。テレパシーは、軍用に開発することはできません。」

「では、シンジケートとどのような関係がありましたか？」

"ギャンブル。"大佐の眉毛が再び上がり始めたとき、パプロは急いで付け加えました。ある種のシステムを理解したばかりで、シンジケートが思っていた以上の勝手を収めました。それで彼らは私を捕まえるために出かけました。」

"おー!"エスメレルダは言った。彼女は突然、激しく動揺して立ち上がった。

「私たちの友人は大きな危険にさらされています。そして、私はもう彼女を見つけることができません！」

"何?"大佐は言った。

エスメレルダはすぐに気づき、顔を赤らめながら床を見ました。彼女は腰を下ろした。

大佐はパデエフスキーを見ました。「彼女は何について話しているのですか？」

グループは舌で縛られているようで、エスメレルダと宇宙からの男を見て、それぞれの顔に最大の関心を示していました。大佐は再び無愛想に立ち上がった。

「Sgt. アームストロング、本部に電報して、この問題を処理するために誰かを送ることができるかどうかを確認してください。ここではこれ以上それらを利用するつもりはありません。」

"見て。"パプロも今立ち上がっていた。

「私はあなたに絶対的な真実を語りました、チャーチ。私たちはあなたの信号隊とは全く関係がありません。あなたの人々への脅威はまったくありません。私は秘密を明かしていません。そして、これは非常に深刻です。私の姪が私たちに言ったことは、誘拐された少女は今や私たちが思っていたよりもさらに大きな危険にさらされており、彼女は彼女との接触を失ったということです。」

「連絡が途絶えましたか？」大佐は、ドレス、薄手のコート、サンダルを履いたエスメレルダを見つめていました。「パデエフスキー、彼女はテレパシーを使っていますか？」パプロは急いだ。

「はい、彼女にはテレパシーの才能があります。軍用には使えませんでした、確かに。彼女は今それを使って誘拐された少女と連絡を取り合っています。私たちはあなたを裏切ったり、脅威を差し控えたりしようとはしていません。非常にひどいことに、私たちは道を進んでいる必要があります。それは生と死の問題です。私たちは去らなければなりません。」

「それは生と死の問題だと私に言う必要はありません。あなたはただ男を殺した！」

「しかし、私たちは彼を殺しませんでした！」

「まあ、あなたがそれに対して責任があるように私には見えます。」

「私たちの1人が後ろにいて、私に言って、あなたの質問に答えてあなたに協力するならば、残りは続けることができますか？あなたは私たちを助けることができないことを知っています。政府や警察の人々にはできませんでした。私たちは民間人として自分たちでそれをしなければなりません、さもなければ女の子を殺す危険を冒します。そして、私たちは今それをしなければなりません。」

宇宙から来た男を除いて、この時までに部屋の誰も立ち上がっていた。全員がパブロの提案を支持していた。軍曹は電話に向かって動いて停止し、警戒心と敵意を持って戸口に立っていた。彼は部屋全体がクックが犯罪者のどちらかで満たされていると確言していました。大佐の目は一人の着席した人物を捕らえた。

「あの男は誰ですか？そのように目を閉じて何をしているの？」

パブロは急いで話しました。

「彼はテレパシーの才能を持っている私のもう一人の友人であり、譏笑された私たちの友人を見つけようとしています。」

「あなたの名前は何ですか？大佐は宇宙からその男に近づき、彼に話しかけた。彼は、故意ではなく、彼が話しかけられていることに気づけなかったために無視されました。

「ああ」とパブロは言った。

「彼は私の友人であり、俳優です」とジョーシュアはエスメレルダのそばに移動し、彼女を宇宙から男に向けて非常に優しく指さしました。

「そして、あなたはだれですか？」「私はジョーシュアスターです。」

昼間のテレビの愛好家ではない大佐は感銘を受けませんでした。

「私はテレビで働いています。」

「まあ、この男はあなたの友だちどこにいるか知っていますか？」エスメレルダは話しました。「いいえ、彼はしません。」

「まあ、どうやって知っているの？彼に言わせてください。これは何ですか？彼は自分で話すことができませんか？」

エスメレルダはその男を宇宙から召喚し、彼の目はすぐに開いた。

「私の兄よ、あなたがあなたの妹について知ったことをここでこの男に話してください。」

宇宙人は、水平な目が大佐の視線に当たるまで、静かに頭を向けました。

「私は姉とは考えていません。」

「それは行為です、大丈夫です。」軍曹は、これらの人々が完全に横たわっていて、しっかりした手を必要としていることを彼自身の満足に決断して、今部屋に戻ってきました。

「大佐、私は彼ら全員を警察本部に送り、しばらくの間彼らにかかとを冷やしてもらおうと言います。

それは彼らにこのようなものを治すでしょう。」パデエフスキーはチャーチ大佐の喉に跳ね返りそうになった。

「いや、いや、そうしないでください。」ジョーシュも前進していました。エスメレルダは心配して泣く準備ができている兆候を見せていました。セオドアはエスメレルダの肩を抱えて軍曹に話しかけ、「私たちは行動していません。これが本当こ...」と大佐が

再び青ざめたが、各頬に斑点が見られたが、それは彼が以前と同じように動揺していることを示していたが、完全に制御不能ではなかった。

宇宙から来た男は声を上げずに混話を切り抜けた。彼はまた立ち上がって小さな居間のドアに向かって歩いた。

"どこに行くの?"大佐は男の邪魔をした。宇宙人は大佐の大佐をそこにいないかのように静かに通り過ぎ、大佐は啞然として彼を拘束することができなかった。男はドアを出て階段を下りた。

大佐は彼が行くのを見ていた。ほぼ完全に信じられない状態で、彼は「やめろ、つまりやめろ!」と飛び散った。

その姿は、揺るぎなく、急いで歩きました。

「パデエフスキー、彼を止めさせなさい。彼をやめるように言いなさい。私は彼を撃たなければならないでしょう。」

「ああ、ちょっと待って」とパデエフスキーは言った。宇宙人が歩いた。

エスメレルダは正面玄関をぼんやりと見ながら立っていた。セオドアは彼女の肩を横に振った。「エスメレルダ!宇宙人を止めなさい!」

大佐は振り向いた。「何?どういう意味ですか、宇宙人?」

「ええと」とベールは言った。

大佐はその小さな質問を脇に置いた。

「やめなさい、やめなさい、さもないと撃ちます。」

男は歩いた。

大佐はピストルを上げて宇宙飛行士に向け、慎重に動かして少し持ち上げ、弾丸が男の右側、頭上に10フィートほど送られるようにしました。彼は解雇した。男は小枝を折るよりも音に注意を払わなかった。彼は歩きました。開いた窓から別のショットがありました。宇宙から来た男は地面に倒れ、動かずに横になりました。

大佐は左を向いてSgtを見た。試合を行うアームストロング

.45、使用済みのケーシングがポーチから転がり落ちる。「ばかだ」と彼は叫んだ。

「私は彼を殴るつもりはありませんでした。私はただ彼に警告していました。」

軍曹は大佐をまるで感覚を失ったかのように見た。

「しかし、サー、あなたは彼に警告しました...」

大佐は、宇宙から彼と男との間に横たわり、静止画の横にひざまずいて、階段と数ヤードの芝生を取りました。

形。彼は耳を男の背中に向け、手首を握った。生命の兆候はないようでした。パデエフスキーとジョ シュアの両方が大佐の階段をたどろうとした。

"持つ。"軍曹は彼の45で動いていました、そしてそれは彼が明らかに使用する準備ができていました。彼らはそれを開催しました。

大佐はパデエフスキーのように疲れたように見える階段を上った。

"仕方がない。彼は死にました。"彼は台所の椅子に倒れた。パデエフスキーとジョ シュアもそうだった。

「彼のところに行ってもいいですか？」エスメレルダはセオドアの慰めの腕を振り払った。彼女は実際に銃撃が行われる前よりも落ち着いているようだった。

「いいえ」と軍曹は言った。

「もちろんです」と大佐は言った。

軍曹の銃が下がった。エスメレルダはフロントポーチの階段を下りて宇宙飛行士のところへ行きました。

大佐はセオドアに目を向けた。「あの男を宇宙人と呼ぶとはどういう意味ですか？」

「ああ」とセオドアは言った。「彼はただの俳優で...」

大佐は片手で沈黙するように彼にジェスチャーをし、彼の目をパデエフスキーに向けた。

「ちょっと待って、ここ、パブロ。」彼は座って少しの間彼を熟考した。

「あなたが知っている、誰かがそれをする事ができれば、あなたはそうすることができた。」

エスメレルダは玄関網戸を開けた。

「大量のスペースを一掃できれば、彼を救うことができます。」

"何?"大佐の声は信じられないほど上がった。

"彼は死にました。"いいえ、待ってください」とパデエフスキーは言いました。

「彼女が彼を救うことができると言うなら、彼女はそうすることができます。」彼は椅子に腰を下ろし、前に座って考えました。「大丈夫、教会」と彼はついに言った。

「私たちは別の惑星からの男、エイリアンを持っています、そしてあなたの男は彼を撃ちました。しかし、エスメレルダは、彼女とスター氏にやらせれば、彼を救うことができると言っています。彼らに彼を救う自由を許してくれませんか？」

「ほら、パデエフスキー、死者を再び生き返らせる方法は世界にありません。ある？」

大佐は座って、これは本当に宇宙から来た男かもしれないとの夜明けの考えによって一時的に停止しました。

「この惑星の誰のためでもない、大佐。しかし、この男は私たちが持っているとは思わない癒しの方を持っています。そうですか、エスメレルダ？」彼女はうなずいた。

"はい。私たちがしなければならぬのは、その否定性のあるボリュームのスペースを一掃することです。彼はまだ銀の紐を切断していません。」

「すみません、大佐」と軍曹は言いました。「しかし、これらの人々はあなたに何かをかけようとしていると思います。」
「聞いてください」とパデエフスキーは言った。
「これがうまくいくのであれば、私たちは迅速に行動しなければなりません。」
"良い。"大佐は優柔不断で動けなくなった。
「彼が本当に宇宙から来たのなら、私は彼を取り戻す機会を失いたくありません。」
「彼を救わせてください。」エスメレルダは彼に寄りかかって、目を懇願した。大佐は動いて、彼の決心は固まった。
"わかった。彼を家に連れて来なさい。"エスメレルダは大佐に近づいた。
「いいえ、家ではありません。ここではありません。
ここ数分以内ここで発生する負の振動は
タスクを不可能にするのに十分です。適度な振動の場所を見つけなければなりません。」
大佐はパデエフスキーを見ました。
「彼女は何かについて話しているのですか？」ジョ シュアは質問に答えました。
"それは複雑です。それはただの別の種類の薬です。"
「じゃあ、彼を病院に連れて行きます。」
エスメレルダはその提案に非常に強く反応し、彼女の手を恐怖に陥れ、「ああ、いや。それはすべての中で最悪の場所になります。それらすべての否定的な星。彼らは病院の精神面に浸透し、苦しみを食べます。」
「彼女は何かについて話しているのですか？」大佐を繰り返した。
「彼女が話し続けているこの否定性は何ですか？」
「私たちは彼を少しだけ屋外に運ぶことができますか？」エスメレルダは、「彼を戸外に出させてください。あなたは私たちを見ることができます。わかった？お願いします？」
大佐は腕を振った。
「大丈夫、大丈夫。しかし、私はすぐ後ろにいるつもりです。私を馬鹿にしないでください。」
BehrとStarrはすぐに倒れた男に移動し、彼らの間で彼をそっと持ち上げました。エスメレルダはドアから軽く走り出し、家の裏側の空き地に降りてきました。アキノキリンソウと最後の野生の花でほぼ覆われた、小さな荒削りの空き地がありました。
「彼をここに連れてきなさい。」
彼らは彼を注意深く抱きしめ、最も密集した花の中に彼を置きました。
「戻ってください。」エスメレルダの手が大佐にパデエフスキーをさらに坂を上った。
「家で待ってくれませんか？」

「お嬢様、私はさらに一步戻るつもりはありません。私を馬鹿にしないように言った。」
エスメレルダは彼を見て、ジョ シュアの方を向いた。
「彼は今、十分に戻っていると思いますか？」
ジョ シュアは肩をすくめた。
「彼をさらに動かすには時間がかかりすぎるかもしれません。私たちは管理できると思います。」
大佐は斜面に座り、パデエフスキーとセオドアはさらに引退し、小さな家の後ろの階段に座った。ジョ シュアとエスメレルダは数フィート離れて歩き、翌日の最初の薄暗い光を見上げ始めました。

チャプターナイン

大きな男は女の子をキャデラックの後座席から連れ出し、キャデラックではなく、豪華で最高の快適さのために設備された豪華な別荘に彼女を運びました。建築、暖房、多くの木製パネルと目に見える垂木、手入れの行き届いた屋外と湧水湖の景色を望むガラスの壁がありました。

大きな男は彼女を厚くカーペットを敷いた火の前のエリアを横切って主寝室に連れて行った。彼は彼女をベッドに横たえ、部屋から素早く出て、後ろのドアを閉めた。その小さな男は鍵を持っていて、彼はそれを使って寝室のドアをロックし、次に彼女に最も近いコーヒーテーブルに鍵を置きました。窓を閉める必要はありませんでした。彼らは寝室の窓を釘で閉め、外側から型枠を閉めることでこれに備えていました。寝室のドアは外側が板紙で覆われていたので、隙間から光が見えませんでした。部屋には十分なバスルームがありました。小型冷蔵庫も走っていました。ミルク、パン、チーズ、コールドカット、その他いくつかの食品がすべてプラスチック容器に入っていました。彼らは人質を見たり話したりするつもりはありませんでした。彼らの命令は単に彼女をここに連れてきて、さらなる指示を待つことでした。

彼らがやったこと、そして今やろうとしていること。そして、彼らは居間の快適な家具に落ち着きました。しかし、彼らは多くの確証を持って解決しませんでした。彼らはお互いをじっと見つめていました。一人の大きな男は、力強、造られ、天候に打たれ、経験豊富な顔をしていました。もう1つは非常に小さいフレームであるが非常に見た目が悪く、顔は特大のくちばしのような鼻で占められており、鼻から胸への顔の後退で波紋以上のものを認めただごによって償還されませんでした。

その子は鼻から話しました。

「さあ、マープ、今ここから出よう。いくつかの家具をドアに立てかけ、ロックを解除することができます。彼女が目覚める前に、私たちは何マイルも離れていて、ドアを開けることはほとんどありません。今年のこの時期、これは湖で誰もが入る唯一の小屋であり、たとえ彼女がそのように行かなくても、最寄りの町は徒歩1時間の距離にあります。」

その大男はため息をついた。

「最近は何も助けを得ることができません。私たちがそれを引き受けて以来、あなたはこの仕事に夢中になっています。」

「まあ、私は以前に謝罪されなかったこととは何の関係もありませんでした。」

「見て。私たちはこの仕事を請け負いました。さて、もしあなたがこの世界で前進するつもりなら、あなたは賢くなければなりません。パッケージを引き抜くと、

それは私たちのポケットの中のお金になるでしょう。私たちは女の子を手に入れました、そして私たちが彼女を手に入れる限り、私たちは素敵な小さなバンドルを手に入れるつもりです。」

「私は知っている、私は知っている」と小さな男は鼻で言った。

「しかし、警察はどうですか？」

Padeyevskyが私たちを見た場合はどうなりますか？その時、警察は確実に私たちを襲うでしょう。」

「そもそも、パデエフスキーは私たちを見ることができなかつたでしょう。しかし、彼が持っていたとしても-

ちょっと待ってください。考えさせて。"彼は精神的な仕事に取り組んで座っていた。

「その場合、とにかく手遅れになるので、私たちは単に女の子を捨てて離脱します。ここでしばらくしっかり座ってみましょう。ここでは十分に安全です。」

大男は起き上がり、居間の照明スイッチに行き、主寝室のものを除いてすべての家の照明を消した。

それから彼は居間と寝室をつなぐ壁の絵を回転させた。写真の後ろには小さな穴がありました。それを通して、彼は彼らが彼女を去ったのと同じように、彼らが譫児、安らかに眠っている少女を見ることができました。彼は彼女を1、2分見守った後、声を出して息を呑んだ。「Sweetwaterの女の子はいません。」

「イエス」と小さな男は言いました。

「どういう意味ですか、Sweetwaterの女の子がいませんか？」

「つまり、Sweetwaterの女の子がいらないということです。」大きな男は写真を元の位置に戻し、電気をつけました。

「ここに」と彼は言って、小さな男にスナップショットを見つけて手渡した。

「これはSweetwaterの女の子の写真です。彼女の髪を見てください。前髪、そうです。さて、私たちが得た女の子は前髪がありません。そして、誰も1日で3フィートの髪を育てたことはありません。その上、彼女の顔を見てください。同じ女の子ではありません。自分で見て。」

彼らは明かりを消し、小さな男は小さな穴を通して見ました。厳粛に、彼は見た。ゆっくりと、彼らは再び明かりをつけて座った。二人の女の子の類似性は顕著でしたが、それらの違いはそれほど明白ではありませんでした。彼らにはSweetwaterの女の子がいませんでした。

「イエス」はその小さな男に申し出た。

「私たちは汚されています、マープ。外に出よう。」

「ちょっと待って、考えさせてください。上司に電話します。」

彼は電話に向かって歩き、長距離ダイヤルした。すぐに答えがありました。彼は楽器に話しかけた。

「私たちがパッケージを受け取りました。しかし、私たちが間違えました。パッケージが間違っています。」

"何?"反対側の声があった。

「そうです」と大男は言った。「非常に似ていますが、パッケージが間違っています。」

4分間の休止がありました。その後、声が戻り、すばやく話しました。

「あなたは彼女をパデエフスキーの家に連れて行ったのですか？」

"それは正しい。"

「それからパッケージを持ってください。それは同じくらい良いかもしれません。」接続が閉じられました。

「イエス」と小さな男は言いました。

「私たちはここから出なければなりません、マーブ。」彼は大男が電話をフックに戻すのを見ていた。

「上司の言うことは気にしない。私はこれのどれも好きではありません。」彼は厨房に迷い込んで、2杯の水道水を持って戻ってきました。

"聞く。あなたは私の役目を果たします。私は行きます。私はこれまで誘拐をしませんでした。私はこの誘拐の一部を望んでいません。つまり、イエス、マーブ。それは私のラインから外れている、この誘拐。誘拐に巻き込まれたくないのです。」

「あなたはすでに参与其中です。黙れ。」その大男は手にある半分空のグラスの水を見て顔をしかめた。「今、あなたは私に水を飲ませてくれました！」

エルモはおとなしくグラスをキッチンに戻しました。

「私たちは大丈夫だと思います」と、小さな後退した人物の後に大きな男が叫びました。

「上司は電話で興奮しているように聞こえました。」

「イエス」と小さな男は言いました。

「私に必要なのは、もっと興奮することだけです。」

「エルモ」とドアの向こうから女性の声が聞こえてきました。小さな男はジャンプして、シンクの磁器にグラスを置いたときにグラスをガタガタと鳴らしました。

「イエス」と彼は言った。"あれは何でしょう?"

実際、目覚め、数分間静かになってから、現在の仲間とコミュニケーションをとる時が来たかと判断したのは、宇宙から来た少女でした。彼女は環境の変化に戸惑いました。彼女は彼女の新しい友人の家で眠りについて、そして彼女がどのようにここに来たのか、あるいはこれらの実体は誰であるのかについての考えを持っていなかった。さらに、彼女は簡単な調査の結果、彼女のこの新しい住居には、開かない窓と彼女に閉じられたドアがあることを発見しました。これを彼女は理解するのが全く不可能だと思った。そして、隣の部屋にいる二人の心は彼女に全くなじみがなく、彼女は思考の関係を確立するのにまったく運がなかった。彼女は今、口頭でのコミュニケーションを使うのは非常に苦手でしたが、それを試さなければならないと結論づけました。

しかし、彼女はどのようにしてそのようなコミュニケーションを開始したのでしょうか？彼らの注意を引くために、彼女は、実体を互いに分離する奇妙な惑星の習慣、名前による挨拶の習慣を使用することが適切であると判断しました。彼女は、これの各住民の場合のように、それを発見しました

彼女が出会った表面では、名前は個人の意識に深く根付いていたので、彼女はこれらの男性の文字化した考えからさえ、彼らの名前を抽出することができました。彼女はそれぞれの名前であると想定した強い思考回路を手に入れ、最初に短い男性にかなり大声で口頭で話しました。

大きな男が言ったように、小さな男は自分自身を集めようとして、「彼女はどのようにあなたの名前を知ったのですか？」

「知らない。全くわかりません。イエス様、マーブ、私たちは仕事で本名を使用しませんでした。エイリアスを使用しましたが、エイリアスについても言ったことはありません。」

「まあ、やるべきことはたった一つだけだ」と大男は感傷的に言った。

「何が起きているのか調べてみましょう。彼女に答えなさい。いいえ、ちょっと待ってください。考えさせて。」

私はもっと良い考えを持っています。彼女に答えます。」

彼は寝室のドアの方を向いた。「ええ、あなたは何が欲しいですか？」

「ああ」と宇宙少女は言った。

「私はエルモと話しましたが、あなたと話すことができうれしいです。」

二人の男は数秒間彼らの皮膚の中に凝り固まって座っていた。彼らはお互いの混沌の霧の中からお互いを見つめていました。

「イエス」はついに2つのうち小さい方を提供しました。

「私たちは何をするつもりですか？彼女が私の名前をどのように知っているかを知る必要があります。なぜなら、イエス、マーブ、彼女が私の名前を知っているのなら、私たちは彼女が何を知っているのかわからないからです。つまり、彼女は私たちのことをすべて知っているかもしれませんが、彼女がどこで彼女の情報を入手したかを知る必要があります。」彼はパニックの中で言葉をどんどん近づけていました。

「つまり、イエス、マーブ、what are we gonado？」

「落ち着いて」と大男は言った。

「そういうわけで、あなたはこのビジネスで決して前進しませんでした。あなたはパニックになります。ちょっと待って。彼女がどれだけ知っているかを調べます。」彼は寝室のドアまで歩いて行った。「ねえ、」彼は叫んだ。

「どうしてショーティの名前を知ったの？」

「それは明らかです」と彼女は答えました。

「さあさあ。彼の名前をどうやって知ったの？ここで何が起きているのですか？」

少女は寝室のドアの横に立って、男が彼女に何を尋ねたかを理解しようとした。彼女は彼の最初の質問に答えようとしていましたが、彼が再びそれを尋ねたので、彼女は明らかに失敗しました。彼女は2番目の質問を理解できませんでした。慎重に考えた後、彼女は彼らの会社に参加したいという彼女の願望を言葉で表現することに決めました。

「私の現在の環境は制限されています」と彼女はドアから叫びました。

「イエス」と小さな男は言いました。「彼女は本のように話します。」
「バカ。彼女は、高級言語を使用する高級女性の1人にすぎません。」
「イエス」と小さな男は言いました。
「彼女が私の名前を知っていれば、私たちがどのように見えるかを知っているかもしれません。」
「ちょっと待ってください」とマーブは言いました。
「考えさせて。彼女が何を知っているかを見るだけです。」彼はドアを通して話しました。
「私たちはどのように見えますか？」宇宙少女はこの質問を理解できず、返事をしませんでした。
「あれ、ほら？」と大男は言った。
「彼女は私たちを見ていませんでした。」彼は再びドアの方を向いた。
「髪の色は何色ですか！わかった？」彼は叫んだ。
「ブラウン」と彼女は言った、男の精神的に投げられた答えを拾い上げた。
「私の目はどうですか？」彼は考えた後、尋ねた。「ブラウン」と彼女は言った。
彼は2つの正解に非常に困惑していました。彼は別の椅子に歩いて行き、小さな男のすぐ近くに座った。「彼女は誰かのために働いているに違いない」と彼はささやいた。
「多分私たちは何かのために準備されたと思います。」
「あなたは私が誘拐とは何の関係もなかったことを知っています」と小さな男は言いました。
「まあ、それは正確に誘拐ではありません」と大男は言いました。
「私たちは身代金を要求していません。」
「それは同じペナルティを伴います」と小さな男は言いました。
大きな男は座って、目に見えて、彼の顔は赤く、しわが寄っていると思いました。長い間休止した後、彼は小さな男に言いました。イニシアチブはありません。」彼は寝室のドアに歩いて行き、新しい目的と方向性を身に付けました。
「OK」と彼はドアから叫びました。「私の名前は何ですか？」
「マリオンパーシバルバートマン」と少女は言った。
「イエス」と小さな男は安心して言いました、「彼女はそれを正しく理解していませんでした。」大きな男はエルモに直面するために回転しました。彼は殺人に見えた。
「誰かにそれを言わないでください、あなたは私を聞きますか？」彼は怒鳴った。
「イエス」と小さな男は言いました。「それがあなたの本名ですか？」
「あなたは誰にでもそれを伝え、あなたは死んでいる男」と彼は叫んだ。
くちばしの鼻は、理解を示すために急いでそして熱心に上下に揺れました。

「まあ」と大男はやや冷静に言った、「彼女は私たちを冷たくしました。彼女がどこで彼女の情報入手したのかはわかりませんが、ここでは何か怪しいものがあります。私たちは何かをしなければなりません。ちょっと待って。考えさせて。考えさせて。銃をジャンプしないでください。だから、エルモ、このビジネスでどこにも行けなかったのです。あなたはいつも銃をジャンプします。ちょっと待って。誰も私の本名を知らない、誰も知らない。誰も私を呼ばなかったので、私はそれを試した人をだまし取るのに十分な大きさになったので。私の母を除いて、誰もその名前を25年間聞いたことがありません。」

「あなたのお母さんが生きていたとは知りませんでした」と小さな男は言いました。「うるさい。考えさせて。彼女は彼女の後ろに強力な誰かを持っている必要があります。ショーティ、私たちは深刻な問題を抱えているかもしれません。」

「私にそれを呼ばないでください」と小さな男は言いました、「または私はあなたをパースバルと呼びます。」小さな男のくちばしの鼻にほぼ関連したラウンドハウスの打撃があり、彼は叫びました。あなたが私を殴ったらあなたは私を殺すでしょう。」彼はソファにつまずいた。

「聞いてください」とマーブは彼の後ろのコーヒーテーブルを乗り越えて言った。「あなたが私にもう一度それを呼ぶなら、私はあなたのしわが寄せた首を...まで絞るでしょう。」

「マリオン」と女の子の声が聞こえてきました。

「イエス」と小さな男は言いました。どうするの?どうするの?」

「ちょっと待って。私は考えています、私は考えています。」大きな男の口と額の周りの緊縮線が固まり、赤くなった。

「わかった」と小さな男は言った。

「廊下に進んでいる間、ここから出ましょう。ここで何が起きているのかわかりません。」

「見て」と大男は言った。

「だからこそ、あなたはこのビジネスに参加することができませんでした。あなたはやめた。あなたはあなたの脳を使う方法を知ません。黙って考えさせてください。」緊張した沈黙があり、そこから大きな男は、思考が常に彼に与えた新たな力の表情で浮上しました。

「私は彼女を部屋から出させます。そして、私たちは彼女がどれだけ知っているか、そして彼女が知っていることをどのように知っているかを知りたいです。」

「イエス様、彼女は私たちに会います」と小さな男は言いました。

「バカ。彼女は私たちがどのように見えるか、そして私たちの本名をすでに知っています。彼女はおそらく私がどこに住んでいるかさえ知っています。」

「22サウスパークドライブ」は、ドアの後ろから、自動的に送られた考えを拾い上げた、よく映し出された宇宙少女の音色をもたらしました。

大きな男はコーヒーテーブルから灰皿を拾い上げ、それを居間の内壁に投げつけました。そこで、それはその終焉の非常に騒々しいビジネスをしました。彼は瓦礫を眺みつけた。彼の靴に落ちたフィルターチップがありました。彼はそれを始めた。小さな男はさらにソファのクッションに戻った。

「イエス、マーブ。外に出よう。」

私道を上ってくる車がありました。彼らは両方ともそのエンジン音、砂利の上のタイヤのクランチに気づきました。マーブはその小さな男を二重に見たが、彼は明らかにそれが誰であるかを知らなかった。彼はほとんどソファに溶け込んでいて、急速に崩壊しつつある状況に不安を感じて、無意味で役に立たなかった。

「さあ、エルモ、多分それは組織の誰かです。」マーブは緞帳に行き、彼の目が見える場所を作るのにちょうど十分にそれらを引っ張った。車は新品で、水色の4ドアフォードで、バンパーにレンタカーのステッカーが貼られていました。それから抜け出す男は、マーブが誰も知らなかった。彼は40代前半のようでした。彼はポーチに現れ、彼のノックはドアに軽響いた。

「イエス」とくちばしの男は言った。「私たちは何をするつもりですか？」

「ばかげている、私たちは彼を入れるだけだ。彼はおそらく組織にいるだろう。他に誰がその場所について知っているでしょうか？その上、彼は1人だけで、私たち2人がいて、銃を手に入れました。女の子に黙るように言いなさい。」エルモは寝室のドアに行きました。「そこに黙れ」と彼は半分ささやきながら言った。

彼女は答えなかった。マーブは自信を持って足を踏み入れた男への扉を開いた。彼がその場所を所有しているように見える、と大男は思った。

「トロストリックは私の名前、マーブです。JE

Trostrickあなたとエルモはここで物事をかなりうまくコントロールしていると思いますか？」

彼は握手を求めて手を差し出した。

マーブは手を見ていた。彼自身の右手はコートポケットにあり、コルトのお尻の周りにぴったりと閉じていました。彼はピストルを手放すつもりはなかった。しかし、彼は大丈夫かもしれません。一方、彼がずっと彼らに会う予定だったのなら、なぜ彼は言われなかったのでしょうか？マーブは、彼らのすべての指示が電話で行われるという印象を与えられていました。

侵入者の黒い髪は完璧に配置され、滑らかに漆塗りされ、微妙にキラキラと輝いていました。Trostrickは2人の男に簡単に微笑んだ。

「リラックス、男の子。」彼はマーブが握手を拒否したことに注意を払わなかったし、大きな男のポケットの膨らみに気づいたようにも見えなかった。彼は簡単にソファに歩いて行き、震えたエルモのそばに座った。

「あなたの仕事は終わりました、男の子。私は彼女を迎えに行き、途中にいます。」マーブはその音が気に入らなかった。「持て。見返りはどこにありますか？」

「それは面倒を見るでしょう。通常のチャンネルを経由する必要があります。」

「うん？」その大男はそのような信頼を聞いたことがありませんでした。彼とエルモは契約に基づいてこれを行っていました。通常、DCでは機嫌しませんでした。そして、彼らは甘いさようならとさようならで彼らのお金を得るだろうか？チャンスではありません。

「サイコロはありません、トロストリック。組織はそうには機嫌しません。さて、あなたは一体誰ですか？」

「言われなかったの？」Trostrickの声は丁寧な驚きをもたらしました。

「いいえ。そして、1つは支払いを受け、2つは上司から直接注文を受けます。そうでなければ、女の子は私たちと一緒にいます。」

「マーブ、これはすべて順調だと保証します。計画は単に予測どおりにうまくいかず、上司はこの場所が長期滞在には適していないことを恐れています。」彼は起き上がって、カウンターの下にあるバーを見つけました。「飲む？スコッチ？」

マーブは首を横に振った。「いいえ。」「あなた、エルモ？」

エルモは飲み物を手に入れて幸せでした。彼は以前、バーを見落としていました。

「私は女の子をこの地域から完全に追い出すことになっています。心配しないで。あなたはあなたの仕事に対して報酬を受け取ります。しかし、私はあなたのお金を与えるにはあまりにも速く動かなければなりませんでした。」

「サイコロはありません。」マーブは威嚇するように見え始めました、彼の自由な手は彼がそれを完全に制御することができなかったかのように食いしばり始めました。

「私たちはこの仕事のために契約しました、そして私たちはそれを通り抜けるつもりです。私は今までここで働いたことがなく、あなたに会ったこともありません。今、私の手にお金を入れてください、そしてあなたは女の子を手に入れます。そうでなければ、ここから地獄を取り除いてください。」

Trostrickの目は、誇張された警告とともに、Marvのコートのゴツゴツしたポケットに落ちました。彼はマーブの顔を振り返し、目を大きく開いて、見つめていると驚きが誇張された。彼はマーブの目をずっと見つめていました。

彼の目は非常に、非常に黒い、とマーブは思った。

「イエス」と小さな男は言いました。

「彼に女の子のマーブを渡して、ここから出ましょう。彼らは私たちに支払います。私は彼らがそうすることを知っています。これが鍵です、ミスター。」彼は寝室のドアの鍵を、それを空中に捕らえた男に向けてひっくり返し、マーブの目からほとんど目をそらさなかった。

マーブは一瞥を難しそうに壊した。

"わかった。二人とも持っているだけです。私がお金を稼^かか、上司から話を聞^きまで、誰もどこにも行きません。"彼の銃は今彼のポケットから出ていた。

「エルモ、活^きななトロストリック。」

エルモはそうしました。

「彼はきれいだ、マーブ。しかし、イエス様 私たちはできません...」「いいえ。座^まって下さい。"

「あの飲^{のみ}み物を頂^{たま}いますか？」"うん。どうぞ。"

エルモはそうしました。それから彼はソファの端に座^まって、震える手でガラスを唇^{くちびる}に持ち上げました。

マーブはトロストリックを振り返^{かえ}った。それらの黒い目が再びありました。彼は自分自身にもかかわらず彼らを見つめ、見知らぬ人と見知らぬ人の感覚を感じ始めました。彼は目をそらすことができなかつた。彼は考えることができませんでした。彼は心をコントロールできなかつた。それから彼は考えることができました。彼は考えるのをやめられなかつた。彼は夜に、しばしば前に考えていた考えを考えていました。彼はこれらの考えを考えたくありませんでした。彼らは部屋を引き継ぎ始めていました。大きな男はトロストリックの目をじっと見つめて立^たっていました、そして彼の人生で初めて、彼は恐怖の感覚を探求し始めました。

第10章

ジョ シュアはズボンのウエストバンドの小さな内ポケットに手を伸ばし、非常にシンプルな金で作られた、ルビーのような石を持った指輪を取り出しました。取り付けは、リングに関して最も単純なことではないように思われました。それは一連の金色の糸で、石の周りに織り込まれ、複雑で非対称な一種のパターンを作りました。エスメレダは大佐の視界から向きを変え、小さいながらも非常によく似た指輪を衣服から外しました。それから二人は再び夜明けに向き直り、小さな野生の花に囲まれた朝の光を顔に向けて、手を一斉に上げ、右手の薬指に指輪を置き、ゆっくりと金属を引きました。そして彼らの指を石で打ちます。さらにゆっくりと石を内側に回して、織りの台紙が手のひらに当たるようにしました。式典が始まりました。

魔法のことを何も知らなかった大佐でさえ、始まりがあったことにすぐに気づくことができました。彼は二人の素朴な服を着た人々、一人は男性、もう一人は女性が彼らのセクシュアリティを振り払い、完全に異なる身長をとるのを見ました。彼らの姿勢はまっすぐになりましたが、さらに重要なことに、彼らのシステム全体が異なるグループの思考と知性に反応するようになり、これらの実体を運ぶ体は無数の方法で変化を反映しました。彼らは突然より多くの実体を身につけ、彼らが以前よりも明らかになり、最初の光が突然彼らに集中したように見えた。

二人は手を数秒間持ち上げてから、手のひらから手のひらに置き、下げました。

「奉仕するために、知りたいのです。」彼らは一斉に話し、彼らの声はほぼ同じピッチでした：非常に低く、ジョ シュアの通常の話し声よりもさらに低く、ほとんど静まり返っていましたが、大佐に各単語を非常に明確にした強さの質で、彼はほとんど音の影響を感じました彼の体に。彼の感情はかき立てられ、ジョ シュアは否定性を追放する儀式を経験し始めると、彼の精神的な部分を自分の地上の体から無意識に持ち上げ始め、話者と調和し始めました。

「アテ。」「マルクス。」「VeGeburah。」「VeGedulah。」

ティモシー教会大佐は、50年間、彼の肉体的現実の思いもよらない同盟国であり、彼が説明できないこと、これまでのすべての経験よりも現実的であるように思われることを見始めました。彼の感情は、ジョ シュアと彼の弟子の魔法の個性によって生成された磁力によって刺激され、彼は光を彼らの周りの未分化の日光の一部としてだけでなく、それが実際に何であるかとして見始めました：彼らの魔法の自分の思考イメージ、彼らが持っていたものは、彼らの指輪を回すことで、彼らの横にある物理的な光の中に持ち出され、彼らの星と物理的な現実を結びつけました。教会は、これらの人物がフード付きでローブを着ていることを完全に敏感な目で見ることができました。実際、セオドアとパブロが宇宙訪問者をこの惑星に連れて行った儀式の日に彼らを見たので、服を着ていました。大佐が明確な光の炎の中で彼らの友人の上に立っている二人をほとんど見ることができなくなるまで、ジョ シュアがそれぞれの振動した言葉で作ったサインは空中で燃え上がっていました。

それからジョ シュアは五芒星を作りました。彼の儀式の言葉は、ジョ シュアとエスメレルダが何年ももわかって着実に適用してきた集中的な思考によって力を与えられ、軽い形で空中に浮かび上がりました。そして大佐は、セオドアやパブロのどちらよりも、完全に受容的な道具であり、魔法の自然な学生であり、視覚化の才能がないため、彼の周りの空気を吹き飛ばすそれぞれの色合い、それぞれの感覚を見ました通常、多くの練習なしで来ます。彼は理解する能力をはるかに超えて見ました、そして彼の性格は劇的な変化にそれらの数分でますます近づきました。

彼の考えの鍵が変わり、新しい鍵が造られて研ぎ澄まされ、向きを変えるのを待っていたからです。新しい実体が歩くことを学び、そしてはっきりと考えるように、ティモシー教会はまったく新しい活動への第一歩を踏み出しました。教会のような初心者が準備なしで儀式の魔法の力に完全にさらされることを許可することは、いかなるマスターの方針でもありませんでしたが、ジョ シュアは選択の余地がありませんでした。そのため、大佐は数分で、通常は何年もの準備が必要な経験を吸収しました。

追放の儀式は終わり、ジョ シュアとエスメレルダは兄と同じ姿勢で横になりました。足首を交差させ、両手を胸に折り畳みました。そして大佐は、フード付きの思考イメージがますます重要になるのを見て、突然両方の魔術師の体のレプリカが光を浴びて、彼らの傾向のある形から解き放たれ、フード付きの投影に住むようになりました。

2つの光の形が輝き、動く生命で脈動し、輝くコードで今眠っている魔術師に接続されています。そして、現在ジョ シュアとエスメレルダの完全な意識が存在する思考形態は、花の中でそれらの間の人に向かって動き始めました。彼らは彼の頭を立て横になりました

司教が確認を行うように、彼らの鳴った手は宇宙人の頭に穏やかな圧力をかけています。「銀の紐が引く張られるので、私たちはあなたに従うように頼みます、私の兄弟。」エスメレルダのフード付きの顔は話すジョ シュアの方を向いていました。彼女の精神的な体は彼のすべての力を貸し、アストラルライトのより高い平面にすべての愛を送りました。

「私たちがここであなたを呼ぶ多くの飛行機を通して、そしてもっと多くのことを通してあなたはあなたにその視界の選択を与えたかもしれません。しかし、私たちはあなたをこの飛行機に呼び戻します。」

そして大佐は、人間の肉体と精神をつなぐ銀の紐を見始めました。その後、精神的な体自体が実現しました。

2人の魔術師の精神的な形のように、フードやローブは付けられていませんでしたが、縫い目や素材の折り目がなく、皮膚のようにフィットする光の形に包まれていました。そして、2つではなく3つの意識が再び肉体的存在を取り戻しました。彼らの周りの光は残り、その特別な輝きが牧草地を満たすまで形を失い、明るさを増し、大佐は自分自身が浄化物質の流れに浸っていると感じました。火と水、彼は話して考えました、どうして火はこんなに涼しいのでしょうか？または水はとても明るいのですか？二人の魔術師は眠りから目覚め、宇宙から男の体にひざまずきました。彼らの地上の手は、以前のアストラルの手と同じように、今や彼の神殿にあります。光は、最初はその輝きの中でキラキラ光るだけのように見えたが、その後、チャーチ大佐は宇宙飛行士の横顔のわずかな動きがあったことを見ることができた。

エスメレルダは立ち上がって、再び昇る太陽に直面しました。ジョ シュアは彼女のそばに立っていました。彼らは手を上げ、石がもう一度外側を向くように指輪を回しました。「アーメン。」

癒しの儀式は終わりました。

大佐は儀式の力と、星の光からその力を召喚した2人の魔術師の権威に麻痺して座っていました。彼の息は荒れていて、ふたりは鋭い空気の吸い込みを聞いて彼の方を向いた。ジョ シュアは再び彼の普通の自己になりました。彼は大佐に気楽にニヤリと笑い、彼のところへ歩いて行った。

「大佐、ホーカスポカスはどうでしたか？」エスメレルダはまだ宇宙から男のそばに立って、彼を見下ろしていました。

「一人で歩く力を得るのに十分な時間、彼をここに置いておくことができれば、彼は今は元気になるでしょう。長くはかからないでしょう。」

彼女は大佐まで数歩歩いた。彼はまだ座っていて、儀式が始まったときとまったく同じ姿勢で座っていました。ジョシュアの言葉は彼に見上げるようにさせました、しかし彼は話すことができませんでした。実際、彼の表現は恐怖の端にありました。

二人の魔術師の間を一瞥し、彼らは彼をもっと注意深く見た。

「教えて」とジョシュはさりげなく言った。「あそこに何を見たの？」

大佐は飲み込んだ、彼の鋭い、テノールの声はかすれた、彼の正確な配達は遅い言葉にミュートされた。

「あなたは自分の体を置き去りにし、他の体に行きました。彼らは光でできているように見えました。私は死んだと思っていた男が同じ種類の体に戻ってくるのを見ました、そしてあなたは皆あなたの本当の体に戻りました、つまりあなたが今いるもの…」彼は一時停止して再び飲み込みました。

「はい」とエスメレルダは彼のそばに座って言った。「続ける。」

「まあ、あなたは空中に十字架や他のいくつかの人物を描きました、そして彼らはあなたがそれらを描いた場所ことどもりました…」

ジョシュアは彼を振って沈黙させた。

「大佐。チャーチ、あなたが事前の準備なしに儀式の魔法を紹介されたことをお詫言します。私たちはあなたが何も見ることを期待していませんでした。私たちがこの力を善のためだけに使っていることをご理解いただければ幸いです。私たちの儀式と鍵は、それらと一緒に働いた私たち以外の誰かが使用できるものではないので、これを完全に秘密にしておくようにお願いしなければなりません。そして、誰かがそれらについて知っていて、私たちに危害を加えたいと思った場合、彼は私たちの仕事を妨げる可能性があります。これらのキーは思考によって作成されるため、思考の影響も受ける可能性があります。あなたが見たものを誰にも言わないことを約束しますか？」

教会の薄い唇は、ジョシュアが見た最初の本物の笑顔に移りました。

「私が彼らに言ったら、誰が私を信じるだろうか？」

「ところで。」ジョシュアはじっと立っていて、彼の顔に本当に興味を持っているように見えました。

「あなたは魔法に対して異常な量の適性を持っているようです。それを追求することに興味がありますか？」

「私は確かにそうします。」

ジョシュアはうなずいた。

「私があなたを助ける正しい人物であるかどうかはわかりませんが、とにかく私はあなたに読む本をいくつか与えて、最初の分野であなたを始めることができます。このビジネスが終わったらすぐに…」

宇宙から来た男は、ゆっくりと目に見える困難もなく起き上がった。彼は自分の環境に完全に気づき、自分のことをすべて見て、必要だと感じた行動の準備をすべて終えた後、立ち上がった。

何も言わずに、足をしっかりと歩き、大佐に向かい、彼を通り過ぎて、エスメレルダとジョ シュアのそばに立った。

「あなたはまた私たちと一緒に、私の兄弟。」エスメレルダは立ち上がり、手を伸ばし、手を握りしめた。

「あなたが再び大丈夫であるのを見ることができて、とてもうれしいです。」

「カマロカからマヤまで、妹と連絡が取れません。」宇宙から来た男は、ふたりをまばたきせずに見つめていました。

「彼は、アストラル界から私たちの幻想の世界、大佐までを意味します。アストラルライトはあなたが以前に視覚化したものでした。これは、これとは別の種類の宇宙であり、はるかに充実していて広大です。」

「私の兄弟、私も彼女を見つけることができません」とエスメレルダは言いました。

宇宙から来た男は、さらなる指示を待って立っていました。ジョ シュアはまだぼんやりと地面に座っていた大佐を腕で連れて行き、彼の足元を助け、パデエフスキーとバールが待っていた小さな家に連れて行った。エスメレルダと宇宙から来た男が続き、軍曹がドア、目、口を大きく開いてバレルを通り抜けるのを見るのに間に合うように後ろのステップに到達しました。「キリスト！奇跡です！」彼は大佐の方を向いた。

「それを医科関係者に教えることができれば、戦闘で何かができるか考えてみてください！」

新たに気づいた大佐は振り廻り、Sgtを見ました。まるで彼が不快な非言者であるかのようにアームストロング、彼の口は軽蔑でタイトでした、しかし彼は何も答えることを考えることができませんでした。彼は首を横に振ってドアを通り抜け、続いて新しいスタイルの医科と患者のトリオが入った。宇宙飛行士はソファで快適になりました。彼はほとんどすぐにトランス状態になりました。

「彼はまた死んだの？」軍曹は知っていたがっていました。

「いいえ、彼は今、癒しのプロセスを完了することに全力を注いでいます。彼は、使用していないものをすべて閉鎖して、より速く修復できるようにしました。彼はただ自分の力を強化する必要があります。」

パデエフスキーの顔は心配でいっぱいでした。「彼は妹について何か知りましたか？」

エスメレルダは首を横に振った。長く、軽い髪が肩と背中を動いていた。

「いいえ、彼は彼女を見つけることができませんでした。私もできません。私たちは何ができる？」

パデエフスキーは大佐に直面した。

「教会、あなたはこの問題が本当に別の惑星からの人々の一人であるのを見ました。」彼は手を挙げた。

「はい、私は人々を意味します。あなたはその男を見てきました。さて、譫妄された少女は彼と同じ場所から来ており、エスメレルダと同じように見えます」

ここのこの男はベール氏のように見えます。それが彼女がエスメレルダと間違えられた理由です。そして、彼もエスメレルダも彼女を見つけることができません。もちろん、物理的な意味ではなく、思考の中で彼女とコミュニケーションをとることができないという意味です。」

大佐はまだぼんやりしていた。「彼女に何が起こったのだろうか？」

「私たちにはわかりません。だからこそ、私たちができる限り彼女を追跡することは、私たちにとってそのような生と死の問題です。少なくとも彼女の肉体が最後だった場所にたどり着くことができると思います。できませんか？」

エスメレルダは肯定的こうなずいた。

Sgt. アームストロングは、大佐が何らかの形で催眠術をかけられ、自分自身と状況のコントロールを失ったと感じて、前進した。

「この束に耳を傾けないでください、大佐。彼らはいくつかの奇跡的な治療法を見つけ出しました、そして彼らは秘密を逃れることを試みるつもりです。それらがすべてナッツであることがわかりませんか？」

「軍曹、コメントを差し控えてください。」大佐は、あたかも問題のある軍曹のようにパデエフスキーに戻った。アームストロングも存在していませんでした。

「私は確言しています、パデエフスキー。これを上司ごどのように説明するかはわかりませんが、今最も重要なことは、米国政府と世界を代表して、あなたの友人と彼らが代表する惑星を助けることだと思います。何をするか教えてください。できる限りのお手伝いをさせていただきます。」

軍曹はこれで彼の舌を保持することは不可能であることに気づきました。

「大佐、クラウド大佐はどうですか？彼はまだ死んでいることを覚えておいてください、そして警察の行動が取られなければなりません。あなたは彼らを手放すことはできませんね？彼は後から考え、エスメレルダに目を向けた。

「ねえ、あなたも彼を生き返らせることができますか？」

エスメレルダは残念ながら首を横に振った。

「いいえ、Sgt. アームストロング、私は彼の場合、彼の肉体が意識を維持する能力を失った直後に銀の紐が切断されたのではないかと心配しています。彼を連れ戻すことはできません。大変申し訳ありません。彼はあなたの友達でしたか？」

この家で軽蔑または怒りの表情で時間を過ごした軍曹は、彼のかなり不甲斐なくぐりした特徴からそれらの暴力を失い、真剣な悲しみの表情を見せました。

「はい、彼はそうでした。私たちはほぼ2年間一緒に働きました。そして今、彼は死んでいて、制服さえ着ていませんでした。彼はウェストポインターでしたね。」彼の顔は涙に溶けると脅した。「そして、それがあなたのせいなら...」

エスメレルダは彼と同じように真剣に話しました。

「軍曹、私を信じてください。私たちはこのひどい事故とは何の関係もありませんでした。私たちは捕虜にされていました

あなたの友人を殺したのと同じ銃。そして、私たちは他の友人を見つけるために急ぐ必要があることについて真実を語っています。」

「たぶん彼は本部に制服を着ています。私たちが彼の妻に話す前に、私は彼にそれを置くことができました。」軍曹は重く座り、ずんぐりした体は以前よりも何とか固くありませんでした。「あなたは本当にこれらの人々を手放すつもりですか？」

「はい、軍曹、私はそうだと信じています。これの大きさを考えていただきたいと思います。これらは別の種族の代表です。私たちは彼らを助けるためにできる限りのことをしなければなりません。これを自分で理解できない場合は、私の命令に従ってください。」

"かしこまりました。"軍曹は椅子に腰を下ろし、大佐が正しいかもしれないという可能性に頭を悩ませた。もしこれらが宇宙から来た人々だったらどうでしょう。彼はたくさんSF映画を見てきました、そして彼は地球外生命体についてすべて知っていました。時々彼らはすべてを準備するために最初に数人のスパイを送り、それから彼らは常に惑星を乗っ取るとうとしました。

惑星間戦争によって引き起こされた大混乱は、彼のビジョンの中で上昇しました。彼はそれを酸っぱく考えた。もちろん、米国が勝つでしょう：米国は常に勝ちました。しかしその間、制服を着た男性は命を捧げなければなりません-

これらのスパイのために。

まあ、多分彼はしばらくの間大佐と一緒に行くでしょう。しかし、彼が本部に戻って彼が知っていることを話した後、彼のように考えた人々がいるでしょう。スパイは捕まえられ、彼らの情報と使命が確認されました。重要なことは、彼らがこの疑惑の少女を追いかけている間、彼らが宇宙人を見失わないことを確認することでした。

「まあ」とパデエフスキーは言っていました。「最も重要なことは、宇宙からできるだけ早く女の子を見つけることです。」

「ヘリコプターはあなたの助けになりますか？」大佐は尋ねた。「ヘリコプター？」

「おそらく空中搜索の方が速いかもしれないと思いました。入手できるかもしれません。」

パブロの唇は再び彼の口に入った。

「エスメレルダ、ヘリコプターでトレイルをたどってくれないませんか？」

「はい...はい、そう思います。車の中と何ら変わりはありません。」

「宇宙人は私たちと一緒に行くことができますか？」大佐は尋ねた。

「いいえ、そうは思いません。」パデエフスキーの目はジョシュアのアドバイスを求めた。

「いいえ」とジョ シュアは言いました。

「彼にとって最善のことは、彼が休むことができる場所に行く ことだと思います。プロセスが彼自身の体に内在化されたので、彼は本当どこでもそれを行うことができます。しかし、それは私の寺院、または少なくとも比較的平和で静かな場所の方が良いでしょう。」

セオドアは前進した。

「私は彼をパプロの車に戻すことができました。私は彼に食べ物、または彼が必要とするかもしれない他のものを与えることができますでしょう。とにかく、私は今のところグループの中で最も消耗品です。」

Sgt. アームストロングは狭く耳を傾けていて、この状況にある程度コントロールできるチャンスを見つけました。

「あなたは彼に警備員なしでこの男を追い払わせるつもりはありませんね？警備員として一緒に行かせてください。クロウズの殺人はまだ解決されていません、サー。」

大佐はエスメレルダを見た。

「軍曹が回復している間、あなたの友人と一緒にいるのは痛いですか？」

「いいえ、そうは思いません。しかし、彼は寺院の外ことどまることができますか？通常、準備なしで寺院の中に入る人は誰にもいません。それはジョ シュアスターの所有物にあります。プライベートな場所です。」

「それは私にはかなり合理的に聞こえます。そうだね、軍曹？」

「ドアはいくつありますか？」

「たった1つ」とパプロは言った。彼はセオドアのためにメルセデスの鍵を差し出したが、軍曹はそれらを割り当てた。彼はポケットに手を伸ばし、財布をぐり抜けてそれを作った後、セオドアにカードを手渡した。

「これが私の弁護士、テッドの名前と電話番号です。問題があれば、彼に電話してください。」

軍曹は正面玄関から陽気に歩いていた。"さあ行こう。

アームストロング軍曹は、自分に満足していたので、小さな家のドアを通り抜けるときに微笑んでいました。彼はなんとかこのいわゆる宇宙人の部分的な支配を達成することができました、そして彼は米軍が最終的にそのために彼に非常に満足するだろうと確信していました。ヘリコプターの遠足に関するこのビジネスは、まったくの狂気でした。彼はジョ シュアがリリーのリネンクローゼットから3枚のシートを持ってドアを通り抜けるのを見ました。それらはおそらく来たべきヘリコプターの目印でした。本当に悪い判断。

まあ、彼が宇宙からの男を持っている限り、それはそれほど重要ではありませんでした。セオドアは正面玄関から出てきて、腕で宇宙から男を導きました。彼はもっと寝具を持っていて、それと男を車の後部座席に設置しました。

軍曹は車のドアに曲がった。

「聞いてください、ミスター、あなたを傷つけてすみません。ああ、気分が良くなってよかったです。」彼は手を突き出した。

瀧沢れた男はアームストロングを重々しく見つめ、彼に何が期待されているのか理解できず、彼を手に取りたいという本能的な衝動を感じなかった。一瞥は少しの間保持されました。それから軍曹はそれが刺されたかのように彼の手を落しました、彼の罪悪感と男の卑劣さの恨みに道を譲りました。

エスメレルダはもう一方のドアから身を乗り出し、男を手で宇宙から連れ出し、さようならと健康を願った。彼は彼女の方を向いて、お墓と落ち着きました。

「私自身の思考によって開始される私の側の行動はこれ以上ありません。」

彼女は彼に寄りかかって、彼から手を緩め、彼の頬に触れた。

「すべてが瞬間です、私の兄弟。よくやった。休息して力を取り戻し、可能な場合は私たちの検察に参加するためにあなたの精神を送ってください。

彼女は右のドアから後戻し、軍曹は左から後戻し、次に運転席に座り、両手を勢よくこすり合わせ、セオドアを見つめた。

「まあ、私はあなたが始めたいと思うと思います。私が運転するので、あなたの患者が何かを必要とする場合、あなたは彼を自由に助けることができます。」

セオドアはこれをかみ砕いた。彼は車をコントロールできないという考えは好きではありませんでしたが、反対する本当の理由はなく、彼が見る限り、彼の担当を自由に手伝えることについてのポイントは有効なものでした。その上、軍曹は鍵を割り当てていて、すでにそれらを彼らのスロットに挿入していました。

セオドアはその計画を受け入れ、宇宙から来た男を快適にするために忙しくし、枕と毛布を彼らが最もうまくいく場所に置いた。輪郭が非常に似ていて、表情が大きく異なる金髪の頭が数分間窺い、軍曹は右肩越しにそれらを見て、誘拐かどのように彼らが犯した間違いを犯したのかを見ることができました。彼らが誘拐したその少女と彼らがエスメレルダと呼んだその金髪がセオドアとこの他の男と同じように見えたなら、間違いは特に夜にそして急いで簡単に起こりました。ちょっと待って、彼は自分に言い聞かせた。あなたはそのばかげた話を信じるようになっています。

セオドアが前席の右側に入り、アームストロング軍曹が大型車のエンジンを始動させた。そのようなハードランの後、それは非常に健康に見えました。その音色は静かで均一でした。

「聞いてください」とアームストロングは曲がりくねった道に戻り、日中ずっと急いで車がたどった道をたどるように向きを変えた。

「とにかく、これらの2つはどのようにして弾丸を出しましたか？ナイフも何も見えてませんでした。」

「私が知る限り、彼らはそれを理解していませんでした。それはまだそこにあります。彼の体の化学的性質は弾丸を溶かし、分子の形で運び去ります。これは、私たちがさまざまな食品を溶かすのと同じように、私たちの体のさまざまな部分に栄養を運び、老廃物を排出します。ガベージイン、ガベージアウトのようなものです。」

「何？そうそう。コンピューターはそう言っていますね。まあ、誰も弾丸を溶かすことはできません。それは鉛と銅の0.5インチです。彼がそれを取り除くことができると私に言うことはできませんか？」

「私が理解しているように、それはまさに彼がそれを使って行くことです。ほら、それはネガティブですが、彼はとてもポジティブで、彼の体の自然な癒しの力を使うことができます。私たちは自分自身がかかなり否定的であるため、それを行うことはできません。」

「あなたは私をある種の怪物のように聞こえさせます。」

「いいえ、それは私が意図したことはありません。つまり、私たちは皆、この惑星でそのようです。それは一種のネガティブな惑星です。」

「そして彼は前向きな惑星から来ました。そうですか？」「そうですか？」

軍曹はアクセスが制限された高速道路に曲がり、黙って目的地に向かって車で戻った。彼は状況を振り返り、自分が守っていた2人を適切な当局の手に委ねる方法をふりいにかかけました。その男が宇宙から来たのかどうか、バールが真実を語っていたのかどうかは、軍曹にとって実際には重要ではありませんでした。彼らが嘘つきだった場合、彼らは間接的または直接的に殺人を引き起こし、裁判にかけられるに値しました。平時でした！あなたはただ兵士を撃ち回すことはできませんでした！そして、後部座席で眠っている男が本当に別の惑星から来たのであれば、軍は彼を捕まえる理由がはるかに多く、彼が知っていることを手に入れることができました。

軍曹は、通過する際に再び世界の戦争を視覚化し、地球と米軍による勝利と完全に同一視しました。そして最後に、二人が殺人と関係がなく、宇宙からもいなかったとしても、彼らは奇跡的な癒しを行うことができ、このスキルは軍事的に非常に役立ちました。医療従事者が戦場で死者と死者に近い死者を非常に迅速に癒すことができれば、あなたは破壊不可能な軍隊を持っているでしょう！アームストロング軍曹は、ハンドルから手をほとんど離して、それらをこすり合わせました。

大佐の命令があったかどうかは明らかでしたが、彼の義務はこれら2人を米軍の保護拘留に持ち込むことでした。結局のところ、大佐には彼に命令する権利が本当にありませんでした。彼は確かに彼を上回りましたが、彼はCIDとはまったく関係がありませんでした。

CIDは、この任務について信号隊を支援することに同意したばかりでした。彼の命令

実際には犯罪捜査課から来ており、彼はそれを知る時間がなかったものの、新しい命令は今と同じように行われるだろうと確言していました。'日を持ってきてください。しかし、それらは2つあり、彼は1つだけでした。彼は慎重に移動し、車を拾うために本部に連絡をとることができるまで、彼らをだます必要がありました。

大佐。それが軍の悩みでした。制服を着たまま走り回っている疑似市民がたくさんいました。大佐は、彼が上手に話せば、おそらくアドルフ・ヒトラーを信じていたでしょう。そして、これらの人々は俳優でした。そのうちの一人は、宇宙から来たこの男は俳優だと言っていませんでしたか？

さて、民間人の改ざんから軍隊を守ることは彼の義務でした。結局のところ、彼は20年のキャリアマンでした。そして、彼は民間人を見たとき、それを知っていました。その大佐教会は基本的には民間人でした。いくつかの派手な学位のために、予約者が無期限の延長を与えました。

彼は直接向きを変えてベンソン岩に行くことができなかった、それだけは明らかだった。彼はそれを認めなければなりません：彼はこれらの2つを少し怖がっていました。通常、彼は.45を引いて、状況を処理していました。しかし、彼はそのうちの1つを.45で撃ちました、そしてそれは彼を長い間傷つけたようには見えませんでした。たぶん、もう一方は同じ方法でした。どんなドーブや薬でも、彼はそのように回復することができました。大佐は、その小さな太った男パデエフスキーは天才であり、彼はこのようなものを発射することができたと言っていました。もし彼がこれらの2つを撃ち、ゾンビのように彼らが来続けたとしたらどうでしょう。彼はそのように殺される可能性があります。彼らは彼を絞めることができた。彼はグックがドーブされているのを見た、そして彼は彼のカービン銃でそれらを2、3回撃った、そして彼らは来続けた。.45はマンストッパーであるはずでしたが、それは確かにその宇宙人を止めていませんでした。Sgt. アームストロングは彼のバックミラーで男をチェックした。はい、彼はまだ眠っていたか、眠っているふりをしていました。

彼は何をすべきか？

「宇宙人」がまだ静かな間に移動する方が良い。超高速道路のすぐそばのコンクリートの島に、レストランとガソリンスタンドのある休憩所がありました。彼は自分の状況を熟考し、ずんぐりした手を車輪に食いしばり、顎の筋力を動かし、計画を立てました。セオドアは彼の運転手を可能な限り注意深く見守っていました、そして、握り締められた指とあごは彼の上で失われませんでした。彼は軍曹が大佐の命令を横切る準備をしているのではないかと疑った。そして、彼は彼にそれをさせないことを決めました。彼の長くてやや狭い顔はその決意で緊張していた。宇宙から来た男は彼の保護下に置かれ、天国によって彼は彼を保護するでしょう！

Sgt。アームストロングは速度を落とし、島の広大なコンクリート、譲歩の建物、低木に引き込みました。

「どこに行くの？タンクの半分がいっぱいです。」

「私は知っています、息子、しかし自然は呼びかけます。」

アームストロングは、メルセデスの中に座っている人がコンクリートブロックの建物のオフィスを見ることができないように、給油所から角を曲がったところに車を注意深く駐車しました。彼はイグニッションでキーをひねり、一気に引き抜いて、ステーションに向かうときにポケットに落としました。セオドアは、宇宙から来た男がいつでも目覚めるかもしれないので、置かれたままにしているしかないので。それは不可能だったので、エスメレルダは彼に、宇宙人の体が弾丸を吸収するのにどれだけの時間がかかるかを確認するように言った。そして、彼が終わったとき、彼は単に目覚めるだけで、完全にうまくいきました。セオドアは彼と一緒にいなければなりませんでした。

アームストロングは駅の横をさりげなく散歩した後、公衆電話に向かって疾走し、自分の部屋を挿入してオペレーターに電話をかけた。

「オペレーター」は、彼女のような独特のトーンでオペレーターを発表しました。

「コレクトコールをベンソン砦の憲兵隊長の事務所呼びたい。メイジャー・ハリスと話をしたいです。私の名前はSgtです。アームストロング。」

カチッという音、ブーンという音、他のオペレーターのプロの会話の音、ラインのどこかからのポピュラー音楽のひたくりがありました。ハリス少佐の声が背景を切り裂いて接続を完了し、回線は静かになりました。

「ここにハリス少佐。」

「これはSgtです。アームストロング。聞いてください、サー。私はあなたに話すために本当にクレイジーな話をしました。電話で全部お話しできるとは思いませんが、急いでいます。聞いてください、ここで彼が車の免許証番号とその説明をガラガラと鳴らしたこの車の詳細を交差点でできるだけ早く拾ってもらえますか？ここからの次の出口はレッドランドロードです。

15分でできますか？そこにたどり着くまでには、少なくともそれだけの時間がかかります。」

「私たちはおそらく自分たちでそれを行うことができますが、私はあなたの地域の警察に電話し、私たちが追いつくまで彼らに車を持たせます。」

「まあ、もし民間人の詳細が彼らを拾ったら、彼らに私たちをその出口から病院に連れて行ってもらいなさい。車の中に病人がいます。」

「乗客、彼らは危険になりそうですか？」

「いいえ、そうは思いません。しかし、注意してアプローチするように伝えてください。」

"しまししょう。何かあったんだ、軍曹?"

「よくわかりませんが、これをお伝えます。彼らは政府の秘密を売った疑いがあります。そして、彼らはスパイかもしれません。」

「詳細がわかります、軍曹。」"ありがとうございます。"

アームストロングは電話を金属製のクレードルに掛け、ズボンの短く幅の広い手を拭き取った。彼は有料電話が嫌いでした。彼らはいつも汚れていて汚染されていると感じていました。まるで彼らが酸っぱくてつや消しで、顕微鏡的には言いようのない病気であるかのようでした。彼はその手をポケットに押し込み、メルセデスに戻って走り始めました。彼が実際に彼の表向きの用事のための時間を持っていたことを望みました。セオドアは彼が去ったときと同じように座っていて、正面の窓の外を何気なくそして目的もなく見ていました。

「宇宙人」は後部座席でまだ動かなかった。それは彼が予想していたよりも安心でした。この事件は本当に彼を動かしました。彼はホイールの下に滑り込み、スターターにキーを挿入しましたが、エンジンからの生命の音はまったくありませんでした。

彼は鍵を手に漠然とした戸惑いの空気を持って見ているセオドアの方を向いた。

「この車のバッテリーの状態は悪いですか？」

"知らない。初めて乗ったのは今朝でした。"

「まあ、少なくとも私たちは給油所にあります。」彼はドアの取っ手をひっくり返し、機敏に車から降り、駅の角を曲がったところで姿を消した。

ベアは素早く動き、ホイールの下を滑ってダッシュボードの下に到達し、彼が外したワイヤーをつかみました。ターミナルと交換し、突然の警報で軍曹が実際に見えなくなったことを確認し、車が速になっていることを確認し、クラッチを押してエンジンを始動しました。音はSgtをもたらししました。セオドアが急いで駐車場と休憩所を離れるのを見るのに間に合うように、アームストロングは再び角を曲がり、アクセルペダルを床に向けました。タイヤは満足のいく音を立て、セオドアは入口ランプにいて、高速道路を下り、軍曹が彼を捕まえるチャンスの幽霊が出る前に離れていました。

軍曹は、ランプにそっとジョギングし、ランプの真ん中に立って、あきらめるまで、速度を落としながら走り続けました。彼はそのような単純なトリックに墮ちたために長々と自分を呪った。そして、軍隊での彼のすべての年後も、彼は電話に戻った。ティーンエイジャーのトリック。それは彼が報告するのを恥ずかしく思っていたものでした。彼はそれについて聞いているでしょう。良い!

彼は電話に出て、朝の空気のわずかな寒さの中で喘ぎ、汗をかき始め、そして再び粘着性のある受信機を手に取りました。

同じ番号が呼ばれ、少佐はすぐに答えました。「はい、軍曹。今何時ですか？」

アームストロングは彼に2人を失ったことを伝え、障害物を提案した。少佐はすぐに同意した。

「あなたも私を連れて行くために誰かをここに送るかもしれませんが」と軍曹は言いました。

「はい、そうしなければならぬでしょう。」少佐の声は嬉しさと怒りの中間に響いた。

アームストロングはウインクして電話を切りました。

パデエフスキーの自動車がセオドアの手に渡ったとき、それは主人の手に渡っていませんでした。セオドアは点火回路に特に精通しておらず、車が始動したので、ワイヤーを放して再び緩めたらどうなるかわかりませんでした。また止まりますか？セオドアはそうかもしれないと思った。しかし、指でワイヤーを握るということは、別の方法でシフトすることを意味し、最初の見事に巻き取られたギアの後に、2番目のギアが達成される間、一連の飛び出し、急いでステアリングの動き、および知覚できる機械的な粉碎音がありました。このかなり悲惨な、そして確かにあまりにも目を引く経験の後、セオドアはワイヤーを手放すことを決心し、注意を払いました、そしてそれははるかにうまくいったようでした。エンジンは自信を持って喉を鳴らし続けました。

彼が軍曹を失うことができる前に、彼がスーパーハイウェイから降りなければならないことになったのは今やバールにきました。彼は軍曹が先に電話したことを知っていた。おそらく次の出口で誰かが待っているでしょう。ええと、彼はその出口を通り過ぎて別の出口を探ることができることを期待しなければならぬでしょう。もし彼がそれを踏んだら、おそらく彼らは十分に早くそこにたどり着かなかっただろう。彼は振り返ることができませんでした。反対方向に進む車線は、道路の信じられないほど深い窪みを横切っていました。メルセデスはランドローバーではありませんでした。スピードメーターの針は時速80マイルを超えて再び上昇しました。後部座席では、宇宙から来た男が静かに眠りました。

ここに交差点がありました：レッドランドロード、標識は次の出口を言いました。彼はクローバーの葉を向けた。交差点を完全に制御するために、ランプのふもとにパトカーが座っていました。セオドアはブレーキを踏んでバリケードの前で十分に停止しようとしたので、どういふわけか、緊急レーンで、おそらく高速道路に戻って、間違った方向に運転しようとした。しかし、待っている警官は明らかにこの種のことを経験していた。彼のエンジン

走っていて、セオドアが完全に停止して後退し始めたちょうどその時、彼は目の前で停止しました。

「手を上げて車から出します。」

Behrはそれを音楽に取り入れることを検討しました。確かにキャッチーでした。練習から生まれた安らぎで、彼はドアを開けて胴体を足に振り出し、バランスを取り、再び手を上げました。再び彼は慌てた。今回は、気持ちの良い変化のために、彼の手は車の上に乗せられていました。この種のものには本当に改良がありました。セオドア・ベアによる丁寧な拘留に関する教訓。もし彼が手を下ろしたことがあれば、彼は本を書くことができた。

正義の絆の勇敢な偽造者の一人は、後部座席の男を調べていました。

「彼は死んでいるのか、チャーリー？」

「いいえ... ゆっくりとした心拍が得られます。彼は昏睡状態にあると思います。」

"うん。私たちは彼らをすぐに病院に連れて行く ことになっています。みなさん、これはありますか？」警官は不審にベールを見た。

それはそれをしました。セオドアは通常、最も穏やかな人々であり、最も恥ずかしがり屋でした。「いいえ」、彼は本物のうなり声で太陽に向かって歯を回してすりおろした。

「グローブボックスには同盟国があり、トランクには機銃を持った共犯者がいます。

そして、あなたが私の鼻に触れると、私は爆発します。私は採掘されています！」

「OK、チャーリー、病気の人を助けてくれ。」

"うん。そして、これを見てください。彼はバグです。」

「どこに連れて行ってくれるの？」セオドアは病院が言及したのを聞いたのではないかと恐れていました。

"病院。"

"いいえ！あなたは私たちをそこに連れて行く ことはできません！それは私の友人にとって最悪の場所です。彼は治療を必要としません。彼はただ休む必要があります。」

誰もベールに注意を払わなかった、そしてパトカーは病院に向かって出口ランプを走り去った。彼のそばで眠って落ち着いてください。

連邦破産法第11章

警察は病院の緊急ドアに巻き込まれ、彼らに会うために担架をドアから転がして来た2人の秩序のある人に車のバックドアを開けました。彼らはその男を宇宙から非常に効率的に拾い上げ、戸口を通ってホールに転がしました。ホールの頭の近くには背の高い机とタイプライターを持った太った暗い女性が溢れていました。

彼女はフォームをタイプライターに巻き込み、キーの上に指を置いた。

「名前」と彼女は言った。

警官はお互いを見て肩をすくめ、明らかに動揺したセオドア・バールの方を向いた。

「彼には名前がありません」とセオドアは言いました。

「パンク。この子はパンクだ、チャーリー。」

「あなたの友達の名前は何か、子供？彼があなたに彼の名前を決して言わなかったと私に言わないでください。」二人の警官のうち背の高い方は彼の不意を諷刺し、明らかにギブを楽しんでいたチャーリーを少しずつ動かした。

「しかし、彼には私が知っている名前がありません。」

インターンがホールを降りてきて、彼らに向かって、白くて古いパンキの黄色いホールにいる非常に若くて疲れた白衣を着ていました。

「全身状態...呼吸が異常に遅い...脈拍が遅い...」インターンは彼を入院デスクを通り過ぎさせ始めました。

「でもドクター...」甲高い、甘い声は、あたかもそのような大量の女性らしさから来たかのように聞こえませんでした。「私はまだ彼の名前を知りません。」

「彼をJohn Doeに入れてください。今、彼を見たいです。」若くてわずかな姿が、メインの廊下のドアの1つに姿を消しました。二人の警官はインターンを追かけたが、二人がすぐにドアに向かおうとしたため、酸素ボンベのカートに事故があったため、彼の後の診察室に最初に入ることができなかった。相互の反動とバランスの回復の混話の中で、セオドアはすり抜けました。

「医者、私はあなたと話しなければなりません。この患者には何もしないでください。あなたは彼を殺すかもしれません！」

「彼を殺せ？それは私がここにいる目的ではほとんどありません。」

セオドアはとてもおびえていました。彼は宇宙人の体の化学的性質がどのようなものであるか、そしてそれがこの状態にある間それに対して何が害を及ぼす可能性があるのかを知りませんでした。彼は、病院の雰囲気は否定的であるために、その男がどのような危険にさらされているのか、実際にはわかりませんでした。

エスメレルダは警告していた。彼が確言していたことの1つは、「私の友人はエイリアンであり、彼は銃倉で死ぬことから自分自身を癒している」とは言えなかったということでした。

「私はあなたが故意にそれをするという意味ではありません、ドクター。私はたまたま...」

「ほら、バディ。」チャーリーは部屋こいて、脅迫的に近づいていました。

「あなたはあなたの友人の面倒を見るようにドキュメントに任せました。あなたはただ突き出します。そこに座って」、部屋の外壁にあるキャビネットのそばで椅子に向かって動き、「黙ってください。さもないと、私たちはあなたを完全に追い出します」。

「最初に少しかけ医者と話してもいいですか？これは生と死の問題動もかもしれません。」

チャーリーは背の高いパートナーを見ました。

「どう思いますか、アル？」上級将校は耳を掻いた。それは確かに深刻でした、この男は深い昏睡状態にあります。たぶん、若いパンクは状況を明らかにする何かを知っていたのででしょう。そんなに小さなパンクではなく、変化のために声を上げて彼に親切にしてください。彼は誰かに危害を加えるようなことはしたくなかったし、そこに横たわっている男が死ぬことも望んでいなかった。それはどのような害を及ぼす可能性がありますか？「わかりました、確かに。なぜだめですか。しかし、短くしてください。」

「私はたまたま知っています」とセオドアは再び始めました。「この男性は非常に珍しい病歴を持っています。彼は、この地域の大学の1つで実験プログラムに参加しています。合併症があり、彼は実験とその合併症が何であるかを正確に知っている唯一の人である研究員と生物物理学者の世話をしています。彼の体は今、非常に微妙なバランスを保っています、そしてあなたがそれに何かをしたとしても、私は何が起るかわかりません。あなたは彼を殺すかもしれません。絶対に彼に必要なのは休息だけです。十分な休息が取れ次第、彼は再び完全に元気に目を覚ますでしょう。」

白い上着の上にある、ほとんど形のない若い顔こは、戸惑いの表情がありました。

「どこでこれらの男性を迎えに行きましたか？」上級警官は前進した。

「憲兵隊の要請で、高速道路に乗せました。彼らは今いつでもここにいるはずであり、あなたにもっと多くの情報を与えることができます。私たちが最初に彼に会ったとき、その男はまさにそのようでした。」

若い医者は片方の手を額から離れて立っている髪の毛に通しました。その短い端はすか見え、はげかかっていました。

「そもそも、あなたを連れて来る責任がある人と話をしたいのですが、彼がここに来るまで、思い切って何かをする理由はありません。しかし、私は彼を調べます。見られたり、少し血を流されたりしても、彼を傷つけることはありませんか？」

セオドアの青い目は非常に暗く、ほとんど黒く、無数のジェスチャーをしたので心配していました。

「何が彼を傷つけるのか本当にわかりません。何もしないことを強くお勧めします。私が言ったように、彼は何も必要としません。」

「それでも、彼を調べます。彼は昏睡状態にあり、私は朝の残りの間にここに立って、医学的な答えが空から落ちるのを待っています。看護婦！」

看護婦がやって来て、何か必要かを言われたとき、再び立ち去り、すぐに金属製のかごを持って戻ってきました。彼女は試験管にいくつかの血液を吸い込み、インターンが要求した試験を行うために去りました。その間、効果のない見た目の若い医者は、自分自身と、セオドアの隣に来て座っていた看護婦の制服を着た女性に調子を合わせ始めました。「徐脈と緩徐呼吸が示されました」と彼は会話で言った。

「ここで神経学的問題、脳の何かを期待してください。脳幹の虚血を引き起こしている海馬鉤ヘルニアを示唆している。」セオドアが心配そうに身をよじる間、彼は宇宙人の閉じた目を開けて、それに小さな光を当てました。

「目は正常です！」インターンの声はびっくりしました。

「それは反応しないだろうと思った」と彼は有能な合意こうなずいた録音秘書に説明した。

「ここで行くのはそれだけです。」インターンは完全に不安定なセオドアに話しかけた。「これらのラポレポートが返されるまでここで待ちますが、私は行きます。私は持っている...」

声が出て、会場で叫びました。

「ここで、あなたは言いますか？」軍曹のハスキーな声が聞こえてきました。アームストロング。

「はい、でも...」太りすぎの受付係がドアを突き破ったとき、彼の声が震えました。

"そして、あなたはだれですか?"若い医者は自信がなかった。結晶のところ、これは今のところ彼のオフィスでした。

「ジョンL.アームストロング、米国陸軍の犯罪捜査課。」アームストロングは、まるでカードからそれを読んでいるかのように聞こえました。「これらは私の囚人です。」

「あなたは私たちがこれら2つを選んだMPですか?」より大きな警官に尋ねた。

"正しい。しかし、私はCIDであり、MPではありません。"

警官は軍曹を再評価した。CIDは印象的でした。

「たぶん、この男の状態についてもっと教えてくださいませんか」とインターンは言った。「私は彼を調べましたが、昏睡の理由を見つけることができません。そして彼の目...」

「私は彼に.45のスラッグを入れました」と軍曹はためらうことなく話しました。「銃創?」インターンはさらに戸惑いました。彼は銃撃事件を見たことがあり、彼らが重要な臓器にいる場合、または弾丸が彼の頭からちらっと見た場合を除いて、彼らは男性を昏睡状態に陥らせませんでした。この男は、彼が判断できる限り、彼に印をつけていませんでした。

"それは正しい。"軍曹は少し防衛的に彼の大きなあごを突き出しました。

"どうやってそうなった?"医者に尋ねた。

「私は彼を職務で撃った。聞いてください、これらの男性はスパイです。」インターンは、セオドアの完全に元に戻された姿をかなり尊敬して見ました。

「彼は私が彼に触れてはいけないうと、彼は一人で良くなるだろうという話を私にくれました。銃創?」医者は宇宙飛行士の体中を注意深くチェックしていた。"どこ?"

「背中の中にあるはずで、その範囲で3インチを超えてグルーブ化することはありません。」

医者は整然と呼びかけました、そして、彼らは彼が彼の胃の上に横たわるようにテーブルの上のスペースから男を向けました。彼のシャツには明らかな穴があり、軍曹がそうすると言っていたところにありました。わずかに血で汚れていました。男性の背中自体には傷はありませんでした。軍曹も医者もまったく損傷を見ることができませんでした。

「聞いてください、今、それは私が撃った男です。きっとそうです。」

Sgt. アームストロングは目を細めてセオドアに向けた。たぶん、これらの人は結局のところレベルにありました。

インターンは注意深く、ゆっくりと、男の背中を越えていた。

「左側に基本的な音が聞こえます。彼はそこで炎症を起こす可能性があります。」彼は他の不快感の証拠を非常に徹底的に後ろから探しましたが、まったく見つかりませんでした。

「軍曹、何を言えばいいのかわかりませんが、これはあなたが撃った男ではありません。ここの横隔膜の左側にわずかな炎症があることを除いて、銃創の証拠はなく、傷もまったくありません。」

軍曹のあごが食いしばった。「私はこの男を撃った私の命を賭けます。」

インターンは彼の職業において彼の感傷的な生活よりも年上であり、彼のプライドは刺されました。「軍曹、この男には弾丸はありません。」

「私はあなたにそれを証明します」と軍曹は大声で鳴り響く音で言いました。

「彼をX線装置の下に置くだけです。弾丸が表示されますね。」

「表示する弾丸があれば、確かにそうなるでしょう。しかし、それはありません。私はそれについて専門家としての評判を賭けます。さらに言えば、愚か者なら誰でも、この男が彼に傷をつけていないことを知ることができます。」

「あなたは私が正しいのではないかと心配しています。正しいことよりも患者のことを気にかけていませんか？」軍曹は、貧しいインターンの取るに足らない顔のすぐ近くに顎を突き刺していました。「聞いて、あなたはこの少年に

X線で、彼の何が悪いのかがわかります。」

インターンは彼の前の赤い顔を数秒間見た後、面倒なX線装置を天井から引き出して簡単に操作し、軍曹が要求した写真を撮り、下のスロットから急いでラベルを付けたプレートを取り外しました。テーブルを作成し、それを送言して開発します。

それは数分で戻ってきて、医者に手渡されました。医者はそれを光にかざして見つめ、口を開けました。

「あります」とSgt. アームストロング。「そうなると言ったところです。」

彼らは両方ともX線で1分間射しました。横断真鍮は間違いなく弾丸がありました。胃を傷つけたように見えたが、重要な臓器や骨から安全に離れていました。それが、血がほとんどなかった理由だったに違いありません、とインターンは考えました。偉大な船を逃した。

"おい!"アームストロング軍曹は彼の番で戸惑いました。

「これらの写真はサイズに関して正確ですか？その弾丸はどれくらいの大きさですか？」

「これらのX線は非常に正確です。」医者は壁のキャビネットの引き出しの1つから楽器を取り出しました。「その弾丸は、直径がほぼ正確に1/4インチです。」

「でも聞いてください。あの男をこれで撃った。」軍曹は彼の.45を生み出しました。

「そして弾丸はそのほぼ2倍の大きさです。斜めに物を持っていたので、サイズが歪んでしまいませんか？」

インターンは軍曹のオートマチックを怪しげに見た。明らかに.45でした。彼は再び機器を引き下げ、別のプレートをテープで留め、そしてザップ音を出しました。ネガはさらに5分で戻ってきました。弾丸はまったくありませんでした。

セオドアは部屋の端まで後退し、明るく照らされた居住者がネガと診察台の周りに集まり、ボクシングリングの男性や、クラスルーム。彼は宇宙から男が目を開けてから起き上がるのを最初に見た、そして

すぐに彼の足でサポートを提供します。しかし、何も必要ないようでした。先に田舎の牧草地で目撃したときと同じように、宇宙飛行士は小さな部屋の周りを注意深く見回し、市民を調べました。

セオドアは彼に次のように語った。「この軍曹が私たちを迎えに来て病院に送ることに決めたので、私たちはジョー・シュアのところにいません。しかし、あなたが再び立ち上がったので、彼らが私たちをここに留めておく方法がわかりません。ほら、ドクター？」セオドアは友人にうなずき、今は静かに座って周りを見回しており、部屋の他の誰よりも健康に見えます。

「私はあなたが彼をただ眠らせれば彼は大丈夫だろうとあなたに言いました。そして彼はそうです。」

インターンは、脈拍、体温、呼吸数などのバイタルサインをすばやくチェックしました。すべてが完全に正常になり、速度が低下することはありませんでした。採血した看護師が合図のようにやってきた。そして、彼女が次に彼女のセリフを話すことを期待しているかのように、かなりぼんやりしたグループは静かに待っていました。聴衆はむしろ彼女を当惑させたが、彼女は集まって彼女の論文を読んだ。「クリティカル50%、グルコース100。ケトン体なし。

CBCは6,000で、68%がポリです。左シフトは記録されていません。リンパとモノの25%。それで、ドクター？」

インターンは彼女の手から紙を取り、それをもう一度見ました。どのテストでも、患者に何か問題があったという証拠はありませんでした。銃創や失血の形跡はありません。「それがすべてですありがとうございます。いいえ、ちょっと待ってください。鉛のテストをお願いします。」

「分光法？」看護師は驚いたように見えた。「それは正しい。」

「まあ…」看護師は躊躇した。彼女はその機器の資格がありませんでした。

「プライス博士を追い詰める必要があります。」

検査始末がドアから出て行くとき、白い服を着た非常に大きな女性がドアからやって来ました。「医師、私はまだこの患者を入院させていません。」

「あなたがやりたいことは何でも彼に聞いてください、モード。彼は今起きています。」

「ありがとう、ドクター。」小さくてかわいらしい口は、宇宙から来た青白いハンサムな男に歯を輝かせた。「さて、名前をお願いします。」

セオドアは言葉のギャップに飛び込んだ。

「彼は私の友達です、そして…」「私には名前がありません。」

医師は彼のかすかな、細い眉毛を上げて、注意深く見始めました。彼は精神医学の技術に関するセミナーに出席していました。ふっくらとした頬が再び震えながらスピーチをしました。「しかし、誰も名前を持っています。」

「私には名前がありません。」

「まあ、あなたの住所は何ですか？」

沈黙がありました。宇宙から来た男は、モードの当惑した顔と落ち着いた鉛筆を重大な分離と見なしました。

セオドアは気の遠くなるような沈黙を切り抜けた。

「どうか、彼に質問しないでください。今は必要ありません。これが正しければ、私はあなたが必要とするどんな質問にも答えることができます...」

インターンは中断しました。

"待つて。ここでは少し苦勞していると思います。私は彼を一晩観察するつもりです。軍曹は前進し、反対する準備をしました。彼は上書きされました。

「そして、精神科医の報告があります。しかし、今は...」と、インターンはテーブルの横の椅子にあふれているコケティッシュな女性の方を向いた。「精神科医に質問してもらいます、モード。彼はあなたに反応していません。」

モードは負傷した尊厳を持って自分自身を整え、去った。

「それでは、これを見てみましょう。」医者はX線と男性の回復にますます興奮していました。

「彼は生物物理学者による治療を受けていたとあなたは言いますか？」彼はベールに言った。「この銃倉の治療は、全部または一部でしたか？」

Behrは考え、肯定的こうなずいた。

"それは正しい。彼は自分の体が弾丸を吸収し、内部でそれを取り除くように扱われました。だから彼はそのように眠っていたのです。」

医者はうなずいた。「そしてそれが弾丸が小さくなり、X線で消えた理由です。」

彼は座って考え、まだ動かない人を宇宙から振り返り、一生懸命考え、体についての彼のコースで学んだことを思い出そうとしました。体はある種の催眠状態に置かれることができましたか、そして、どういうわけか、それは弾丸を取り除く能力を持っていましたか？

「ミスターアームストロング、.45の弾丸には何が入っていますか？」インターンに尋ねた。「鉛と銅。」

うーん。銅は十分に簡単でした。血液中には、銅を溶解してイオンを...に渡すことができるタンパク質、セルロプラズマがありました。それはどこに行くのでしょうか？それは糞便を通して配られます。それを確認することができます。今リード。それはもっと大変でした。それはシステムにとって毒でした。しかし-

はい、弾丸はほぼ確実に胃を傷つけていました。鉛をダブルプラスイオンに減らすために、そこにはたくさんの酸がありました。それは腎臓までそれを得るでしょう、そして-

はい、鉛を認識する酵素が腎臓にありました。次に、腎臓の近位曲尿細管の能率輸送システムは、それを基底直腸から

ルーメン。そこから尿として通過する可能性があります。それもチェックできます、尿に鉛。

「当直の看護師ここに来るように言ってください」と医者は警官の一人に言いました。小さい方が義務付けられています。

「看護師、この紳士のための部屋を見つけてくれませんか？追加のテストもお願いします。銅の痕跡がないかスツールをチェックし、中流の尿サンプルを実行して鉛をテストします。」

これらは最も独特な命令であり、医者はただのインターンでした。

「はい、大丈夫です」と看護師は若い顔を見ながら言った。

「そして、看護師さん、患者との予備的な面接のために、ハーベイ博士をできるだけ早くここに連れて行くことができるかどうか見てください。」ハーベイ博士は精神科医でした。彼らは彼を次の郡の別の地方病院と共有した。

"ちょっと待って。"軍曹は明らかに完全に回復した「宇宙人」を監視しており、彼はその人を一晩滞在させるという以前の沈黙の合意を再考した。

「私は今、彼を連れて行く準備ができています。彼はここにいる必要はありません。」インターンは、この事件が窓の外に出て行くのを見事に診断した結果、彼が書くであろう論文を見ることができました。

「いいえ、軍曹、患者はさらなる検査のために一晩ここに留まります。」

ドアが再び開いた。

「博士。ハーヴェイ！」インターンは急いでスピーチをし、すぐに精神科医に事件の概要を説明しました。

「患者の情報はどこにありますか？」穏やかで有能な見た目の男は、静かにそして活発に話し、彼を追いかけているパッドと鉛筆で看護師を見回しました。

「私たちは何も得ることができませんでした、ドクター。それがあなたが呼ばれた理由です。」

"非常によく、その後。"ハーベイ博士は、モードが空いた椅子を、診察台に最も近いところに置いた。"こんにちは。あなたの名前を教えてください？"

この新しい質問者には、穏やかで心地よい顔、目を大きく見開いて、「私には名前がありません」と答えました。

"なんて呼ばれてるの？"「私には名前がありません。」

ハーベイは男の顔を注意深く見ました。それは完全に相性が良いようでした。敵意はありません。「名前を忘れましたか？つまり、

この論文に載せられる何か、いくつかの見出し。」ハーベイは入学許可書を振った。
「私がそれに付けることを提案する名前は何ですか？」
宇宙飛行士は、行動を起こすことによって他の人に引き起こした困難をよく覚えており、この完全な混乱に直面して、他の方法で行ったように立ち上がって立ち去るつもりはありませんでした。彼はただ座って、一生懸命に努力し、失敗して、これらの質問らまったく意味をなさなかった。
「チャーリーはどうですか？とりあえずチャーリーという名前をつけていただけませんか？やがてレコードにあなたの名前を付ける必要がありますが、チャーリーは今のところそうしますか？」
一時停止がありました。宇宙から来た男は、それらの言葉に何らかの意味を見いだそうとしました。彼は出来なかった。彼は静かに座って、善意とわずかな困惑の普遍的な小さな笑顔を浮かべました。
「言いなさい」と精神科医は言った。
"大丈夫ですか？よろしければ、別の日にこれを行うことができます。」彼はインターンからの必死の合図を無視した。
宇宙人からの沈黙。
「ほら、これは私の仕事の一部です、それだけです。私は質問します、あなたはそれらに答えます。私が質問し、あなたがそれらに答えなければ、私は私の仕事を行うことができません。」
彼は待っていました。応答なし。
"わかった。明日やります。お会いできてうれしいです。」彼は立ち上がった。
"良い一日。"
「まだやめないうで、ハーベイ博士！」インターンは面接の簡潔さに最も不満を持っていた。
「私は、医学的観点からこの患者とよりよく働くことができるように、状態の診断と報告を望んでいました。」
ハーベイはニヤリと笑った。彼は医学的に間違っているという証拠を見たことはありませんでした。彼はそう言った。
「しかし、私は今あなたにその報告をします。私はその少年を押すつもりはありません。彼と友達になりたいので、彼が準備ができたら、最終的には私に話し掛けてくれます。」
彼は腰を下ろし、看護師はホバリングした。
「私は自分のオフィスでこれを行うつもりでしたが、あなたが私の考えを知りたがっているなら、ここでそれを行います。ただし、部屋を片付ける必要があります。患者も行きます。」
「ホールで待っていただけませんか？」インターンはドアを開けて、それを通してみんなを撃ちました。宇宙飛行士はセオドアで続いた

提案、そしてドアの外の小さなグループと静かに彼の場所を取りました。精神科医は看護用次のように口述しました。彼はあらゆる点で正常に見えた。唯一注目された異常は、反応するスピーチの完全な欠如でした。彼は自分の名前を尋ねられたときに返答することを拒否し、比較的快適なままでありながら、完全にコミュニケーションが取れないままでした。緊張型統合失調症、または緊張型定状を伴う他の神経症またはおそらく精神病的反応の可能性は、依然として非常に強い可能性があります。ここでは、神経学的精密検査、特に脳損傷の検査が強く示されています。影響は当たり障りのないように見えた。明らかな敵意はありませんでした。しかし、主題との関係を築くことは不可能でした。」

ハーベイ博士は立ち上がり、若いインターンに微笑んだ。「そうだろう、ドクター？」未完成の顔が集まって「ありがとう」と言うと、年上の男は振り返ってドアから出て、秘書を追いかけました。軍曹は頭を突っ込んで、「ドクター、これから行くよ」と言った。

"待って！私はそうではありません..."

「彼にはもう何も悪いことはありませんよね？」軍曹のあごは再び前に押し出されていました。

「いいえ、私が見ることができないわけではありません。しかし..."

「これは国家安全保障の問題です。ご協力ありがとうございました。さようなら。」

軍曹は入場デスクを通り過ぎ、セオドアと彼のすぐ隣の宇宙から男を通り過ぎ、2人の警官が密接に続いた。緊急ドアが彼らの後ろで閉まったとき、モードから最後の嘆きがありました。

「あの男を認めたことは一度もない！」ふっくらとした頬は上司からの予想されるトラブルで震えました。「どうやってそれを正しくするつもりですか？は？」

インターンがやってきた。

「モード、何を教えて。エピソード全体を忘れてください。自分でレコードを取ります。わかった？」

彼女はうなずき、まつ毛をはためかせた。効果のないインターンは、薄汚いホールを悲しげに歩きました。このようなことは二度と起こりません。結局、彼は決して有名になることはなかったでしょう。彼は宇宙人が残したばかりの診察台に横になり、目を閉じた。

Sgt. アームストロングは緊急ドア、インターン、エピソード全体を頭から閉じ、セオドアと男を宇宙から病院に連れて行ったパトカーに戻しました。

「これに袖口をはめ込む方がいいです。彼はトラブルメーカーです。前回車に乗ったとき、彼はそれを盗んだ。」

上級役員は同意をうなずいた。

"うん。彼を迎えに行ったとき、私は彼をパンクだと思ったんですよね、チャーリー？」袖口は続いた。「このこの男はどうですか？」チャーリーは尋ねた。

Sgt. アームストロングはいわゆる宇宙人を見ました。彼はその男の奇跡的な回復を思い出し、彼が他にどんな超自然的な力を持っているのか疑問に思いました。

「ええ、彼もそれらを置いた方がいいです。」

チャーリーはそうしました、そして、金属は突然冷たくて、宇宙人の手首に対して固くなりました。彼はキラリと光るブレスレットをテストしました。この装置をつけたまま移動する機会がほとんどなく、彼が自分自身や仲間へ仕えることは非常に困難でした。彼はこれを頭の中で戸惑い、それが驚くべきことで理解できないことに気づきました。この惑星の精神面の彼のツアーを完了し、このかなり独特な行動の背後にある動機の説明を見つけることは大きな喜びです。

全体の乗り物は、特に警察の車がフォートベンソンとSgtの正門を通過して入場した後、一連の不可解なシーンとアクションでした。アームストロングは、憲兵隊長の事務所に行く方法について指示を出していました。宇宙から来た男は、通りかかったさまざまなユニットに夢中になりました。彼が見た多くのデバイスは大きくて複雑でしたが、それでも意味も目的も何もないようでした。彼は、装甲部隊のモータープールの一部を運転しているときに、彼の視線を通過した物体に完全に当惑しました。M-60戦車は、彼にとって何となく魅力的であるように見えました。その長く細い105mm砲は、ずんぐりした重い下部構造の上に非常に高く突き出ていました。おそらく彼は、これらは芸術の形であり、空に向かって持ち上げられた長い突き出た管は、人間の永遠の真実の探求を表していると考えました。

この考えは彼を大いに喜ばせ、彼はこの惑星で遭遇した無数の謎の1つに侵入したことを期待して、数時間それを考えました。

彼は、基本的な訓練の新兵のグループがほぼ完璧なステップで行進し、ライフルがスリングアーム、食堂、銃剣でリズムカルにそしてチューンに太ももに叩きつけられるのを見ました。彼らは最も陽気であるように見えました、そして彼らどんな可能な目的が関係する実体においてそのような目的の統一を作り出すことができるのか疑問に思いました。彼はこれらの男性の精神のいくつかの非常に完全な集まりと高揚を想像しました、そして彼は彼らが兄弟関係でそうリンクされていることで彼らに喜びました。彼らはどれほど緊密に動いたか、心と思考の統一がどれほど完全に存在しなければならぬか。

諷刺。彼らのパトカーがコラムの頭を通過したのと同じように、訓練軍曹の命令で、新兵は訓練ユニットに非常に一般的な聖歌に侵入しました：

左、右、左

あなたは良い家を持っていました、しかしあなたは去りました。

これは宇宙から来た男が表現したい霊の諷刺の美しさであり、幸福に輝く目でセオドアに目を向けた。

「ここに住む人々は、本当に自分たちと、そして創造物と一体となっています。彼らは素晴らしい団結を楽しんでいます！」

セオドアはわずかに緑色に変わりました。彼は宇宙人に答えることができなかったが、大きな警官は答えた。「この男はまだドーピング中ですか、

その間、宇宙から来た男は、他の行進隊を通り過ぎたとき、兄弟愛を目の当たりにして、熱心に再び頭を向けました。プロヴォスト・マーシャルの事務所があった建物の前で車が止まったとき、大きな警官が彼を片方の腕で連れて行き、軍曹とセオドアのすぐ後ろにある正面の事務所へ引き込んだ。

「私はハリス少佐に会わなければなりません」とSgt. は言いました。デスクサージェントにアームストロング。「彼はあなたを期待しています。」

Sgt. アームストロングは警官の方を向いた。

"どうもありがとうございます。何卒よろしく願い申し上げます。私たちは今、問題なくこれらの囚人の世話をすることができます。"

「お役に立ててうれしいです。いつでも」と、バールと宇宙から来た男は軍人であるという永続的な印象の下で、大きな警官は言いました。

「よろしければ、これらの袖口を持っていきます。」

「問題ありません」とアームストロングは言った。

"どうぞ、大丈夫ですよ。彼らは今、軍のポストにいます。"

袖口は回収され、頭を曲げた状態で、上級将校は明らかに20歳の軍人にやや甘やかしてニヤリと笑った。彼は自分自身が軍隊に所属しており、Sgtなどの男性に共通する哲学を認識していました。アームストロング。彼は出発し、彼と彼の仲間の将校がドアを通り抜けると、手錠のセットが一緒に鳴り響きました。

「さあ、Sgt. アームストロング」と、待機エリアの前壁に沿って着席するようにセオドアと宇宙飛行士を動かしながら、デスクの軍人が言った。

アームストロングはそうし、プロヴォストマーシャルのドアを通り抜け、かなり無地の木製の机から正しい3つのペースを止めました。

その後ろにハリス少佐が座っていた。彼は鋭く敬礼した。「様
Sgt. 憲兵隊長に会うファーストクラスのジョン・アームストロング。」
「はい、軍曹。座って下さい。」ハリスは敬礼を返しました。
「さて、これが何なのか教えてくれたとしましょう。大尉のことを聞いて大変申し訳ありませんでした。
クローズ。」
「かしこまりました。さて、どこから始めればいいのか本当はわかりません。しかし、
聞いてください。まず、クローズ大尉についてお話ししたいと思います。私が心算して
いた...」
「Crouse大尉についてはかなり完全なレポートがあります。シェリダン中尉は彼の体
を拾うために降りて予備調査を行いました、そして市民当局は彼を拘留したその副保安
官の妻を連れて行きました。しかし、私が聞いたところによると、すべてがばかげた間
違ひのように聞こえます。」
「かしこまりました。確かにそうだった。しかし、私は2つを持ってきました...アームス
トロングは突然、上官が2つの惑星間スパイ（そのうちの1つは別の惑星からのもの）の
所持を主張するのは少し奇妙だと思うかもしれないことに気づきました。
「はい、軍曹？」
「まあ、サー、私は...ええと、そこには2人の男がいます...」少佐は、軍曹がもっと突
進する必要があることが明らかになるまで待ちました。
「先ほどの電話から2人の男性を連れてくるようになりました。さて、彼らのユニット
は何ですか？」
「ああ...そうですね、彼らにはユニットがありません。実際、彼らは軍隊にはまったく
いません。」
「軍隊にいないのですか？」少佐の顔は興味から怒りの始まりへと急速に変化しました。
「では、私たちは彼らと何をしているのですか？この2人の男性が民間人である場合、
どのような問題が発生する可能性があるかを理解しており、彼らは私たちが彼らを拘束
したことを証明できますか？これは深刻です、軍曹。」
「はい、そうです、私は知っています」とアームストロングは言いました。
「私もそうだと思っていたので、自分の手で問題を解決しました。聞いてください、最
初から話させてください。」
「あなたのほうがいい」とハリス少佐はひどく言った。
「そして私はそれが良いことを願っています。」
Sgt. アームストロングは椅子を神経質にひねり、片方の手で首輪を引っ張った。
「まあ、それはすべて、クローズ大尉と私がチャーチ大佐が実験作業に関する特定の情
報の漏洩を調査するのを手伝うように割り当てられたときに始まりました。これはすべ
て最高の秘密でした。パデエフスキーが実験プログラムのいくつかを個人的に設定した
ので、私たちはパデエフスキーを見ていました。」軍曹は息を呑んだ。
「だから私はパデエフスキーの場所を見ていました

家は、正確には、長い私道で、本当に長く、家を見ることができません。しかし、それがあなたが家に着くことができる唯一の方法です。」

彼は一時停止しました。少佐は彼の理解をうなずいた。

「それで、とにかく、私はこのキャデラックが私道を上るのを見ました。私は彼らが誰であるか知りませんでした。しかし、彼らは戻ってこなかったので、パデエフスキーの車が私道に入った。それで、キャデラックが他の家に行ったのではないかと思いました。その私道から2軒の家があります。しかし、私はこの別の場所に行きました、そしてキャデラックはありませんでした。それで、私はパデエフスキーの場所に戻って、その方法で何かを見つけることができるかどうかを確認しようと思いました。さて、先生、私が家はかなり近づいたのと同じように、ここにキャデラックが来ました、そして私は彼らがパデエフスキーのタイヤを撃っているのを見ることができます。それで私は車に戻って、クラウド大尉に電話して何かが起きていることを伝えました。彼は船長と一緒に現れたので、彼はチャーチ大尉に電話したに違いないと思います。彼らは両方ともポストに住んでいます、見てください、そして私はそれがかなり簡単だったと思います」

「はい、軍曹、ハリス少佐は言いました。"続ける。"

かしこまりました。さて、彼らは両方とも私の車に乗り込みました、そして私は小さなスポーツカーがドライブに変わったときの状況について彼らに話し始めていました。私たちは道を外れて、隠れていました。まあ、とにかく、パデエフスキーの車が私道から出てくるのはほんの数分でした。彼らは撃たれたタイヤを変えたに違いない。家こいたみんなが車の中にいるようだったので、それに従うことにしました。大佐は私にもう少し質問したかったので私と一緒にいました、そしてキャプテン・クロースは彼自身の車に戻りました、そして私たちは彼らを追かけ始めました。それはこの代理人の家に行き着きました。彼らがガレージに潜り込んだとき、私たちは彼らを逃しましたが、クラウド大尉は後戻りして彼らを見つけました。」

「今、あなたはキャプテン・クロースの殺害に近づいています」と少佐は言いました。

「あなたの話がシエリダン中尉の話とどのように比較されるかを見たいです。」

"かしこまりました。ええと、私が理解しているように、それは1つの大きなファウルアップでした。副官の妻は、何が起きているのかを知る前に彼を撃った。彼女は、キャプテン・クロースが銃を持っていて、夫を撃つつもりだったと思った。彼女は彼が犯罪者だと思った。彼女はただ動揺していたと思います。」

ハリス少佐はうなずいた。

「はい、それはこれまでの中尉の話と一致します。しかし、世界で2人の民間人と何をしているのですか？」

「まあ、サー、私はちょうどそれに来ていました。ほら、大佐はパデエフスキーグループに質問を始めました-

彼らのうちの5人がいました：パデエフスキー自身、ジョ シュアスターという名前の俳優、エスメレルダという名前の見事な金髪

あなたはそれを信じますか、ベールという名前の若い男、そしてベールのように、多分彼らは関係していた、彼だけが決して

なんでも言って、彼は頭がおかしい、またはある種の旅行をしているようだった。彼は目を閉じてただ座っていた。とにかく大佐はこのグループに質問を始めました、そして私はちょうど宇宙人が起きて家から出て行くまで、ただ聞いていました。そしてもちろん..."

「なに、軍曹？」

「宇宙人、サー。宇宙から来た男。だから私はこの2人を連れてきました。彼をフロントオフィスに連れて行きました...」少佐から石のような沈黙がありました。

「まあ、彼は起き上がって出て行ったところです。チャーチ大佐は彼をやめるように言いました。さもないと彼は撃ちますが、彼はそうしません。それで大佐は彼を撃つか、彼を撃ちます。彼はそれが警告ショットだと言ったが、私はそれを知らなかった。それで私は彼をバックアップしました。大佐が彼を撃ち始めたとき、サー、それは彼らが彼が別の惑星から来たたとそれを知らせたときです。そのうちの一人は、「宇宙人を止めなければならない」などと言っています。それが私たちが見つけたときです。とにかく、大佐は彼を撃ち始めます;そして私は大佐をバックアップする以外に何をすべきか、それで私は彼に私の.45ゴールドカップで背中の中に入れて持たせました。

「ちょっと待って、軍曹。あなたは今フロントオフィスに座っている男を.45で撃ちましたか？」

「かしこまりました。背中の中にある右の正方形。」

少佐は彼の事務所のドアに行き、犠牲者を見つけようとしてその端を見回した。

「死傷者は見当たりません、軍曹。

彼らは兄弟のように見えるたった2人の若者。見た目からすると、どちらも馬のように健康的です。」

「右側のもの、サー。それが宇宙飛行士です。」

「それならあなたは彼がいなくて寂しかった。そうですか？」

「ああ、いや、サー。私は彼を背中の中に入れて行った。その範囲で3インチを超えてグループ化することはありません。」

「軍曹、私は、背中の中に入れて、1か月か6週間以内に.45が回復したという男性のことを聞いたことはありません。この男は元気です。」

「まあ、先生、私は知っています。それは医療関係者のためのものです、サー。おもしろい話になると言った。だから私は彼が本当に宇宙人だと信じ始めました。彼が回復したからです。」

少佐はSgtを見ました。アームストロング。彼は彼を長くそして一生懸命に見た。彼の頬のきつい色、彼の目の光沢のある、明るすぎる表情

軍曹は神経衰弱を起こしている可能性があります。彼はゆっくりと自分の席に戻り、その後ろに座った。「続けて、軍曹。」

"かしこまりました。さて、宇宙から来た男が土にぶつかった後、ゴージャスなブロンドが駆け寄ってきました、そして大佐は彼を調べて彼が死んだと言いました、そして彼女は彼が死んでいないと言いました、そして彼らは彼を生き返らせることができました。さて、彼らはしばらく話しました、そして大佐は彼らができると言ったので、彼らは彼を迎えに行きました-そして彼も死んだ人でした、少佐

そして彼を家の後ろでこのフィールドに連れて行きましたそしてそれから彼らはたくさんの大騒ぎをしました-彼の上にジャンボ、そして女の子と俳優...」

「ずっと大佐はどこにいましたか？」

「まあ、私はパーティーの残りの部分と一緒に家に戻ったが、大佐は彼らと一緒にフィールドに降りて、本当に近くで見た。」

"続ける。"

「まあ、彼らは空中で手を振って、これらの外国の言葉を言っています、そしてしばらくすると、彼らは戻ってきて、宇宙人は彼自身の蒸気の下で彼らと一緒に歩いています。彼らはどういうわけか彼を生き返らせた。確かにそれを戦闘で使うことができます。とにかく、彼ら全員が家に戻った後、彼が彼らが言ったことをすべて信じていたので、彼がそこにいる間に大佐に何かをしたり、催涙剤をかけたりしたことがわかりました、そして彼は彼らが望むことを何でもしました。彼は彼に立ち去って宇宙少女を救ってもらいたかったのです...」

「何？」

「はい、サー、あなたは彼らがとても早く避難していたのを見るでしょう。なぜなら宇宙から来た少女、宇宙人と一緒に来た少女が誘拐されたからです、そして...」

「誘拐された？」

「そうです、サー。彼女はこれらのシンジケートの人々に誘拐されており、パデエフスキーグループは彼女を取り戻すために彼らを追いかけていました。とにかく、それは彼らがチャーチ大佐に言ったことであり、彼は彼らをすぐに信じて、彼ができる限り彼らを助けると言った。さて、サー、私は大佐がもう正しくなかったと言うことができました、あなたが知っている、彼が状況をコントロールしていなかったということです。つまり、私が言っていることを見れば、あなたは物事の感触を得るためにそこにいなければなりません。とにかく、彼は私に、その男を宇宙から連れ出し、この若い仲間のペールを彼らの寺院に戻すように言った...」

"寺?"少佐の顔は彼が聞いたすべてを反映しようとするのをあきらめ、好奇心旺盛な無秩序が支配し、それぞれの特徴は少しねじれていました。

他からの独立。その色で、それはチリコンカーンのポウル「どの寺院？」にますます似ていました。

「俳優のスター、彼は寺院を持っていたようです、どうやら。そして、私たちはそれに行くことになっていた。ここにとても近いです。」

「はい、私はスター氏を知っています。私は彼をテレビで見た。彼は寺院を持っていますか？まあ、気にしないでください。続けて、軍曹。」

「かしこまりました。私が言ったように、あなたは本当に、すべてがどのように起こったかを知るためにそこにいなければなりませんでした...」

「これは難しい話だと思います、Sgt. アームストロング。続けてください。」

「大丈夫です、サー。とにかく、通常、私は大佐の命令を尊重していましたが、大佐は彼がこの遠い地帯にいて、私が言っていることを見ると、彼の目は本当に艶をかけられていました。そして、実際には彼は信号隊に所属しており、私はCIDに所属しています。彼は確かにこの状況を手に負えないようにしていたので、彼よりも犯罪捜査についてもっと知っているのではないかと思います。つまり、別の惑星からのスパイを、私の言いたいことを理解していれば、ある寺院に行かせることです。だから、お寺に行くよりも、ここに持ってきたほうが良いと思いました。」

ハリス少佐は呼吸が困難なようでした。アームストロングが飲み込んだ。

「見えませんか、サー、私はこれらのスパイを逃がすことができませんでした。質問のために彼らをここに連れてくるのはそれだけでした。つまり、彼らが副官の射撃中のクラウス大尉と関係があるかどうかは本当にわかりませんが、彼らは私たちが必要とする軍事辞隊を持っているに違いありません。」

「大丈夫、軍曹。それであなたは私に電話をかけたか？」

「かしこまりました。そして、私があなたに電話した直後に彼らは逃げました、しかし私達とはかく彼らを手に入れて、そして彼らを病院に連れて行きました。宇宙人はまだ殺されてから回復していました、見てください、そして彼は昏睡状態の何かにありました。」

「そしてスペースm...」少佐は自分自身を捕まえました。

「そして、この男は病院で回復しましたか？」

「はい、サー、それは彼がいた場所ですが、彼らは彼を治すために何もしませんでした、彼に薬か何かを与えました。彼らはただ彼をそこで1時間ほど眠らせ、彼の血液でいくつかのテストを行い、聴診器などを使って医者と同じように彼を調べました、そして彼はちょうど彼が横たわっていた場所から起き上がりました、そして彼は完全に大丈夫だった。ちょうどそのBehrの男が彼がそうなると言ったように。」

「彼は起きていて、.45のスラッグを持っていましたか？」

「その時までには、彼は45を持っていませんでした。最初のX線では0.25でしたが、彼が起きたときにはまったくありませんでした。」

「そして、あなたは二人の男を連れてここに連れてきました。そうですか？それが全体的話ですか？」

「はい、それだけです。だから今、私たちはそこに惑星間カウトを持っています、そして

…」

「ありがとう、軍曹。今のところこれですべてです。私がいこれらの人々と話している間、あなたがただ外で待つことができれば。」ハリス少佐は立ち上がって軍曹を彼の事務所ドアまで護衛した。彼はこの時点で軍曹の能力をひどく疑っていました。なぜなら、全体的話は信じられないほどであり、その最後の部分はまったく意味がありませんでした。なし。

「これらの男性は民間人です、Sgt. アームストロング。早く考えていたらよかったのに。どちらもとても親切でない限り、私たちはとてもお湯に浸かっているかもしれません。」

「しかし、サー、そのうちの1人は別の惑星からの事前偵察者なので、彼はそこで軍隊にいる必要があります。それで彼は私たちの管轄下に置かれますね？そして、ペールは彼の共犯者なので、彼はアクセサリーになりますね？」

少佐はSgtを導きました。これらの質問に答えることなく、ドアを通過してアームストロング。別の惑星からのスパイ！愚か者なら誰でも、これらがたった2人の普通の男の子、おそらく大学生の子供であることがわかります。彼はその男を宇宙から彼のオフィスに引き入れ、セオドアの促しで、男は元気に応じて、少佐の招待で、Sgt. アームストロングはちょうど空いたところだった。

少佐は喉をすっきりさせた。

「あなたが話す前に、私は軍法の統一法典から読みたいと思います。」少佐はこの男を管轄する権利を全く持っていなかった、そして彼はそれを知っていた。

しかし、彼はおそらく、これを軍人の日常のように読むことによって、少年は順守に落ち着くだろうと考えました。彼は第31条を読んでおり、弁護人の権利と黙秘権を告発された人に知らせていました。

宇宙人は言葉が彼に読まれる間、彼らの意味を理解しようとして、着実に彼を見ました。彼が知っている限り、言葉は物理的な面でツールとして使用することはできませんでした。なぜなら、彼らが動かした力は精神的なものだったからです。おそらく彼の前の男は、彼に人工元素や精神面から召喚された他の力についてのある種の情報を与えていたのでしょう。これは非常に興味深いものでした。彼は、この惑星の人々が物理的な平面以外のことをこれほどよく知っていることを知りませんでした。

良い知らせでした。これは本当に素晴らしい場所、このプロヴォストマーシャルの場所でした。敷地内を歩き回った人々の兄弟愛、そして彼らの調和のとれた歌、そして今ではより高い飛行機の知識の証拠。

「それは明らかですか？」少佐に尋ねた。

「はい」と宇宙人は、先生かもしれないこの人に熱心に笑って言った。彼は自分が自分に役立つことを望んでいた。彼の金属製のプレスレットが外れたので、彼は必要な方法で助けられてとても幸せでした。

"名前は何ですか?"少佐に尋ねた。「私には名前がありません。」

「じゃあ...ベールさんはどうやってあなたを呼んでるの？」

「私は言葉で呼ばれていません。」「じゃあ？」

「私は思いを馳せて呼ばれます。」

「おやおや」とハリス少佐は思った。軍曹は少なくとも一つのことについて正しかった。ここに奇妙なものがあります。彼は別のアプローチを試さなければならぬでしょう。

「私はそのSgtを理解しています。アームストロングはピストルであなたを撃った。」

"はい。"

ハリスは見つめていた。「じゃあ、撃たれたの？」

宇宙飛行士は、言葉を質問として認識せずに、少佐を黙って見つめていました。

「弾丸はどこに当たったのですか？」

宇宙から来た男は片手を背中後ろに置き、弾丸が体に入った場所に可能な限り触れた。ハリスは椅子の後ろを歩いて男に寄りかかり、シャツを引張り始めました。

"あなたは気にしますか?"彼は尋ねた。男はこの質問にまったく反応せず、その意味を理解していなかったが、少佐は先に進み、とにかくわずかに汚れたシャツを引き上げた。

傷の証拠はまったくありませんでした。色白の肌は子供のように滑らかでした。ハリスにとって、軍曹がどういうわけか間違った人を連れてきたのは明らかかなようでした。

たぶん誰かがこの少年をアームストロングの犠牲者の代わりにしたのだろう。彼は彼らがどうやってそれをすることができたのか疑問に思いました。おそらくアームストロングは催眠術について正しかったのだろう。おそらく、これらの人々は、教会大佐だけでなく、軍曹に催眠術をかけることができたのでしょう。アームストロングも。それは本当に奇妙でした。彼は首を横に振って机に戻り、さらにいくつか質問をしました。

宇宙から来た男ですが、彼らは彼にとって何の意味も持たないようでした。彼は黙って座っていて、言葉に答えたり言ったりしなかったからです。ついに彼はあきらめた。おそらく彼は他のものからより多くを得ることができたでしょう。

「それで全部です、ありがとうございます。パールさんを送って、私が彼と話している間、フロントオフィスに留まってくれませんか？」

宇宙から来た男は、陽気な機嫌でそうしました。

Behrは、明らかに酸っぱい、酸っぱい顔をして歩きました。ハリス少佐は彼と同じ言葉を読み、彼が座るように動いた。セオドアはそうしました。

「さて、あなたの名前は何ですか？」少佐に尋ねた。

「申し訳ありませんが、少佐ですが、私は何も言っていません。そして、私は今、弁護士に電話する資格があることを知るのに十分なテレビを見てきました。」彼がパプロの弁護士の電話番号をととても便利にしていました。

ああ、ハリスは思った。最初はナッツ、そして今は守衛弁護士。しかし、彼は優れた将校であり、目撃者や容疑者と話している間、彼の気性を保つ方法を学ぶのに長い時間がかかりました。彼はこれに親切だろう。多分それは役立つかもしれません。それはしばしばしました。同情などすべてにアピールします。

「ほら、息子よ、私はあなたやあなたの友人を傷つけたくない。私は本当にあなたを助けたいです。これはとても混雑しているようです。私はただその底に行きたいので、私たちは皆家へ帰ることができます。オフレコでは、そこで何が起ったのかについてかなり混雑しています。率直に言って、あなたのバージョンのストーリーは私にとって大きな助けになるでしょう。」

「少佐、弁護士が到着したらすぐに、私のバージョンをお渡しできることをうれしく思います。」

少佐は内向きに身をよじった。その少年は彼を持っていた。彼はブラフされるつもりはなかった。彼はあきらめて、ビジネス全体が煙に包まれる前にこれら2つを手放したほうがいいです。それは、民間人が軍隊に拘束されていることを弁護士が知るとすぐに起こります。

「ちょっと待ってください」と彼は言って彼のオフィスのドアを通り抜け、Sgtを見つけました。アームストロングの目、そして手招き。アームストロングはすぐに来ました。「かしこまりました？」

「私はもう彼らを飼育することができません、軍曹。そのBehrの仲間は私のブラフを呼んだ。私は彼らを手放すか、今すぐ民間警察に引き渡すつもりです。彼らに告訴したいですか？」

「かしこまりました。確かにそうです。」

ハリスは机の後ろに戻り、パールに心からの笑顔を浮かべた。

「ここで、私の電話から弁護士に電話をかけることができます。町の警察署であなたに会うように彼に言いなさい。今すぐそこに行きます。」

セオドアはまさにそれをしました、そしてそれから、その日の75回目であるように思われたもののために、彼は宇宙からの人と一緒に車に押し込まれました：これ

MPが混乱している憲兵セダンの時間、少佐と軍曹は両方とも一緒でした。少佐は、アームストロングが合理的であり続けることを本当に信頼しておらず、彼の部門に影響を与える可能性のあるものを直接的にたいと思っています。

15分後、彼らは警察署の机の軍人の前に立っていました。

「名前」は、机の軍人を濡れさせた。

「これはセオドア・ベアです。これには名前がありません。」デスクの軍人は一枚の紙にベールの名前を入力しました。「もう一方のエイリアス？」

「エイリアスもありません」とアームストロングは言いました。

「ジョン・ドウ」は机の男を濡れさせた。「料金はいくらですか？」

Sgt. アームストロングはその準備ができていました。

「惑星間スパイ」と彼は大声で言った。

デスクサージェントは、彼の論文から見上げて、信じられないことに目を細めながら、初めて生き返りました。「惑星間スパイと言いましたか？」

「その通りです。」

「彼にそれを請求することはできません。惑星間のスパイ行為を禁止する法律はありません。惑星間スパイのようなものはありません。法律があるものをください！」

「しかし、それに反対する法律が必要です。これらの男性はスパイです！」

「ほら、何が重要なかは気にしない。キリストのために、惑星間のスパイについての本はどこにも法律はありません。私たちが法律を制定したことに対していくらかの責任を負わせてください。」

「しかし、私はあなたに言っています、これらの男性はスパイです」とアームストロングは言いました。

「それは反逆です。そのためにそのうちの1つを撃たなければなりませんでした。」

「そうそう？彼はどこで撃ったの？どれ？医者が必要ですか？」

「いいえ、彼は今は大丈夫です。」

「彼にニックを入ただけですよ？彼の頭から跳ね返るのか、それとも何か変なことなのか？」

「いいえ、私は彼を背中の中真ん中で真っ直ぐに撃ちました。私は約3インチをグループ化します...」

少佐は割り込んだ。「軍曹、これは非常に珍しいケースだ」と彼は軍曹に言った。

「私たちがこれらの男性に惑星間スパイを仕掛けることができないことはかなり明白です、そして-

彼は専門的にきらめきました。彼らがその罪を犯しているのかどうかはよくわかりませんが、しかし、彼らは今日の初めに非常に厄介な小さな事件、クラウス大尉の銃撃に立ち会いました。」

「射撃?どこで起こったの?」

「スペンサー郡に出て」、アームストロングを志願した。

「ああ、それは私たちの管轄外です。」

ハリス少佐はSgtに目を向けた。アームストロング。

「他に請求できるものはありますか?」

軍曹は、惑星間戦争についての情報を得る機会を逃していると誰かに確認させている間、彼らを保持するために、可能な限り迅速に考え、料金を考え出そうとしました。

"浮良?"彼は少し乱暴に言った。

「浮良はどうですか?どちらも彼に10セント硬貨を持っていないに違いない。」

「私たちはパブロ・パデエフスキーのゲストです。そして彼がこの郡で最も裕福な男性の一人であると想像する必要があります。」とセオドアは言いました。デスクサージェントはその名前を認識しました。その男は確かに重要な居住者であり、多額の税収の源でした。彼は彼と混ざり合うことを望んでいませんでした。

「彼と彼の友人がパデエフスキーと一緒にいるなら、彼らは浮良者ではありません」と彼はハリス少佐に語った。

「まあ、ちょっと待ってください。知っている。逮捕に抵抗する。彼らは逮捕に抵抗した。」

「何の逮捕、軍曹?」机の後ろの男に尋ねた。

「私たちは誰も逮捕していませんし、非軍人を逮捕することもできません。」

「まあ、彼らは私が運転していた車を盗んだ。」

「それはパデエフスキー教授の車でした。そして私たちは単にそれを家まで運転して来ました。」とBehrは言いました。

「そうですか?彼は自分の車で車で逃げましたか?」

「ああ...はい、そうだと思います...」

パデエフスキーの弁護士がこの時点で警察署のドアを通り抜け、数分ですべてが終わりました。非常に短い戦闘の後、「しかし、これらの男性は惑星間スパイです」といういくつかの爆発によって特徴づけられました。

Sgtから。アームストロングと、ハリス少佐、セオドア、そして宇宙から来た男によるいくつかのスピーチが駅のドアを出て、弁護士の車に乗り込み、パブロ・パデエフスキーの家に向かって走り去った。

セオドアはとても疲れていて、とてもお腹がすいたが、彼らは自由だった。スコットフリー。

第12章

エスメレルダは宇宙からの少女のアカシクトレイルをたどるのにほとんど問題がなく、ヘリコプターでほぼ1時間後、彼女がたくましいマーブとくちばしの鼻の小さなエルモに連れて行かれた小屋を見つけました。地形は樹木が茂っていて非常に荒れていて、湖とその岸はさらに困難でした。そこに着陸することはできませんでした。彼らは、キャビンから約.5マイルのところに置き、キャビンから最も近い丘の隆起を越えて、住民による検出から逃れることができるように十分に離れて、古い未舗装のトレイルを歩いてアプローチすることになりました。かつては伐採道路だったのではないかと思われました。

彼らは十分に高い高度で偵察を行っていたので、キャビンの前の空き地にまっすぐ上を向いて座っていなければ、誰も地面から彼らを見つけることはできませんでした。小さな丘の側面を覆っている森は非常に密集していて、一部はカエデとオーク、一部は松であり、実際に試してみなければ誰もそれらを見ることはできませんでした。

Padeyevskyは、誰も実際に試みているとは思っていませんでした。彼が誘拐を追跡できること、そして彼ができたとしても、彼がこれほど迅速にヘリコプターにアクセスできることは疑わしきことができなかった。

着陸は瞬間で、チャーチ大佐は最初にUH1-

Bから降り、歩兵小隊のリーダーのように感じました。彼はパイロットに自分のマシンに留まり、彼らが戻るのを待つように指示した。それから彼はパブロ、エスメレルダ、ジョシュアのグループを率いて道を進んだ。彼はゆっくりと、乾いた土の道を注意深く歩き、カエデの葉の回転の美しい赤みがかかった輝き、オークの斑入りの黄色とオレンジを取り入れました。素敵な秋でした。国はかなり無人でした。ほんの少しのロビンとグラクルがここに残って歌いました、これは遅くなりました。リスは最も騒がしく、ナッツの収穫を整然と刈り取り、森の端にある枝に挿し木を落とし、平らに横たわり、まだ足跡をたどっていました。影が葉のレースを通してグループを覆い隠し、大佐は道をふさいだ倒れた手足を通り過ぎた。夏の終わりの嵐で取り壊されたに違いありません。すでにかなり死んでいた。

彼はこれらの人々を助けるという彼の決定にますます不快感を感じ始めていました。癒しの儀式に完全に没頭することによってもたらされた、疑いから完全な信念へと彼を駆り立てた勢いは衰え始め、彼は愚かさを感じ始めていました。

チャーチ大佐はいつでも愚かさを感じることに慣れていませんでした。彼の軍歴はますます尊厳に向けた一連のステップでした。

存在の、ますます個性の堅実さ。彼は長年、状況の評価、状況の分析、状況に関する合理的な決定を行うことに慣れていました。この心の習慣は彼によく役立った。しかし今、彼は状況を報告することができず、そうすると、混話を解き、これらの人々を助け続けるのに数時間、場合によっては数日かかるだろうと感じていました。彼はそれについて正しかった。もし彼がチャンネルを通り抜けていたら、それは一つの大きなスナフだっただろう。

しかし今、彼はこの湖の国の平和な荒野を通り抜けるとき、儀式に対する彼の最初の反応が賢明であったかどうか疑問に思いました。結局、彼はだまされていたのでしょうか？彼は、マジシャンや善良な人々ではなく、殺人に巻き込まれたチャーラタンや自信のある男性と一緒にいたのでしょうか？

一方、彼はこのコースに熱心に取り組んでおり、彼は今、自分の能力を最大限に發揮してこのコースを受講することもできます。彼は疑いの心を取り除き、先の問題について考え始めました。結局のところ、彼が状況の分析に誤りを犯したとしても、Sgtによって安全に守られている「宇宙から来た男」が1人いました。大佐がかなりの信頼を寄せていたアームストロング。

Sgt. アームストロングは20年の奉仕をしました。そして、最後の分析では、彼は、これらの人々を助けたり、だまされたりするよりも、彼らが彼らが言ったとおりの人である場合、彼らを助けないことによって失うものがはるかに多かった。もし彼らが本当にエイリアンだったとしたら、合衆国政府が彼らを拒絶することはどれほどひどいことでしょうか。その政治的影響は甚大です。

今、問題、彼らは、古い道路がキャビンの空き地に通じている場所まで歩いていました。誰かがスカウトとして機能しなければならなかった。彼らは、特にエスメレルダと一緒に、正面玄関まで一斉に歩くことはできませんでした。彼は彼ら全員を停止するように動かし、そして彼が木の端に来て、キャビンの外をかなりよく見るまで先に進みました。

周りに魂がないようでした。庭は捨てられました。しかし、私道には車がありました。それがどれくらいの期間そこにあったか、またはそれがキャビンに誰かの存在を示したかどうかを知る方法はありません。開墾地は少なくとも50ヤード伸びており、森と住居の間の距離全体をわたって実際の覆いはまったくありませんでした。

チャーチ大佐はグループに戻り、状況を彼らに話しました。計画を立てたのはジョー・シュアでした。彼はブルージーンズと古いスウェットシャツを着ており、彼のあごひげは1日齢でした。彼はかなり自由奔放なタイプに見えた。とにかく家に忍び込むことは不可能なので、なぜ彼はドアまで歩いてベルを鳴らしてはいけません。彼は方向を尋ねている可能性があります。または、そのことについては、食べ物を物乞いします。そして彼はできた

おそらく、誰が家こいたのかについて、ある種の考えを得るでしょう。彼のだらしない外見で、彼はまったく疑われるべきではなく、彼の情辭を持って戻ることができるはずで、家が施設されていれば、彼は自分が泥棒のふりをして窓際に入り、場所が確認されて安全であると宣言されたとき、彼は彼らを振り回しました。

大佐はこの計画に何の問題も見られなかった。彼はそう言った。

「当然のことながら」ジョ シュアはこやりと笑った。

「私はテレビのために書いています、覚えていますか？」大佐は、その男が立派だとは思いたいと思いました。

外観は彼にとって大きな意味があり、この小さなバンドの3分の2の外観は、彼らに対する彼の自白が旗を揚げ始めた主な理由の1つでした。彼らはただ威嚇がないように見えました。スターはひどく、ずさんで、長い髪のように見えました。髪を上げてストッキングを履いたら、素敏な女性だったかもしれません。

Padeyevskyはかなりよく見えました。しかし、今のところ、彼とパプロはどちらもドレスアップしすぎて、田舎で徒歩で道順を尋ねるにはあまりにも興奮していました。そして、どちらも一般的な強盗の役割でうまく機能することはできませんでした。どちらも見栄えが良すぎた。グループの誠実さに対する彼の自信はわずかに高まりました。

「いいね」と彼は言った。「計画を進めてください。ここからの信号を監視します。」ジョ シュアはクリアリングに足を踏み入れ、彼の最新の役役のために彼の心を構成しました。彼はさまざまな状況に合うように彼の性格を整えるのに多くの練習をしました、そして彼はおそらく会話を必要としている、おそらくちょうど彼の隣人に興味を持っているのんきな放浪者の役割に簡単に滑り込みました。彼の散歩は確認されたアウトドアマンの散歩でした。彼は一緒に振り、足はしなやかに控えめな腰からスムーズに動き、まっすぐに戻ってリラックスし、腕を振りました。それはほとんど通常のジョ シュアの散歩の似顔絵でしたが、それはうまく行われ、先住民で、信じられ、そして非常に健康に見えました。彼は素朴で自意識のある木質のポーチの階段をそよ風に吹き、ドアベルを鳴らしました。それはキャビンの内部に激しく響き渡った。ジョ シュはそれが行くのを聞くことができました。彼は待っていました。彼はまた鳴った。

何の反応もありませんでした。

彼は後ろを歩き回った。ベルはありませんでしたが、彼は大声で数回ノックしました。何もない。泥棒のルーチンの時間、キャビンが空か、彼が去るのを待っている人々が隠れていた。ジョ シュアは2つの理由で泥棒の策略について考えていました。第二に、誘拐犯が実際に中こいた場合、彼らは犯罪者に十分な同情を持っている可能性があり、すぐに彼を殺すことはありません。ジョ シュはすぐに殺されることを望んでいませんでした。

彼は車で私道の終わり近くに横たわっていた岩を持ち上げた。エールロックのすぐ上にある裏口の窓を壊した。内部

数秒、ジョ シュアはキャビンのユーティリティ ポーチの中にいました。とても暗かった。すべての色合いが描かれました。大きな日よけの山か、ある種の重い帆布の付属品を除いて、部屋には何もなかったようです。ジョ シュアは部屋を出て台所に行きました。それは最近の住民をより明らかにしていました。排水栓には2つのグラスがあり、水滴がまだ側面に付着していました。とにかく、誰か、またはいくつかの人が最近ここにいました。彼は触れられていない寝室を調べ、使用されていたが眠っていない主寝室に入った。まるで座っているかのように、ベッドは少ししくちゃになりました。もう1つの興味深い事実: 部屋は真っ暗でした。誰かが外から窓を覆い、窓を釘で閉めた。Joshはドアをテストしました: はい、閉じたときも完全に耐圧性がありました。プロットは厚くなりました。

彼は寝室のドアを通過して居間に歩いた。家のすべての部屋のように、それは暗くて静かでした。彼は家の正面を横切っている窓にバックアップされた長いソファの隣に何かを踏み、それは空だと思った。オブジェクトは、靴の中の人間の足であることが半明しました。ジョ シュアは、彼の短い驚愕を制御下に置いた後、死体、人生は短くて骨の折れる小さな男の体、さらに短くて死に無駄になっていることを発見しました。死は最近のようでした: 体はまだ暖かさを含んでいました。

目に見える怪我の兆候はありませんでした。しかし、体のくいしばられた握りこぶしのすぐ下の床に血の滴がありました。ジョ シュアはこぶしをこじ開けて、手のひらがかなり血だらけであることを発見しました。カットは明らかにガラスからのものでした。いくつかの長い破片はまだ手のひらに埋め込まれていました。もう一方の拳は握り締められましたが、負傷していませんでした。それからジョ シュアは、くちばしのような鼻のすぐ下で、男の唇に数滴の血を見ました。彼はしっかりと閉じた唇から肉を引き戻し、さらにガラスを見つけました。これは、台所にあった2つのようなグラスのように見えるものすりつぶされた部分です。下唇の一部が切り取られていて、ガラスはまだ歯を食いしばっていました。どうやら男はガラスを噛み、手で押しつぶしたようです。

死や暴力さえも理由の兆候は他にありませんでした。顔は暗く、血で洗い流されたが、口の怪我を除いて傷はなかった。

ジョ シュアはまっすぐになり、彼の顔はもはや無愛想ではなくなりました。彼はこのようなことを恐れていましたが、それについては話していませんでした。まだ遭遇していない不幸について言えば無駄です。しかし、多くの人がこれを指摘していました。彼、エスメレルダ、そして宇宙から来た男は、少女の考えを理解できず、アカシックレコードで彼女を見つけることができなかったという事実です。そのようなものを我慢できるようにするには、かなりの魔法のスキルが必要でした。

バリケード;ほんの数人しかそれをする事ができなかったでしょう。そして、過去24時間の暴力の痕跡: 何の必要もなく男を撃ち殺した副保安官の妻。そしておそらく信頼できるSgt。

判断がひどく悪かったアームストロング。彼を止めるための他の十数の完全に非致命的な方法があったとき、人を殺すために撃った人。これらの否定性暴力の行為が、彼自身が白魔術であったのと同じように、黒の儀式で実践された人の魔法によって、たとえば、励まされ、または促されていない限り、それは何の意味もありませんでした。そして、この男が誰であろうと、彼は宇宙からの女の子を持っていました。そして、否定性をまったく知らなかった彼女は、手遅れになるまでそれを認識しませんでした。彼が彼の芸術に非常に優れていたとしてもそうではありません。

どうやら彼はそうでした。なぜなら、ここには、かなり明らかに、死ぬほど怖がっていた男がいたからです。

ジョ シュアは家に戻り、今度はもっと徹底的に、日よけの山がある小さなユーティリティルームに来るまで後ろ向きに働きました。彼はもう一方の体が重い布の巨大な山の後ろの隅に真つ先に詰まっているのを見つけました。当然のことです。彼は物事を明らかにし、それをもっと詳しく見るために自分自身を鍛えました。彼が帆布を持ち上げると、死体は一時的に生き返り、部屋の隅の暗闇に散発的に押し込まれ、再び目を覆うまで帆布がどンドン深く潜り込んだ。これは死んだ男ではなく、ただ狂った男でした。大きな体は震え、暗くなると動かないままになり、250ポンドほどが胎児の位置にカールし、唾液がゆっくりと口から重い布の上に垂れ下がった。ジョ シュアは手を伸ばして男の袖に暫定的に触れました。唯一の反応は、恐怖の囁き声と、さらなる穴掘りの短い叫びでした。

家の中にはそれだけだったようです。それで十分でした。ジョ シュアは小さな豪華な小屋の前を通り抜け、ポーチに立って、南軍に手招きしました。南軍は開拓地を横切って走り出し、彼のそばのポーチで蒸し上がりました。パブロが追いつくまで彼らは待たなければなりません。彼は倦怠感に悩まされていて、風が強すぎてずっと走り続けることができませんでした。

ジョ シュアは見つけたものをすべて彼らに話し、何かに触れないように警告し、彼らを家に連れて行った。彼らはそれぞれ二人の男を調べた。エスメレルダは死体について心配していましたが、それは彼女がその死体が幸福な状態ではないと感じたからです。肉体的外傷は、ほとんどの女性よりもはるかに少ない意味でした。なぜなら、彼女は自分の肉体から離れることが多かったため、その人生を人生そのものとは区別せず、この特定の時間と場所のみ存在したからです。まだ生きている男は彼女をもっと心配し、彼女は彼のために何が出来るか尋ねました。

大佐が最初に答えた。

「敵が激しく砲撃した後、この種の反応を見てきました。ショック反応です。」
パデエフスキーは同意したが、彼はそれが実際どのようなショックであったかについて留保していた。

「精神科医として言えば、あなたは正しいと思います、大佐。ショック反応のように見えるか、緊急病生統合失調症反応である可能性があります、通常はそのように穴を掘ることはありません。しかし、私が今知っていることを知っていると、私はそれを極端な恐怖症反応と呼ぶべきではないでしょう。彼は単に何かを恐れていました。」彼のフード付きの赤くなった目はジョ シュアのものに会いました。両方の男性はわずかにうなずいた。

「何が彼らを怖がらせたのですか？」大佐は尋ねた。二人は彼をじっと見つめた。彼は彼らを振り返り、彼の皮膚はわずかにチクチクしました。ここでは不快でした。というわけか、とても空気が暗かった。

「説明させてください、チャーチ大佐。あなたが私たちを助けている限り、あなたは私たちがしていることをすべて知っているべきです。」ジョ シュアは彼を片方の腕で連れて行った。

「最初にこのすべてから逃げましょう。」彼は男を裏口に向かって軽 操縦した。彼はそれを通り抜け、階段に座った。エスメレルダはジョ シュアがいなかった家の横をさまよっていて、彼女の声がキャビンの横に聞こえた。

「パプロ！ジョ シュ！ここに来！」

彼女の声には恐怖があり、彼女が中の二人の男を調べたときよりもはるかに恐怖がありました。大佐は角を曲がったところでジョ シュとパプロを追いかけ、家の土台の横にあるやや柔らかい地面に突き刺さった木の物体を見ているのを見ました。それはある種の園芸工具のように見えました。しかし、大佐がそれを見つめ続けると、彼はその周りの暗闇を見ることができたように見え、説明のつかない恐怖感、さらには恐怖が彼の中で生き生きと動いた。彼の首の後ろの髪は上がった。

「何が見えますか、チャーチ大佐？」ジョ シュアは尋ねました。

「私は言うことができませんでした-

それが聞こえるのはばかげていることを除いて、物事はただ邪悪に見えます。それは私を怖がらせます」と大佐は言いました。

ジョ シュアはうなずいた。

「はい、大佐、あなたは間違いなく非常に敏感な人です。あなたが見るものは、白い儀式で使用される善の象徴です。それは十字架です。中のそれらの男性を怖がらせた人は、中の壁の1つでこれを見つけたに違いありません。この家が組織のメンバーによって所有されている場合、彼の家族はカトリックである可能性が非常に高いです。黒魔術は、白魔術のシンボルの劣化を利用しています。この十字架が逆さまになっているのがわかりますか？そして、最近栽培されている低木林のすぐ隣の土に押し込まれましたか？おそらくあります

ここにはかなりの量の肥料があり、おそらく天然肥料であり、これが周りで最も汚れた地球になります。なぜそれがとても邪悪に見えるのか分かりますか？」

大佐はぼんやりと見ていましたが、彼は自分が見た悪と、なぜそれを見たのかについてもっと情報を求めていました。

「代理人の家にいる他の誰も私が見たものを見ませんでしたね？」彼は尋ねた。

「いいえ」とジョ シュアは答えました。

「多くの予備的な研究と訓練なしに星の形を見る能力を誰かが持つことは本当に非常にまれです。それは、あなたが少なくとも1つの前の化身で、霊的な事柄において多くの仕事をし、大きな進歩を遂げたことを私に示します。なぜあなたが教会と名付けられたのか疑問に思ったことはありますか？」

大佐はうなずいた。

「はい、実際のところ、私は大学時代にキャリアとして教会に行くことを計画していました。私は自分の名前がその野心にどのように合っているかを考えていました。しかし、私が物理学の理学士号を取得した年は朝鮮戦争であり、戦争の終わりまでに、私はかなり進歩し、軍隊の秩序ある方法を楽しんだ。なんとなく威厳があり、自分の国に奉仕する立場にあるように感じました...」と彼は立ち止まった。突然、彼は教会内で働いていたのとはほぼ同じ理由で軍隊で幸せだったと思いました。それは威厳があり、人々はその地位を尊重し、階級とファイルから離れていました。民間人類の、それは実行するための特別に保衛的な使命を持っていました、それはそれ自身の特別なローブ、またはユニフォームさえ持っていました。

「あなたが今回転生する前に、あなたの両親はおそらくあなたのより高い自己によって選ばれました」とジョ シュアは言いました。大佐、あなたが最初の野心に向かう途中で道に迷ってしまったのではないかと思います。

世界はしばしばそれを人々に行います。」

大佐は、ジョ シュアが彼に考えさせたアイデアを暫定的に感じていましたが、少し驚いたことに、彼は以前に生まれたという一見奇妙な概念に対する抵抗を頭の中に発見しませんでした。状況を分析するのがとても上手だった彼の非常に論理的な心は、今では彼を失敗させていませんでした。このかなり評判の悪い男が彼に示したすべてのものは、これまでのすべての現実よりも単純で論理的な、最も単純な種類の意味を成しているように見えました。大丈夫、彼は、私がこれが真実であると本当に信じるなら、私はそれに基づいて行動しなければならぬと思った。私のキャリアのために、多分私の家族のためにそんなに。彼は妻のことを簡単に考えました。彼女は大丈夫だろう。彼女は彼の思考のこの変化に適応することができるでしょう。彼女は彼が調整するのを見つけることができるどんな困難も一度もありませんでした

新しい場所、新しい人々、新しい言語、新しい食べ物、新しいアイデア...彼女は従うでしょう。物事は大丈夫でしょう。

「そしてこの男、彼が誰であれ。これらの男性を怖がらせるために、彼は正確に何をしましたか？」

ジョ シュアは説明する方法を考えようとして一時停止しました。

「これがまさに起こった方法かどうかはわかりませんが、とにかく、おそらくそのようなものです。二人の男はどちらも犯罪者であり、おそらくかなり否定的です。黒人の魔術師がこのタイプの性格を扱いは簡単です。あまり知性はありませんが、多くの否定性があります。彼はおそらくアストラル界から召喚されました-

あなたはエスメレルダと私自身の思考形態である光の生き物に精通しています-マジシャンとして-

まあ、アストラル界には多くの、多くの住民がいて、いくつかは美しく、この光でいっぱいですが、そして非常に重いアストラル界の物質を含み、暗く、思考の邪悪な振動を起こしやすい、飛行機の下からの他の人々。これらの2人の男性はおそらく両方とも邪悪な性質についての習慣的な考え、彼らが嫌む謝罪に対するいくつかの邪悪な過剰、欲望または残酷さについてのいくつかの執着を持っていました、そしてこれらの考えは私たちのように最も低いアストラル界の重いエーテル材料を形に形成させました光の形は、思考と同じくらい邪悪な恐ろしい形、巨大な形であり、思考が十分に頻繁に考えられた場合、モンスターはアストラル界で永久に生きようになり、独自の独立した生活を送ることになります。これまでのところ、私が何を意味しているのかわかりますか？」

チャーチ大佐は漠然とそうしました、そして-

ジョ シュアが彼に言わなければならなかったことのために普通に思われたように-驚かなかった。彼はしばしば思考の力を感じていました。たとえば、彼の妻の平穏な優しさ、彼女の長年の愛情と陽気さは、彼がどこへ行っても、どういうわけか彼を保護していた彼への盾であったとしばしば感じました。はい、彼は思考がそれ自身の形を生み出すことができるのに十分簡単に見ることができました。彼はジョ シュアにうなずいた。「大丈夫です」とジョ シュアは言いました。

「このマジシャンがやったこと、そして彼が私が思うほど上手いのなら、彼はそれを非常に簡単に行うことができました。それは、これらのフォームを物理的な面で簡単に実現させることでした。二人の男が彼らを見ることができるように。これらのモンスターは非常に個人的な性質の思考の擬人化であったため、彼らは特に彼らを恐れるでしょう。」

今や死と無知への陥落は大佐が理解するのに十分簡単でした。

「しかし、宇宙から来た少女はどうですか？彼女も殺されたのだろうか？」

ジョ シュアは彼の答えがわからないようでした。

「私は本当に知りませんが、彼女の惑星にはこれほど低い開発の部分がなく、彼女はこれらを見ることができなかったという事実によって彼女が保護されたのではないかと思いますフォーム。彼女が知らなかったとしても、まさにその雰囲気彼女を恐れさせたであろうと私は想像するべきですが

彼女が恐れていたもの。それは恐怖の感覚を説明するでしょう-
それは彼女の惑星では未知であり、そしてすぐに彼女のオーラの停電です。魔術師は、ここに到着して実際に彼女の前にいると、彼女をブロックし、彼女が知る立場になかったので、彼女が守っていないような精神的な柵を彼女の周りに置くことができましたでしょう。以前の存在。」
「では、なぜ彼女はまったく恐れていたのですか？」
「より高い自己は常に精神への危険を認識しています。」
チャーチ大佐は再びうなずいた。
「じゃあ、それなら」と彼は言った、彼の軍事分析と行動の習慣は自動的に機能する。
「あなたは魔術師です。彼の魔法を打ち消すためにあなたは何かができますか？」
「私たちの魔法は、彼の大佐に対抗するほど強力ではないかもしれませんが。」
「それを爆発させなさい、男、あなたは善の側にいますね？」大佐は、善が悪に打ち勝つことを必然的に確言していた。彼は戦いに勝ったのを見て、権力が彼の側にあることを知っていました。
「大佐、私はこの惑星では、それはそれほど単純ではないのではないかと心算しています。」
「あなたの白魔術は彼の黒魔術よりも弱いということですか？」
「大佐、私たちだけではありません。なぜそんなに複雑なのか直接は言えませんが...まあ、考えてみてください。魔法の基本的な真実の1つは、創造物全体が思考または意識によって形成されるということです。この意識には2つの極があり、この惑星の私たちはその極を善と悪と呼んでいます。電位差がなければ電流が流れないのと同じように、二重性が物理面での動作を可能にします。物理的な平面はほぼ完全に作用平面であるため、この二重性はここでは非常に強く、マジシャンはこれら2つの極の1つに分極または集中することによって力を引き出します。私たちは、他の善意の人々が過去に集中してきたシンボルを使用して集中します。たとえば、重要なのは十字架自体ではなく、そのシンボルに長い間集中してきたすべての前向きな考え方が、それを強力にします。黒魔術はこれらの同じシンボルを利用し、それらをひねったり反転させたりして劣化させます。それがその力を得る方法です。この飛行機の誰かが、それを知っているかどうかにかかわらず、常にポジティブまたはネガティブに考えています。さて、教えてください、大佐。この惑星で、あなたはどちらがより集中していると思いますか：善または悪の極？」
答えは明白でした。「ネガティブ。」

ジョ シュの目はきらきらと輝いていて、彼の澄んだ顔は暗く、彼の体はそれ自体の上に動き、彼が階段に座っている間、動きのように引き締まった。

「その通りです、チャーチ大佐。そしてそれが、この惑星では、黒魔術が白魔術よりも強力である理由です。残りの創造物には何百万もの銀河があり、私たちの銀河では私たちは小さな惑星であり、その外縁の近くで小さな星の周りを回っています。そして、これ、大佐教会は地球です。」彼は一時停止し、細いフレームが階段こぶら下がっていました。「そして私はこれらの罪のない子供たちをここに連れてくる責任があります。」彼は立ち上がりました。

「さあ、」彼は、あたかもその最後の発言の深刻さを捨てるように言った。

「私たちはここから出て、女の子を見つけなければなりません。一日中ぶらぶらすることはできません、男。」彼はユーティリティルームに戻り、そこでは良い医者が彼の患者を観察していました。パプロは両手をポケットに突き刺し、鍵を震わせた。

「ジョ シュ、これらの男性にこれほどの影響を与えるにはかなりのスキルが必要でした。私はその分野の人員について何の知識も持っていません。これを行うことができた黒人の魔術師は何人いますか？」

"この国では?"

「まあ...それは大きな違いを生むのでしょうか？」

"はい。しかし、それでも、それはアメリカ人である可能性が高いです。非常に短リスト、パプロ: 2つ。ニューオーリンズのマーコールはそれを行うことができたでしょう。またはフォートのトロストリック。

ローダーデル。」

パプロが割り込んだ。「トロストリック?何てことだ。"ジョ シュアが疑わしく彼を見たとき、彼は続けました。

「これがすべてです、ジョ シュ。手短か。そして、すべての私のせい。私たちが私の賭けについて話していたときのことを覚えていますか？」

ジョ シュアからのうなずき。

「私は自分でそれを行うことができなかつただろう。あなたが私と一緒に仕事をやめた後、私はしばらく一人で進みましたが、私はどこにも行きませんでした。しかし、約5年前に私は訪問者を迎えました。私はどこかで彼に会ったと言った、私が行った大学のこと。そして、私は彼を覚えていました。あることが別のことにつながり、私が馬について行っていた研究について話し始めました。彼はいくつかの提案がありました。彼はこの種のプロジェクトに本当に非常に興味を持っていました。さて、長い話を短くするために、彼は私をかなり助けてくれました。私はそれが魔法であり、私が知っていることを知っていました。そして、彼が見せてくれたこれらのテクニックを使って私が得た結果について、それについてあなたに伝えたかったのです。しかし、トロストリックは私に彼の名前と活動を完全に秘密にしておくように頼んだ。ただ興味のあるオブザーバーだと彼は言った。そして、私はその取引からお金を稼いでいました。だから私はしたくなかつた...」パプロは、彼が感じたのと同じくらい悲鬱に聞こえて、引きずりました。

「大丈夫です」とジョ シュアは言いました。
「今、私たちは自分たちがどこにいるのかを知っています。
Trostrickは誘拐の背後にいて、彼は女の子を持っています。そして、私たちはまだここで一日中ぶらぶらすることはできません。」
「いいえ」、パブロは日よけの材料で失われた男をもう一度見ました。
「どうすればこれができるのかわかりませんが、この男のために誰かをここに連れて行かなくてはなりません。彼は助けが必要です。」
「私はそれをすることができます」とジョ シュアは言いました。
「誰かが何かに触れますか？」誰も持っていませんでした。
「それなら、ここから地元の領事館に電話して、今すぐ出発します。あなたはすべて続けます。自分を作るために電話があります。私はネットワーク交換機を通過する方法を知っているので、着信番号は警察にとって何の意味もありません。ここでは、この混乱とは関係がありません。その後、私はあなたに参加します。」
この感覚は簡単にわかり、彼らはファイルを提出し、ジョ シュアに電話をかけさせました。彼は親しいビジネスの知人とつながるとすぐに、パデエフスキーの名前でマイアミの探偵事務所に連絡し、マイアミとフォートにすべての空港を持っているように彼に言いました。ローダーデル地域は、トロストリックと宇宙少女の描写の2人の到着の可能性を監視していました。それから彼は警察に電話をかけ、番号が鳴り始めたので、受信機をテーブルに置いた。勤務中の役員が電話に出ました。
「助けて」とジョ シュアはファルセットで叫んだ。
彼は当局が追跡するためにラインを開いたままにし、彼らがクリアリングの端に渡ったときにグループの残りの人に追いついた。鳥のさえずりはほとんど止まった。太陽は高く、その日の暑さが生み出すのは静かな時間でした。彼らがヘリコプターへの樹木が茂った道に沿って歩いて戻ったとき、太陽は彼らの背中に夏のように暖かかった。

第13章

宇宙から来た少女が窓際に腰を下ろして外を見た。彼女は、外からはとても大きく見たジェット旅客機をほとんど見ることはできませんでした。白い服を着た男性が彼女の窓の下を動き回り、箱や荷物を運び、彼女が座っていた車に仕えているようです。それは彼女にとって充実したエキサイティングな経験でしたが、パブロが彼女を導くために送った男についてのかすかな疑いの気持を彼女は完全に取り除くことはできませんでした。

彼は彼女のそばに座った、平均的な身長で、髪はとても黒く、キャビンの照明からの光を反射するハイライトはきらめく鋼のような青でした。彼の目は非常に深く、非常に明るく、ジョシュアが持っていた視線の強さでしたが、この視線は、何らかの理由で、長い間会うのが困難でした。宇宙少女は、ジョシュアが彼女を向けることができる安定した視線を調べることはますます喜びであることに気づきました。黒髪の男は、各座席の側面にある布と金属ベルトを腰に巻くように彼女に指示しました。彼女はそうしましたが、なぜこのように自分の動きを制限したいのかを自分自身に説明することができませんでした。彼女は地球と呼ばれるこの奇妙な惑星について学ぶことがたくさんありました。

過去数時間の出来事は最も厄介でした。彼女は混乱を整理しようとした。この男は、マリオンとエルモと彼女がお互いの仲間を楽しんでいたキャビンに入っていました。彼女は寝室にいて、二人の男を見たことがなかった。男は彼女を寝室の後部ドアから廊下のキッチンと裏口に導き、彼らはすぐに立ち去った。最も困惑したのは、この男との出会いの瞬間に、彼女は精神面を見ることができなくなっていたということでした。彼女は男のオーラや彼の考えを発見することができませんでした。確かに、彼女は彼女がもはや彼女の仲間、エスメレダとして知られているもの、そして彼女の兄弟と会話することができないことを発見しました。彼らはいなくなりました。そして、彼らが消える前の瞬間に、彼女は、この惑星の言語を研究している間、彼女自身の言語で指示対象のない言葉に繰り返し出くわしたことを除いて、彼女が説明する方法がない力の鮮やかな閃光を感じました。。彼女はこれらの言葉を兄と話し合ったが、それらを定義することも、それらが何を意味するのかを推測することさえできなかった。そして、彼女は今、これらの言葉の1つの意味をいくらか精通していると信じることに気づきました。彼女は特定のことを思い出せなかったが、彼女の体と精神の両方に影響を与えた痛みの色あせた記憶があり、それは彼女が一瞬は試すことができなかったからである。そしていつも前に、彼女は肉体的および精神的面の両方で、彼女の存在に与えられた刺激を完全に制御していました。

そして、彼女はこれらの不可解な出来事のために、彼女のオーラが見えなかった彼女の新しいガイドについて少し疑問しいと感じました。しかし、彼はパプロとジョ シュアから来たので、彼女の先生になると彼女に言いました。そして、しばらくの間、彼女はこの惑星の状態について学ぶ手段として、以前とは異なる状態を経験するでしょう。それはまさに彼女が学ぶためにここに来たものでした。彼女は自分の心を構成し、それをリラックスさせて、自分の環境に馴染むのに慣れてきた滑らかで整頓された表面にしようとしていました。

スチュワーデスはゆっくりと通路を下り、乗客の名前と飲み物の選択を書き留め、宇宙から少女に並んで立ち止まり、口を少し開いて目を広げた。彼女は数秒間、鉛筆をパッドの上に構えた少女をただ見つめた。これは女の子を宇宙から混濁させることはまったくありませんでしたが、彼女のガイドであった男は彼女の激しい疑問の期間を短くしました。「ぼくはジェームズ・E・トロストリックです。これはミス・マーサーです。」

「はい」とスチュワーデスは言い、目をパッドに向けて書いた。

「あなたまたはミス・マーサーは飲み物の世話をしますか？」

「私たちは、私の愛する人です」と男は言いました。

「ブラックコーヒーを飲みます。そして、ミスマーサーはスコッチとソーダを持っているでしょう。」

スチュワーデスはうなずいて手紙を書き、彼女が向きを変えて飛行機の前に急いで戻る前に、もう1つの長い通路を通して彼女の落ち着きを保ちました。二人はセクションの最後の席に座っていました、そして彼らの命令はファーストクラスの名簿を完成させました。彼女はパイロットのコンパートメントへの扉を開き、航空機乗士の近くに寄りかかった。「ハリー、あなたは6-

Dを見る必要があります。私が今まで見た中で最も美しい女の子。」

"そうそう?" エンジニアは正面をちらっと見た。彼がチェックリストに関与するまでに1、2分かかりました。彼はファーストクラスのコンパートメントに足を踏み入れ、目的を持ってギャレールに向かって歩きましたが、少女と彼女の黒髪の仲間を追い越したとき、彼の歩みは衰えました。彼はじっと見つめ、回復し、ギャレールに入り、ドアの緊急シユートをいじり、圧力計をぼんやりと見つめた。

さりげない表情を取り戻したとき、彼はパイロットのコンパートメントに戻って爆発した。「あなたはそれを信じないでしょう」と彼はパイロットと副機長に言いました。

「あなたはそれを信じられないでしょう！」

"あれは何でしょう?" キャプテンは半分しか聞いていませんでした。

「6-

Dに座っている女の子。彼女が降りる前に、あなたは両方とも彼女を見に行かなければなりません。彼女はファッションモデルか映画スターか何かでなければなりません。とにかく、彼女は私が今まで見た中で最も素晴らしいブロードです。」

「OK、OK」とキャプテンは言った。

「私たちは彼女に会います。」彼は副操縦士を見ました。

「開始前のチェックリストを読みましょう。」

折りたたまれたカードから読み取った副操縦士。

「サーキットブレーカーと無線バスイッチ。」

エンジニアは肩をすくめた。「チェックしてオンにしました」と彼は言いました。

大きなジェット機が動き始めると、宇宙から来た少女は静かに座席に座り、機体が宙に浮いたときの激しい加速感に絶対に喜んでいました。それは慣れない感覚でした。彼女をここに連れてきた工芸品、そして彼女の惑星で使用されている小さなものは、そのような現象を利用していませんでした。彼女が知っていたすべてのものとの違いは、それを彼女にとってより楽しいものにしました、そして彼女が窓の外を見て、彼女の下の方の雲と地形の変化する構成を見て、彼女はとても幸せでした。彼女の旅行中に彼女をまったく困惑させた唯一の出来事は、彼女の仲間が彼女に提供した飲み物でした。この新しい惑星の環境を体験したいと思っていた彼女は、その不快な味もかかわらず、それを飲んでいました。そして、それが彼女の体に軽度の外傷を負わせたことに少し驚いていました。彼女の考えは、最終的に、ジェットが地面を離れるときに彼女の仲間の乗客の何人かで上昇し始めたことに彼女が気づいた緊急事態のために与えられた、ある種の精神安定剤でなければならぬという概念を生み出しました。それを除けば、フライトは短すぎて目立った出来事もなく、マイアミ国際空港の平行した東西滑走路の1つにタイヤが接触したとき、タイヤのわずかなブラシを感じて申し訳ありませんでした。

乗客は非常に迅速に船から降ろされ、真横に配置された廊下に入れられたため、外気にまったくさらされることはなく、大きな廊下を通過してターミナルビル自体に歩いていきました。

Trostrickは彼女をメインロビーの一部に急いで入れました。彼女はそこに無期限に滞在することを非常に好んだでしょう。なぜなら、彼女は多くの異なる種類の人間の実体を見て、大勢の人々が大規模なコンコースを浸食して流れたので、この惑星の知識に多くを追加できると感じたからです。住民。

しかし、トロストリックはエスカレーターを急いで下り、制服を着た男たちに守られた空間に入った。この惑星の他の人々による人々の制御の試みがたくさんあったように見えました。しかし、おそらく彼女はデータを誤って解釈していました。彼女は待つ、このように後で彼女の先生であった男に尋ねました。

彼らは、彼らのために親切に開いた電気ドアを通り抜け、空港の道路の下の方の階に彼らを入れました。ここにはもっとたくさんの人がいて、車が多すぎて宇宙から来た女の子がいました。

彼らの終わりを見るができなかったし、彼ら全員がどこから来たのか、どこに行くことができるのかを見つけることができなかった。ここは混んでいて日陰でした。ここでも、彼女は滞在して見守り、これらすべての人々とこれらすべての車が何をしているかを発見したかったでしょう。しかし、再び、トロストリックは灰色の通路に沿って彼女を急いで、張り出したランプウェイの下に駐車された車を見るために頭を上向きに緊張させた。彼が黒いリンカーンの後部ドアを開けて、彼の雇用主からバッグを持って行った制服を着た運転手を見つけるのに少し時間がかかりました。

Trostrickは、女の子が宇宙から後部座席に入るのを手伝い、その後、運転手に話しかけました。「すぐに戻ってきます。

ミスマーサーを快適にしてください。」

運転手の暗い顔は小さな笑顔になり、秘密の表情になりました。それから彼が乗客のトロストリックが彼と与えた世話をするために車のドアにかがんだとき、笑顔は消えました。

Trostrickはすぐに姿を消し、薄らい円柱状の歩道をあふれさせると脅した色とりどりの人々の大衆の中に姿を消しました。ほぼすぐに、彼は反対方向に進んでいる男性と衝突しました。喧嘩が起るのに十分な混雑はありませんでしたが、それは起こりました。男性は肩を並べて激しく会いました。

Trostrickは2回目の接触で一時停止し、それをわずかに伸ばし、男の目をじっと見つめました。彼は話ませんでした。彼がぶつかった男が歩いたが、彼の目には確かに以前にはなかった空白があった。彼の顔が鋭く警戒する前に。今、彼は表情が鈍く、表情のない目で、ゆっくりとしかし着実に2台の駐車中のレンタカーの間を歩き、移動するリムジンの道に直接入りました。大きな車は速く走っていませんでした。時速5マイルは低レベルでほぼ最高速度ですが、彼の大型車のフロントバンパーがその下の人の体を引っ張り、その車輪が彼の頭を押つぶす前に、ドライバーがブレーキをかけることはまったく不可能でした。

トロストリックは下の階のターミナルのドアに続き、最寄りのレンタカーデスクに行きましたが、彼はすぐに出発しました。彼が短い会話をした店員が彼に注意を払うのをやめたからです。彼女の注意が事故の周りに集まっていた人々の増加する群衆に引き付けられたので。

Trostrickは待っているリムジンに戻り、宇宙からの女の子と一緒に後部座席に滑り込みました。運転手は彼のためにドアを閉め、微笑みのささやきが彼の平らな特徴をもう一度横切って一時的に動いた。彼は車の周りを歩き回り、スピードの印象を与えませんでした。時間を無駄にしませんでした。彼はリンカーンを非常に短い時間で杭の混雑の周りに通り、警察署を通り過ぎてルージュヌ通りに向かって外側の車線に首尾よく引っ張った。

LeJeuneから右折すると、彼は高速道路でビーチに向かいました。彼はすべての出口と戸惑いを通り過ぎて権威を持って運転しました

彼が料金所を通過するまで高速道路を離れませんでした。左折すると、車は北に向かってフォートに向かいました。ローダーデール、そして彼はその都市の北端を横切って、高速道路A1Aを見つけました。

宇宙から来た少女は、都会の風景が取り残されていることに次第に気づき、今の自分を取り巻く美しさを窓から眺めることができるとも嬉しかったです。彼女の先生は彼女を見るのが素敵な場所に連れて行ってくれました、そして彼女が飛行機に乗る前に緑の木々や低木が見えた方法とはかなり異なっていました。ここでは、木はかなり異なっているように見えました。彼らは枝と同じくらい長い葉を持っていて、彼らの側からではなく、木のてっぺんに成長しました。これらの葉は、絶え間ない風の中で、安らぎ、落ち着き、そして完全に快適な音を出しました。彼女の精神は木の音に近づき、彼女は彼らと一緒にきれいで甘い生命の匂いを祝いました。どういわけか、それはその中に海を保ちました。宇宙の少女は、何よりも、遠くの水の動きにとらわれていました。彼女は白い斑点が顔を横切って動くのを見ることができ、それが発する音を聞くことができました。

彼女の惑星では、水はそれほど落ち着きなく動きませんでした、その中の生命を養う空気で穏やかにかき混ぜられました。ここでは、海は力強く、ジェット機が飛んだときに感じた動きに満ちていました。絶え間ない感覚は、彼女の精神の永遠を反対に表現しているように見えたが、彼女の平和的に動いている惑星の生命力を特徴付ける静かで静けさから等しく雄弁な方法でした。彼らはこれらのヤシの木の森と森を通り過ぎ、彼女は人里離れた家をちらりと見た。多くの人がここに住んでいるようで、彼女が去ったばかりの混雑した都市で見つけることができるよりもはるかにプライバシーが守られていました。

彼女の喜びに、リムジンはこれらの手のひらと赤みがかかった、より小さな茂みによって日陰にされた私道に引き込まれました。彼女の先生は戸外にいて、挨拶で彼女に手をかざしていた。彼女はそれを取りました。彼は彼女を車から降ろすのを手伝いました、そして彼らはパティオの周りを歩き、そして甘い空気が平和な家にも破綻的に移動するのを止めたガラスの引き戸に向かって歩きました。それは最も近代的な家で、すべてガラスと木で、すべてキラキラと滑らかな表面でした。壁一面のカーペットでさえ、非常に滑らかな一貫性を持っていました。彼は彼女を広々としたリビングルームに通じる廊下に連れて行き、ドアを開けました。それは彼女が今日の初めにいたのによく似た寝室でした。違いは目立つたものではありませんでした。しかし、それらは存在していました。ここでは、すべてがはるかに印象的でした。ここには、刻まれた、または壊れた表面はありませんでした。大きなベッドには支柱やエンドボードがなく、他の家具は完全に無地でした。部屋の色は家具と同じくらい落ち着いていて、平らでした。ここには安らぎしかありませんでした。

Trostrickは窓まで歩いて行き、重いカーテンを引き戻し、パティオと同じ種類のガラスの壁を見せました。彼はそれを開けると、海の空気がスクリーンを通して入り、彼女の鼻孔に再び触れた。

「ここここには、必要なものがすべて揃っていると思います」と彼は言い、小さくて完全なバスルームを示しました。

「私たちが食事をする前に、あなたは自分自身をリフレッシュしたいと思っていますと確信しています。準備ができれば、パティオで私と一緒に夕食を食べましょう。」

その少女は疲れを感じなかった。彼女の体が肉体的に休む必要があるまで、疲れるのは彼女の習慣ではありませんでした。今はそんなに困っていなかったため、体を洗ったり、髪をきれいに整えたり、着ていた服を振り払ったりして、なめらかにすることに満足しました。彼女が厚いカーペットを敷いたリビングルームを通り抜けてパティオに戻るまで、ほんの数分でした。太陽が沈むところだったので、彼らは最後のバラ色の光の光線が動く海の上を漂うのを見て、彼らのすぐ近くにある海岸に自分たちを届けました。Trostrickのプライベートビーチは、パティオに沿って、海岸線のなだらかな曲線の周りに広がっていました。その弧は、風の重みでお辞儀をしたヤシの木の形によってのみ壊れていました。

彼女の先生は非常に暗い木で作られたテーブルに座っていて、非常に重い食器を置いていました。眼鏡はこの木で彫られていました。銀器の取っ手もそれで作られていました。銀がテーブルから輝き、シールドされたキャンドルが灯され、そのイルミネーションがきらめく木を横切つてちらつき、煙が潮風に乘って移動しました。

「親愛なる皆さん、私はあなたに楽しい物理的環境を提供しようとしてきました」とTrostrickは言いました。彼は氷のバケツからボトルを取り出し、首からコルクを巧みに操りました。彼女は彼が彼女のために注いだ液体を飲んだ。それは彼女が飛行機で味わった液体のようでした。同じ効果があり、味の違いはごくわずかでした。この液体が再び精神安定剤として彼女に与えられているかどうかを理解するのは良いことですが、彼女はまだ先生に質問しないほうがよいと感じました。彼は彼女に話すことがたくさんあり、彼女は彼が自分のやり方でそれを行つたと確信していたからです。

「今年はとても良い年です、私の愛する人」と彼女のガイドは暗いボトルを軽たたきながら言いました。

彼女は彼が何を意味するのか理解していませんでした。彼はこれに面白がっているようだった。

「しかし、もちろん、私の愛する人、あなたはこれらのありふれた問題に精進していません。しかし、私はあなたにいくつかの興味深いものを提供しようとしています

センサーション、ここ。前菜やアカザエビの尾を味わったことがないのではないかと思います。」

少女は少し奇妙に彼を見た。彼女の言語の研究は百科事典ではなく、異物の名前を覚える方法がなかったため、彼女はすでに慣れ親しんだ食べ物の名前だけを学びました。前菜もロブスターも彼女にとって何の意味もありませんでした。

「気にしないでください、私の愛する人。私たちはそれが来たときに食べ物を楽しみます。海を眺めながら座っているのは素敵な夜ですね。星はどンドンはっきりして見えますね。空が暗くなるこの素晴らしい夜は、あなたをホームシックにしませんか？」

彼女の先生はとてもしゃべった。彼は彼女の答えに彼女の権利を導いた。

「いいえ」と彼女は言い、彼の前でとてもしゃべった気分になりました。

「あなたは、あなたに新しい環境を教えるために私がどのような役割を果たすべきかを知らずかっていると思います。」

再び、彼は彼女を彼女の答えに導きました。「はい」と彼女は言った。

「私はあなたの先生、私の愛する人であり、あなたがあなたの故郷の惑星で気づいていなかったかもしれないこの惑星で私たちがここで楽しんでいる特定の形而上学的原理に関するあなたの教育であなたを導きます。多くの場合、言葉で直接教えることはできません。たとえば、この惑星の人々が働く意識の限界のいくつかをあなたに教えるために、私はあなたの精神的なビジョンを一時的に制限するのを手伝いました。それはあなたの通常のバランスを崩しますね、私の愛する人？」

「はい」と気配のある女の子は言いました。

「あなたは私がこのようにあなたに教えることを気にしませんか？」彼女のガイドに尋ねた。「いいえ。」

「親愛なる皆さん、あなたがそうしないと確言していました。ご存知のように、この惑星では言葉を使って教えることはしばしば不可能です。この惑星の表面に住む人々は、ほぼ完全に物理的な幻想に関する言葉で言語を進化させてきたからです。形而上学的な事柄に関することを意図する言葉でさえ、真実を求めたい人には全く不十分です。しかし、あなたはこれらすべてを知っています、あなたはそうではありませんか、私の愛する人？私はあなたを退屈させたくはありませんが、精神的な気づきを求めることに関して私たちが密接に関係していると感じるいくつかの概念を指摘します。」

巨大な体の、非常に筋肉質の男がパーティオのドアからやって来ました。彼の服は彼の7フィートのかさばりに細心の注意を払って調整されました。の

彼の暗く日焼した手は重い木製のトレイでした。彼はそこから2枚の皿を取り、その上にさまざまな緑の野菜を載せました。

ウェイターが暗い家に引込んだとき、トロストリックは「食べ物に敬意を表さないだろう」と語った。

彼らは黙ってサラダを食べました。少女は、さまざまな形の緑色の物質と赤色の物質をすべて楽しんでいました。しかし、彼女が皿の上で少し変わった材料を食べ始めたとき、彼女はそれが不快であることに気づき、トロストリックが同様の物質を食べているのを見た以外はそれを脇に置いていただろう。そして、彼女は油っぽくて塩辛い魚の切れ端を食べました。

ウェイターは、沈黙の中で落ち着きがなくなる前に再び現れました。今回のトレイには、2つのロブスターの尾があり、柔らかく白い肉を取り除くための適切な器具と、付け合わせ用の溶かしバターのカップが含まれていました。道具の使い方のレッスンがあり、宇宙少女は肉を味わうことができました。彼女もこれを不快に感じ、これまでに食べたことのあるものとは異なりました。爽やかな違いはありませんが、彼女がどういうわけか不信感を抱いているという点で違います。しかし、再び彼女の先生であった男は、彼の食べ物を勇気を持って食べていました、そして、彼女は彼がしたように食べました。Trostrickはしばらくして終了し、重いネンナブキンで彼の口に触れました。

「お食事はお楽しみいただけましたか？」彼女は答えなかった。

「サラダのグリーンフードのようにロブスターを楽しんだとは思いませんよね？」この男に彼女の考えを話すのは信じられないほど簡単でした。

「いいえ」と彼女は言った。

「あなたはあなたが食べた食べ物の意識レベルについて心配していましたか？」それがまさに彼女を悩ませていたものでした。

「はい」と彼女は喜んで言った。彼女はそれを表現するのに十分な言語の使い方を知らなかっただろう。

「これは、私たちが今陥落しなければならない原則の1つです。それは私たちの意識そして私たちを取り巻く他の人々の意識と関係があります。私たちはちょうど2つの形態の生命を食べました：最小限の意識を持っている混合植物の生命と、非常に限られた形態の動物の意識を楽しんでいるロブスターです。この意識を吸収するのは面倒だったと思います。」

"はい。"

「私の愛する人、私たちの惑星はあなたの惑星のようではありません。あなたの惑星では、これはあなたが摂取した動物の自由意志に対するわずかな侵害だったでしょう。しかし、私があなたに言ったように、この惑星は状態の特定の違いを楽しんでいます。これらの違いの中心は、この惑星では、あなたのようにすべての意識が光を求めているわけではないということです。ここで肉体的な受肉の賜物を享受している実体の多くは、真実の追求から失われ、他の方向に求め、衰れなほど失われています。このアカザエビは、光を求め始めていなかった生命の断片でした。あなたの存在に同化することによって、それはその探求に助けられました、そしておそらく、その意識が進出し続けるにつれて、それはあなたとそれとの接触によって助けられるでしょう。」

少女はこの強力な推論の連鎖に邪魔され話ししました。彼女はそれを知的に責めることができなかった。しかし ...

「私の愛する人」と彼女の先生はとても優しく言いました。「あなたはまだこの生命体の自由意志について心配していると思います。あなたは、その意志の関数として、それが自由に選択し、好きなように行動するべきだと感じています。私は正しくありませんか？」

「はい」と少女は激しくうなずきながら言った。

「私の愛する人、私はこの惑星があなたの惑星とは異なることをあなたに繰り返さなければなりません。あなたの惑星では、あなたの惑星は光の惑星であるため、意識の各粒子はガイダンスなしで光を求め、それ自身の運命を形成します。しかし、この惑星では、闇は光と同じくらい強く、私たちのような人の導きがなければ、彼らは失われ、真実から切り離されるでしょう。私たちが学んだら、導くことは私たちの義務です。分かりますか、私の愛する人？」

彼女はその言葉をとても簡単に理解できた。彼女の先生ははっきりと話す能力がありました。それでも、彼女の知的理解にもかかわらず、この種の指導の考えは、権力の暴力的な乱用のように彼女に聞こえました。彼女は、他の実体のために選択をすること、あるいはそれらのためにいくつかの選択をブロックすることがどのように許されるようになるかを知らずして、そして、彼女の戸惑いの中で、それが彼女がロブスターにしたことであるように見えました。彼女が「ロブスター、あなたは私に同化されるかもしれないし、あなたは暗闇の中で生きるかもしれない」と言ったとしても、彼女は創造主の宇宙のこの粒子から隠れている彼女の言葉によってではなく、彼の自由の真実でもありませんでしたどちらか一方ですが、彼が決めたものは何ですか？彼女は先生の言ったことに心を落ち着かせることができずして、それは異質で間違っているように見えたからです。

彼女の困難は、以前の困難ほど教師には明らかではなかったようです。またはおそらく彼はそれらに気づいたが、他の例によってそれらから彼女を助けたいと思った。「私の愛する人」と彼は静かに言いました。「地球と呼ばれるこの惑星があなたが知っている惑星とは大きく異なることを十分に説明することはできません。基本的に、この惑星で特定の問題がどのように存在し、どのように処理されるかを説明することしかできません。もちろん、あなたの惑星には目的の一致があります。ここには、混濁して目的意識を失った人がたくさんいます。彼らは、探求が創造物全体に住むすべての人々の究極の目的であり、彼らの肉体的な生活を無意味な娯楽で満たすことであることに気づいていません。」

「さて、私の愛する人、あなたは地球上のこの状態を知っていると確言しているので、あなたはこれらの失われた放浪者の中で探求する精神を再び目覚めさせる何らかの方法がなければならぬことを知っています。私はあなたの目に、あなたがこの概念について邪魔されているのを見ました。私が説明している方法で彼らを助けるために、私たちが助けた人々の自由意志を侵害しているとあなたは感じていますか？」

宇宙から来た少女は、先生が自分の混濁している領域を見つけてくれたことに最も感謝していました。彼女は、この惑星についてできる限りのことを学びたいと切に願っていたからです。「はい」と彼女は言った。

「この惑星では多くのことが罪と呼ばれていますが、本当に間違っているのは1つだけであり、それは単に別の自由意志に対するある意識の侵害であるということは自明です。そして、私たちが導く 私たちが、私たちの知性を使って、何らかの方法でこの罪を回避しなければならないことも同様に明らかです。罪から解放されて、私たちが失われた者を光に導き、最終的にそれを求める人々に真実を示すことができるように。」

どういうわけか、言い換えても、彼が話した概念は、その異質で不快な味を保持していました。それは前菜の味のようなものでした。明らかに不快ではありませんが、それでも彼女のおかげはありませんでした。彼女は、この男が自由意志を侵害することなく、この惑星でやったと彼女に言っていたので、選用法を制限する方法があるかもしれないと以前は考えていなかったと思いました。

「あなたはこの罪を回避するためのテクニックを理解していません、あなたは、私の愛する人ですか？」トロストリックは彼女をじっと見つめながら尋ねた。彼の暗い目は、月の夜の輝きと海面の星を除いて、今では唯一のイルミネーションである明滅するろうそくの明かりを横切って彼女を照らしている。

「いいえ」と彼女は言った。

「私はあなたに、失われた人々を導き、導くための私の愛する技術を示す必要があるでしょう。私が言ったように、罪を犯さないように、そして個人が自分自身に任せられた場合に最終的に自由にできる選択だけを提示するように、常に注意しなければなりません。あなたはそのような自由な選択が故意に提供されることができることに気づいていません、あなたは、私の愛する人ですか？」

「いいえ」と彼女は言った。

男は柔らかな光の中で立ち上がり、腕を組んだ。彼は彼女と同じくらい背が高かったが、体格が厚く、非常に暗かった。

「私の愛する人よ、私と一緒に来てください。そうすれば、私たちは歩きます、そしてあなたは理解するでしょう。」

彼らは砂を横切つて水の端まで歩いた。砂は後退する暗い波からわずかに濡れていた。

「それは美しい創造物ですね、私の愛する人ですか？」黒魔術師はそっと言った。

「空はとても黒く、星がちりばめられていて、海風はとてもさわやかです。ここに立って、選択の自由、教師によって提供される選択の自由について考えてみましょう。私たちは、私たち二人が現在私たちの物理的環境を体験するために使用している物理的身体について考察します。それらは、物理的な世界の触媒によって作用されるので、ここで私たちにとって非常に便利です。これは今度は私たちの霊的自己の進歩に非常に役立ちます。しかし、体の限界をもっと詳しく調べてみましょう。」

Trostrickはテーブルからリネンのナプキンを持っていて、斜めに折りたたんで目の上に置き、頭の後ろに結びました。

「あなたはこの小さな実験を気にしません、あなたは、私の愛する人ですか？私はあなたの肉体的な視界を制限したいだけです。」

「いいえ」と少女は熱心にさらなる指示を待つて言った。

魔術師は再び話ししました。

「あなたの肉體は今、その肉體的視力を奪われています。これで、私の愛する人、あなたはあなたの精神的な体を使うことができ、肉體の目が見ることができる以上のものをすべて見ることができます。したがって、肉體的な目は冗長です。しかし、この惑星では、肉體から精神的な自分を投影できる人はほとんどいません。視力の喪失は確かに困難です。この刺激の喪失が学習をどれほど厳しく制限し、それによって精神の進歩を妨げるかがわかりますか？」

「はい。」誰が無意味であり、彼の環境についての情報を集めることができないはずであるということは、女の子にとって最も哀れなようでした。

「しかし、私の愛する人」とトロストリックは言いました。縷劍がさらに限られている人もいます。実証させてください。」

彼女はまっすぐ立っていて、彼がジャケットのポケットから頑丈なコードを取り出したとき、まだ水の端に立っていました。彼女の手を背中後ろに置き、彼はそれらを縛った

コードでしっかりと。

「あなたの体は今ではさらに制限されていますね、私の愛する人ですか？」

"はい。"彼女はこれを奇妙な感覚と思った。

「この惑星の住民の何人かはさらに制限されており、彼らはまだこの邪魔された乗り物から彼らの精神的な体を取り除く方法を理解していません。それは悲しいことではありませんか？」

"はい。

「それでも、この制限はさらに縁可能性があります。しかし、ここで。お見せします。」

Trostrickはポケットから別の長さのコードを取り出し、女の子の足首を一緒に配置して、手首を結ぶのと同じくらいしっかりとしっかりと結ぶことができましたようにしました。少女はレッスンの終わりを予想始めました。彼女は自分の肉体がほぼ完全に制限されているのを見たからです。

魔術師は立ち上がり、彼の操作は完了しました。

「あなたはこれから多くを学ぶかもしれませんが、私の愛する人。この惑星の住民の多くがさまざまな方法で投獄されていることを考慮してください。彼らは通常縛られています、彼らは誰も話をしたり、外の世界の何かを見たりすることができない暗い建物に保管されています。そして、彼らは投獄された遺物を離れることができません。あなたの肉体は今、厳しく制限されています、私の愛する人、さらなる経験を積むことに関して、そうではありませんか？」

"はい。"

「現時点でより多くの経験を積むためには、肉体を残して精神体を使う必要があります。そうじゃないの？」

「はい」と彼女はもう一度答えた。

「さあ、これを考えてみてください」と静かな声があった。

「この惑星の興味深い特徴は、あなたが現在物理的な平面にいるのと同じように、私たちがアストラル平面の下部と呼んでいる、精神的な体に閉じ込められている住民がいることです。彼らは霊的な体に非常に制限されているので、あなたの肉体的な投獄において、あなたが今できる以上に経験したり進んだりすることはできません。それは最も残念なことですよ？」

"はい。"それは残念なことではありませんでした。それは、この身体的制限ができなかった方法で彼女に影響を及ぼしました。彼女は、自由意志でそのような重大な侵害を達成することさえ可能であることに気づいていませんでした。

「多くの人がとても閉じ込められています、私の愛する人、そして求めることができる代わりに、彼らはすべての人のために彼らの現在の意識の状態ですべての余儀なくされます」

永遠、唯一の脱出は、下の星の飛行機の生き物が楽しむ征服のレベルに達するまで、暗闇への後退を通してであるように思われます。この飛行機に生息する生き物は非常に、非常に否定的であるか、この惑星でそれを悪と呼んでいるので、個性はここで完全に放棄されなければならず、光の各断片は残されなければなりません。彼らが再び自由を手に入れ、創造主の宇宙を楽しむことができるようにするために、彼らが光から離れた道に沿って非常に遠くまで戻って移動しなければならないのは残念ではありませんか？」

"はい。"宇宙少女はひどくショックを受けました。この惑星は彼女とは非常に異なっていました。彼女は自分の絆を試した。彼らは非常にタイトでした。そして、彼女の精神的な体はここでしっかりと縛られている可能性があります。それは他の知識がないように彼女を震感させた考えでした、そして彼女はそれが彼女の先生が彼女と一緒に残したものであることに気づきました。彼の靴がパーティオの石に向かって話し、リビングルームのカーペットに身を任せているのを聞いてください。ガラスのドアが彼の後ろに滑り込んだ。彼女は一人でした。

長い間、彼女は瞑想の中で、海の岸に動かずに立っていました。それは引き潮で、水はゆっくりと彼女から遠ざかりました。

1時間で、快適に立つことが難しくなりました。彼女は、言われたことすべてを完全に理解したかどうか確認が持てませんでした。なぜなら、彼女は自分が多くの意識を獲得したかのように感じなかったからです。彼女は彼が彼女に言ったことによって彼女が精神的に最も邪魔されていることを知っていただけでした。

彼女は現在の限界を考慮しました。このように彼女を制限することで彼ほどのような目的を持っていましたか？彼は精神の成長のための選択肢を提供することについて話していました、そして彼女は理解していませんでした。それとも彼女がいましたか？これはおそらく彼が意味したことの例でしたか？彼は彼女に、海の端に立って、無力で、一人であることと、さらなる教育のために彼女の心身の中で彼女の先生に向かって移動することの間の自由な選択を提供しましたか？これがそのように束縛されたポイントでしたか？

彼女は先生を見つけるために、肉体を離れることを考えました。ジョシュアは兄がこの惑星の精神面を旅することを許可していましたが、彼は彼にガイドを提供しました。ガイドはこれらの面で長い間働いていました。ジョシュアはガイドがいなかったので、どんな状況でも肉体を離れないように彼女に言いました。彼女はこれまで暗黙のうちに彼に従った。

しかし、彼女は今、先生にガイドを持っていませんでしたか？彼女は自分の精神を自分で指揮することを望みました。そうすれば、ジョシュアと考えて話し、彼が彼女に何をしてもらおうかをより確実に確かめることができます。彼女は間違いをしなくなかった。しかし、彼女の先生はこのように彼女を一部として制限していました

彼女の学習の。この惑星の物理的な面で施行されていたひどい制限は言葉では言い表せなかった。それは彼女を示しているように見えました。

彼女の先生は戻ってこなかった。彼女の絆は揺るぎないままでした。彼女に明白に見えた唯一のことは、彼女が今いる場所に立って、これ以上学ぶことはないということでした。彼女はこの惑星のアストラルプレーンの危険性についてのジョ シュアの警告を思い出しました、そして彼女の現在の先生はこれらの危険性が何であったかをさらに詳細に説明しました。しかし、彼女は新しいガイドの保護下に身を置くことができませんでしたか？一緒に、彼らはより多くの理解を集めることができ、彼女は進出し続けるでしょう。彼が彼女を去ってからとても長い間でした。これは間違いなく、彼が彼女に意図したことであるに違いありません。彼女の精神的な光の体の中で彼を探しに来ることで。彼女は、光に包まれ、光でできていて、光が純粹であるように純粹である彼女の精神的な体を視覚化し、彼女の身の回りを除いてすべてがまだ彼女に空白であるにもかかわらず、もう一度、彼女が彼女の肉体を離れることができることを発見して喜んだ。彼女が砂の上で彼女の前で画像が輝き始め、彼女がそれを非常に詳細に、衣服、特徴を見ることができるようになりました。彼女はそのイメージを彼女の肉体のエーテルエネルギーで満たして、それを肉体の世界の簡単なものにし、それを外側化させました。彼女の心はフォームの手を動かし、頭を向けました。それは今や彼女の目覚めている意識を受け入れる準備ができていて、彼女の意識を中断することなく、彼女は肉体から離れて光の体の中に目を向けて見回していました。彼女が縛られた肉体を振り返ると、それは砂の上に大きく後方に落ち、ほとんど光の体を砂の中に引き戻しました、そして彼女はそれを去る前にそれを休ませなかったことを後悔しました。彼女は銀の紐のかすかな輝きを見ることができました。彼女の肉体のエーテル体のいくつかは、これを活力で満たすために使用されていました。意識的に、彼女はエーテル物質がトランス状態で砂の上に横たわっているときに、それを体に戻しました。彼女は喜びに満ちて、身体的な経験に必要な重い化学物質の投射を流した後、いつものように爽快になりました。強烈な活力と幸福感に満ちた彼女は、向きを変えてパティオに、そしてリビングルームに歩いて行きました。

彼女は食事中にパティオで見た巨大な僕を追い越しました。もちろん、彼は彼女の光の体を見ていませんでした。

Trostrickはそこにいませんでした。彼女は廊下に向かって歩き、廊下を下り始め、その終わりに向かってますます強い確信を持って描かれました。ホールはドアではなく、非常に重く、ワインレッドのベルベットのカーテンで終わり、この家のすべての家具がそうであったように、重厚で滑らかで、まったく豪華でした。

彼女の中に今、命令がありました。彼女は片手でドレープを開け、先生が彼女に電話かけた大きな部屋に入った。彼女がここに来るのに正しいことをしたのは確かだ。彼女は期待されていたからです。彼女は召喚されていた。

彼女は薄暗い部屋を見ながら、ドアで少し待った。すべての壁に沿ってろうそくがあり、厚い燭台でちらつきました。部屋の中央にある黒い大理石のテーブルを除いて、部屋は裸でした。その上に彼女の先生の裸の体が置かれていました。彼女はそこに歩いて行き、そうせざるを得なかった。彼女は、体がまだそして明らかに生命がないにもかかわらず、彼女をまっすぐ見ている目に気づきがあったことに気付くまでそれを見ました。彼女は振り返った。彼女の光の体の中で、着実に見た目を戻すことはもはや難しくありませんでした。そして目が彼女を捕らえ、彼女を彼らに引き寄せたので、彼女は彼に寄りかかって彼の唇にキスをし、彼女が自分の肉体の外で経験したことのない震える緊急性の高まりを自分の中で感じました。彼の目はまだ彼女を見つめていました、そして今、好奇心が強くなり、彼女の精神的な体を支配するにつれて、トロストリックとして知られている人は彼の精神的な体で、彼の肉体が横たわっているテーブルから上に移動し、彼女の精神的な体を取りました彼の近くで、彼女を抱きしめ、まだ彼女の精神の目を深く見えています。精神面に何の役にも立たなかった欲望が彼女を襲い、彼女の先生がこのような驚異を実行できること、そして彼がこの経験を彼と共有することを望んでいたことを喜んで、彼女は完全にそして歓喜の降伏で目を閉じました、彼らの精神が一つになることができるように。そうするうちに、彼女は彼女自身と彼女の先生の間で彼らの興奮が途切れることなく、活気に満ちた魅力の波が通り過ぎるのを感じました、そして彼女の精神は感覚の海で失われました。すべてが非常に暗くなり、彼女は先生が無次元の空間を通り抜けるのを感じました。

第14章

パプロ・パデエフスキーの家への帰り道は、ついに一時的に倦怠感に陥った丸い医者からのいびきによってのみ壊れました。彼らがパプロの前庭の自然な着陸地点に着陸したとき、大佐は彼らと別れ、宇宙から少女を探すために最新の状態で保たれるという約束を引き出しました。

小グループは、チョッパーの刃が再び空中に浮かび上がったときに、破片の束から身をかかめ、安堵感を持って平和な家の正面玄関を開けました。また家に帰って良かったです。パプロは、内戦前の時代であればフロントパーラーと呼ばれていた部屋で最も長いソファに腰を下ろした。彼は激しく生きているジョシュアに興奮した。

「さあ、パプロ！」

パプロの目は開いて苦労しました。それは長い闘いでした。

「ジョシュ、今私はあなたがとても瘦せている理由を知っています。あなたは決して眠りません。」

「ああ、さあ、パプロ」とジョシュは言った。"起きる。"

パプロはまだマンモスとシーソーの戦いをまぶたで抱えていました。ジョシュはともしわが寄って眠りに満ちて座っている彼の古い友人に微笑んだ。彼はめつたに気分が良くなかった。

エスメレルダはサンドイッチを持って居間に歩いて行きました、そして、3人全員が彼らが削えているのを発見する間、突然の休止がありました。会話は進み、摂取の音が少し濃くなりました。

「まあ、パプロ」とジョシュアは言いました。「私はすでにマイアミとフォートの空港を監視するために探偵事務所を手配しました。ローダーデールエリア。それは私がキャビンで電話でしたことです。彼らが宇宙少女を見つけたら、彼らはここに電話します。ここに来たので、あなたの名前と電話番号を使いました。さて、トロストリックと女の子は私たちが到着する少し前にキャビンを出たに違いありません。小さな男の体はまだ暖かった。だから、彼らはそこから2時間以上離れていると言います。最寄り空港まで車で約1時間かかり、マイアミに接続できるようになるまでにはさらに長い時間がかかります。すぐに飛行機に乗ったとしても、着陸する2時間前にはいいでしょう。」

ジョシュアはすでに手に負えない髪を取り戻していました。

「そしておそらくすぐに飛行機はないでしょう。」

彼は6フィートを垂直方向の活動に引き込みました。

「その間、私は空港に行き、飛行機をチャーターします。ジェット機を見つけることができれば、2時間か3時間の遅れでトロストリックに着くことができます。多分4つ。しかし、私は彼の家がどこにあるか知っています。そして、彼が儀式的の仕事をするつもりなら、彼は彼女をそこに連れて行きました。」

「待つ」とパプロは言った。

「彼もニューヨークに行ったかもしれませんが。彼もそこに居場所を持っています。実のところ、それは私が昨日いた場所です。それらを追跡するために使用できる魔法のテクニクはありますか？」

エスメレルダは首を横に振った。

「そうは思いません、パプロおじさん。私たちは両方ともアカシックレコードを検索しようとしていました。これは、誰かを見つけるために私たちが知っている最も確実な方法です。彼女はキャビンにいる間、それから姿を消した。それはまさに黒人の魔術師がやろうとしていることです。彼女が他の環境との接触を失い始めるように、彼女の周りに精神的な柵を置きます。それは非常に技術的な仕事です。それを達成するにはIpsissimusが必要です。Trostrickはどれですか。」

ジョ シュアはホールに足を踏み入れ、電話を使いました。彼は電話を切った後、次のように発表しました。そこに着くとすぐに行く準備ができています。それが起こったので、パイロットはすでにそこにいました。問題ない。私はオフだ。」

「しかし、ジョ シュ」とパプロは言いました。あなたが向かっているローダーデール？」

「オッズをプレイするだけです。」

Trostrickはニューヨークで儀式的な仕事をするかもしれませんが、彼の魔法の性格は、それが最も長く使用された場所で機能する場合、はるかに強力になります。もし私が彼だったら、私はフォートに行きます。ローダーデール。」

ジョ シュアはパプロの反対に気づかず、ドアを出る途中でした。彼はエンジンの音で一時停止し、3人全員がドアにやって来て、セオドアと宇宙飛行士を歓迎しました。陸軍の道を通る長い旅から戻ってきました。

セオドアは最初にドアを通り抜け、エスメレルダに行きました。彼女は彼の手を取り、宇宙飛行士のために手を伸ばすためにもう一方を差し出した。

「すべて安全に戻してください」と彼女は言いました。

「あなたはそれを信じないでしょう」とセオドアは言いました。「でも、はい。」

「素晴らしい」とジョ シュアは言った。「さようなら。」

彼は戸外にいた。

「彼はどこへ行くの？」セオドアは尋ねた。

「彼は宇宙少女がおそらくフォートにいることを知りました。ローダーデール。彼は彼女を追いかけている。」

セオドアはエスメレルダを素早く見つめ、それに応じて素早くうなずいた。

「私も行きます」と彼は言った。彼はジョ シュアの後にドアの外にいました。

ジョ シュはランボルギーニを始めました。

「危険すぎる」と彼は最終的に車をギアに入れて言った。

セオドアはそれ以上言葉を無駄にしませんでしたが、単に車の右ドアを開け、ジョ シュアが私道に沿って加速すると、ジョ シュアがアクセス道路に曲がったときに助手席に身を包み、ドアを閉めました。車が見えなくなってからずっと 後に残されたものに聞こえる12本のシリンダーが道を下って叫びました。

「大丈夫だよ、パブロおじさん」エスメレルダは落ち着き、疲れ果てた教鞭をソファに連れ戻した。

「マニアック」と彼は不平を言い、再びクッションに落ち着きました。エスメレルダは部屋に連れて行った。彼女の叔父は寝る準備ができていたので、電話が鳴ったらいつでも電話に出たいと思った。彼女は宇宙からその男に向きを変えた。

「兄さん、肉体を休ませたいですか？」

「はい」と彼は言った。

「お姉さんを探してスピリットを送ってくれませんか？」 "はい。"

「そして、私の兄弟よ、私はあなたの捜索のために精神的にあなたに同行してもいいですか？」 "はい。"

エスメレルダは彼の手を取り、一緒に日陰のさわやかなスクリーン付きポーチに足を踏み入れ、快適になり、瞑想の準備をしました。

エスメレルダの先生も瞑想していました。それほど深くはありませんが、彼の集中力は非常に強かったので、彼は小さなイタリア車を限界まで押し上げたので、瞑想状態で発見された穏やかで平和な自信がありました。二人乗りの彼のそばのセオドアは、彼がやって来た理由のいくつかを説明するつもりでしたが、車が私道の角を曲がった後、彼の心は激しい恐怖以外何も保持できませんでした。ジョ シュは時速20マイルで木々や溝を通り過ぎていくと、木々や溝をインチ単位で失い、角を曲がって滑りました。ジョ シュアがギアボックスを操作するとギアボックスが鳴り、ジョ シュが4レーンで150でフラットになると、マシンはスムーズに吠えるような泣き声に落ち着きました。彼らが空港に到着するのはほんの数分前でしょう。

「彼らはそこに戻ってその道に沿ってグランプリコースを置き、あなたにちなんで名付けるべきです」とセオドアは管理しました。比喩的まっすぐな道が彼の恐怖感を幾分麻痺させたからです。

「リラックス、テッド。」スターは彼の座席の奥座席に落ち着き、腕をまっすぐにした。

「魔術師には事故はありません。」

これはセオドアをほとんど慰めませんでした。ブラックトップのリボンは、不可能な速度で背後でほどけていました。セオドアの薄い肌は、彼が感じた感傷から、さらに薄くなりました。彼の表情全体はその優しい甘さを失い、頑固な決意のトーンを帯びていた。ジョ シュアが急速にシフトダウンし、ワシントン国立空港エリアに入ると、高架橋の下の左折にますますゆっくりと移動したため、試練はすぐに終わりました。一時停止の標識が1つあり、彼らはエグゼクティブターミナルに駐車していました。スターはまだ時間を無駄にしていませんでした。彼は車のドアを閉め、オフィスに向かって疾走した。セオドアは車の彼の側から出て、速く走っていましたが、遅れていて、雷が稲妻に追いつくようにしようとしているように感じました。

ジョ シュアは、メインデスクを通りかかったときに、若くて細い事務員にフラグを立てられました。"氏。スター？ジョ シュアスター？"

店員は電話を差し出した。「あなたを呼んでください、サー。」

魔術師はレシーバーを取るために彼の走り破った。

"はい?"彼は言った、彼の声は焦りました。

"ジョ シュア?私はあなたを捕まえることができるだろうと思った。そこにいる少年に、マニアックな人を止めるためだけに言った..."

"なんだ、パブロ?"

"ジョ シュア、マイアミで私たちのために雇った探偵事務所から電話がありました。アクメ探偵事務所。彼らはトロストリックを目撃しなかったと報告したが、彼は私たちの事件に取り組んでいた男性の一人がターミナルのドアのすぐ外で交通事故で偶然に殺されたと言った。

それはあなたに何かを示唆していますか?" "うん。途中です。"

ジョ シュアは受信機を店員に戻し、数台の机と何人かの着席した顧客を通り過ぎて再び走り始めました。彼は彼の名前で再び止められ、彼に手を伸ばしていたずんぐりした金髪の男が話しました。"氏。スター?"男は気持ちよく尋ねた。

"行こう"とジョ シュアはデッドランで彼を追い越して言った。

パイロットは従者に加わり、スターとセオドアの間きちんとフィットし、小さなジェット機を求めてレースをしました。彼らは機体箱の階段を上り、機内の豊かなインテリアのエグゼクティブチェアのひとつに心地よくリクライニングしている真っ赤なカイゼルひげを生やした背の低い男を徹底的に驚かせた。明るい青い目は、口ひげと同様に赤い髪のわらぶきの間を見ました。

"氏。スター?"彼は、副操縦士の挨拶を無意識のうちに繰り返して言った。

ジョ シュアは彼と 同様のタクトの欠如を持っていました。「すぐに離陸できますか？」
「それが私たちがここにいる理由です」とパイロットは、アメニティを軽蔑しているように見えた方法に関係なく、スターを彼の言葉で受け入れるのに十分気さくに言った。彼は左席に座った。彼の手は燃料ブーストポンプスイッチとイグニッションの上を素早く動きました。彼は2番目のスターターソレノイドスイッチを押し下げ、右エンジンのコンプレッサーを回転させました。副操縦士はエアステアを上げ、肩をプラグタイプのドアに当て、ジェットエンジンが外で鳴き始めたときにハンドルをロック位置に回しました。

副操縦士は右席に滑り込み、コックピット側の窓の下にあるフックからラジオマイクを外し、音量を上げました。

「クリアランスデリバリー、リアフォーセブンツエイトアルファ、フォートヘ。ローダーデール。」

副操縦士の頭の上のスピーカーはすぐに戻ってきました。ローダーデール空港。川を越えて南に出発します。ノイズ軽減。ベクトルCasanova、Gordonsville、J

37.飛行計画レート：4000を維持します。

Gordonsvilleの後のフライトレベル23ゼロを期待してください。」

副操縦士はクリアランスを読み戻し、確認され、地上管制に切り替えました。

「ページで2つの8つのアルファ。タクシー」と彼はマイクに向かって言った。彼の声はジョ シュアにはほとんど聞こえなかったが、塔のコントローラーには完全にはっきりと聞こえた。彼の親指はマイクスイッチを切り替え、地上管制は効率的に答えていました。または、必要に応じて5つを使用できます。」

「私たちは5つを使用します」と副操縦士は8つに並んでいる4つの航空会社をちらっと見ながら言いました。

エレガントな赤い口ひげで顔が完全に支離されていた小さな男は、チェックリストを完成させるために必要なスイッチの上でプロのスピードで手を動かしました。彼はスラストレバーで力を加えました、そしてそれらはついに動いていました、車輪はエグゼクティブランプを横切って前方に転がりました。

副操縦士は、操縦桿を完全に移動させ、自由度を確認し、無線機をタワー周波数に切り替えました。

「そこに着くと、2つの8つのアルファの準備ができています」と彼はマイクに向かって言いました。

小さな笑い声を持って、答えは急上昇しました。

「そこに着くとすぐに離陸できるように、2つの8つのアルファがクリアされます。トラフィックは3マイル、最終的には8マイルです。」

パイロットは、滑走路の角を曲がり、150度の方位でまっすぐになっているときに、ラストレバーをわずかに前方に持っていました。彼はレバーを2.28の限界まで動かし、ジェットは急速に加速しました。それはほとんど空で、荷物はなく、乗客と乗組員は2人だけで、燃費タンクは満タンでした。

機首が地面から離れて急激に押し上げられると、副操縦士は出発管制に接触し、飛行レベル4の1ゼロまでクリアされました。ジョシュとセオドアはデラックスキャビンの2つの詰め物をしたソファに沈み、小さなジェット機がマッハ.78で南に移動すると、短い昼寝をしました。

「空港に行く途中で何に興味していたのかわからない」と副操縦士は言った。

「それでは、3分の1の速さではありませんでした。」

小さなパイロットが燃えるような頭をキャビンに入れて「フォート。ローダーデール、来ます。」

「ありがとう」とジョシュアは座って言った。

「レンタカーを先に呼んでもらえますか？」

「もちろんできます。」パイロットはジョシュとセオドアに興味深見で見守っていました。彼は、この高価な飛行機を通常借りる通常の企業タイプを極端に軽蔑し、どこかで彼らの無限の取引の1つを閉じるために出発しました。彼は、彼らの多くが乗り込んで目的地に到着するまで飲んでいるのを見ていました。このスター氏はまったく別の記事で見えました。そして彼の明らかな倦怠感、おそらく興味深い最近の過去を注文しました。彼はまた、彼が立ち上がった今、彼がどこに向かっているのかを知ることを非常に心酔しているように見えた。「調子はどう？」彼はジョシュアに尋ねました。

ジョシュはニヤリと笑った。

「善人は悪人を追いかけています。スピードは不可欠です、男。」

「あなたはそのための適切な場所にあります」とパイロットは言いました。

「聞いてください、私たちが着陸するときに私が助けることができることがあれば、私を数えてください。良い人の一人を助けるためにいつも喜んでいきます。」

「それは私にも当てはまります」と副操縦士は言いました。

「ありがとう」とジョシュアは言った。「私を地面に連れて行ってください。」

「ロジャー・ウィルコ」と赤毛のパイロットは言った。

「私たちはそれを解決できると思います。」

セオドアはコックピットのドアに近づいてきました、そして彼らが降り始めたとき、彼らは皆フロントガラスを通して見ました。集まる夕暮れの彼らの目が見える限り、彼らの下に光が広がっている：高速道路A

1ウェストパームビーチからマイアミの南にあるホームステッド空軍基地まで、派手なネックレスのように輝いていました。マイアミは彼らの下の薄らい光でしっかりしていて、彼らはマイアミアプローチコントロールを識別する大きなスピーカーを聞くことができました。フォートに残された滑走路へのアプローチのために彼らは2000フィートまでクリアされました。ローダーデール空港。ギアとフラップが下がっていました。副操縦士は着陸前のチェックリストを完了していました。パイロットはスラストレバーを前方に押し、飛行機は下の滑走路へのファイナルアプローチで毎分600フィートの降下率で安定しました。

「ダウンとスリーグリーン」と副操縦士が歌った。「フルフラップ、着陸までクリア。」

副操縦士が地上管制に接触している間にパイロットが着陸し、フィールドの最南端にある格納庫複合施設にタクシーで移動しました。そこでは、白い服を着た疲れた様子のラインボーイがさまよって、駐車場、階段が下り下りし、副操縦士がドアを開けた。

「あなたはモーターに行きますか？」ジョーシュは尋ねました。

「いいえ、会社がここに保管しているマンションがあります」とパイロットは言いました。

「そこでチェックインします。いつでもお電話いただけます。」彼はジョーシュにカードを渡しました。「私たちの1人は、電話でいることを強めます。

10分でどこにでも行けるようになります。」

パイロットが空中階段を下り始め、ラインボーイにタンクを満タンにするように合図したとき、ジョーシュはオフになって再び走り、セオドアはすぐ後ろにいました。彼は、片方の手にコーヒーカップを持ち、もう片方の手に大きな笑みを浮かべて、フライングサービスのオフィスのドアを通り抜けていたかなり重いセットの男にほとんど出くわしました。「こんにちは」彼は砂利のような声で挨拶した。「自分の名前...」

ジョーシュアは彼を追い越しました。男はすぐにアヒルをし、それから彼のコーヒーで汚れたシャツの正面を無残に見ました。

「それはレンタカーですか？」ジョーシュは尋ねました。

「はい、そうです。鍵はそのカウンターにあります。」ずんぐりした男は机の後ろに戻った。「そしてここに論文があります...」

「パイロットが書類の面倒を見るでしょう」とジョーシュは正面玄関を通り抜けながら肩越しに言った。

「しかし、あなたはコピーが必要になるでしょう」と彼は砂利を吐き出さずの紛れもない音を聞いたので、彼は無意味に言った。

第15章

Sgt. ジョン・アームストロングは非常に粘り強い男でした。それは彼のあごのセットで、彼が垢いた方法で書かれました。彼が軍隊で過ごした20年が育んだのは彼の性格の一部でした。彼はCIDに来ていたので、カナダ騎馬警察のように、いつも彼の男を手に入れました。そして、これも例外ではありませんでした。

Sgt. アメリカ陸軍のジョン・アームストロングがそれを助けることができた。

少佐は、ひどい午後の終わりに、彼を追い払うことができなかつただけで嬉しかった。実際、彼は警官がさようならを言ってどれほどうれしかったかについて考えるのが好きではありませんでした。彼らが警察署を去ったとき、彼は彼に憲兵セダンを使わせることについてさえも口論していませんでした。どうして少佐は、これらのスパイが今犯している陰謀から米軍を守ることの非常に重要なことを理解できなかったのだろうか？しかし、彼はあきらめるつもりはありませんでした。身をかかめる義務を見た男には、それはしません。いいえ、彼は必要に応じて、宇宙からの敵の大群に立ち向かうでしょう。そしてある日、戦争が終わり、その歴史が書かれたとき、彼の名前がそれらの素晴らしい時代の記述で大きくなるかもしれません。彼は最初の、おそらく決定的な打撃を打ったでしょう。彼は他の誰よりもずっと前に何が起っているのかを見ることができたでしょう。状況を把握する彼の能力は疑い余地がありません。おそらく彼はブロンズにキャストされ、彼らの命、彼らの忠誠心、彼らの国への奉仕における彼らの知性を与えた他のアメリカの愛国者の像で設定されるでしょう。

彼、Sgt. ジョン・アームストロングは、これを自分で行うでしょう。そして、そもそも、彼は2人のスパイを彼らの隠れ家まで追いかけるつもりでした。いわば、彼の巣窟でエイリアンにひげを生やしてください。彼の積極的きれいでずんぐりした指がハンドルの曲がった。彼はできることをするだろう。彼が誓ったこと。

彼は弁護士車をプロのように簡単に追いかけた。パデエフスキーの地所は非常に簡単に潜入できました。邸宅の裏側には開放的な国がありましたが、家の両側の面積は密集した、切り取られていない森林地帯でした。前庭の芝生がありましたが、それは控えめで、家の両側は重い森に非常に近かったです。彼は、フロントパーラーのサイドウィンドウの1つに問題なく隣りました。そこでは、家の正面が半分の部屋に戻ってから、スクリーンインされたポーチの追加の幅に広がりました。

アームストロングは、空港でパデエフスキーとジョシュとの電話での会話を聞いた。ジョシュとセオドアは明らかにフォートローダーデールに向かった。

今、決定がありました。愛国者としての彼の将来はこれにかかっています！彼はポーチで現在彼から20フィートではない宇宙から男を見る必要がありますか、それとも彼はジョ シュアとセオドアの後に行き、彼らと一緒に宇宙の女の子を見つけるべきですか？

難しい決断でした。手の中の鳥は茂みの中で2羽の価値があるように見えました。それでも、少佐は宇宙から来た男を持っていましたが、重要性は登録されていなかったようです。おそらく、彼はジョ シュアをフォローすることでより多くの証拠を得ることができたでしょう。ここにはこれ以上の証拠はありませんでした。

そして、ジョ シュアが行く前に、どうやって彼はフロリダに着くことができたのでしょうか？ジョ シュアはすでに空中にいました。軍曹は数分考えて、自分の国のために命を落とすだけでなく、自分の財政も自由に使えるようにする必要があると判断しました。大変な打撃でした。しかし、彼は逃げ道を見ることができませんでした。そしておそらく、彼がその奉仕に費やしたすべてのことを注意深く記録していれば、ホロコーストが回避された後、彼の国は彼に返済するのにふさわしいと思うでしょう。

彼はジョ シュアが持っていたのと同じように、探偵事務所に電話しなければならなかった。彼は彼らをフォローさせなければならなかったため、彼がそこに着いて自分自身を引き継ぐことができるまで。

彼の決断は、彼の広くて強い背中を壁から遠ざけ、肩をかなり痛々しく引き戻し、そして硬い足で立ち上がった。車は彼をそれらの公衆電話の別のものに連れて行った。彼は少し嫌悪感を持って顔をしかめ、これの受け手を手に取り、少なくとも受け手と同じくらい汚いコインを預け、マイアミ情報に電話して本の最初の探偵事務所の名前を尋ねた。彼は気にしませんでした。誰でもします。

彼はすぐにAcmeDetectiveAgencyと話していました。彼らが陸軍CIDと関係のある男性と話していることを発見したとき、彼らは彼のビジネスを受け入れることを最も切望していました。「今、私たちは少し人員不足です」とマイアミの男性は言いました。「しかし、私たちはあなたの場合に特別な努力をします、Sgt. アームストロング。」彼らは、チャーターされたジェット機でフォートローダーデールに到着するジョ シュアとセオドアの描写に合った2人の男性に尻尾をつけるように依頼されました。

「はい、Sgt. アームストロング」と男は言った。

「私たちは確かにそうします。そして、どのようにあなたに報告しますか。

「後で電話をかけ直してお知らせします。」

「はい、Sgt. アームストロング。大丈夫です。」探偵はかなり頭がおかしいと感じて電話を切った。1日で2つの良い仕事。代理店はかなり大きかった、

しかし、ある人が「費用を惜しまない」と言い、別の人が彼の後ろに米国の財源を持っていた日は、それでも素晴らしい日でした。

唯一の難しさは、彼がすでにこのあたりのすべての空港に男性を賭けていたということでした。彼はすでに彼が本に持っていたすべてのパートタイムのエージェントを呼ばなければなりません。彼は呼びかけました、そして、ケースを置くために他に誰も見つけることができませんでした。やるべきことは1つだけでした。それは、割り当てを2倍にすることです。両方のケースに同じ男性を配置し、1人が壊れたとき、彼はエージェントを再編成して記入することができました。彼はマイアミ航空交通管制センターに連絡を取り、チャーターされたジェットケースを支援する必要がありました。彼はちょうど今日の午後、それらの異常な事故の1つで一人の男を失いました。くそ金持ちのスノッブ、歩行者に気をつけるために彼らのお金を使うのに忙しすぎます。ひどいものでした。これは金持ちの街でした、大丈夫です。運手はおそらく刑務所に行かないでしょう。

しかし、それは、ビジネスに関してはここにもそこにもありませんでしたが、彼は非常に優れた職員を失いました。このパデエフスキー氏は、彼が見つけたいと思っていた主題はおそらくマイアミインターナショナルに来るだろうと言っていたので、彼が取り替えなければならなかったもの。彼はため息をつき、電話を彼のところに引く張った。彼も潰瘍の薬を飲んでいませんでした。良い。

彼は、フォートをカバーしていたパートタイムの職員であるエルネスト・ロペスによって報告された番号に電話をかけました。パデエフスキーのローダーゲール空港、ロペスはいい人でしたが、やりすぎて年を取りすぎてフルタイムの能力を発揮できませんでした。彼はまた、やりすぎて年を取りすぎて警官として雇うことができなかった。それは残念でした。彼の母国では、ロペスはパティスタにとって警官であり、良い人だったので、カスタロの政府が最終的に彼と彼の家族が去るほうがよいと彼に感じさせるまで。そして、彼は妻と子供たちを恐れて、可能な限り急いで去っていました。彼の子供たちがもはや愛することができない国で育つことを恐れて。そして、もし彼女が未亡人のままにされたら、彼の妻を恐れて。彼は、マイアミがニューヨーク市よりも優れた入国港であると判断しました。旅行はもっと安かった。ゲッターはそれほど悪くはなかった。しかし、ここでは十分に悪かった。彼は警察の仕事以外の訓練を受けていなかった。彼がそれを得ることができなかったとき、彼に開いたままにされた2つの可能な道がありました。彼は犯罪者になる可能性があり、それは彼が行うのに非常に適していて、長年犯罪技術を研究し、そして迅速で賢明な心を持っていました。または彼は他の正直な仕事を探ることができました。

エルネスト・ロペスは本質的に善人でした。彼は犯罪者にはなりません。彼が深く愛した妻と子供たちを養うために、彼はレストランで食器洗い機として、または車のガソリンのポンプとして働く必要があることを発見しました。彼はアウトドアが好きだった。彼はガソリンを汲み上げた。他の誰も彼を雇うことはありませんでした。

胴回りの重さは弱くて不格好です。彼の顔はいつも油っぽい。彼は洗ったことがないように見えた。彼のあごひげは重かった。彼の髪は黒くてもっすぐだった。彼は移民である彼の姿に非常に似ていました。

マイアミには非常に多くの移民がいました。すべてが彼のように見え、すべてが仕事を望んでおり、ほとんどが若くてきれいに見えます。

彼は仕事を見つけることができず、幸運だったと思っていた。そして、それはそれほど悪くはなく、フォートの快適な近所でガスを汲み上げました。ローダーデール。それはほとんど支払われなかったため、彼は家族に彼らが必要とするものを与えるのに苦労しました。彼らは遠く離れたマイアミ北部に住む必要があり、彼は彼の仕事に出入りするために彼の古い車をだまし取るのにさえ苦労しました。大変でした。そして彼はAcme Detective Agencyでアルバイトを見つけて喜んでいました。彼らはガソリンスタンドよりもはるかに多くのお金を時間単位で支払ったからです。そして彼はその仕事をするのができた。それはガソリンポンプよりも少し彼に挑戦しました。しかし、それ以上に、それは彼を落ち着かせました。彼はこの種の仕事をするのに慣れていました。彼は、これらの任務に就いていたとき、彼が彼の新しい国に属していたことを、エバネセントに感じる事ができました。

しかし、おそらく、何よりも、彼は家族のためにお金を稼ぐことができ、幸せでした。そして、彼はすでにガソリンポンプでシフトと半分を働いていたにもかかわらず、熱心にそして考えずにこの割り当てをつかみましたが、そして彼の手はまだグリースとガソリンのにおいで暗かったです。彼はフォートに行っていた。ローダーデール空港は、アクティブな滑走路をすべて見る事ができるように戦略的な場所に身を置き、探偵事務所前に電話をかけた後、近くの有料電話に故障した標識を置いていました。

ブースの電話が鳴ったとき、彼は傾いた椅子で後ろ向きになりそうになった。彼の大部分はすぐに電話に移った。彼は2番目のリングの終わりまでにレシーバーを拾いました。「ロペス」と彼はそれに言った。

「ロペス」と代理店の男性は言いました。「あなたは今、ブロンドの女の子と同様に別の事件を抱えています。また、チャーター機で2人の男性を監視しています。」彼はロペスにシュアスターとセオドアベールの説明をしました。

「女の子を見つけたら、電話して報告してください。クライアントは私たちに彼女をフォローするように頼みませんでした。しかし、2人の男性を見つけた場合は、その地域にいる限り、可能であれば彼らに従ってください。できない場合は、電話をかけて、最後に見た方向を報告してから、戻って女の子をもう一度見守ってください。わかった？」

「はい、si, amigo」とロペスは言いました。

「私は3つすべてを監視します。報告するものがあれば、電話します。」

彼は電話を切り、椅子に戻り、考え始めました。もし彼らがそうしたら、彼はどのようにしてここから彼の車に二人の男を追いかけるのに十分な速さで行く事ができたでしょう

こっちに来て？フィールドは広大でした。おそらく、最も広く離れた格納庫の間5マイルの道が立っていました。彼らはどちらに行きますか？

彼が最初に彼らが着陸して目的地までタクシーで行くのを見なければならなかったならば、彼はおそらく二人の男を捕まえるの間に間に合うように彼らの何人かに着くことができなかった。それでも、彼らがいつ入ってくるかを知らない限り、彼はここを離れて塔から見つけようとするにはできませんでした。そしてまた、彼は美しいブロンドのために彼の時間を怠ってはなりません。それは、彼にとって最も残念なことに、確かに絶望的な仕事でしたが。フォートで一人の美しいブロンドの女の子を見つけるために。ローダーデル空港。彼らが言ったかのように、ロペス、私たちはサトウキビのこの分野で甘い茎が欲しいです。

ブースの電話がまた鳴った。再びロペスは彼の膨大な量をそれに移しました。その呼びかけは彼の困難を解決し、彼の心を躍らせた。彼は今夜どれだけのお金を稼ぐことができるでしょう！代理店の男は彼に言った。

「聞いて、ロペス。マイアミセンターは、チャーター機でジャクソンビルからハンドオフを受け取りました。フォートに着陸することになっています。今から数分後のローダーデル。私たちが探しているもののように聞こえます。あなたのつま先こいて、それらが説明に合うならば、それらを尾行するようにしてください。ブロンドの女の子を忘れてください。私はそれをカバーするために今男を送ります。とった？」

「はい、私はそれを持っています。そして、私は彼らについていくつもりです。後で報告してくださいね」

"右。ロペス、彼らを視界に入れておいてください。さて、飛行機の数は4728アルファです。わかった？それがあなたが探しているものです。」

「OK」とロペスは電話を切って準備することを切望して言った。

"ありがとうございます。さようなら、アミーゴ。」

彼は電話を切った。最初に行くのは、管制塔に行くことです。彼は彼らが行く予定のフライトサービスを見つけなければなりません。彼はこの種の調査の経験がありました。彼はキューバで長い間警官をしていた。

彼は少しの間座って計画を立て、スピーチをリハーサルしました。それから彼は管制塔への階段を駆け上がった。夕方のこの時間は、航空交通がほとんどなく、連邦航空庁の従業員が訪問者を歓迎しました。彼はすぐに彼のスピーチ、会社の運手スピーチを始めました。彼は彼らが何年もわかってその多くの変種を聞いたことを望んでいました、そしてそれは彼らが持っているように見えました、なぜなら彼の雇用主がチャーターされたジェット、472

8アルファ、そして彼らは以前ここにいたことがありましたが、当時使用していたハンガーで受けたサービスに不満を持っていたため、別のハンガーに変更する予定でした。彼らは彼をどちらを教えたのか、ロペスは非常にラテン語で非常に不幸に見えたと説明したが、彼は

どれを思い出せなかった。彼らはいつでも期限が来ていました。彼らが着陸するまで彼はここにとどまり、彼らがどこに行くのかを知ることができるでしょうか？」

「確かに、ロペスさん」と男性の一人が言った。

「彼らは着陸したらすぐにタクシーを利用したい場所をラジオを送ります。ただ席を持ってください。あなたは彼らがすぐに来ると言いますか？」

ロペスはうなずき、男の心から感謝し、座って待った。飛行機が地上にあり、地上管制に切り替えて目的地のタワーにアドバイスしたとき、ロペスはドアに向かって移動し、「ありがとうございました」と言いました。

それで彼は移動中の車に乗っており、ジョ シュアとセオドアが後輪から砂利を吐き出し、フィールドの南端からでぼこの脇道を離れたときに、ジョ シュアの毛むくじらの毛のモップを識別するのに十分な距離でした。彼らが無責任に放棄して海に向かって無謀に運転したとき、彼らの後ろに留まることができました。ロペスは、温度計の右端で震える針に注意を払いました。彼は、ラジエーターキャップがフィッティングに張り付いているときに、茶色がかかった水滴がフロントガラスに吹き返すのを見ました。これらの2つが彼ら自身の破壊に屈したことは明らかでした。しかし、スピードはまた、彼らが彼の獲物であることを明らかにしました。そして、彼はそれらを失うつもりはありませんでした。これが彼のできる仕事でした。ガソリンの汲み上げは仕事ではありませんでした！彼は追跡で爽快感を感じませんでした。彼を襲った感情は、以前はまったく動 ためだけに看護されていた車の中で、彼がこれを素早く行かなければならないという完全な恐怖でした。それは音を立て、サスペンションが揺れるたびに骨の中でうめき声を上げていました。はげたタイヤは信 証を超えていました。しかし、彼はそれらを失うことはありませんでした。ここでは一晩の雇用があるかもしれませんが、おそらくそれ以上です。おそらく、彼は成功裏にそれを始めたので、代理店は彼をこの事件に留めておくでしょう。そして、もし彼が代理店に彼に何ができるかを示したら、彼らは彼をもっと使わないのではないのでしょうか？彼はハンドルをかかめ、目の前の道路にぎこちなく固執し、彼らがそうするときは減速し、そして最後に彼らがそうするとき、彼の古代の自動車を張り出した椰子の枝の下に駐車した。彼は月明かりの下で彼らを追いかけて始めました。

ジョ シュアは彼らが空港の道路を離れる前に彼らが追跡されていることに気づきました、しかし彼は誰が尻尾を送ったのか完全に理解することができませんでした。彼らをフォローするのは明かな人物でしたが、トロストリック、またはトロストリックの代理人でしたが、トロストリックに関係する人が彼らの後ろにある死にかけているがらくたの山を運ぶ可能性はほとんどありませんでした。車が彼らの新しいレンタカーに追いつくことができたのは彼を驚かせた。彼がトロストリックの地所に近づいたとき、彼はその男を彼の心から完全に解雇した。この時点で唯一重要なことは移動することでした

できるだけ早く入って、彼女が投獄された精神になる前に、宇宙から女の子を取り戻そうとします。

Trostrickが彼女の精神的な体を完全に征服することに成功した後、彼女を救う望みはありませんでした。ジョシュアが知っている限り、希望はまったくありません。

ジョシュアの使命の緊急性のために、彼はトロストリックの敷地境界線を越えた人を待っているかもしれない様々な精神的危険に対する保護を準備するために時間をかけていませんでした。黒魔術師は多くのことをすることができたかもしれませんが、それらのすべては侵入者の継続的な健康と幸福に最も有害です。しかし、リスクを軽減する時間はありませんでした。彼はセオドアに目を向けた。

「聞いて、テッド。これは私が今までにした中で最も危険なことです。またはあなたは今までやったことがあります。何が待っているのかわからないし、調べる時間がない。しかし、これを乗り越える最良のチャンスは、あなたが私の手を取り、何をしても手放さないことです。物理的な危険はないと思います。私たちが直面する危険は、肉体的な死よりもはるかに大きいのです。あなたは私を理解していますか？」

セオドアは、ジョシュアに会って以来、ジョシュアを注意深く見守っていました。彼は、ジョシュアが完全に深刻なことは決してないことを見ていました。彼はその言語を軽使用し、それであまり多くのことを言おうとはしなかった。

そして、この最後の1つか2つのジョシュアの文は異なっていました。軽は言われませんでした。ジョシュアがここに危険があると云ったら、確かにありました。セオドアは魔術師の手を取り、強い不安の始まりが背中を横切って背骨を下るのを感じました。

「私は何も手放しません」とセオドアは言いました。

「しかし、あなたは何が起ると思っていますか？」

"知らない。"ジョシュアの顔は困惑していました。

「トロストリックがしたかもしれないすべてのことから私たちを守るにはかなりの時間がかかります。

彼のような人々が利用するための非常に多くの魔法のテクニックがあります。彼の財産の周りにはフェンスがないので、私は何かを期待しています。それは、非物理的な手段によって彼の場所の保護を探るように導くでしょう。彼が何を設定したとしても、私が知っていることで対抗できることを願っています。

2つの理由で私を握ってほしい。まず、あなたの光が私を助けてくれます。そして第二に、私はあなたと接触した場合にのみあなたを守ることができます。さあ、手放さないでください。」

二人の男はレンタカーから身をかがめ、手を握りしめ、手のひらがちりばめられた芝生を横切ってトロストリックの側庭に向かって歩き始めた。ロペスは車から降りて追いかけて、首を横に振った。彼はその日にたくさんを見ていましたが、月明かりの下で手をつないでいる2人の若い男性

それは新しいものでした！彼は彼らを脇庭に連れて行き、彼らが長く曲がりくねった私道を横切って石畳のパーティオに足を踏み入れるのを見ました。彼

彼らが広いガラスのドアの中に消えるのを見た。2人の男性のうち少し背が高く、もう一方の男性の手を離さずにドアを押し開いた。今、彼は何をすべきですか？彼はここで数分間待って、彼らが二度と出てこない場合にのみ中に入ることに決めました。

テッドとジョシュは、パティオを横切つて家自体に軽く注意深く移動したとき、ほとんど音を立てませんでした。ジョシュは暴行に備えて精神を支え、ドアの中に足を踏み入れたとき、脅威の痕跡が一つも邪魔されていないことに気づき驚いた。ジョシュにとっては傲慢のようでした。彼の命令にこれほど多くのことをしている人は、彼の保護のためにそれをわざわざ使用することはないでしょう。しかし、それは安堵であり、今では彼らの助けになりました。ジョシュは、自分が家こいて、精神的または肉体的な感覚への攻撃をまだ感じるができなかったので、邪魔されずに仕事に行くことができることに気づきました。

彼は暗い居間に立ち寄り、彼のことを見ていた。ライトは表示されませんでした。ガレージの上の窓から光る小さなランプが一つありました。ジョシュは、それが運手か眠った場所であるに違いないと判断しました。それは小さな光で、窓は小さくて不透明でした。ジョシュは、それがバスルームのライトであり、運手はおそらく夜の間ベッドにいたと正しく推測していました。

ジョシュは、居間から続く廊下にある小さな光の断片に気付きまで待ちました。放射線源は長い通路の端にあり、彼とセオドアは廊下を歩いてそこまで行き、出入り口を覆っている赤いカーテンを脇に寄せ、宇宙から少女を迎えたのと同じ光景を発見しました。Trostrickの服を脱いだ体は黒いテーブルの上に横たわっていた。太いテーパはスクーンの下部でちらつきました。

そしてセオドアの不安は、ジョシュが話していた危険性への意識を断ち切ることになりました。部屋は悪で生きていたからです。それは感じられ、皮膚に触れられた。彼が感じた卑劣さは、彼に精神の衰退を感じさせ、それは衰退の知的認識をはるかに超えていました、そして部屋のオーラの寒さはセオドアの魂を引き寄せ、彼に彼の手をジョシュにさらにしっかりと押し込み、すべてを入れた光の男への彼の信仰。

ジョシュは数秒間体の隣に立っていました、彼の目は集中して閉じました。彼は今それらを開けて、セオドアにささやきました。

「私たちは本当に幸運です。彼は体を持っていません。私たちは今、物事を処理できると思います。

Trostrickの肉体を制御できるようになると、宇宙から女の子を遠ざけることができるはずですが。結局のところ、黒人の魔術師は肉体がなければ深刻な障害を抱えており、白人の魔術師よりもはるかに深刻です。」

ジョ シュアはベルベットのカーテンの方を向いて、彼らがまだ安全に一人であることを確認し、肩から約6インチ、高さ約10インチの2つの緑色の目を見ていた。重い拳が彼の顔に食い込み、彼の足を引き裂いて祭壇から引き離す前に、彼は残りのマンサーヴァントの巨大なプロポーションを受け入れる時間がほとんどありませんでした。

セオドアは怯えた男の痙攣的な握りでジョ シュアに手を閉じ、ジョ シュと一緒に運ばれたが、巨大な拳がセオドアの顔全体を見つけるまで、彼は倒れなかった。溶けたグリップが壊れ、ショックで曇った目を通して、ジョ シュアはセオドアが無秩序に広がって横になっているのを見ました。彼は立ち上がるための痛みの要求に苦しみ、男の重いブーツの革で覆われた鉄が彼を胸の右側にしっかりと捕らえ、まだ意識している彼を投げ込んだとき、彼は膝まで引張っていました。今は動かないヒープ。

巨大な男の緑色の目はベルベットのドアに向けられ、彼はゆっくりと優雅に動き、その外側のひだの後ろに手を伸ばし、曲がった剣を引き出しました。シミターは、ジョ シュアが息を切らして麻痺して横たわっていたとしても、簡単に認識できました。それは特定の魔法の儀式において儀式的な価値がありました。ジョ シュアは彼の意志のすべてのオンスで、この攻撃を防ぐために立ち上がろうとしました、しかし彼は彼自身が完全に無力であることに気づきました。彼は肉体的な死に備えて精神を準備し、巨大な使用人の頭の上に大きな刃が空中に浮かび上がるのを見て、下向きの打撃に備えました。

そして、警告なしに、不可解な性格から外れて、大きな男は手に負えないほど前に投げました。シミターはジョ シュアを逃し、大声で、しかし無害に床こぶつかりました。使用人の後ろには、家に入ってきたエルネスト・ロペスの緊張した姿が立っていました。彼は、彼の前の2人が見たように、巨大な男がベルベットのカーテンを通り抜けるのを見て、何が起っているのかを見ていました。その後、彼が中立を保つことができなくなるまで。彼は善人であり、彼が待機して殺人を成し遂げることを許すことは全く不可能だったからです。

巨大な男は明らかに、1回の適切な打撃で彼を膝に送るのに十分な強さの1人を含む3人の敵が多すぎて快適に処理できないと判断しました。彼はジョ シュアとセオドアを拾い上げ、カーテンを通して不器用に投げ、ロペスを強力に武装させた。彼らは重いドアが蝶番で揺れる音を聞いた、そしてそれがカーテンの後ろで閉じられたとき、震えるような音がした。彼らの加害者は彼自身と彼の主人を儀式室に閉じ込めていたようです。

ロペスは無意識のセオドアを怒らせ、同じことをするためにジョ シュアをかがめました。「私があなたなら、私を攻撃することはありません。私は戦いの多くのスキルがあり、ナイフで武装しているからです。」と彼は言いました。「いや、男」とジョ シュはじっと、痛々しく話しました。「私たちはあなたを悩ますつもりはありません。どうぞ。私を探して。"狡猾なロペスはそうしました。「私たちは私たちの命を救ってくれてありがとうございます。」ロペスの広い顔が笑顔になりました。「問題ありませんでした。」「今ここに鍵のかかったドアはありますか？」ジョ シュアは首を痛め、頭を部屋に向けて傾けながら尋ねた。ロペスは起き上がり、セオドアもジョ シュアも武器を持っていないことに満足し、彼の肩をカーテンに置いた。その後ろの木はわずかにきしみました。「頑丈なドア、頑丈なロック付き」とキューバ人は言いました。ジョ シュアが座っていた床に突然の振動があり、息を切らして戦っていました。振動が大きくなり、真下にあるモーターボートのこもった音が聞こえてきました。「外に出て、それが何であるかを見てください」とジョ シュアは言いました。「お願いします、男。まだできません。」ロペスはジョ シュからセオドアまで素早く見ました。彼はその男がどのように嘘をついているのかほとんどわかりませんでした。そしてもう一人の男は明らかにまだ無意識でした。彼はうなずいて、居間を通り抜け、パティオを横切って走り出しました。ちょうど間に合って、巨大な男の船体が車輪に乗ったボートが海岸線のカーブの周りで見えなくなったのを見ました。彼は振り返り、浜辺で動かない形を目をとらえた。彼はそれに近づいた。それは砂の上で固い女の子の体でした。彼女は明らかに死んでいた。まあ、彼はすぐに彼女を見るために戻ってこれることができました。彼女は続けるだろう。今、重要なことは、ボートがどこから来たのかを発見することでした。彼はビーチを家の向こう側に向かって走り、家の真下にボートのすっきりとした駐車場があり、その土台に水がかかっているを見つけました。パティオから家の下の通路への階段がありました。彼は彼らを駆け下り、小さな棧橋に向かった。これが家の内部への扉でした。ロックが解除されました。ロペスはそれを通り抜け、急な階段を上って、彼らが追い出されたばかりの魔法の部屋に入った。黒い大理石のテーブルにはもはや体がありませんでした。使用人はそのボートに彼と一緒に体を持っている必要があります。これは最も不可解で、最も独特でした。ロペスはわずかな不安感を無視して部屋の中を歩き、ボルトで固定されたドアのロックを解除しました。それは振り返り、ベルベットのカーテンの下に固定し、再びジョ シュアとセオドアと対峙しました。

無意識の人は感覚を取り戻しました。彼の目は開いていて、片方の手が彼の傷ついた顔に触れていました。もう一人の男は彼が残されたのと同じ位置にいました。彼の手はまた、彼の傷を探求し、肋骨が非常に生意気に壊れているのを感じていました。この二人は大男にあまり抵抗を示さなかった、それは確かだった。たぶん、彼らは手を握るのにそれほど熱心ではなかったはずで、彼らが自由であったならば、彼らは戦いのためにそれらを使うことができたかもしれません。ロペスは再び首を横に振った。

彼は彼らと何をするつもりでしたか？彼らは今では食事の切符でした。彼はそれらを見つけて追跡するように命じられていました、そして彼は彼の命令をこれ以上徹底的に実行することができませんでした。彼らは今ここにいて、彼の親指のすぐ下にいました。おそらく彼は、彼の割り当てを超えるいくつかの情辭を発見することによって、この幸運を高めることができたでしょう。この事件全体、この一連の出来事は非常に奇妙な空気があり、彼はこれらの男性が正直であるか犯罪者であるか、正気であるか正気であるかを想定すべきかどうかわかりませんでした。名前をつかない暗黒の力に満ちたその部屋は、子供の頃に楽しんでたホラー映画のようでした。彼は実生活でそれらを楽しんでいませんでした。手拭。それも並外れたものでした。テーブルの上の体、ビーチの体、並外れて、そして非常に邪悪です。

彼は、この場合の最善の方針は率直な正直であると決定しました。これらの男性が最近の殴りからまだショックを受けている間に、彼はおそらく何かを見つけることができました。彼が彼らを少しだけ威嚇することができれば、彼は二人の男のうちの年上のスターに話しかけた。

「私の名前はエルネスト・ロペスです。私はAcmeDetectiveAgencyの私立探偵です。」

ジョシュアは明らかに戸惑い、珍しい反応を見えました。

「まもなく私の代理店と市内の警察に電話します。しかし、最初に、何か教えていただければ、喜んでお聞きします。」

「ジョシュア・スター」とジョシュは言いました。「そしてこれはセオドア・ペーアです。私はあなたを雇った人です、男。」

ロペスはその声明を解き明かそうとしたとき、ロペスの目は焦点を失いました。なぜジョシュアスターはジョシュアスターを見つけるために彼を雇うのでしょうか？

「申し訳ありませんが、スターさん、私はあなたを見つけるために雇われました。あなたは私を雇うことができなかったでしょう。」

「私はマイアミのアクメエージェンシーを雇って、飛行機でその地域にやってくるブロードの女の子を見つけました。彼女を探していませんか？」ロペスはうなずいた。

「私は彼女とあなたを探してました。彼女は見つかりませんでした。あなた、私しました。」

スターはまだチェックしていました。「彼女は背が高く、金髪で、とても美しい...」

ロペスは両手で停止動作をしました。

「はい、はい、私は彼女を監視していました。しかし、私は彼女に会いませんでした。」さて、スター、もう一つの小さな謎を考えました。彼とベールがここに来ることを誰が知ることができたでしょうか？ロペスが彼らをフォローしているという事実が重要であるように思われた以上に、それは重要ではないようでした。宇宙から少女を見つけるという要点の前に、すべてが青ざめた。

彼は少しの間彼の痛みを伴う体を引きこもり、私立探偵のオーラを注意深く見ました。それは非常に軽く見え、下の精神面の重くて基本的な問題から解放されました。ジョシュアは、彼があまりにも多くの人々に彼らの苦境を告げていたという事実にもかかわらず、その男に正直であることが良いリスクであるかもしれないと決定しました。

「誰があなたを雇ったかは関係ありません」と彼は言った。

「これは、ベール氏と私が関わっている生と死の問題です。あなたがスポットに割り当てられたブロンドの女の子が誘拐されました、そして、私たちはこの家を所有している男が誘拐犯であると疑っています。だからここにきました。彼はその部屋のテーブルの上に横たわっている人です。」ジョシュアは痛みを伴うゆっくりと向きを変えて部屋を覗き込み、トロストリックの体がなくなったことを初めて見ました。

「私はその大男がモーターボートで走り去るのを見ました」とロペスは説明の中で言いました。

「私が通りかかったとき、部屋には誰もいなかったのです、おそらく彼はあなたが彼と話している人を連れて行ったと思います。部屋からボートが保管されている場所まで直接階段があります。」彼の心はボートに向かって走り去りました、そして突然彼は彼がビーチで簡単にしかし専門的に調べた体についてもっと注意深く考えました。背の高い金髪の体。彼女は目隠しをしています、縛られていた。これは誘拐の明らかな犠牲者ではなかったのですか？

ロペスはスターを鋭く見つめた。彼は男が浜辺に降りて証拠を破壊したり、周囲の砂を踏みこじったり、おそらく体を動かしたりすることはなかったでしょう。これは警察の問題でした。しかし、その男は彼の捜索が終わったと言われるべきです。彼はスターを注意深く見ながらゆっくり話しました。

「ビーチの外には、あなたが与えた説明に非常によく合う体があります。いや、いや、彼女は死んでいる」と彼は大声で言った。

「私は彼女を見なければならぬ」とスターは言った。

「いいえ、必要はありません」とキューバ人は言いました。

「彼女は死んでいます。私はそれを確言しています。私は多くの死者を見てきました。警察に電話します。」

彼はゆっくりと廊下を移動し、電話を探し、スターが彼と話すことがもっとあるかどうか疑問に思いました。

「待つて」とスターは言い、ついに両足で立ち、バランスをとることができた。
「急いでやる必要はありませんよね？最初に何かお話ししましょう。」
ロペスは少し微笑んだ。彼の脅迫計画は機能しているようだった。おそらく彼はこの方法でかなり多くの情報を得ることができるでしょう。
「私たちは居間に行きましょう」と彼は言いました。「そしてそこであなたはより快適に座ることができます。そしてこれも、彼はここよりもそこで休むことができます。」
彼はセオドアの足元を助けた。その少年は今、ぼんやりと目覚めていましたが、まだほとんど現実ではありませんでした。
「あなたは私に危険を警告しました」と彼はロペスの腕に抱かれ、つまずいたときにジョシュアに言いました。
「男」とジョシュアは言いました。ごめんなさい。キングコングに殴られる前に、私は何かを期待していたでしょう！」
ロペスはセオドアをソファに置き、ジョシュアの隣の椅子に腰を下ろした。
「そして、あなたが私に伝えたかったことは何でしたか？」彼は尋ねた。
ジョシュアはロペスの暗く柔らかい目をととても深く見ました。
「ビーチにいる女の子が死んでいるのではなく、ただ深く眠っているだけだと信じる強い理由があります」と彼は言いました。
「彼女は死んでいた」とロペスは言った。スターの視線が安定していることに気づき、予想外に心地よいと感じた。
「いいえ、彼女は睡眠をとるために非常に強力な薬を与えられただけです。これは新薬、実験薬であり、眠気を引き起こします。睡眠をもたらす薬です。睡眠を示唆する薬です。それは非常に深い睡眠を生み出し、それは死の状態に非常に接近しますが、それは睡眠、非常に快適で深い睡眠すぎません。とてもとても深い眠りです。」スターの声は、キューバ人の目をじっと見つめ、睡眠について話し続けると遅くなりました。ロペスが深いトランス状態になるまで、彼は完全な5分間の深い睡眠について話し合い、それから彼がソファに横になることを探偵に提案しました。彼は朝までそこで寝ることを提案した。ロペスは素直にソファに横になりました。彼は完全にリラックスしていた。ジョシュアはセオドアにニヤリと笑いました。セオドアはダメージで不確かにニヤリと笑いました。それらは両方とも摩擦に関してかなり悪く見えました。ジョシュアは親指と人差し指で勝利のサインを作り、セオドアで指を振った。彼らは静かにパティオのドアを出て、穏やかに降伏する砂の上とても固く横たわっている静止した姿に向かって歩きました。

第16章

ジョ シュアとセオドアは眠っているロペスから向きを変え、パティオを横切つてトロストリックのプライベートビーチに駆け寄りました。彼らは見つけに来た女の子を見つけました。彼女は死体としてじっと横たわっていた。

ジョ シュアは月明かりの下で彼女を見て、目を閉じて肉体との緊密な絆を解き放ちました。セオドアは、彼の最も有益な態度は穏やかなサポートの1つであると感じて待機しました。数分後、ジョ シュアの目は再び開いた。彼は女の子の体を抱き上げました、彼の痩せた強さは厄介な束を扱やすくなりました。"外に出よう。

Trostrickはいつでも戻ってくるかもしれませんが。」彼は私道に向かって始めた。

「彼女は死んでいますか？」

"いいえ。彼女は肉体を残しましたが、体に害はありません。」

「あなたが宇宙から男をしたように、私たちは彼女を取り戻すことができますか？」

"いいえ。"ジョ シュアは彼らがレンタカーに乗るまでそれを手放しました。

「ここでちょっと待ってください。電話をかけたいです。」

彼は家に戻って電話をかけ、財布から取ったパイロットのカードを見ました。彼らは夜に落ち着き始めたばかりで、すぐにワシントンへの旅行に利用できました。彼は次にパプロに電話し、飛行機に会うように言った。

「私たちは彼女の肉体を持っています、パプロ」とジョ シュは言いました。

「それはあなたが完全な勝利と呼ぶものではありません。」

「まあ、ジョ シュ、それはすべてうまくいくでしょう。また近いうちにお会いしましょう。」

「うん」とジョ シュは言った。彼は走りて車と運転席に出て、フォートに戻ってドライブを始めました。ローダーデール空港。セオドアは、ジョ シュアの習慣になりつつあると思われる速度超過で恐怖を飲み込み、後部座席で女の子と一緒に座った。

「ジョ シュ、私たちは彼女を連れ戻すことができないとあなたは言いますか？」

"いいえ。彼女は自分の自由意志の肉体を残したようです。少なくとも、外音からのトラウマの兆候はありませんでした。私たちが彼女の精神に触れることができるまで、私たちが彼女を取り戻すことを望むことができる方法はありません。」

「彼女はどこにいると思いますか？」

ジョ シュアは、過去24時間の出来事がようやく彼のエネルギーに追いついているかのようように、ため息をつきました。

"私が推測することができます。アストラル面の下部には、研究が不可能なほどのネガティブな場所がたくさんあります。

Trostrickは彼女をある場所に配置しようとしてきました

そこから逃げることはできませんでした、私たちの肉体が刑務所から逃げることはできなかった以上のものです。彼女に連絡できませんでした。」スターは彼の席に少し座った。

「しかし、私たちは挑戦し続けます。」

彼は今、飛行機をぶら下げていた飛行サービスの前の駐車場に入るために減速していました。彼らはそれを見つけた場所にレンタカーを置いて、その場所のオフィスに歩いて行き、そして今度は彼らの準備ができていた彼らの赤毛のパイロットを見つけました。

「フライトプランが提出されました。今すぐ行く準備ができています。」

パイロットは、少女の状態の理由についてのジョシュアの話を彼が思っていたよりもはるかに簡単に受け入れ、彼女が薬物を投与された誘拐の犠牲者であったことを非常に喜んで信じているようでした。彼は、ジョシュアが彼女を助けてくれてうれしいこと、そして彼が行動の一部になれたらいいのにと思っただけだと答えた。

ジョシュアが飛行機のキャビンのソファの1つで女の子を快適にさせ終えたので、会話は減少しました。彼は階段を下りて歩いた。

「しばらくしてからお会いしましょう、テッド。」

セオドアは、空気の階級が引き込まれたときに、彼がスロープを横切ってオフィスの中に戻るのを見ました。彼の気持ちは、赤毛のパイロットが言ったように、行動の一部であるという強い好奇心と願望、賞品を手にした安全な瞬間の嵐から抜け出したときの圧倒的な安堵の洪水に分かれていました。彼は疲れていて、家の音は良かった。ジェット機がマイアミの空中から遠くに登る前に、彼は眠っていました。

ジョシュアも疲れていましたが、より深い意味で疲れていました。彼の精神は戦いを見越して痛んだが、すぐに参加するように求められた。ジョシュアは話すのが嫌いでいた。彼はそれが白人の魔術師の最も弱い武器であり、彼が前もって後悔した意志の練習によってのみトロストリックに対して彼自身を保持することができることを知っていました。彼は自分の力を無駄に使うことはほぼ確実だと知っていたので、彼らを後悔しました。それでも、彼はすべてを試すまで農場のグループに戻ることはできませんでした。彼の肋骨は痛かったが、どれも壊れていたようには見えなかった。ジョシュアの呼吸は以前ほど苦痛ではありませんでしたが、彼は硬直していました。彼を24時間近く動かし続けていたエネルギーは彼を立ち上げさせ、彼を警戒し、迅速にしましたが、食物と休息の身体的必要性に注意を払わなかったことから来る酸っぱい倦怠感が彼を圧倒しました。彼は、トロストリックの私道でレンタカーを一目で止めましたが、トロストリックが石畳のパティオを横切って出迎えてくれるのを見て、まったく驚きませんでした。その男の滑らかなで静かな声は本当に喜んで聞こえた。

「喜び、スターさん」と彼は言った。彼は丁寧に手を伸ばした。

ジョ シュアは一瞬手を見て、内側こうなずきました。彼の心はもっと厳しく設定された。彼は手を受け入れた。「どうですか、ミスター。

Trostrick。」

"氏。ロペスは、夕方の出来事を語るのに苦労しています。調子があつたなんて残念！私があなただけを期待していたなら！でも教えてください、スターさん、私はあなたのために何かができますか？」

ジョ シュアは、トロストリックを見つめながら、静かに立っていました。

「それでは、私の親愛なる仲間。入ってください。あなたは疲れているように見えます。座ってください。」

ロペスは、スターが指を一緒に動かし、座しているときにズボンをゆっくりとゆっくりと押すのを見ました。

"氏。スター、私は今行きます。雇用主に報告する必要があります。」

Trostrickの表現は、中程度の恥ずかしさの痕跡を示しました。

"氏。ロペス！もう少しここにいてください。私たちはあなたにもう数分の恩恵を借りていると確言しています。後悔しているあなたの不埒な瞬間をあなたに返済するために。ここ。別の飲み物。」

ロペスはとどまることを余儀なくされたと感じ、ソファの上で細かく手入れされた黒い魔術師の隣に座りました。彼の丸く油っぽい顔は、閉じ込めの欲求不満を記録していました。

「彼を行かせて、トロストリック。」

「私の親愛なる仲間、あなたがそうするとき、彼は去ることができます。彼は私たちのビジネスに影響を与えませんね？彼の前で私たちが望んでいたことについて話すことができますでしたか？彼は私たちの惑星の中立的なカウンターであり、大衆を構成する無力な男性に似ている人です。無力な大衆。

強い私たちは弱い者のために一歩を踏み出すべきでしょうか？ナンセンス！彼をとどまらせなさい。おそらく彼は学ぶことができます。そして、あなたは彼が行く前に彼と話したいと思うでしょう、あなたはそうしませんか？」

ジョ シュアは、トロストリックがこの考えの交換が放映されるように状況を整えたことに気づきました。それはトロストリックに攻撃の利点を与えました。彼は彼に残された唯一の反撃をしました。

「トロストリック、私はあなたが誘拐した少女のために来ました。」

「誘拐された？そのような犯罪行為？私のことをどう思いますか？」

「それでは言語を変更します。あなたは私たちのゲストの精神的な体をコントロールすることができます。私たちは彼女の肉体を持っています。彼女の精神を取り戻したいのです。」

「私の親愛なる仲間！」 Trostrickはやや混乱しているように見えた。

「あなたは私の行動を誤解しています。あなたが話すこの女の子はいくつかを作りました

選択枝、かなり自由に。そしてこの時点で、彼女の精神はここから少し離れています。この幻想の中で、私たちは空間と時間を呼んでいます。」

「私は今彼女を取り戻したい」とスターは言った。

部屋には沈黙があり、二人の男は着実にお互いを見つめていました。

Trostrickが話したとき、それは彼の視線のちらつきなしでした。

「親愛なる仲間よ、彼女はいつでもあなたに戻ってきます。今すぐあなたに戻るために彼女がしなければならない特定の変更があり、当分の間、彼女は自分がいる場所ことどまるのを好むと決めたようです。」

ジョ シュアは黒人の魔術師を黙って見ました。Trostrickは続けた。

「彼女はあなたの指導プログラムが省略した精神面の特定の心の構成について多くを学んでいるとしましょう。

彼女に全体像を見せずに、この惑星のやり方で彼女の教育を完了することを許可できますか？親愛なる仲間、あなたは私たちの創造主の宇宙の一部を見下していると思うことがあります。」

「まあ、トロストリック、私は悪魔を召喚し、パブロのような罪のない人々に対してそれらを使用することを軽蔑していることを認めます。あなたはそれらの両方をあなたのために殺すことができました。いいえ、私はそれを承認しません、または無実の子供を、彼女が完全に失うことなく決して戻ることができない隅に話しかけることを承認しません-

何ですか？少なくとも彼女の無実。おそらく彼女のアイデンティティ。トロストリック、私は悪を承認しません、そしてあなたを承認しません。」

トロストリックの目は柔らかくなり、後悔の表背が彼の顔を横切った。

「なぜあなたがそうに考えるのか理解できません。私の親愛なる仲間、私は悪魔の力で実験することを認めます。実際、私は常に自分の知識と能力を拡大する機会を逃さないように努めてきました。実際、私には他のことをする時間がほとんどなく、肉体的な楽しみをする時間もありません。あなたは、私が気付いたように、何年にもわたって、そのような喜びのためにかなりの時間を取ったようです。」

ジョ シュアは、全体的な集中力が不足しているため、彼の力が弱まったことを示唆していると考えました。彼は黒人の魔術師が正しかったことを認めなければなりませんでした。彼の芸術は完璧ではなかった。そして、トロストリックは完璧に近づいているようだった。

Trostrickは続けていました。

「さらに、あなたが言ったことは、私の主な関心事の1つを思い出させてくれます。私たちの利益が違ふとあなたが主張する理由がわかりません。なぜ私たちは統一し、私たちの力を混ぜ合わせるができないのですか？私たちは両方とも同じことを望んでいますね？」

「つまり？」

「私たち二人とも力が欲しいのです、私の愛する仲間。ロペス氏のような大衆の援助のために使用する力。

洗われていない、学ばれていない、規律のない。私たちは、これらの人々が彼らが何であるか、彼らが何である可能性があるかになるのを助ける力を望んでいます。私たちは、一人一人が自分の選択をしなければならないことを常に忘れずに、導く力を求めています。自由意志を与えられた創造主は彼の宇宙の信条であり、あなたはそれが私の魔法の最初のルールであり、あなたのそれでもあることに気付くでしょう。」

ジョシュアは、「自由意志」とは、慎重に事前に設定された状況から「自由意志」を選択する意志のみを意味することを知っていました。それは、最も文明化された衣服に還元された黒い力の使用であり、最悪の事態は、白い芸術を使用して、男が戦いの非常に困難にしたことでした。なぜなら、惑星の心の前向きな部分は、それが行われるまでこれを悪として認識することができなかったため、その憤慨を統一要因として使用することはできなかったからです。それは冷戦であり、トロストリックはその認められたマスターでした。

「私たちの魔法は反対です、トロストリック。私たちの力は反対です。あなたはネガティブに向かって二極化しました。私はポジティブを選びました。私たちは創造の反対側にいます。親和性はありません。あなたはあなたが得た力を取り、それを使って私が善のためにやろうとしたことからあなたができることを奪うことを選んだ。私を味方と呼ばないでください。」

Trostrickは首を横に振った。

「怒らないでください。誇り、物事を歪めていると思います。私は本当にそうです、私の親愛なる仲間。あなたは私たちに親和性がないと言いますが、同じ創造物の2つのものをどのように分離することができますか？私たちは単一枚の紙の両面です。違います、はい、私たちは反対の方向に直面しているからです。しかし、私たちもすべての面で互いに接触し、同じ材料でできているので、近くにもあります。否定性と積極性。はい、これらの異なる極を選択しました。しかし、何が他よりも優れているのでしょうか？それらは両方とも私たちの創造主の宇宙で提供されています。創造主は私たちにどちらかの極を選ぶ意志を与えてくれました。私が見る限り、そして私は真面目な学生であり、私の親愛なる仲間ですが、問題は基本的に、この惑星の人々のすべてがまだ彼らの間で完全に選択されていないということです。コンセンサスは否定性かなり傾いています。あなたは私にそれを許可します。しかし、それは完全に識別されていません。そのため、完全に選択できた場合にのみ受け取ることができる力は否定されます。私は、大衆が全分極の純度と力を見つけるのを助けることが私たちの仕事だと考えています。そして、本当にスターさん、惑星の集合意識を中立に戻し、それからずっとポジティブに戻すよりも、短い道をマイナス極に移す方が合理的ではないでしょうか？それはかなりの無駄な努力ですよね？私たちはこれらの貧しい魂を導くことができます、スターさん、私たちは彼らが知恵との完全な同一性の安全性と安定性を見つけるのを助けることができます。」

スターは何も言うことはありませんでした。その男は黒魔術の集大成でした。そして彼はこの戦いに勝っていた。

"氏。スター？同意しませんか？私がこの惑星の人々を教育するのを手伝ってあげませんか？私たちは彼らのためにたくさんのご恩をすることができました。私たちは彼らに物質的な安全を与え、彼らの心と体を肉体的な問題から解放し、彼らが快適な生活を送り、彼らが望むなら、精神的な探求にすべての時間を費やすことができるようにすることができます。この惑星のセキュリティネットワークは絶えず成長しており、いつの日か私たちはすべての人々のための完全で完全なセキュリティシステムを手に入れるでしょう。私たちは政府の賢明な手を指示し、政府は市民ごとにそれぞれの問題を排除し、彼らが心配のない生活を送ることができるようにします。"

ジョシュアは立ち上がった。

"私は人々に対する権力を望んでいません、トロストリックさん。あなたは彼女の肉体の外に閉じ込められた女の子を持っています。あなたには彼女を元に戻す力があります。お願いします。私は彼女の代わりにあなたに返済するつもりです。彼女の心。"

"私の親愛なる仲間！私はあなたの心で何をしますか？いいものです。残念なことに、あなたは過去数年間それを放浪させてきました。なぜなら、それは誤りに陥り、すでに他の惑星を選択しなければならぬ惑星で、間違った道、間違った極を選んだからです。しかし、私はあなたが私に服従することを望んでいません。創造主は、彼の生き物のそれぞれが自由になることを望んでいます。私はあなたを保証します、あなたが求める女の子は無料です。自由に選択できます。"

スターは返答しなかった。言うことは何もありませんでした。彼は口ペスに行き、肩の後ろに手を置いた。"来て。私はあなたをあなたの車に連れ戻します。"

口ペスは触ると手に負えないほどジャンプし、深いクッションから身を引いた。

"また戻ってきてください"とトロストリックは言った。

"そして次回もっと長く滞在してください。時間があれば、話し合うことができる興味深い経緯や考えがたくさんあります。"

"ありがとう"とスターは平等に言った。"おそらくまた連絡を取り合おうでしょう。"

"すぐに、私は願っています。"

Trostrickはガラスのドアのそばに立ち、丁寧な手でポーターエを引き止めました。

"私もそう願います。"

ジョシュアは口ペスを彼の車に連れて行き、彼をフォートに連れて行くように彼に言いました。ローダーデール空巷。口ペスが古い車をターミナルの外で停止するように看護したとき、ジョシュアは彼の肘で彼の車の窓に寄りかかった。

"聞いて、口ペス。あなたはあなたの他のためにある種の報告書を提出しなければなりません"

クライアントですね。そして、私があなたを雇った場合の1つ、代理店の記録のために？」

「はい、si、セニョール。しかし、私は頭がおかしいわけではありません。私が彼らに真実を話したら、彼らは私を解雇するでしょう。私は何かを作ります。これだけ知っています。私はそのことを終えてうれしいです！」

「聞いて、先に進んで、あなたが見たとおりに物事を報告してください。彼らはあなたを解雇しません。催民術をかけられることについての部分を忘れてください。他のケースの注文は何でしたか？」

ロペスはそれを考えました。彼はその男にそのことを告げる際に倫理違反を見ることができなかった。「あなたがその地域にいる間にあなたを尾行すること。」

スターはうなずき、あごはひじに支えられた。

「まあ、私はワシントンに戻る次の飛行機に乗っています。ここかマイアミのどちらかです。あなたは私を空港まで追い詰めました。わかった？」

"ありがとうございます。はい。それでいいでしょう。" レポートでは見栄えがします。そして、彼が見た死体を除いて、彼は非常に完全な報告をすることができました。消えていた金髪の死体。しかし、それは氏のためでした。

とにかくスターの場合、他の場合ではありません。彼はそれを報告する必要はないでしょう。このセニョールスターはとても親切な人でした。

「そして、聞いてください、ロペス。あなたはおそらく今夜あなたの仕事のために多くを得ることができないでしょう。そして、それが原因であなたがトラブルに巻き込まれる可能性があります。これを取る。"彼はその男に財布からいくつかの請求書を手渡した。

「そして、家で何かかうまくいかなかったり、仕事で運が悪かったりしたら、何でもいいのですが、この番号で私に電話をかけてください。」彼はロペスにカードを渡した。「わかった？」

「なぜあなたは私を心配しているのですか？あなたは私を知らない。」

「私はただです。あなたは私に電話します、大丈夫ですか？」

"もちろん。問題があれば、私はあなたに電話します。"

スターは満足し、メインターミナルビルに戻った。それは奇妙な男だった、とロペスは太った財布を持った毛むくじゃらの髪、服を着ていない男を見たと思った。彼は家に帰り、男が妻に与えた500ドルを見せるために出発しました。おそらくこれは、彼のような人がより良い仕事を得ることができる場所に行くのに十分なお金でした。彼は広告を探ることができた。たぶん、西のどこかで、誰かが警官を必要とするでしょう。彼は慎重にお金を片付けた。

スターの体は片側の靴いで受けた打撲傷で意識を引く張っていたが、旅行が終わるのを待っていると、彼の心は非常に大きな痛みで満ちていた。彼は傷にさえ気づいていなかったり。彼の精神は旅行者のけいれんで痛んだ

敗北した。彼は、最も驚愕な行動によって復讐したいと思っていたであろう無礼な怪我に沈黙の中で耐えなければなりません。沈黙するように学校に通い、黙然としているように見えることで、彼は別の日に戦うために自分自身を救った。彼は自分の力を集めるために賢明であったことを知っていましたが、失うことの酸の痛みのための薬はありません。彼はその責任を負っていたので、エピソード全体の重みは彼にとって最も重いと感じました、そして彼自身の心の中で彼は宇宙からの女の子への現在の危険に責任がありました。彼が三蔵をパブロの農場への狭い道を運んだとき、落日は汚れのように彼の顔の線に落ち着きました。

絶望的な表情に対するエスメレルダの反応は一杯のコーヒーでした。パブロは同情でした。

「まあ、ジョ シュ、少なくとも彼女の体は二階にあり、安全で健全です。しかし、私たちは彼女を無期限に保つことはできません。教会は結果を知りたがっています。彼は、副官と一緒にいた軍曹が物事を少し熱くし、人々を呼び、宇宙から来た男性について彼らに話したと言います。すべて非常に難しい。誰も彼を信じていませんが、大佐は彼がそれをずっと長く 静かに保つことができるとは思わないと言います。私たちは皆、キャプテン・クロースの死因審問のために召喚される予定です。あなたのビジネスはどのように生まれましたか？ Trostrickを見ましたか？」

ジョ シュアはコーヒーのマグカップの後ろから頭を覗いた。

「はい。私は彼と話しました。」

Trostrickは彼女を手に入れました、そして彼は私たちが思ったところに彼女を置きました。彼は推論によってそれを認めた。」

「下アストラル？」エスメレルダは尋ねた。

ジョ シュアはうなずいた。セオドアの問い合わせの様子で、彼は続けた。

「最も低い精神面は完全に否定的です。テッド、先ほどお話しする時間も傾向もありませんでした。しかし、私が最大の否定的な場所があったと言ったことを覚えていますか？宇宙少女が自発的に現在の場所を離れるには、おそらくその飛行機の振動と一体になる必要があります。つまり、彼女はすべての積極性、すべての知性、すべての性格を解放するでしょう。、そして深淵のように暗くなる。」

Trostrickは、彼女がそれを行うのを待っています-もちろん、彼女自身の自由意志で-そうすれば、彼は彼女の精神が持っていたすべての力を彼の使用に解放するでしょう。」

「彼は世界でどのようにそれをしましたか？つまり、全部？」セオドアは啞然としました。

ジョ シュアは少し歯を食いしばり、首を横に振った。

「彼は過小評価されています。何年もの間、明らかに、彼は私たちの儀式に同行する力を持っていました、そして彼はすべてについて知っていました。少なくとも、それは彼が何であるかです」

推測。そして、私たちが彼女を見つけることができずに、彼が女の子を宇宙からマイアミに連れて行くことができたという事実は、彼が星の存在を隠すことができることを自慢しているだけではないことを私に示唆します。それで彼はたくさんのマイナーな悪魔を思い起こさせて彼らを働かせ、数年前に1人をパプロに割り当て、他の人をホバリングさせ、副妻や軍曹のような機会の標的を待った。アームストロング。私たちがこの惑星の精神面に異質であり、この惑星の精神を持っている人よりも悪魔の1人の影響を受ける可能性はるかに低い。ため、彼は私たちの代わりにあなた、パプロを使用しました。しかし、おそらく全体のアイデアは悪魔に触発されました！」

「静けさ、ジョシュ」とエスメレルダは言った。そうではありません。悪魔は愚かすぎ一度に複数のことをすることはできません。それで、彼は私たちのことをすべて知っていて、儀式以来ずっと私たちを見守っていたとあなたは言います。紆余曲折を繰返す代わりに、なぜ彼は来て女の子を自分で手に入れなかったのですか？合併症への純粋な愛？」

「いいえ。彼の言ったことから、私は彼が最近動いている方法で、彼は人々を彼らが引用し、自由に、引用を終わらせ、否定的なことをすることを選ぶことができる状況に人々を連れて行くのが好きだと集めました。どうやらこの自由な選択のビットは、私たちが彼と戦うのがとても難しい理由です。彼は前向きに二極化したアストラルコミュニティを邪魔しません。その間、彼は彼の操作によって人々を閉じ込め続け、彼らは馬に賭けたり、人々を撃つたりするようなことをします。とにかく、彼が宇宙少女を手に入れたのは、混乱した状況の発展を促すことだったと思います。彼はまた、おそらく誘拐犯から宇宙少女を救出するという彼の行為を利用して、前向きなアストラル思考に影響を与えました。アストラルは私たちが地球上で持っている以上の知性を持っておらず、確かに形而上学的な政治家に簡単にだまされます。そして、このトロストリックはマスター政治家です。それでトロストリックは彼女を手に入れました、そして、彼が否定的なカルシストとして認められる前に、彼は彼女の周りに盾を置きました、そして彼女は私たちの誰の手の届かないところにいました。」

「それで、トロストリックは天国の単なる投票者ですか？」セオドアはその考えに眉をひそめていました。

ジョシュアは肩をすくめ、いつもの不注意をほめかしました。

「もちろん。すべての魔術師は、そのことについてです。天国の世界、および他の精神面はすべて、この惑星の物理的な面に一度にまたは別の形で転生した人間の実体によって大部分が人が住んでいます。それらの多くは、最終的には再び転生します。それらはすべてのタイプと極端で来て、一緒に惑星の集約的な心を構成します。

一部のエンティティは積極的に方向付けられています。いくつかは否定的です。ポジティブな力よりもネガティブな力の方がはるかに多いことを指摘するかもしれませんが、それは

明らか。

Trostrickがしたことは、宇宙の少女を悪から守るには手遅れになるまで、ポジティブなセグメントをだまして彼を無残させることでした。」

「それなら、私たちがしなければならぬのは、彼が持っているよりも多くの票を獲得することですか？」

「そうです、セオドア。しかし、私たちにはできないと思います。彼が彼女を連れて行った場所は、光の力によってほとんど浸透されていません。そこでは否定性が強すぎます。少しあなたを慰めるかもしれない一つのこと、テッド。女の子は彼女が直面しているものの醜さを見ることができなくなります。彼女には真つ黒なように見えます。なぜなら、彼女は現時点では、そのような濃密な物質を見ることができる精神的な体を持っていないからです。だから彼女はあの飛行機の市民を見るのを免れるでしょう。」

「私は慰められています」とセオドアは言いました。

エスメレルダは席に腰を下ろしていた。

「私は違います。彼女は自分の刑務所の外にあるものを見ることができなくても、それが刑務所であることを知るでしょう。そして、それは彼女にとってひどいことになるでしょう。」

ジョ シュアは頭をカップ状の手に下げ、空のマグカップを床に置きました。

"分かってる。その男のオーラは下水道のように悪臭を放ちます。"彼は頭を上げた。

「宇宙から来た男はどこ？」

エスメレルダは二階を指さした。

「私たちは彼に妹の肉体を残しました。彼と私たちの先生は一晩中彼女の精神を探していました。運がない。」

セオドアは熱心に彼の思考の列を追求していました。

「では、何を打ち負かす必要がありますか？私たちの最も強力な儀式の命令は、アストラル意識の何パーセントになりますか？」

"知らない。非常にわずかな割合です"とジョ シュアは言いました。

「もちろん、思考は強力なものです。あまり必要ありません。」

「まあ、トロストリックはどれだけ命令できるの？」

"言うのが難しい。彼は私たちが宇宙少女のこの配置に焦点を合わせたものの10倍も持っているかもしれませんが。違いの理由は、彼の魔法自体が強力からではありません。黒魔術はただ白い儀式を取り、それらを卑下します。それはそれがより人気があるということだけです。投票人口には、ポジティブな魂よりもネガティブな魂の方が多いのです。」

「しかし、私たちは彼の集計を打ち負かす必要がありますか？」

"それは正しい。しかし、この惑星のポジティブな人口は、さまざまな宗教、宗教内の宗派、およびそれらすべての間の悪い血によって非常に細分化されているため、多くの目を指揮するのに十分な一般的な儀式は多くありません。」

セオドアは唇を一緒に押し、両手のひらを膝の上に置き、崩壊のジェスチャーをしました。「それで、私たちにできることは何もありますか？」

ジョシュアはひどく沈黙していました。彼の心は、彼らの希望に満ちた計画の誕生からこの瞬間に彼らをもたらした出来事をひっくり返しました。

パブロは、ジョシュアが自分のせいだと感じたように、状況は自分のせいだと感じました。彼の本能は一種の無力な好戦に向けられていた。

「トロストリックは何を望んでいますか、ジョシュ？世界の終わり？」

ジョシュは頭を左右に揺らし、今は死にそうなほど疲れています。

"大野。彼は彼らがそうであるように物事をとてとても好きです。結局のところ、彼の側が勝っています。彼は力が欲しい。ここにいるすべての人々の完全な征服。彼らの意志は、彼が彼らの指導者や保護者と呼ぶ人々の意志に完全に依存しています。彼は均一性、制御を探しています。秩序ある社会。」

パブロは考えました。

「その時、彼は物事が非常にうまく機能しているのですね。レジメンテーションは今あなたをギャグするのに十分です！フォームに記入しないとくしゃみはほとんどできません！男にしばらく時間を与えれば、彼は自分のために非常にうまくいくはずですよ。」

ジョシュはうなずいた。

"うん。美しい小さな惑星ですね。」エスメレルダは長い間沈黙していて、座っていると誰よりも落ち着いているように見えました。彼女の頭は前庭に向かって向きを変え、額は思いを馳せていました。パブロは彼女の引きこもりの表情に気づきました。

「エスメレルダ、アイデアはありますか？」

エスメレルダはジョシュアに視線を向け、彼を熟考した。しばらくして、彼女はうなずいた。

「ジョシュ、私たちが以前に議論した実験的な操作のいくつかを試してみて、どう思いますか？ネガティブな面でトロストリックよりも高いパワーを召喚しますか？」

ジョシュはその考えを考えながら、両手から頭を上げて目を細めました。

「まあ、わかりません。少なくともそれは考えです。」

「彼女は何かについて話しているのですか？」パブロは尋ねた。

「黒人の魔術師はしばしば悪魔を召喚し、彼らと交渉します。私たちが遭遇して研究で検証したさまざまな悪魔を呼び出すための多くの公式があり、それらの1つを利用して1つを召喚することができました。」

「それによって何が得られるでしょうか？」

「それは私たちが彼と打つことができる掘り出し物と、儀式の間に私たちが持っている保護に依存します。ほら、それは黒の魔法のテクニクであり、それを使っている白の魔術師は大きな危機に瀕しています。」

「どのような掘り出し物を打つことができますか？女の子以上の価値のあるものはありませんよね？」

「おそらくそうではありません。しかし、ただ座って何もしないよりも、これを試してみるほうがよいでしょう。その上、たぶん私たちは女の子に連絡するために交渉をすることができ、そしてそれから私たちは少なくとも彼女がどこにいるのかを確実に知るでしょう。その時、私たちは彼女を救うためのより良い立場にいるでしょう。」

「それは弱いように聞こえます。」パプロは彼女の安全を心配し始めていました。

「それが何の役にも立たないかもしれないのに、なぜ自分自身を危険にさらすのですか？」

ジョシュアの口は憤慨して少しねじれた。

「他に可能なことはありません。そして、私たちは何もすることはできません。何もしないよりは何でもする方がいいです！その上、パプロ、私達は私達が考案できる最高の保護を使用します。それほど危険ではありません。」

「私たちはその古い納屋を召喚に使うことができました、パプロおじさん」とエスメレルダは言いました。

「私たちはこの種のこのために神殿を使いたくありません。陽生率が下がりすぎます。しばらく使われていなかった中立的な場所が必要です。納屋は完璧でしょう。私たちは決してそれを使用しません。」

それは本当でした。建物はもともと牛舎でしたが、映画会社が敷地内で撮影を行っていたときに、その屋台が撤去されました。彼らはそこに彼らの機器を収容していました。それは今や立っていて、風化したものの、家から溢れ出た何年もわたってそこに堆積していた大きな古いものでいっぱいでした。それは、アクセス道路に沿って家を4分の1マイル過ぎたところにあり、その間の丘によって視界から遮断されていました。

パプロは彼の異議申し立てで敗北を認めた。

"わかった。わかった。納屋を使用してください。後で燃やします。他に何か要りますか？"

「私たちが保護のために身につけるためのいくつかの木製の十字架。」対処すべき問題が手元にあったので、ジョシュアははるかに健康に感じていました。

「はい、それは論理的なことです」とエスメレルダは言いました。

「他に何を提案しますか？」

「まあ、私たちは円と碑文を非常に注意深く描き、式典の前に休憩します。納屋の掃除と消毒ができます。着る十字架があります、そして私は私の場所に他のいくつかの材料を持っています。」

エスメレルダは少し緊張しているように見えました。

「私はそれらの十字架について考えていました、そしておそらくあなたがそれが良い考えだと思えば、私たちが使うことができる何かを思い出しました。古いキッチンがあった場所の後ろにある古いヒッチングポストを知っていますか？私はそれを取り除いたことはありませんでしたが、私たちは確かにそれを使用することはなく、それは十分な木材のように聞こえます。その木を使って、高さ10フィートほどの非常に大きな十字架を作り、納屋の中央に置くことができます。それは私たちにもっと保護を与えてくれませんか？」

「素晴らしい提案です」とジョシュアは言いました。

「木をなくしてもかまいませんか？おそらく骨董品としては価値があります。」

エスメレルダは彼を向けた。

「パブロと私はそれなしで生きることができると思います。」

セオドアは計画の意味合いに取り組んでおり、「自分の積極性を失うことなく、本当に黒魔術を使うことができるか」と尋ねました。

ジョシュアは説明しようとした。

「召喚霊は、それ自体がポジティブでもネガティブでもありません。それはあなたに何か良いことをすることができる精神のほとんどが否定的であるということだけです。そこに否定性が入ります。下の面で彼らのために何かをしたいのは通常黒人の魔術師です。白人の魔術師は通常、そこには何の興味もありません。しかし、この場合、これらの下層平面だけを貫通することはできないため、支援が必要です。エスメレルダと私は以前この理論について話しましたが、ネガティブではない目的でスピリットを召喚すれば、それを要求することでネガティブにならない可能性は十分にあると思います。もちろん、精神自体は否定的であるため、それから身を守るために、これらすべての入念な予防策を講じる必要があります。」

Trostrickの家でお話したように、危険は肉体的な死よりもはるかに深刻です。実際、あなたとパブロがこれに参加しなかった方が良いかもしれません。」

パブロとセオドアの両方からのルックスは、ジョシュアに彼らをそれに話すことができないだろうと知らせました。

「大丈夫です」とエスメレルダは言った。

「私たちは、重い仕事を手伝えるために、Mathpartが必要です。彼に電話します。」

ジョシュは起きました。

「私は街に行って、すべてのがらくたを取り除いた後、その場所を洗い流すのに十分なライソールを手に入れます。」

彼らは皆、午後を通して着実に働き、夕食までには、準備を完了するためにさらに丸一日が必要になることは明らかでした。したがって、翌朝、彼らは全員納屋に降り立った。ジョシュアは4分の1マイル離れたところに無防備なままにしておくことでチャンスを逃したかったので、宇宙から来た少女でさえ、彼女の兄弟と同様にそこに連れてこられました。

Mathpart、Theodore、Joshuaは、ランチタイムまでに空の納屋の壁のLysol洗浄を完了し、Mathpartに餌をやった後、彼を家に送りました。食事の後、ジョシュとセオドアは大きな十字架を立てる作業に取り掛かりました。重い木製のレールは、高さ約8フィートの印象的な十字架を作り、幅の広い梁がありました。それからジョシュアは参照用コルズリーフのノートを取り出し、彼とエスメレルダは午後の残りの時間を費やして、大きな円と4つの小さな円を作成し、交渉することを決めた悪魔を召喚するための複雑なシンボルを描きました。

ジョシュアがシンボルに最後の詳細を入れ、エスメレルダが彼の作品をチェックしたとき、夕方がそれらにありました。彼らは皆とても疲れていました。

「私たちは今夜ではなく、明日の夜に儀式を設定したとあなたは言います」とエスメレルダは提案しました。

「私たちは皆、残りが必要です、そしてこの召喚は夜のほとんどを要するかもしれません。」

ジョシュはしぶしぶ彼女が正しいと判断しましたが、彼は物事を成し遂げることを非常に望んでいました。彼らは疲れすぎて正しくやれないという理由だけで失敗したくありませんでした。彼らは彼らが彼らの間で呼ぶつもりだった悪魔に対して彼らのすべての力を必要とするでしょう。召喚された精神に対してすべての力が固まったとしても、ジョシュアは彼らがそれを完全に制御することができる方法を見ることができませんでした。しかし、少なくともそれは試してみるものでした。彼のますます高まる心の苦痛に直面して、行動はかじる疑いと自己批評からの唯一の解放であり、彼は動きを止めたくありませんでした。

それで彼は夜の睡眠の準備をし、それが彼の悩む心に触れることができなくても、彼の肉体的エネルギーを癒すためにそれを信じた。

第17章

米軍と惑星地球がSgtを捕食していた危険。誘拐後の数日間のアームストロングの心、そして彼はそれについて人々に繰り返し話そうとしました。誰も耳を貸さず、リバフするたびに彼の感情的なバランスは弱くなりました。ハリス少佐は彼が休暇を取ることを提案し、そして彼自身を一緒に引き戻すために休むように彼に言った。彼はチャーチ大佐と話しようとしたが、大佐は彼らが一緒に目撃したことを何も認めず、事件全体を忘れるように彼に言った。彼は陸軍の初期から彼の旧友に連絡を取りました。彼は現在、ある程度のランクの役員であり、助けることができるかもしれません。友人は優しく精神科医療を提案していた。それは、軍隊で、非常に簡単に手に入れることができると彼は指摘していました。恥ずかしいことは何もなく、無料です。

一緒に引く張ってください！事件全体を忘れてください！精神科医に行きましょう！これが彼の友人や上司が彼に言うことができるすべてでしたか？彼らは知りませんでしたか？見えませんでしたか？惑星間の戦争が崩壊しようとしていて、誰も耳を貸さなかった。

アームストロングは、他の家族の絆と同じくらい強力な陸軍への忠誠心を形成していました。組織は何年もわたって彼の親であり兄弟でした。彼はその奉仕の中で自分の居場所を見つけました。そして今、それを守ることができたのは彼だけでした。ユニフォームを守れ！それでした。制服を汚さないでください！

彼は電話でマイアミから探偵の報告を受けていた。

30分、長距離。それは費用がかかるだろう！探偵料金はおそらく彼を財政的に掃蕩するでしょう。そしてレポート。神秘的な部屋とキャンドル。そしてテーブルの上の体。そして、それをすべて理解するのは彼だけです。

彼は自分自身に別の飲み物を注ぎ、彼の手を見ていた。半分のボトルの後でも、岩のように安定しています。それが唯一の方法でした。タフでハードなファイティングトリム。そしてきれい。正確。ユニフォームを守れ！彼はパデエフスキー農場の近くのモーターにいました。スターがマイアミから戻ってから1日半が経過した。彼の時間は長かった。彼はたくさん見ていました。今こそ行動の時でした。

彼は準備ができていた。今は真暗だったので、彼は車に出て、トランクからダッフルバッグとガーメントバッグを取り出しました。彼の最高の緑のユニフォーム。

ユニフォームを守れ！コンバットブーツの注意深い検査。彼らの丸いつま先の輝きを損なう1つの斑点はありません。彼はスチール製のヘルメットをヘルメットライナーにかぶせ、傷を付けないように注意しました。彼は、左側に暖かい色で描かれた古いユニットの記章を誇りを持って見ました。

ヘルメット。この世界の場所。物事に執着があった場所。彼は一等軍曹だったので、ヘルメットの前面に黒い縁装飾があります。それが彼でした。一等軍曹ジョン・アームストロング。彼の名前。彼の名前！ユニフォームを守れ！彼は慎重に装飾を左胸ポケットの上に置き、戦場歩兵記章をその上にスナップし、血が静脈にこぼれました。彼のユニフォーム！

しわにならないところにコートを手掛かり、ダッフルバッグを開けました。彼の米陸軍のカービン銃は購入され、代金が支払われていました。彼は米陸軍の資料を適切に扱った人ではありませんでした。しかし、彼がそれを手に入れたとき、それはM-

1でした。今ではM-

2でした。彼は、彼の兵器軍曹の友人が彼を滑らせた部品を使用して、彼自身で交換を行いました。全自動武器！男は彼の武器と同じくらい良かった。彼はカービン銃のための15発の弾倉を持っていました。彼はずっと前に30発の弾倉を手に入れていなかったため自分を呪った。その瞬間が来ました！彼は準備ができていました！そろそろ時間でした！

私の注文は何ですか？彼は短い銃剣をカービン銃の銃口の所定の位置に置いた。それはそのような短い武器へのばかげた付属物のように見えました、しかし彼はエイリアンを扱っていました。彼らは弾丸に耐えるかもしれませんが、しかし、銃剣？彼は健康で準備ができていた。彼は彼らの手足を手足から引き裂くことができました！彼はセレクターを慎重に全自動に設定しました。

1発の弾丸でエイリアンを止めることはできないかもしれませんが、15発の弾丸で止めることができます。

彼は鏡を見ながらネクタイを結びました。おー！銃剣の鞘から指に汚れがありましたか？制服への恥辱！彼は少しの油がなくなるまでこすった。清潔！精度！注文！私の注文は何ですか？彼のシャツの襟を固めるためのバネ装置がありました。彼はそれを挿入しました。ヘルメットの縁は彼の鼻の橋から2本の指の幅でした。ちょうどそう。規制兵士。それが陸軍のやり方です！彼の鋭い目は彼のブーツの1つにほこりの斑点を見つけました。彼は固い足を曲げてそれを拭き取った。コートは続いた。彼の.45を保持していた水かきのあるベルトは続いた。完全な食堂はピストルの重量のバランスを取りました。ポンチョが戻ってきました。いいえ、待ってください！夜のミッションでした。夜のポンチョ？ポンチョを残します。ポンチョなしのフルユニフォーム。折りたたまれたポンチョはユニフォームの見た目を損ないました。

彼はカービン銃を手に取り、それを右肩に掛け、鏡の前で注目を集めました。何かがありました。

何？彼は敬称した。敬意を表した画像、光沢のある画像。しかし、リボン！それは証拠でした！リボンが間違った側にありました！それはエイリアンがすることでした！私の注文は何ですか？

彼は自分の命令を知っていた。言葉は不適切でした。彼は正確に正しい顔をして、車に出て、カービン銃を外し、それを横切って置いた

エスメレルダスイートウォーターのはりつけ

後部座席に乗り込み、高速道路をパデエフスキーの農場に向かって下り始めました。

第18章

ジョ シュアはパブロの最高の客室にいましたが、彼はどこにも眠りませんでした。ノックが彼のドアに来たとき、彼はすぐにそれを開けようとしていました。エスメレルダは戸口からやって来ました。彼女の表情は堂々とした落ち着きのひとつです。彼女が自分の感情とどれほど違うに違いないのか、彼は感銘を受けました。彼女はベッドのトスされたカバーを滑らかに戻し、その足元に座った。彼は彼女が沈黙を破るのを待とうとした。"良い?"彼はついに言った。彼女は顔を彼に向け、再び彼は彼女の視線の特別な甘さに気づいた。"教えて、ジョ シュ。この精神の召喚を使って、宇宙から少女を取り戻すことに成功するという希望はあると思いますか?"

ジョ シュは一瞥を壊して窓の外を見ました、彼の目は影になりました。"いいえ、そうではありません"と彼は苦痛な一時停止の後言った。"私もしません"と彼女は言った。"しかし、私は彼女を取り戻す方法を知っています。"ジョ シュは目を彼女の顔に引き戻した。"どのように?"

彼女は彼を見ました、彼女の視線は彼の特徴の上を動き、彼の反応を注意深く見ました。"ここでの積層は断片化されており、調整が難しいため、私たちの通常の儀式はすべて十分な力を引き付けることができません。"

"そう?"

"それで、私たちは、注意を喚起し、それから、分別のある心のより大きな割合を調整することができる儀式を必要としています。"

"必要です。しかし、私たちにはありません。"

"私は1つを作りました"と Esmerelda は言いました。"そしてそれはうまくいくでしょう。"

"新しい儀式はどのように機能するでしょうか?"ジョ シュは尋ねました。"私たちが現在使用しているものは、特定のセグメントが何世紀にもわたって善の象徴としてそれらを受け入れてきたためにのみ機能します。繰り返しがなければ、あなたの儀式はどのように役立つでしょうか?"

"この特定の儀式は、繰り返しの向いていません"とエスメレルダは言いました。しかし、私はそれが前向きな心の非常に大きな部分に警告を発すると信じています。それが生み出す感情は、私たちがしなければならないことをするのに十分強力です。ジョ シュア、私を十字架につけてほしい。"

彼は彼女を見つめた。

彼女は続けた。

"それはとても簡単です、ジョ シュ。この犠牲を払えば、私が見える前向きな力は、これまでになく大きくなります。"

前。そして、それによって、私たちは下の星の平面を貫通して光の道を作ることができ、宇宙からの少女の精神がそれを使って私の精神に再び加わることができると思います。私たちがそれらの平面にそれだけの力を集中させることができれば、私たちは完全な意識の同じセグメントの一部であるため、私たちの意識が本能的にお互いを探し出す可能性が高いと思います。

"いいえ。" ジョ シュは肩を擽んで一言を発した。彼は彼女を見て、目覚めている意識をこれまで認めたことのない彼女に対する自分の気持ちについて多くのことを悟りました。エスメレルダは正しいかもしれませんが、彼女のはりつけは、宇宙少女を救うのに十分な星の力を警告することができるかもしれませんが、しかし、彼は彼女を主張したことはありませんでしたが、エスメレルダは彼でした。彼は彼女を失うことはありませんでした。彼は彼女をあきらめることができなかった。

「いいえ」と彼は繰り返した。

エスメレルダは彼のことをよく知っていたので、彼の決定について議論することはできませんでした。彼の心は決まった。彼は座って、目を岩のように真っ白にして、彼女が後ろのドアを閉めている間、彼女を見つめていました。

彼女は力を集めるように少しの間立ち止まり、それから廊下を下りてセオドアの部屋に行き、身を任せた。彼女はぐっすり眠っている少年に寄りかかって、彼の片方の手を取った。セオドアはすぐに目を覚まし、それが誰であるかを見て、彼女に挨拶のキスをするために彼女の頭を彼に引き下げました。"それは何ですか?" 彼は尋ねた。

「服を着なさい」とエスメレルダは言った。

「私たちがしなければならぬことがあります。

セオドアは彼女の先導に従うことに慣れていて、彼女が何を望んでいるのかわからなかったが、彼はズボンとシャツを見つけてすぐに服を着せた。エスメレルダはドレッシンググローブを脱いで、セオドアはその下に白いローブがあり、彼が目撃した前の儀式で着ていたような金ではなく、真っ白であることに驚いた。

「来て」と彼女は言った。彼女は彼をドアから階段を下りて家の外へと導きました。彼らは荷馬車の道を歩いて納屋に行きました。セオドアが通り抜けるためにドアを押し戻すと、大きな納屋のドアがきしむように開いた。エスメレルダはいくつかのマッチを取り、彼女とジョ シュがその日の早い時間に注意深く置いた、きれいな香りの空の納屋の4つの壁の周りを歩きました。それぞれのろうそくが空の納屋の広さにその弱々ちらつく光を加えるにつれて、セオドアはますます微妙な寒さの感覚に気づきました。彼がヨシュアの神殿で儀式の一部であったとき、彼は空中の光の良さと純粋さだけを感じていました。ここには少し間違ったものがあり、彼らが作りたかった積層土は位助がずれていました。最後のろうそくがあったように

点灯すると、セオドアは納屋の裏口で漠然とした形が動くのを見たと思いました。彼の目は暗闇を突き抜けるために緊張したが、そこには何もなかったようだった。

エスメレルダは、ジョ シュアが床に描いた照らされたパターンを見下ろしていました。彼女はろうそくが投げかける動く影の中でセオドアに真正面から向き合い、彼女の計画を彼に話しました。彼女はジョ シュアと同じように彼にそれを説明しましたが、彼女の考えの提示には大きな違いがありました。ジョ シュは助けを求められていました。セオドアが助けになると想定されていました。

半ダース回、セオドアは納屋から出ようとしていましたが、それでも彼は彼女を離れることができませんでした。彼が考えることができた最も合理的な異議は、思考の世界に関する限り、犠牲を払うという真の意欲を持っていることと実際にそれを行うこととの間に本当の違いが見られないということでした。彼は、前向きな心が行動だけでなく思考の背後でも統一されるように見えました。

「それは実際にはそうではありません」とエスメレルダは言いました。

「それはそのようには機能しません。ここでの分別のある心と化身の心の唯一の違いは、精神面の心は肉体の中に住んでいないということです。心の偏見や感情は、彼らが転生したときとほとんど同じであり、高い知性はこちらにあるほどめったに見つかりません。テッド、このように見てください。私が人々のグループの前に立ち上がって、私が信じていることのために死ぬ気があると彼らに言った場合、彼らの何人が気かけますか？多くはありません。しかし、私が自分のシンボルを作り、実際に彼らの前で犠牲を払ったとしたら、私は彼らの感情をかき立てていただろう。そうじゃない？」

セオドアは、跳ねる影が彼女の顔を横切って落ちるのを見て、ぼんやりとうなずくことができました。

「それが実際の物理的なやりつけが必要な理由です。宇宙少女を救うのに十分な前向きな関心を生み出す方法は他にありません。見える？」

セオドアは彼女の目に明確な目的の輝きを見て、彼女が決心していることを疑いの余地なく知っていました。彼は彼女の意志のプレッシャーも彼の心の中に感じ、そして最終的にはまっすぐに立ち、彼女に手を差し伸べた。

「わかった。私はあなたがやりたいことをします。」

エスメレルダは、この計画の正しさをそっと確認して、彼の手を取りました。

「他に選り代わりがあれば、私自身やあなたに尋ねることはしません。」

セオドアは彼女の心の確実性が彼の心と一体になるのを感じ、彼の疑問を和らげました。

エスメレルダは、ジョ シュアが精神を呼び起すために描いた複雑なデザインの円を曲げるために、彼らの手のタッチを壊しました。「これを消せますか？」セオドアもそれがなくなってほしかった。そこからは、まだ想起されていない霊の象徴がまだ悪をもたらしているかのように、空気中のわずかな冷気の手触りがそこから来ているように見えました。

「ここではこれは欲しくない、セオドア」とエスメレルダは言った。

セオドアは周りを見回した。納屋には使用するものがまったくありませんでした。それはきれいにむき出しでした。彼は手で絵の具をこすりました。それは汚れたが、土の床にくっついていて、完全に取り除かれることはなかった。

エスメレルダも試みたが、役に立たなかった。

「それは問題ではありません」と彼女は言いました。

「それは私の邪魔になりません。」彼女は二重の納屋のドアの外に出て、重いハンマー、巨大な釘、そして空の木製のソフトドリンクケースを持って戻ってきました。彼女はしばらく前にそれらを隠したに違いない、とセオドアは思った。彼女はそれらを彼に手渡した、そして彼は彼女の入れをするために彼自身を設定した。

エスメレルダが作成した儀式を完了するのに15分かかりました。セオドアは彼女の言葉と動きの輝かしい美しさに一掃されました。その終わりに、彼はもはや死刑執行人のようには感じませんでした。彼女の意志は彼自身のものになっていた。

エスメレルダは小さなケースに足を踏み入れ、十字架の垂直部分にもたれかかった。彼女は、強くボルトで固定されたクロスピースと同じ高さになるまで腕を伸ばしました。セオドアは彼女を見ました。彼女は薄霧いろそくの明かりの中でほぼシルエットになっていて、飛んでいる影が金色の髪の毛の光を拾い上げ、細かく描かれた顔の骨に沿って舐めていました。外の風はエスメレルダの肩に髪をかき混ぜるのに十分であり、その髪の毛はセオドアの顔を横切って吹きました。彼は彼女に没頭していると感じ、彼女の意志は彼のものでした。彼はストロークのためにハンマーを頭上上げ、彼女のカップ状の手のひらに釘を当てた。しかし、それから彼は、エスメレルダの屈服する皮膚とても簡単に受け入れられた長いシャンクの釘を見上げました、そして彼は十字架から離れ、ハンマーを下げて彼女から離れました。

「できません」と彼は言った。

彼はハンマーを落とし、腕を彼女の周りに置き、彼女を長い間彼にしっかりと抱きしめた。彼女はまだ彼の腕の中で落ちていて、セオドアが彼自身のコントロールを取り戻したとき、彼女は彼にキスをし、彼の頬に手を置いた。彼女の指を彼の顔に沿って優しく動かし、彼女の目的が彼女の目に静かに輝いている状態で彼をもう一度見つめた、と彼女は話しました。"私

知る。私はあなたの痛みがどうあるべきか知っています。そして、私は自分自身を知っています。しかし、あなたは私たちが負けていることを知っています。そして、私たちは失うことはできません。」

「なぜ私たちは負けないのですか？惑星を手放す。とにかく、私たちはここに属していません。」

「これがすべて終わったとき、私たちは再びお互いを見つけましょう」とエスメレダは言いました。時が来て、私たちは再び一緒になります。」

彼女はセオドアの周りに腕をまわし、彼女の意志が再びセオドアになるまで、彼らは長い間近くに立っていました、そして彼らは両方とも休暇を取ることを受け入れて、さようならを言いました。

エスメレダは十字架に戻り、再びその垂直のメンバーに立ち向かいました。一方、セオドアは自分自身を彼女の側に数歩かせ、困難な仕事の彼の部分を遂行しようとしました。彼の考えは彼の精神を静め、エスメレダの犠牲を受け入れ、その目的と一体になるように働きました、そして突然の音だけが彼を見上げました。

彼の涙を通して、彼は短いライフルを持ってドアからやってくる人物を見ることができました。セオドアは、攻撃される前に侵入者を見るのにほんの一瞬しかありませんでした。アームストロングが彼を即座に殺そうとしたのか、それともセオドアの手のハンマーからのきらめきが引き金に反射作用を引き起こしたのかを知ることは不可能でした。カービン銃が火を噴いた。ずんぐりした軍曹は長い練習の容易さで銃を制御し、それが上昇しようとしたときにハンドガードを強く押し下げました。彼は一気に雑誌全体を空にし、セオドアと彼の後ろの壁にスプレーした。

死はほぼ瞬時に起こり、エスメレダはセオドアの精神が彼のだらしない引き裂かれた肉体から分離しているのを見ることができました。

それから軍曹は彼女の方を向いた、彼が彼女を見たとき彼の目は固く明い。彼はカービン銃を彼女に向けて引き金を押したが、武器は空だった。彼は突進し、銃剣を彼女を通して、重い木の柱の奥深くまで追いやった。彼の突き刺す突進はプロであり、銃剣は十字架の木に埋め込まれていました。彼はそれを引き張った。降伏しません。

軍曹は十字架の底に重いブーツを履き、少女から命が奪われると、必死になって銃剣の刃を解放しました。彼が武器を上下に絞ると、血が短い銃身を流れ落ち始め、彼の手に流れ始めた。彼は恐怖で跳ね返り、彼の真っ白なユニフォームを注意深く調べた。彼はハンカチを鍛えることができ、細心の注意を払って手を拭いた。武器は血でぬるぬるになりました。彼はそれをきれいにすることを決して望んでいませんでした。それはもはやユニフォームの許容できる部分ではありませんでした。彼はそれをそこに残すでしょう。彼はホルスターのフラップを開き、マッチ.45を取り出しました。彼のずんぐりした親指はコックされた

ハンマー。彼は納屋から出て、家に向かう道を始めました。納屋の視界から家を隠すかなり急な上り坂の頂上に近づくと、彼は突然ヘッドライトを見て、微塵離れたエンジンの巧みな泣き声を聞いた。ジョ シュアはそのショットを聞いて、調査に来ていました。アームストロングはピストルをライトで水平にし、車のフロントガラスを見るとすぐにショットを絞りました。ガラスの破片がジョ シュアの顔を通過してスプレーし、一時的に彼を盲目にしたので、彼はブレーキをかけ始めたときに彼の車が激しくぶつかった男を見ることはありませんでした。車は急停止し、彼は車から出て、方向転換した道路に戻った。テールライトの薄暗い赤い光の中で、ジョ シュアは体を見ることができました。彼は詳しく調べた。軍曹でした。アームストロング、彼の顔はゆがんでいて、彼の目は大きく、死んで固定されていた。.45オートマチックはまだ彼の右手でしっかりと握られていました。ジョ シュアはまっすぐになりました。彼は納屋の方を向いて、その薄暗い、踊る光を初めて見ました。彼の体は冷たくなり、彼はそれに向かって走った。大きな部屋の中では、吹くろうそくが小さな光を長く幻想的な影に投げ込みました。床の汚れた図には血の滴があり、ジョ シュアはセオドアとエスメレルダの両方が死んでいるのを見ました。セオドアの体は十字架のふもとに近く ありました。エスメレルダはグロテスクな人形のように十字架に固定され、十字架につけられた刃によって狂ったように半垂直に保持されました。ジョ シュアは納屋の壁こつまずいてそれを一周し、ろうそくを消しました。彼は大きな家に戻った。パブロはベランダにいました。ジョ シュアはひどく腰を下ろした。パブロは動けないようだった。"どうしたの?"ジョ シュアは彼こできる限りのことを言った。「警察に通報しなければならぬ」とパブロは言った。「うん」とジョ シュアは言った。「宇宙人と宇宙少女は姿を消しました」とパブロは言いました。彼らは家のどこにもいません。みんな行ってしまった。」「その後、エスメレルダは成功しました。」「宇宙少女が体に戻ってきたということですか?」"うん。"「じゃあ、どこへ行くの?」「彼らは家に帰りました。」

ジョシュアとパブロは太陽が昇るまでそこに座って、枝が彼らの側と一緒に磨くのを聞いて、風がポーチでそれらを通り過ぎていくつかの残りの葉を吹くのを見ました。

ポストローグ

光の惑星に夜が明け、冬の寒さで空気はさわやかです。

2人の若々しい人物が、高いドーム型の天井の丸天井の下を、白い大理石のホールに向かって歩きます。彼らが手を握りしめるとき、彼らは彼らが見たものを理解したいので、彼らはこの寺院の教師に彼らの経緯と彼らの話を提供します。そして彼らは彼らの先生の知恵に耳を傾けます：

「洞窟の奥でろうそくを燃やしますが、このろうそくはまっすぐではありません。その炎はそよ風に舞い、洞窟の中を漂い、穏やかに動き、絶えず動き、ろうそくはまっすぐではないので、ワックスが床に滴り落ちます。

「洞窟の天井から水滴が出てきます。彼らはろうそくの周りに落ちますが、それを消しません。

「洞窟の中には生き物がやって来ます、そしてこの生き物は心を持っています。そして、心はそれが理解していないろうそくに気づいています。水滴がこの生き物に落ちます、そしてこれは生き物が理解します。しかし、それは理解していません。

「それは洞窟をのぞき込み、ろうそくを見て、ためらう。そよ風が生き物とろうそくを漂わせ、炎が洞窟の中で羽ばたきます。そして、この羽ばたきで、影が壁を越えて踊ります。

「洞窟の床からは、コケの形で生命が生まれます。コケはごくわずかに繁殖します。そして、生き物はこれを踏みじり、そのフットパッドの下でそれを感じました。そしてそれは理解しますが、理解しません。

「しかし、その環境にエイリアンがやって来ました。このエイリアンは明るい炎で燃え、そのワックスは洞窟の床に落ち、苔の上に落ちて、ワックスの表面でコーティングされます。

「しかし、勇気は生き物の中に構築され、それは前に忍び寄り、侵入者の本質を決定しようとしています。しかし、それは理解していません。それでも、それは理解しようとはしていません。その心は暗闇の中で明るく燃える炎によって固定されているからです。

「そして、生き物は、暗闇から、踊る影から、湿気から、苔むした表面を横切って、エイリアンに近づきます。エイリアンに近づき、炎を覗き込むと、炎はすべて新しさで、深みと意味があります。

「しかし、それでも生き物は理解していません。なぜなら、そのような侵入に慣れていないからです。そしてそれは理解していないので、その心の中に恐れを抱いています。

「そして、生き物がそれを動かないように保つ炎によって固定されている間、洞窟の中に獣がやって来ます。この獣は生き物に落ちてそれをもたらします

死。そしてろうそくがちらつき、イメージが壁を越えて踊り、生き物はむさぼり食われます。それでもそれは理解していませんでした。

「獣は直立して、生き物の生命の血が彼の顎から滴り落ちています。彼はろうそくをしっかりと見つめ、声を出して笑い、その笑い声が洞窟に響き渡り、屋根から水滴が落ちて毛皮を濡らしました。彼は赤い目をろうそくに固定して歩き、1回の素早い動きでろうそくを嗅ぎます。

「彼は理解しているからです。そして彼は彼の笑いを笑い、それは大きな洞窟を通してもう一度響き渡る。彼は賢いからです。なぜなら、もう一度、彼は創造主の光を使って彼に仕えたからです。そしてそれは彼によく役立った。彼の獲物の実体は今や彼に力と生命を与えるように作用しているからです。そして、彼は腹が太くて満足していて、彼の仕事と策略は完了しています。」

二人の明るい存在は、教師の形を隠す黄金の光をじっと見つめ、目を内側に向け、教師のたとえ話を吸収しながら目を探します。

ふざけた白人の女の子が最初に動き、寺院の床こそっとひざまずき、「私たちは行って、伝えようと思いました」と彼女は言い、一時停止して考えをまとめます。

「私自身、エスメレルダ・スウィートウォーターとして知られているものは、あなたが話した洞窟のような場所から私を連れ戻しました。または、あなたの知恵を提供する最愛の人たち、あなたは私の友人の惑星が洞窟のようなものであることを示唆することを意味しますか？」再び彼女は一時停止します。

先生の一人が彼女に向かって移ると、ゴールドンは光を渦巻かせます。

「私の子供よ、他の人への愛と他の人への力への愛の両方の光をすべての人が使うことができることをよく学びましょう。私たちはあなたの学習のために私たちのレッスンを残します、そしてあなたが多くを見たのであなたからその機会をとらないででしょう。私たちは今あなたに私たちの質問をします：獣の力はより強いですか、それとも獣の犠牲者を救うために光を使う人の力はより強いですか？」

男も先生の前にひざまずき、再び少女の手を握る。

「私たちは、エスメレルダの妹への愛の光が、妹を魅了したすべてのものよりも大きかったことを知っています。私たちは宇宙が愛に満ちていることを知っています。しかし、その場所で-その惑星で-」

「それは珍しい惑星です」と先生は同意します。

「でも、私たちは伝えましたか？」少女に尋ねると、彼女の目は心配してほとんど灰色になりました。

先生はそれぞれの金髪の頭に手を置きます。

「あなたは愛と光の中で送り出され、同じ愛と光の中であなたは戻ってきました。しかし、あなたは感動しました。それなら、あなたは他の人に触れていないと思いますか？さあ、休んで、自分を癒して、私の子供たちを学びましょう。」

エスメレルダスイートウォーターのはりつけ

二人の明るい存在はゆっくりと寺院の外を歩き、彼らが昔のように見えたものを訪れた庭を再び見つけます。まだ手を握りしめながら、彼らは柔らかく生きている草の上に座り、瞑想を始めます。

付録

エスメレルダスイートウォーターのはりつけの予言的性質

ドン・エルキンスとカーラ・L・リュッケルトは、1968年に「エスメレルダ・スイートウォーターの十字架研」を執筆しました。これは、後L/LリサーチとなるL/Lカンパニーとして共同作業を行った最初の年です。それは彼らの最初の共有執筆活動でもありました。

物語や登場人物を思いつく必要がなかったので、本の執筆は簡単にできました。彼らはそれが彼らの混ざり合った心の内側の段階で演じられるのを見ることができました。書くというよりは口述をするようなものでした。彼らは、この共有されたビジョンから、さまざまな補完的な方法で引き出します。カーラの頭がドンの膝の上で休んでいる状態で、ドンは物語の筋書きをカセットレコーダーに口述しました。カーラは、同じ物語が彼女自身の心の中で展開するのを見て、それからキャラクターと対話でプロットを埋めました。¹

つまり、エンディングを除いて。エンディングになると、彼らは本が意味をなすために3人の主要なキャラクターの少なくとも1人が死ぬ必要があることを知っていましたが、彼らは彼らが得たのと同じように誰か死ぬかについて明確なイメージを得ることができませんでした(本の残り)の部分。

Raは、13年後のこのユニークな体験について次のように語っています。

惑星圏の改善のために働くというこのグループの2つの間でコミットメントがなされたとき、このコミットメントはある程度の強さの可能性確率の渦を活性化しました。このボリューム[エスメレルダスイートウォーターのはりつけ]を生成した経験は、動画を見ているかのように視覚化されたという点で珍しいものでした。

時間はその現在の瞬間の形で利用可能になりました。ボリュームのシナリオは、ボリュームの終わりまでスムーズに進みました。巻を終わらせることはできず、結末は資料の本文全体として視覚化されませんでした。書かれたか、作成されました。これは、すべての創造物における自由意志の行動によるものです。- ra, 68.14

ここでRaは、エンディングが不明であったため(本の残り)の部分がそうであったように)エンディングが視覚化されなかったことを示しました。それは自由意志自体によってのみ決定されます。

¹これと、このエッセイの他の場所に散らばられた資料は、L/Lの出版物であるThe Quixotic Questから置き換えられました。

なぜそれが重要なのですか？なぜなら、ドンとカーラは本を書いている時点ではわからなかったのですが、本の内容の多くは彼らの生活と私自身の生活の中で実現するでしょう。言い換えれば、彼らは自分たちの将来について書いていたのです。

Raは同じ引用でこれに話します：

しかし、この巻には、象徴的にも具体的にも、コミットメントが行われたときに解放された磁気引力の影響下で見た重要なイベントのビューが含まれています[カーラとドンの間]そしてこれの献身の完全な記憶、何あなたは電話するかもしれません、任務は回復しました。- ra, 68.14

アンドリヤ・プハリッチ博士の著書「ウリ」を読んだ後、1974年この本の予言的性質についての彼らの最初のインクリングが起こりました。彼らがこの本を読んだとき、彼らはプハリッチ博士が彼らの本の主人公の一人であるパブロ・パデエフスキー博士と驚くほど類似していることに気づきました。

ドンはプハリッチ博士に連絡を取り、後にドンとカーラに電話をかけて、ニューヨーク州北部の自宅に彼を訪ねるよう招待した。現実のプハリッチと架空のパデエフスキーの類似点が広がり始めました。その会話の中で、彼らはプハリッチが彼の友人たちにも「良い医者」として知られていることを発見しました。これは、パデエフスキー博士が彼らの本の中で彼の友人たちにも知られている方法でした。彼の邸宅に到着すると、彼らは彼の家がパデエフスキー博士が彼らの本で所有していた家と同じように建てられていることに気づきました。

1つを除いて、プハリッチ博士の家の前の円形の私道には、本の中でパデエフスキー博士のように、その周りに牡丹の輪がありませんでした。彼らがプハリッチ博士にこれについて言及したとき、彼は笑って、2年前に牡丹を切り倒したと彼らに話しました。ドンとカーラが本を書いたとき、私道は実際、彼らが頭の中で見たように牡丹に囲まれていたことを意味します。

彼らの本と現実の次の奇妙な類似点は、私が

/LResearchの3番目のメンバーとして実生活で表現したTheodore Behrという本の登場人物の説明でした。この本では、彼は遠く 光の惑星から2つの光の存在を召喚するために使用される魔法の儀式で第三者の役目を果たしました。本の中でセオドアの顔の説明を読んだとき、私は鏡を見ていると思いました。成された、ほとんど傲慢な鼻と口の規律。」

次に、RaContactで使用された「付属品」との類似点がありました。エスメレルダ・スイートウォーターのほりつけには、ジョー・シュア・スターとエスメレルダ・スイートウォーターが白い魔法の儀式を行った神殿があります。神殿には、金の布、ろうそく、開いた聖書を収めた祭壇がありました。これは、装身具を保持しているテーブルと非常に似ていました

Ra

Contactの場合: 円形の縁に緑、金、赤の花が描かれた白い布で、Carlaの聖書はジョン1: 1に開かれ、ろうそく、ホルダーに入ったお香、そして水のチャリスです。本とRaContactが開催された部屋の両方で、LesserPentagramのBanishingRitualを使用して、各部屋の悪影響を浄化しました。

「Shin」を追加すると「イエス」を意味するようになり、Carlaはイエスに捧げられたため、1行を「Yod-Heh-Vah-Heh」ではなく「Yod-Heh-Shin-Vah-Heh」に変更しました。彼女の人生のすべてのためのキリスト。

エスメレルダ・スイートウォーターのはりつけでは、黒魔術師の名前はトロストリックでした。彼は、人々が彼の目的を促進するために他の人を殺すように魔法のように指示されたさまざまな暴力的な状況にエネルギーを与えました。Ra

Contactの間、私たちはその特定のタイプのエネルギーを受け取りませんでした。私たちは否定的な方向性の分別のある実体によって監視されました。この実体は、RaContactが静寂やインスピレーション、または光を生み出すのを阻止するために私たちが行う可能性のある、自由で選択された不調和な選択を大幅に強化します。

Ra

Contactの数年間のそのような例の1つで、私たちはアトランタの新しい家に引っ越しました、そして私たちは汚れたカーペットの非常にありふれた状況に遭遇しました。カーラは敷物をきれいにしたかったのですが、ドンはそうしなかったため、それ以上話したくないと言いました。カーラはその後、彼女にとって重要なコミュニケーションを差し控え、私たちの否定的な友人は、喉のチャクラをはっきりと使用できないことを活気づける機会を得ました。その結果、彼女は翌日、私と一緒に歩いていた散歩で窒息死そうになりました。家の状況について話すだけで、この問題は解決しました。

これらの「サイキックアタック」、または私たちがそれらと呼ぶようになった「サイキックグリーティング」のために、すべてのものの良さに対するカーラの信仰が試されました。エスメレルダ・スイートウォーターの信仰は、叔父のパブロ・パデエフスキーが関与していた否定性を見たときに同様に試されました。カーラの信仰のさらに大きな試練は、ドン・エルキンズが自分の手で死んだことでもたらされました。彼女の実生活への信仰は、その結果をほとんど生き残れませんでした。

このエッセイの冒頭で述べたように、先見の明のある本がカーラとドンに開示しなかったため、完全に予測できなかったのは、終わりでした。彼らが知っていたのは、エスメレルダ(カーラの理想化されたバージョン)またはジョシュア(ドンの理想化されたバージョン)のどちらかが死ななければならないということだけでしたが、彼らは誰を完全に知りません。カーラは、どのキャラクターが死ぬかという決定ごとのように到達したかについて、風車での依頼のインタビューで次のように述べています。

カーラ：まあ、それは意味がありませんでした。それは論理的ではなく、私たちは両方とも非常に論理的な人々でした。ドンは超自然的に健康でした。彼のビジョンは20/10でした。彼が陸軍にいたとき、彼は10マイルのハイキングでリングを走らせている間、一日中ユニットの周りにリングを走らせることができ、息切れすることはありませんでした。彼はとても健康で、信じられないほど健康で、病気になることはありませんでした。彼は決してしませんでした。その間、病気。彼は風邪を引いたことがなかった。私はとても、とても虚弱でした。それについては疑問の余地はありませんでした。私はそれ以上何も受け入れませんでした、私はそれだけ受け入れました。私は普通でした。正常を保つには少しのスキルが必要でした。このように、そしてそのように私は失敗することができました、そしてそれから私は以前の病気のために問題を抱えていました

腎臓の問題、リウマチの問題、そのようなこと。しかし、私がこの世界に長くはかからなかったのを見て、私はただ虚弱でした。したがって、本の中で私に最も似ているこの人が死ぬのに対し、ドンの性格は死なないことは理こかなくなっています。そして、私たちはそれを使って、それを使って、それを使って作業しました、そしてそれは私たちがそれを書いた方法です：宇宙の少女、またはエスメレルダは最後に死にます。そして、今述べた理由のために、彼らは物語の終わりに死ぬことの被害者エスメレルダに割り当てます。エスメレルダは本の中で殉教を選択することで命を失いました。これも並行して、カーラはRaContactのイベントでやることに近づきました。しかし、それは私たちの世界でのカーラの運命ではありませんでした。「これは、すべての創造における自由意志の行動によるものです」とRaは言いました。読者がおそらくすでに知っているように、死んだのは結局、カーラではなくドン・エルキンズでした。

ドンは私たち3人とL/Lリサーチに対して財政的な責任を感じました。しかし、80年代初頭、彼の雇用主であるイースタン航空は財政問題に苦しんでおり、航空会社がこれ以上長く存続するようには見えませんでした。Joshua

Starr（本の中でのDonのキャラクターの相関関係）とDonはどちらも、「ボールを落とす」と感じ、選択した職務に失敗していました。

さらに、私たちの否定的な友人からのさらなる精神的な攻撃は、カーラの人生を脅かし、また、彼女がRaセッションのためにトランス状態にある間、カーラの精神を制御することを脅かし、Raが「否定的な時間空間」と呼んだものに彼女を導こうとしました。あなたが状況の形而上学を理解するときの望ましくないシナリオ。その結果が起こったならば、それはRa

Contactを止め、彼女の肉体的死と精神的投獄を通して否定的な実体Carlaの力を与え、再び本の基本的なシナリオを繰り返したでしょう。

この本の中で、ジョシュア・スターは黒人の魔術師トロストリックと取引をしようとしています。彼は自分の人生をエスメレルダの精神と交換することを申し出ます。

Trostrickは負の時間空間に投獄されました。Ra Contactの終わり近くのある時点で、ドンが明らかに彼自身の精神的および肉体的健康を低下させていたとき、彼は私に彼が私たちの否定的な友人と同様の取柄をしていると私がどう思うかを尋ねました。私は彼に、私たちが彼にしたいことを何でもすることを私たちの否定的な友人に信頼することができなかったため、それは悪い考えだと思ったと彼に言いました。

彼がそのような取柄を試みたかどうかにかかわらず、カーラと私は知りませんでした。しかし、ドンがその最後の1年半を辞退し始めた方法を考えると、彼の死は、本の中のエスメレルダとセオドアと同じように避けられないように見えました。私たちがラの人々に行った最後のセッションで、ドンはラに彼自身の悪化している精神的および肉体的状態について尋ねました。

Raは、それを重大な懸念事項の1つにしたさまざまな要素について説明しました。ドンへのラの提案は、彼が彼の心と体のジレンマから抜け出すための手段として賛美と感謝祭に集中することでした。しかし、ドンはこの世界に長くはかからないと確言していたので、賞賛や感謝を捧げることはできませんでした。

エスメレルダで亡くなった登場人物よりもドンの人生の終わりが幸せだったので、カーラは死後の目覚めのビジョンでドンを2回見ることができました。これらのビジョンの中で、ドンはカーラに、すべてが想定どおりに終わったと語った。彼は、私たちも死の扉を通り抜けるまで、彼女と私はこれがどうなるかわからないと言った。

今、カーラは知っています、そして私だけが疑問に思うままになっています。ジム・マッカーティ

ケンタッキー州レイビル

2016年4月1日